

Nikon

デジタル一眼レフカメラ

D5300

活用ガイド

二コンデジタルー眼レフカメラをお買い上げくださいますて、誠にありがとうございます。お使いになる前に、使用説明書と活用ガイド（本書）をよくお読みになり、内容を充分に理解してから正しくお使いください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管し、撮影を楽しむためにお役立てください。

本書について

本書では、次から知りたいことを簡単に探し出すことができます。

 目次.....	 i	 警告メッセージ.....	 275
 困ったときは.....	 268	 索引	 297

本文中のマークについて

本書は、次の記号を使用しています。必要な情報を探すときにご活用ください。

-  カメラを使用する前に注意していただきたいことや守っていただきたいことを記載しています。
-  カメラを使用する前に知っておいていただきたいことを記載しています。
-  本書上で関連情報が記載されているページです。

表記について

- SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、およびSDXCメモリーカードを「SDカード」と表記しています。
- バッテリーチャージャーを「チャージャー」と表記しています。
- ご購入時に設定されている機能やメニューの設定状態を「初期設定」と表記しています。
- 本書では、カメラの設定が初期設定であることを前提に操作の説明を行っています。

ヘルプ機能

このカメラにはヘルプ機能が付いています。メニュー操作時などに、液晶モニターでその項目の意味などを調べることができます。詳しくは□8をご覧ください。

 **安全上のご注意**

安全にカメラをお使いいただくために守っていただきたい内容が記載されています。カメラをお使いになる前に必ずお読みください。詳しくは□x～xviをご覧ください。

目次

安全上のご注意	X
ご確認ください	XV
位置情報機能について	xvii
Wi-Fi（無線 LAN）機能について	xviii

お使いになる前に 1

各部の名称	1
メニューを使う	8

撮影前の準備をする 11

かんたんに静止画 / 動画を撮影する

(オート / 発光禁止オート) 19

ファインダーをのぞいて静止画を撮影する	20
撮影した画像を再生する（1 コマ表示モード）	22
不要な画像を削除する	22
液晶モニターを見ながら静止画を撮影する（ライブビュー撮影）	24
撮影した画像を再生する（1 コマ表示モード）	26
不要な画像を削除する	26
動画を撮影する	27
撮影した動画を再生する	28
不要な動画を削除する	29

被写体や状況に合わせて撮影する（シーンモード） 30

 （ポートレート）	31
 （風景）	31
 （こどもスナップ）	31
 （スポーツ）	32
 （クローズアップ）	32
 （夜景ポートレート）	33
 （夜景）	33
 （パーティー）	34
 （海・雪）	34
 （夕焼け）	34
 （トワイライト）	35

 (ペット)	35
 (キャンドルライト)	35
 (桜)	36
 (紅葉)	36
 (料理)	36

特殊効果をつけて撮影する（スペシャルエフェクトモード） 37

 (ナイトビジョン)	37
 (カラスケッチ)	38
 (トイカメラ風)	38
 (ミニチュア効果)	38
 (セレクトカラー)	39
 (シルエット)	39
 (ハイキー)	39
 (ローキー)	40
 (HDR ペインティング)	40

撮影機能を使いこなす 47

リリースモードを選ぶ	47
連写で撮影する	48
静音撮影する	50
セルフタイマーを使って撮影する	51
ファインダー撮影時にオートフォーカスでピントを合わせる	53
ピントの合わせ方を選ぶ（フォーカスモード）	53
フォーカスポイントの選び方を決める（AF エリアモード）	55
フォーカスポイントを自分で選ぶ	57
フォーカスロック撮影	57
マニュアルフォーカスでピントを合わせる	59
画質や画像のサイズを変更する	61
画質モードを設定する	61
画像サイズを設定する	63
内蔵フラッシュを使う	64
内蔵フラッシュが自動的に上がる撮影モードの場合	64
内蔵フラッシュを手動で上げる撮影モードの場合	66
ISO 感度を設定する	69
設定した間隔で撮影する（インターバルタイマー撮影）	70

リモコン撮影する	72
別売のリモコン ML-L3 を使って撮影する	72
最初の設定に戻す（ツーボタンリセット）	74
位置情報機能を使う	76
位置情報を記録しながら撮影する	76
位置情報のログを取得する	78
保存したログを削除する	81
GPS 設定	82

P、S、A、M モードで撮影する

85

撮影モード P、S、A、M を使う	85
P：プログラムオート	87
S：シャッター優先オート	88
A：絞り優先オート	89
M：マニュアル	90
長時間露出で撮影する（撮影モード M のみ）	91
被写体の露出（明るさ）を設定する	93
明るさを測る方法を設定する（測光モード）	93
AE ロック撮影	94
画像の明るさを調整する（露出補正）	95
フラッシュの発光量を調整する（フラッシュ調光補正）	97
白とびや黒つぶれを抑えて撮影する	98
アクティブ D- ライティング	98
HDR（ハイダイナミックレンジ）合成を行う	100
多重露出撮影をする	102
ホワイトバランスを合わせる	105
ホワイトバランスを微調整する	107
プリセットマニュアルを使う	108
明るさ、ホワイトバランス、アクティブ D- ライティングを変えながら 撮影する（オートブラケティング撮影）	112
画像の仕上がりを設定したり、思い通りに調整する （ピクチャーコントロール）	116
ピクチャーコントロールを選ぶ	116
ピクチャーコントロールを調整する	117
カスタムピクチャーコントロールを登録する	120
SDカードを使ってピクチャーコントロールを対応ソフトウェア と共用する	122

ライブビュー撮影（液晶モニターを見ながら撮影する） 123

ライブビュー撮影する	123
ライブビュー撮影時のピントの合わせ方を選ぶ （フォーカスモード）	124
ライブビュー撮影時のフォーカスポイントの選び方を決める （AF エリアモード）	125

動画の撮影と再生 132

動画を撮影する	132
動画の設定	135
動画を再生する	137
動画の編集	138
動画の必要な部分を残す	138
動画の 1 フレームを JPEG 画像として保存する	140

画像の再生と削除 141

画像を 1 コマずつ再生する（1 コマ表示モード）	141
画像情報を表示する	142
複数の画像を一覧表示する（サムネイル表示モード）	148
撮影した日付ごとに画像を表示する（カレンダー表示モード）	149
画像を拡大表示する	150
画像を保護する（プロテクト）	151
画像にレーティング（重要度）を設定する	152
表示中の画像にレーティングを設定する	152
複数の画像にレーティングを設定する	153
画像を削除する	154
表示中の画像を削除する	154
複数の画像をまとめて削除する	155
スライドショーで再生する	157

パソコン、プリンター、テレビとの接続 159

ViewNX 2 をインストールする	159
ViewNX 2 を使う	161
パソコンに画像を取り込む	161
画像を見る	162
プリンターで印刷する（ダイレクトプリント）	164
カメラとプリンターを接続する	164
1 コマだけプリントする	165
複数の画像をプリントする	167
プリントしたい画像を指定する（プリント指定）	169
テレビで見る	171
AV ケーブルを使ってテレビと接続する	171
HDMI ケーブルを使ってハイビジョンテレビと接続する	172

Wi-Fi を使う 174

Wi-Fi を使ってできること	174
カメラとスマートデバイスを接続する	175
WPS プッシュボタン接続でスマートデバイスと接続する (Android OS のみ)	176
スマートデバイスの PIN コードをカメラに入力して接続する (Android OS のみ)	177
カメラのSSIDをスマートデバイスで選んで接続する (Android OS/iOS)	178
スマートデバイスに取り込みたい画像をカメラで送信指定する	180
表示中の画像を送信指定する	180
複数の画像をまとめて送信指定する	181

メニュー項目 182

▶ 再生メニュー：再生で使える便利な機能	182
削除	182
再生フォルダー設定	183
再生画面設定	183
撮影直後の画像確認	183
縦位置自動回転	183
スライドショー	182
プリント指定（DPOF）	182
レーティング	182
スマートデバイスへの送信指定	182

 撮影メニュー：撮影で使える便利な機能.....	184
撮影メニューのリセット	185
記録フォルダー設定	185
画質モード	184
画像サイズ	184
RAW 記録	186
ホワイトバランス	184
ピクチャーコントロール	184
カスタムピクチャーコントロール	184
自動ゆがみ補正	186
色空間	187
アクティブ D- ライティング	184
HDR (ハイダイナミックレンジ)	184
長秒時ノイズ低減	187
高感度ノイズ低減	188
ISO 感度設定	188
レリーズモード	184
多重露出	184
インターバルタイマー撮影	184
動画の設定	184
 カスタムメニュー：撮影に関するさらに詳細な設定	190
カスタムメニューのリセット	191
a：オートフォーカス	192
a1：AF-C モード時の優先	192
a2：AF 点数切り換え	192
a3：内蔵 AF 補助光の照射設定	192
a4：フォーカスエイディングケータ	193
b：露出	193
b1：露出設定ステップ幅	193
c：AE ロック・タイマー	194
c1：半押し AE ロック	194
c2：パワーオフ時間	194
c3：セルフタイマー	195
c4：リモコン待機時間 (ML-L3)	195

d：撮影・記録・表示	196
d1：電子音設定	196
d2：ファインダー内格子線表示	196
d3：ISO 感度表示	196
d4：連番モード	197
d5：露出ディレーモード	198
d6：デート写し込み設定	199
e：フラッシュ・BKT 撮影	201
e1：内蔵フラッシュ発光	201
e2：オートブラケティングのセット	202
f：操作	202
f1：Fn ボタンの機能	202
f2：AE/AF ロックボタンの機能	203
f3：コマンドダイヤル回転方向の変更	204
f4：カードなし時リリース	204
f5：インジケーターの＋／－方向	204
Y セットアップメニュー：カメラを使いやすくする基本設定	205
カードの初期化（フォーマット）	206
液晶モニターの明るさ	206
インフォ画面デザイン	206
インフォ画面の自動表示	209
イメージセンサークリーニング	205
クリーニングミラーアップ	205
イメージダストオフデータ取得	209
フリッカー低減	210
地域と日時	211
言語（Language）	211
縦横位置情報の記録	212
画像コメント	213
位置情報	205
ビデオ出力	213
HDMI	205
リモート操作	214
Wi-Fi	205
Eye-Fi 送信機能	214
認証マークの表示	215
ファームウェアバージョン	215

 画像編集メニュー：撮影した画像に行う編集機能.....	216
画像編集の操作方法.....	217
D-ライティング.....	218
赤目補正.....	219
トリミング.....	219
モノトーン.....	220
フィルター効果.....	221
カラーカスタマイズ.....	222
画像合成.....	223
RAW 現像（パソコンを使わずに RAW 画像を JPEG 画像に 変換する）.....	225
リサイズ.....	226
簡単レタッチ.....	228
傾き補正.....	228
ゆがみ補正.....	229
魚眼効果.....	229
塗り絵.....	230
カラースケッチ.....	230
アオリ効果.....	231
ミニチュア効果.....	232
セレクトカラー.....	233
動画編集.....	216
編集前後の画像表示.....	235
 最近設定した項目 /  マイメニュー.....	237
 最近設定したメニューをたどる（最近設定した項目）.....	238
 よく使うメニューを登録する（マイメニュー）.....	238

資料

241

使用できるレンズ.....	241
外付けのスピードライトについて（別売フラッシュ）.....	247
ニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライトに ついて.....	247
ニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライトとの 組み合わせで使用できる機能.....	248
使用できるアクセサリ.....	251
推奨 SD カード.....	254
カメラとパワーコネクタ、AC アダプターの接続方法.....	255

カメラのお手入れについて	256
保管について	256
クリーニングについて	256
カメラ内部のお手入れについて	257
カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意	261
カメラの取り扱い上のご注意	261
バッテリーの取り扱いについて	263
撮影モード別：設定できる機能一覧	264
困ったときは	268
電源・表示関連	268
撮影関連（全撮影モード共通）	268
撮影関連（撮影モード P、S、A、M ）	271
再生関連	272
位置情報関連	273
Wi-Fi（無線 LAN）関連	274
その他	274
警告メッセージ	275
主な仕様	280
AF-S DX NIKKOR 18-140mm f/3.5-5.6G ED VRと AF-S DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VR	288
記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数	295
電池寿命について	296
索引	297
アフターサービスについて	306

安全上のご注意

お使いになる前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。この「安全上のご注意」は、製品を安全に正しく使用し、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために重要な内容を記載しています。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

表示と意味は、次のようになっています。



危険

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が高いと想定される内容を示しています。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例



△ 記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。



⊘ 記号は、禁止の行為（してはいけないこと）を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



● 記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合はプラグをコンセントから抜く）が描かれています。



警告（カメラとレンズについて）



分解禁止

分解したり修理や改造をしないこと

感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。



接触禁止

落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと

感電したり、破損部でケガをする原因となります。



すぐに修理依頼を

バッテリー、電源を抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。



バッテリーを

熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、すみやかにバッテリーを取り出すこと
そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。



すぐに修理依頼を

バッテリーを取り出す際、やけどに充分注意してください。
バッテリーを抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。



水かけ禁止

水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと

発火したり感電の原因となります。



使用禁止

引火、爆発のおそれのある場所では使わない

プロパンガス、ガソリン、可燃性スプレーなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因になります。

警告 (カメラとレンズについて)



使用禁止

レンズまたはカメラで直接太陽や強い光を見ないこと
失明や視力障害の原因となります。



発光禁止

車の運転者等に向けてフラッシュを発光しないこと
事故の原因となります。



発光禁止

フラッシュを人の目に近づけて発光しない
視力障害の原因になります。
撮影時には、1m以上離れてください。
特に乳幼児の撮影には注意してください。



保管注意

幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届くところに置かない
幼児の飲み込みの原因となります。
万一飲み込んだときは直ちに医師にご相談ください。



警告

ストラップが首に巻き付かないようにすること
特に幼児・児童の首にストラップをかけないこと
首に巻き付いて窒息の原因となります。



使用禁止

ACアダプター使用時に雷が鳴り出したら、電源プラグに触れないこと
感電の原因となります。
雷が鳴り止むまで機器から離れてください。



警告

指定のバッテリーまたは専用ACアダプターを使用すること
指定以外のものを使用すると、火災や感電の原因となります。

注意 (カメラとレンズについて)



感電注意

ぬれた手でさわらないこと
感電の原因になることがあります。



使用注意

カメラの電源がONの状態、長時間直接触れないこと
使用中に温度が高くなる部分があり、低温やけどの原因になることがあります。



保管注意

製品は、幼児の手の届くところに置かない
ケガの原因になることがあります。



使用注意

逆光撮影では、太陽を画角から十分にずらすこと
太陽光がカメラ内部で焦点を結び、火災の原因になることがあります。画角から太陽をわずかに外しても火災の原因になることがあります。



保管注意

使用しないときは、レンズにキャップを付けるか、太陽光のあたらない所に保管すること
太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。



移動注意

三脚にカメラやレンズを取り付けたまま移動しないこと
転倒したりぶついたりして、ケガの原因となることがあります。



使用注意

航空機内では、離着陸時に電源をOFFにする
また、搭乗前にGPSの位置情報機能もOFFにする
飛行中は無線通信機能を使わない
病院では、病院の指示に従う
本機器が出す電磁波などが、航空機の計器や医療機器に影響を与えるおそれがあります。
Eye-Fiカードは、あらかじめカメラから取り外してください。

注意 (カメラとレンズについて)



バッテリーを取る

長期間使用しないときは電源（バッテリーやACアダプター）を外すこと



プラグを抜く

バッテリーの液もれにより、火災、ケガや周囲を汚損する原因となることがあります。
ACアダプターをご使用の際には、ACアダプターを取り外し、その後電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。



発光禁止

内蔵フラッシュの発光窓を人体やものに密着させて発光させないこと
やけどや発火の原因となることがあります。



禁止

布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと
熱がこもりケースが変形し、火災の原因となることがあります。



放置禁止

窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しない
故障や火災の原因となることがあります。



禁止

付属のCD-ROMを音楽用CDプレーヤーで使用しないこと
機器に損傷を与えたり大きな音がして聴力に悪影響を及ぼすことがあります。

危険 (専用リチウムイオン充電電池について)



禁止

バッテリーを火に入れたり、加熱しないこと
液もれ、発熱、破裂の原因となります。



分解禁止

バッテリーを分解しない
液もれ、発熱、破裂の原因となります。



危険

バッテリーに強い衝撃を与えたり、投げたりしない
液もれ、発熱、破裂の原因となることがあります。



危険

専用の充電器を使用すること
液もれ、発熱、破裂の原因となります。



危険

ネックレス、ヘアピンなどの金属製のものと一緒に持ち運んだり、保管しないこと
ショートして液もれ、発熱、破裂の原因となります。
持ち運ぶときは端子カバーをつけてください。



使用禁止

Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14aに対応していない機器には使用しないこと
液もれ、発熱、破裂の原因となります。
Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14aは、D5300に対応しています。



危険

バッテリーからもれた液が目に入ったときはすぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること
そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。

警告 (専用リチウムイオン充電電池について)



保管注意

バッテリーは、幼児の手の届くところに置かない
幼児の飲み込みの原因となります。
万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。



水かけ禁止

水につけたり、ぬらさないこと
液もれ、発熱の原因となります。



警告

変色・変形、そのほか今までと異なることに気づいたときは、使用しないこと
液もれ、発熱、破裂の原因となります。

警告（専用リチウムイオン充電電池について）



警告

充電の際に所定の充電時間を超えても充電が完了しないときは、充電をやめること
液もれ、発熱、破裂の原因となります。



警告

バッテリーをリサイクルするときや、やむなく廃棄するときはビニールテープなどで接点
部を絶縁すること

他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。ニコンサービス機関やリサ
イクル協力店にご持参くださるか、お住まいの自治体の規則に従って廃棄してください。



警告

バッテリーからもれた液が皮膚や衣服に付いたときはすぐにきれいな水で洗うこと
そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因となります。

注意（専用リチウムイオン充電電池について）



使用注意

充電中のバッテリーに長時間直接触れないこと
充電中に温度が高くなる部分があり、低温やけどの原因になることがあります。

警告（チャージャーについて）



分解禁止

分解したり修理や改造をしないこと
感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。



接触禁止

落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと
感電したり、破損部でケガをする原因となります。



すぐに修理依頼を

チャージャーをコンセントから抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。



プラグを抜く

熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、速やかにチャージャーをコンセントから抜く
こと
そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。



すぐに修理依頼を

チャージャーをコンセントから抜く際、やけどに充分注意してください。ニコンサービス
機関に修理を依頼してください。



水かけ禁止

水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと
発火したり感電の原因となります。



使用禁止

引火、爆発のおそれのある場所では使わない
プロパンガス、ガソリン、可燃性スプレーなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用
すると、爆発や火災の原因になります。



警告

電源プラグの金属部やその周辺にほこりが付着している場合は、乾いた布で拭き取ること
そのまま使用すると火災の原因になります。



使用禁止

雷が鳴り出したらチャージャーに触れないこと
感電の原因となります。
雷が鳴り止むまで機器から離れてください。



感電注意

ぬれた手でチャージャーをコンセントから抜き差ししないこと
感電の原因になることがあります。



禁止

チャージャーを海外旅行者用電子式変圧器（トラベルコンバーター）やDC/ACインバー
ターなどの電源に接続して使わないこと
発熱、故障、火災の原因となります。

注意 (チャージャーについて)



感電注意

ぬれた手でさわらないこと

感電の原因になることがあります。



使用注意

通電中のチャージャーに長時間直接触れないこと

通電中に温度が高くなる部分があり、低温やけどの原因になることがあります。



放置注意

製品は、幼児の手の届くところに置かない

ケガの原因になることがあります。



禁止

布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと

熱がこもりケースが変形し、火災の原因になることがあります。

ご確認ください

● 保証書について

この製品には「保証書」が付いていますのでご確認ください。「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客様へ直接お渡しすることになっています。必ず「ご購入年月日」「ご購入店」が記入された保証書をお受け取りください。「保証書」をお受け取りにならないと、ご購入1年以内の保証修理が受けられないこととなります。お受け取りにならなかった場合は、ただちに購入店にご請求ください。

● カスタマー登録

下記のホームページからカスタマー登録ができます。

<https://reg.nikon-image.com/>

付属の「登録のご案内」に記載されている登録コードをご用意ください。

● カスタマーサポート

下記アドレスのホームページで、サポート情報をご案内しています。

<http://www.nikon-image.com/support/>

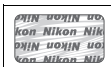
● 大切な撮影の前には試し撮り

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能することを事前に確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および利益喪失等に関する損害等）についての補償はご容赦願います。

● 本製品を安心してお使いいただくために

本製品は、当社製のアクセサリ（レンズ、スピードライト、バッテリー、チャージャー、ACアダプターなど）に適合するように作られておりますので、当社製品との組み合わせでお使いください。

- Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL14aには、ニコン純正品であることを示すホログラムシールが貼られています。
- 模倣品のバッテリーをお使いになると、カメラの十分な性能が発揮できないほか、バッテリーの異常な発熱や液もれ、破裂、発火などの原因となります。
- 他社製品や模倣品と組み合わせてお使いになると、事故・故障などが起こる可能性があります。その場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。



● 使用説明書および活用ガイドについて

- 使用説明書および活用ガイドの一部または全部を無断で転載することは、固くお断りいたします。
- 仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご承知ください。
- 使用説明書および活用ガイドの誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 使用説明書および活用ガイドの内容が破損などによって判読できなくなったときは、下記のホームページから使用説明書および活用ガイドのPDFファイルをダウンロードできます。

<http://www.nikon-image.com/support/manual/>

ニコンサービス機関で新しい使用説明書を購入することもできます（有料）。

● 著作権についてのご注意

あなたがカメラで撮影したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権上、権利者に無断で使うことができません。なお、実演や興行、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の対象となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

● カメラやメモリーカードを譲渡/廃棄するときのご注意

SDカード内のデータはカメラやパソコンで初期化または削除しただけでは、完全には削除されません。譲渡/廃棄した後に市販のデータ修復ソフトなどを使ってデータが復元され、重要なデータが流出してしまう可能性があります。SDカード内のデータはお客様の責任において管理してください。

- SDカードを譲渡/廃棄する際は、市販のデータ削除専用ソフトなどを使ってデータを完全に削除するか、初期化後に、セットアップメニュー [位置情報] の [位置情報記録] (□76) を [しない] にしてから、SDカードがいっぱいになるまで、空や地面などの画像で置き換えることをおすすめします。なお、ホワイトバランスのプリセットマニュアル画像 (□108) も、同様に別の画像で置き換えてから譲渡/廃棄してください。SDカードを物理的に破壊して廃棄する場合は、周囲の状況やケガなどに充分で注意ください。
- セットアップメニュー [位置情報] の [ログリスト] では、SDカード内の全てのログファイルを削除できます (□81)。
- Wi-Fi接続設定は、セットアップメニュー [Wi-Fi] → [接続設定] → [接続設定のリセット] で工場出荷時の設定にリセットしてください (□179)。

● 電波障害自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

● AVC Patent Portfolio Licenseに関するお知らせ

本製品は、お客様が個人使用かつ非営利目的で次の行為を行うために使用される場合に限り、AVC Patent Portfolio Licenseに基づきライセンスされているものです。

- (i)AVC規格に従い動画をエンコードすること（以下、エンコードしたものをAVCビデオといいます）
- (ii)個人利用かつ非営利目的の消費者によりエンコードされたAVCビデオ、またはAVCビデオを供給することについてライセンスを受けている供給者から入手したAVCビデオをデコードすること

上記以外の使用については、黙示のライセンスを含め、いかなるライセンスも許諾されていません。

詳細情報につきましては、MPEG LA, LLCから取得することができます。

<http://www.mpegla.com> をご参照ください。

✓ アクセサリーについての注意

このカメラには、当社製のアクセサリをお使いいただくことをおすすめします。他社製アクセサリは、カメラの故障や不具合の原因となることがあります。他社製アクセサリ使用によるカメラの不具合については、保証の対象となりませんので、ご了承ください。なお、このカメラに使用できる別売アクセサリについての最新情報は、最新のカatalogや当社のホームページなどでご確認ください (□xv)。

位置情報機能について

- セットアップメニュー [位置情報] の [位置情報記録] を [する] にしているときやログの取得中は、カメラの電源をOFFにした後も位置情報機能やログ取得機能が作動します (□76)。航空機内や病院などの使用禁止・制限区域では、必ず [位置情報記録] を [しない] にしてからカメラの電源をOFFにしてください。カメラが出す電磁波などが、航空機の計器や医療機器に影響を与えるおそれがあります。
- 位置情報を記録した静止画や動画などから、個人を特定できることがあります。位置情報を記録した静止画、動画、ログファイルを、他人へ譲渡したりインターネットなど複数の人が閲覧できる環境に掲載したりする場合はご注意ください。「カメラやメモリーカードを譲渡/廃棄するときのご注意」(□xvi) も必ずお読みください。
- このカメラが計測する情報は、あくまでも目安です。航空機、車、人などの航法用途、および測量用途には使わないでください。
- 登山やトレッキングなどでお使いの際は、地図や航法機器、計測機器を必ず携帯してください。
- 中国および中国の周辺国の国境付近などでは、位置情報機能が正常に機能しない場合があります (2013年11月現在)。
- 位置情報機能付きカメラを外国に持ち込む前に、使用規制の有無を旅行代理店や大使館などでお確かめください。中国など、国によっては、政府の許可なしに位置情報機能を使用できないことがあります。[位置情報記録] を [しない] にしてご使用ください。

Wi-Fi（無線LAN）機能について

● 電波に係わるご注意

- 本製品のWi-Fiの無線機能は、ご購入された国の法令に準拠し、ご購入された国以外では使用できません。ご購入された国以外での使用について、当社は一切の責任を負いません。ご購入された国がわからないときは、本書の裏表紙に記載のニコン カスタマーサポートセンターへお問い合わせください。

● Wi-Fi（無線LAN）機能のご注意

2.4	DS4 / OF4
-----	-----------

Wi-Fi（無線LAN）機能：2.4DS4/OF4

本製品の使用周波数は2.4 GHz 帯、変調方式はDSSS、OFDM、与干渉距離は約40 mです。

- 本製品は、「電波法」に基づく技術基準適合認証を受けた無線設備を内蔵し、証明ラベルは無線設備上に表示しています。
以下の行為は法令で罰せられることがあります。
 - 本製品の分解/改造
 - 本製品から証明ラベルをはがす
- 本製品の使用周波数帯は、以下の機器や無線設備と同じです。
 - 電子レンジなどの産業・科学・医療用機器
 - 工場の製造ライン等の移動体識別用の
 - ① 構内無線局（免許を要する無線局）
 - ② 特定小電力無線局（免許を要しない無線局）
 - アマチュア無線局（免許を要する無線局）

これらの無線設備の近くでは、電波干渉で通信速度の低下、通信距離の短縮、通信の途絶が双方に生じることがあります。

- 本製品で電波干渉を起こさないよう、以下にご注意ください。
 - 使用周波数帯が同じ無線設備が近くにないか、事前に確認する
 - 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に電波干渉を生じたら、**Wi-Fi**アクセスポイントのチャンネル番号を変更して使用周波数を変える
- その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、本書の裏表紙に記載されているニコンカスタマーサポートセンターへお問い合わせください。
- データの送受信は、第三者に傍受される危険性にご留意ください。
データ送受信による情報漏洩には、当社は一切の責任を負いません。
- 本製品は、電子レンジなどの電気製品、AV機器、OA機器などの電磁波や磁気の発生源の周辺で使わないでください。
 - 雑音が増大したり、通信が途絶したりします。
 - **AV機器**、**OA機器**などの受信障害の原因になります。

● 本製品の使用上のご注意

本製品は、**Wi-Fi**（無線LAN）機器としてお使いください。

Wi-Fi機器以外としての使用による損害は、当社では一切の責任を負いません。

- 医療機器や人命に直接的または間接的に係わるシステムなど、高い安全性が要求される用途には使わないでください。
- **Wi-Fi** 機器よりも高い信頼性が要求される機器や電算機システムなどの用途では、使用システムの安全設計や故障に対する適切な処置をしてください。

● セキュリティーについて

- 本製品は電波を利用して情報を交換するため、電波の届く範囲で自由に無線接続が可能であるという利点がありますが、セキュリティーに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。
 - 情報の漏洩：悪意ある第三者が電波を故意に傍受し、ID やパスワードなどの個人情報が漏洩する可能性があります。
 - 不正アクセス：悪意ある第三者が無断でネットワークにアクセスして、なりすまし、情報の改ざんなどの行為を行う可能性があります。また、本製品にセキュリティーを設定したにもかかわらず、無線 LAN の仕様上、特殊な方法によりセキュリティーが破られることもありますので、ご理解の上で使用ください。
- セキュリティー設定は、専用ソフトウェア「Wireless Mobile Utility」(□□175) を使って行うことができます。
- 液晶モニターやスマートデバイスに使用権限のないネットワークが表示されても、接続しようとししないでください。接続しようとする、不正アクセスとみなされる恐れがあります。使用権限のあるネットワークだけをお使いください。

● 本製品の輸出、持ち出しに係わるご注意

本製品は、米国輸出規制（EAR）を含む米国法の対象であり、米国政府指定の輸出規制国（キューバ、イラン、北朝鮮、スーダン、シリア）への輸出や持ち出しには、米国政府の許可が必要になりますので、ご注意ください。なお、輸出規制国は変更されている可能性がありますので、詳しくは米国商務省へお問い合わせください。

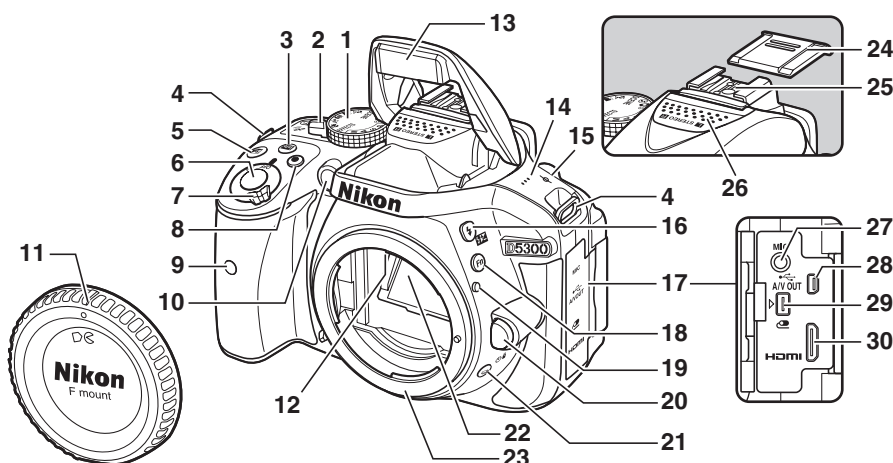
● 個人情報の管理および免責事項

- 使用者によって本製品内に登録または設定された、**Wi-Fi**（無線LAN）接続設定等の個人情報を含む情報は、誤操作、静電気の影響、事故、故障、修理、その他の取り扱いで変化、消失する場合があります。必要な内容は、お客さまの責任において控えを必ずおとりください。
当社の責によらない内容の変化、消失、それらに起因する直接または間接の損害および逸失利益には、当社は一切の責任を負いません。
- 本製品を譲渡/ 廃棄するときは、使用者によって本製品内に登録または設定された、**Wi-Fi**接続設定等の個人情報を含む内容を、セットアップメニュー **[Wi-Fi]** → **[接続設定]** → **[接続設定のリセット]** で工場出荷時の設定にリセットしてください (□□179)。
- 本製品の盗難や紛失などで、第三者による不正使用の被害が発生しても、当社は一切の責任を負いません。

お使いになる前に

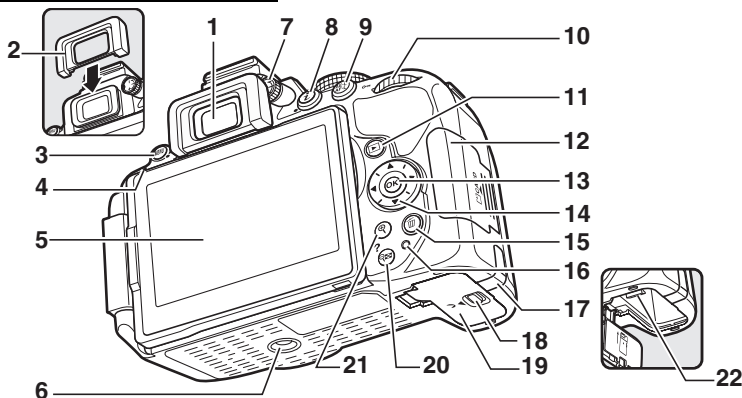
各部の名称

カメラ本体



1	撮影モードダイヤル..... 3	10	AF補助光ランプ..... 54、192	21	☺ (☺/☺) ボタン..... 47
2	ライブビュースイッチ		セルフタイマーランプ..... 51		連写で撮影する..... 48
	ライブビュー..... 24、123		赤目軽減ランプ..... 65、67		セルフタイマーを使って
	動画..... 27、132	11	ボディーキャップ		撮影する..... 51
3	info ボタン	12	レンズ信号接点		リモコン撮影する..... 72
	インフォ画面表示..... 6	13	内蔵フラッシュ..... 64	22	ミラー..... 259
	ライブビュー表示中の情報	14	スピーカー..... 2	23	レンズマウント..... 12、60
	表示..... 128	15	☺ 距離基準マーク..... 60	24	アクセサリシューカバー
4	ストラップ取り付け部	16	☺ (☺) ボタン	25	フラッシュ取り付け部
	(吊り金具)..... 11		フラッシュモード..... 64、66		(アクセサリシュー)
5	☺ (☺) ボタン		フラッシュ調光補正..... 97		 247
	露出補正..... 95	17	端子カバー	26	マイク (ステレオ)..... 135
	絞り値の設定..... 90	18	Fn ボタン	27	外部マイク入力端子..... 132
	フラッシュ調光補正..... 97		ファンクション..... 202	28	USB/オーディオビデオ出力端子
6	シャッターボタン..... 21、23	19	レンズ着脱指標..... 12		パソコンと接続する..... 161
7	電源スイッチ..... 2	20	レンズ取り外しボタン..... 17		プリンターと接続する..... 164
8	動画撮影ボタン..... 27、132				テレビと接続する..... 171
9	ML-L3用リモコン受光部			29	アクセサリターミナル... 252
	(前面)..... 72			30	HDMIミニ端子..... 172

カメラ本体（つづき）



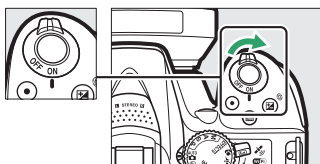
1	ファインダー接眼窓..... 4、14	8	i ボタン 撮影時の設定を変更する 7 レーティング、画像編集/動画 編集、スマートデバイスへ の送信指定を行う..... 141 ツートボタンリセット..... 74	15	削除ボタン 再生中の画像を削除する 22、154
2	接眼目当て..... 51			16	SDカードアクセスランプ 17、21
3	MENU ボタン メニュー..... 8、182 ツートボタンリセット..... 74	9	AE/AF ロック (O-m) ボタン AE/AF ロック..... 58、203 画像を保護する (プロテクト)..... 151	17	パワーコネクターカバー... 255
4	ML-L3用リモコン受光部 (背面)..... 72	10	コマンドダイヤル	18	バッテリー室カバー開閉ノブ 11、16
5	液晶モニター 撮影時の設定を確認する 6 ライブビューで 撮影する..... 24、123 撮影した画像を確認する 22、141	11	再生..... 22、141	19	バッテリー室カバー..... 11
6	三脚ネジ穴	12	SDカードカバー..... 11	20	Q (?) ボタン 縮小/サムネイル表示..... 148 ヘルプ..... 8
7	視度調節ダイヤル..... 14	13	OK ボタン..... 9	21	Q ボタン 拡大表示..... 150
		14	マルチセレクター..... 9	22	バッテリーロックレバー 11

✓ スピーカーについてのご注意

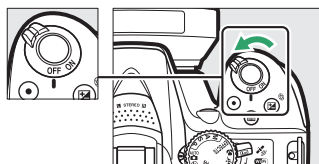
スピーカーに磁気カードなどの磁気製品を近づけると、記録内容が壊れることがあります。スピーカーに磁気製品を近づけないでください。

🔌 電源スイッチ

電源スイッチを矢印の方向に回して「ON」のマークを指標に合わせると、カメラの電源がONになります。



電源スイッチを矢印の方向に回して「OFF」のマークを指標に合わせると、カメラの電源がOFFになります。



撮影モードダイヤル

撮影モードダイヤルを回すと、次の各モードに切り換えられます。

P、S、A、Mモード

シャッタースピードや絞り値、各種設定を自分で決めて、より本格的な撮影を楽しむことができる撮影モードです。

P：プログラムオート (□87)

S：シャッター優先オート (□88)

A：絞り優先オート (□89)

M：マニュアル (□90)

スペシャルエフェクトモード

特殊効果をつけて撮影できる撮影モードです。

：ナイトビジョン (□37)

：カラースケッチ (□38、41)

：トイカメラ風 (□38、42)

：ミニチュア効果 (□38、43)

：セレクトカラー (□39、45)

：シルエット (□39)

：ハイキー (□39)

：ローキー (□40)

：HDRペインティング (□40)

オートモード

撮影状況に合わせて、各種設定をカメラが自動的にコントロールするので、カメラまかせで簡単に撮影することができます。デジタル一眼レフカメラを初めてお使いになる方におすすめの撮影モードです。

 AUTO：オートモード (□19)

：発光禁止オートモード (□19)

シーンモード

撮影シーンに合わせて、各種設定をカメラが自動的にコントロールするので、撮影シーンが決まっているときにおすすめの撮影モードです。

：ポートレートモード (□31)

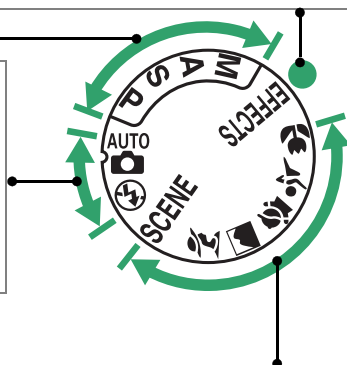
：風景モード (□31)

：こどもスナップモード (□31)

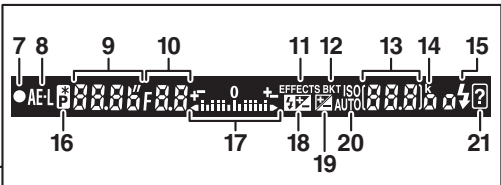
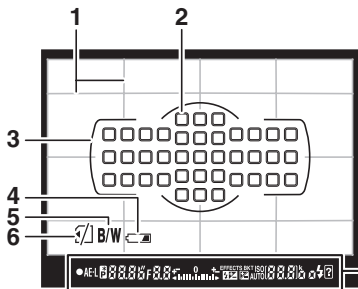
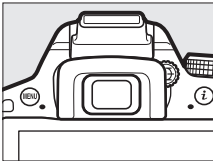
：スポーツモード (□32)

：クローズアップモード (□32)

SCENE：その他のシーンモード (□33)



ファインダー (説明のため、全ての表示を点灯させています)

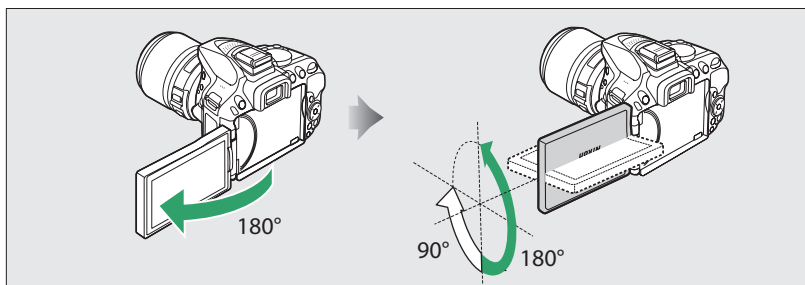


1	構図用格子線..... 196 (カスタムメニューd2 [ファインダー内格子線表示] を [する] に設定している場合のみ表示されます)	8	AEロックマーク 94	15	レディーライト 23
2	フォーカスポイント表示..... 57	9	シャッタースピード 86	16	プログラムシフトマーク 87
3	AFエリアフレーム 14、20	10	絞り値 86	17	インジケーター 露出 90 露出補正 95 フォーカスエイド 193
4	バッテリー警告表示 16	11	スペシャルエフェクト モード表示 37	18	フラッシュ調光補正マーク 97
5	白黒マーク (撮影モードが [] の場合、ピクチャーコントロールが [モノクローム] の場合または [モノクローム] を元にしたカスタムピクチャーコントロールの場合にのみ表示されます) 37、116	12	オートブラケティングマーク 112	19	露出補正マーク 95
6	カードなしマーク 11	13	記録可能コマ数 14 連続撮影可能コマ数 49 ホワイトバランスプリセット マニュアルデータ取得 モード表示 108 露出補正值 95 フラッシュ調光補正值 97 ISO感度 69、196 PCカメラモード表示	20	ISO-AUTOマーク 189
7	ピント表示 21、59	14	1000コマ以上補助表示 14	21	警告表示 275

ファインダーについて
ファインダー内の表示の応答速度や明るさは、温度によって変化しますが、故障ではありません。

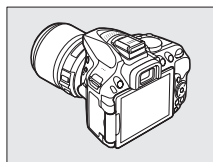
液晶モニター

このカメラの液晶モニターは、向きや角度を変えて使えます。



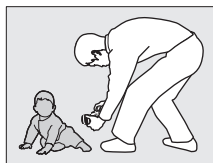
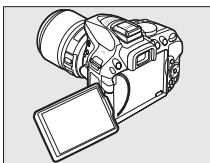
通常の撮影

通常の撮影では、モニター画面を外側にしてカメラ本体に収納した状態でお使いいただくことをおすすめします。



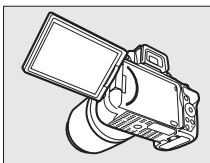
ローアングル撮影

ライブビュー撮影時、低い位置にある被写体の撮影に便利です。



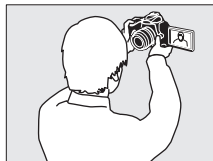
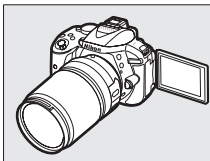
ハイアングル撮影

ライブビュー撮影時、高い位置にある被写体や人越しの撮影に便利です。



セルフポートレート撮影

- ライブビュー撮影でのセルフポートレートの撮影に便利です。
- 液晶モニターには鏡に映ったような状態（鏡像）で表示されますが、画像はカメラから見た状態（正像）で記録されます。



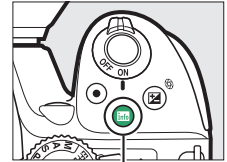
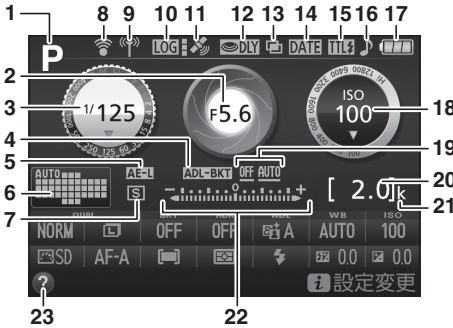
✓ 液晶モニター取り扱い上のご注意

- 液晶モニターを回転させる場合は、回転範囲内でゆっくりと回してください。無理な力がかかると、カメラ本体との接続部の破損の原因となります。
- 液晶モニターを使用しないときは、傷や汚れを防ぐためにモニター画面を内側にしてカメラ本体に収納することをおすすめします。

液晶モニター表示

■ インフォ画面 (説明のため、全ての表示を点灯させています)

info ボタンを押すと、液晶モニターに次のようなインフォ画面が表示されます。



info ボタン

1	撮影モード ⓐ (オート) または ⓑ (発光禁止 オート) で撮影する..... 19 シーンに合わせて撮影する... 30 特殊効果をつけて撮影する 37 撮影モード P 、 S 、 A 、 M を使う 85	7	レリーズモード 47	19	ADLブラケットング 度合い表示 114
2	絞り値 86 絞りイメージ 86	8	Eye-Fi通信マーク 214	20	記録可能コマ数 14 ホワイトバランスプリセット マニュアルデータ取得モー ド表示 108 PCカメラモード表示
3	シャッタースピード 86 シャッタースピードイメージ 86	9	Wi-Fi通信表示 175	21	1000コマ以上補助表示 14
4	オートブラケットングマーク 112	10	ログ取得表示 78	22	インジケーター 露出 90 露出補正 95 AEブラケットング 114 WBブラケットング 114
5	AEロックマーク 57	11	衛星受信状態マーク 77	23	ヘルプあり表示 275
6	オートエリアAF設定マーク 55 3D-トラッキング設定マーク 55 フォーカスポイント 57	12	露出ディレーモードマーク 198		
		13	多重露出マーク 102		
		14	デート写し込み設定マーク 199		
		15	フラッシュ発光方式マーク 201 スピードライト調光補正 マーク 249		
		16	電子音マーク 196		
		17	バッテリー残量表示 16		
		18	ISO感度 69、189 ISO感度イメージ 69、189 ISO-AUTOマーク 189		

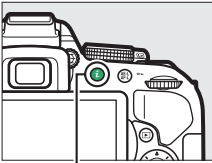
液晶モニター (インフォ画面) を消灯するには

- シャッターボタンを半押しする
- インフォ画面の表示中に、**info** ボタンを押す

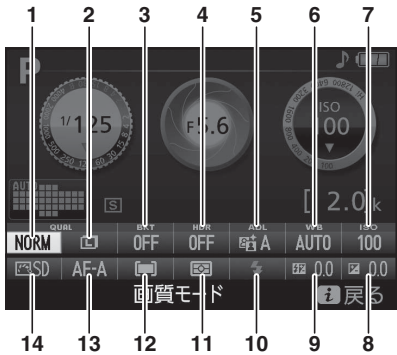
操作を行わないまま約8秒経過したときも、インフォ画面は消灯します (液晶モニターが消灯するまでの時間は、カスタムメニュー c2 [パワーオフ時間] (194) で変更できます)。

■ 撮影時の設定を変更する

i ボタンを押すと、インフォ画面下部に表示されている撮影時の設定を変更できる画面に切り替わります。マルチセクターの▲▼◀▶を押してカーソルを動かし、項目を選んでOKボタンを押すと、選んだ項目の設定画面が表示されます。



i ボタン

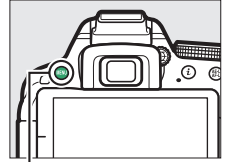


1	画質モード	61	5	アクティブD-ライティング ...	98	10	フラッシュモード	65、67
2	画像サイズ	63	6	ホワイトバランス	105	11	測光モード	93
3	オートブラケットング	112	7	ISO感度	69	12	AFエリアモード	55、125
4	HDR (ハイダイナミック レンジ)	100	8	露出補正	95	13	フォーカスモード	53、124
			9	フラッシュ調光補正	97	14	ピクチャーコントロール ...	116

メニューを使う

再生や撮影、カメラの基本的な設定をするときは、主にメニュー画面を使います。

MENU ボタンを押すと、液晶モニターに次のようなメニュー画面（例：セットアップメニュー）を表示します。



MENU ボタン

メニュー切り換えタブ

次の各メニューのアイコンのタブを選ぶと、選んだメニュー画面が表示されます。

再生メニュー (P.182)	セットアップメニュー (P.205)
撮影メニュー (P.184)	画像編集メニュー (P.216)
カスタムメニュー (P.190)	最近設定した項目/ マイメニュー (P.237) ※

※ どちらかに設定できます。初期設定は「最近設定した項目」です。



各項目の現在の設定をアイコンで表示します

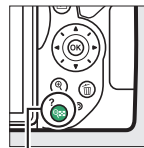
メニュー項目

タブで選んだメニュー内にある設定項目を一覧表示します

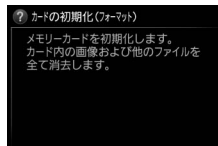


ヘルプがある場合に (?) ボタンを押すと、その項目のヘルプ（説明）を表示します。

- 説明が2ページ以上ある場合は、マルチセクターの▼を押して、次のページを表示してください。
- もう一度 (?) ボタンを押すと、メニュー画面に戻ります。

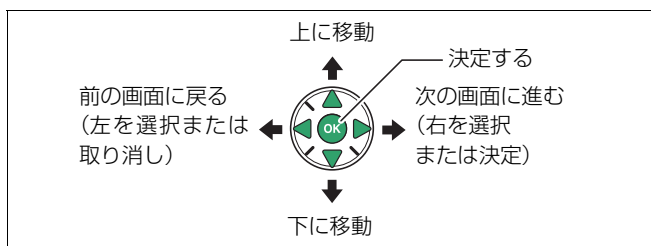


(?) ボタン



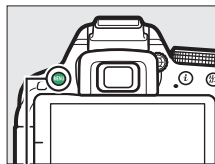
■メニュー項目の設定方法

メニューの操作には、マルチセクターと $\odot$ ボタンを使います。



1 メニュー画面を表示する

- MENU ボタンを押します。



MENU ボタン

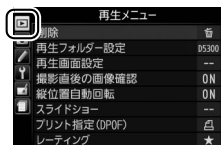
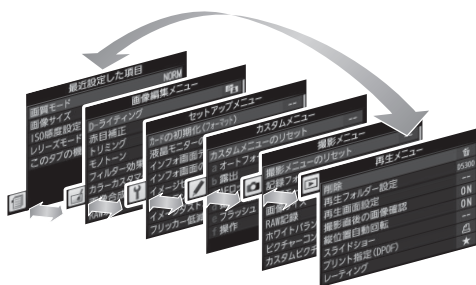
2 メニューのタブを選ぶ

- マルチセクターの $\blacktriangleleft$ を押して、タブのアイコンを黄色く表示します。



3 メニューを切り換える

- $\blacktriangle$ または $\blacktriangledown$ を押して、メニューのタブを切り換えます。



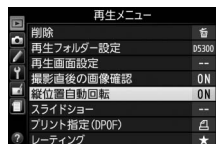
4 選んだメニューに入る

- ▶を押して、選んだメニューに入ります。



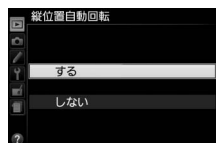
5 メニュー項目を選ぶ

- ▲または▼で項目を選びます。



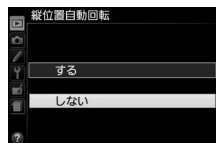
6 設定内容を表示する

- ▶を押して設定内容を表示します。



7 設定内容を選ぶ

- ▲または▼で設定内容を選びます。



8 決定する

- OKボタンを押して決定します。
- メニュー操作をキャンセル（中止）するには、**MENU** ボタンを押してください。

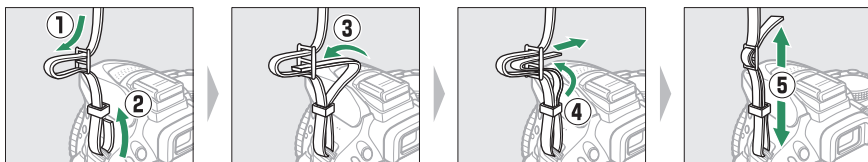


- 撮影モードやカメラの状態によって、設定できないメニュー項目があります。この場合、その項目はグレーで表示されて選べません。
- OKボタンの代わりに▶を押しても決定できますが、画像の削除やSDカードの初期化などの重要な設定項目については、OKボタンしか使えないことがあります。
- メニュー画面から撮影に戻るには、シャッターボタンを半押し（□23）してください。

撮影前の準備をする

バッテリーやSDカードをカメラに入れたり、カメラから取り出したりするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。

1 カメラにストラップを取り付ける（2カ所）



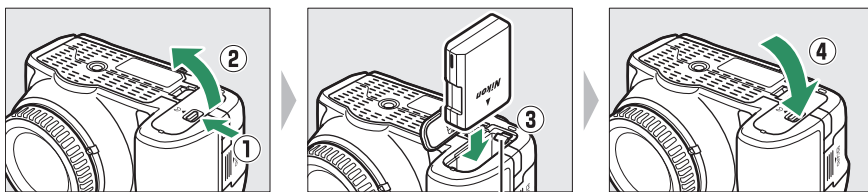
2 バッテリーをバッテリーチャージャーで充電する

- フル充電するには約1時間50分かかります（残量の無いバッテリーの場合）。



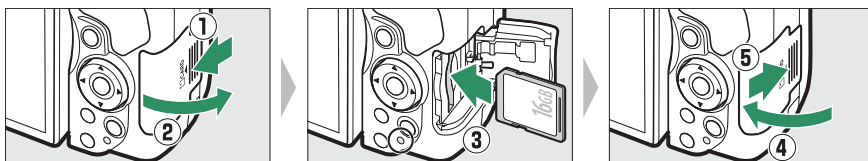
3 カメラにバッテリーとSDカードを入れる

- バッテリーとSDカードは、図のように正しい向きで入れてください。
- オレンジ色のバッテリーロックレバーをバッテリー側面で押しながら、バッテリーを奥まで入れると、バッテリーロックレバーがバッテリーに掛かって固定されます。



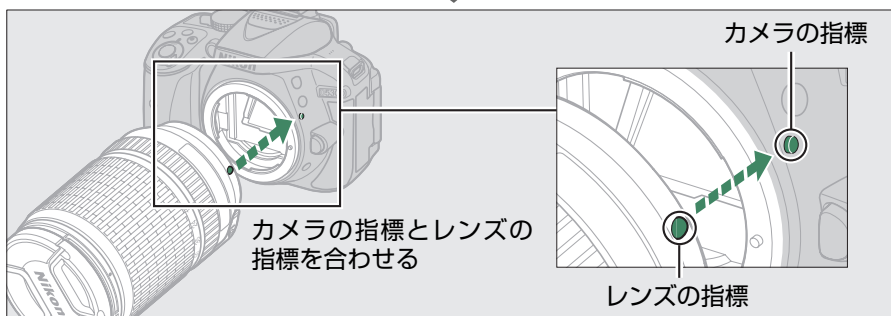
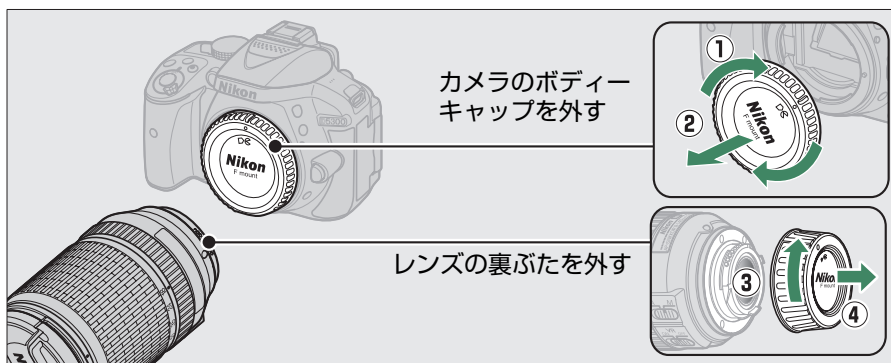
バッテリーロックレバー

- SDカードは、カチッと音がするまで挿入してください。

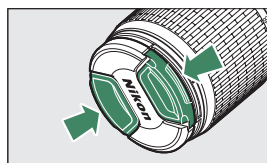


4 レンズを取り付ける

- ほこりなどがカメラ内部に入らないように注意してください。

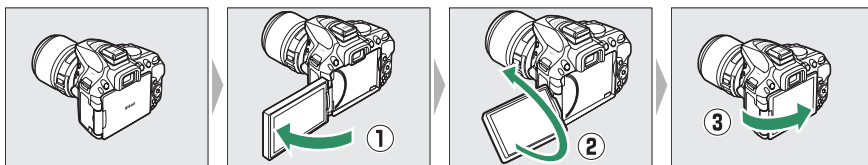


- 撮影する前に、レンズキャップを取り外してください。

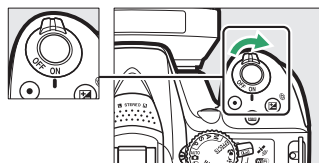


5 液晶モニターを開く

- 液晶モニターは、無理な力を加えずにゆっくりと回してください。



6 カメラの電源をONにする



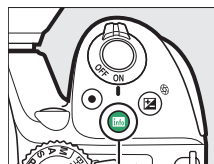
7 日付と時刻を設定する

- ご購入後、初めて電源をONにすると、カメラの内蔵時計の日付と時刻を設定する画面が表示されます。日時の設定が完了するまで、撮影や他の設定はできません。
- マルチセレクターの▲または▼を押して、選択中の項目の数値を合わせ、◀または▶で項目を移動します。
- 日付と時刻の設定を完了したら、OK ボタンを押します。



8 バッテリーとSDカードを確認する

- **info** ボタンを押すと、バッテリーの残量とSDカードの記録可能コマ数（これから撮影できる枚数）を液晶モニターで確認できます。



info ボタン

バッテリー残量
(16)

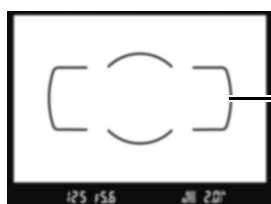
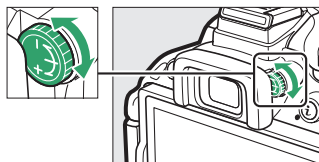
- 記録可能コマ数が1000コマ以上あるときは、1000を意味する「k」マークが点灯します。



記録可能コマ数

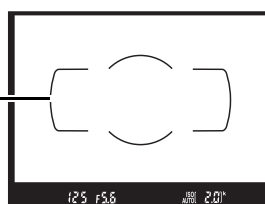
9 ファインダーを見やすくする

- ファインダーで構図を決めながら撮影する場合は、あらかじめ、ファインダー内がはっきり見えるように視度調節ダイヤルを回して調節してください。
- 爪や指先で目を傷つけないようにご注意ください。
- レンズキャップを取り外し、ファインダーをのぞきながら視度調節ダイヤルを回し、AFエリアフレームが最もはっきり見えるように調節してください。



視度調節前

AFエリアフレーム



視度調節後

✓ チャージャーの使用上のご注意

- 充電中にチャージャーをゆすったり、充電中のバッテリーに触れたりすると、振動や静電気の影響により、きわめてまれではありますが、未充電にもかかわらず充電完了表示になる場合があります。このような場合にはバッテリーを取り外し、再度セットして充電を再開してください。
- チャージャーの端子をショートさせないでください。発熱、破損の原因となります。
- チャージャーを使用しないときは、チャージャーをコンセントから抜いてください。
- バッテリーチャージャーMH-24に対応していないバッテリーは、バッテリーチャージャーMH-24で充電しないでください。

✓ チャージャーの「CHARGE」ランプが速く（1秒間に8回）点滅する場合

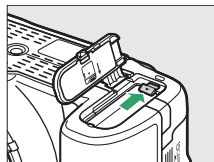
- **バッテリーのセットミス**：チャージャーをコンセントから抜いて、バッテリーを取り外し、チャージャーにセットし直してください。
- **指定温度外での使用**：チャージャーを指定温度範囲内（0℃～40℃）でお使いください。
- さらに不具合が続く場合は、ただちにチャージャーをコンセントから抜いて、充電を中止してください。販売店または二コンサービス機関にチャージャーおよびバッテリーをお持ちください。

✓ バッテリーの使用上のご注意

- お使いになる前に、必ず「安全上のご注意」（□x～xiv）、「カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意」（□261～263）をお読みになり、記載事項をお守りください。
- バッテリーは0℃～40℃の範囲を超える場所ではお使いにならないでください。バッテリーの性能が劣化したり、故障の原因となります。
- 周囲の温度が5℃～35℃の室内で充電してください。バッテリーの温度が0℃以下、60℃以上のときは、充電をしません。
- バッテリーの温度が0℃～15℃、45℃～60℃のときは、充電できる容量が少なくなる、または充電時間が長くなることがあります。

バッテリーを取り出すときは

電源をOFFにしてから、バッテリー室カバーを開けてください。バッテリーロックレバーを矢印の方向に押すと、バッテリーが少し飛び出しますので、引き抜いて取り出してください。



バッテリー残量

バッテリー残量は、インフォ画面で確認できます。残量が少なくなると、ファインダーにバッテリー警告が表示されます。

-  ボタンを押してもインフォ画面が表示されない場合、バッテリー残量がありません。



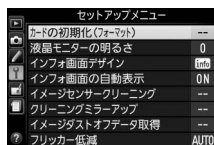
液晶モニター	ファインダー	意味
	—	残量は充分に残っています。
	—	残量が減り始めました。
		残量は残りわずかです。
 (点滅)	 (点滅)	残量がなくなりました。バッテリーを充電してください。

SDカード取り扱い上のご注意

- カメラの使用後は、SDカードが熱くなっていることがあります。取り出しの際はご注意ください。
- SDカードの初期化中や画像の記録または削除中、パソコンとの通信時などには、次の操作をしないでください。記録されているデータの破損やSDカードの故障の原因となります。
 - SDカードの着脱をしないでください
 - カメラの電源をOFFにしないでください
 - バッテリーを取り出さないでください
 - ACアダプターを抜かないでください
- 端子部に手や金属で触れないでください。
- 無理な力を加えないでください。破損のおそれがあります。
- 曲げたり、落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- 熱、水分、直射日光を避けてください。
- パソコンで初期化しないでください。

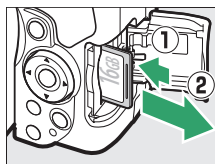
SDカードのフォーマット

このカメラに初めて入れるSDカードや、他の機器でフォーマットされたSDカードは、セットアップメニュー「カードの初期化（フォーマット）」（□206）で、画面の指示に従ってフォーマットしてください。**SDカードを初期化すると、カード内のデータは全て削除されます。**必要なデータがある場合は、初期化する前にパソコンなどに保存してください。



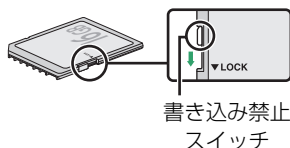
SDカードを取り出すときは

SDカードカバーを開ける前に、SDカードアクセスランプの消灯を確認して、電源をOFFにしてください。SDカードカバーを開けて、SDカードを奥に押し込むと (①)、カードが押し出されるので、引き抜いて取り出してください (②)。



SDカードの書き込み禁止スイッチについて

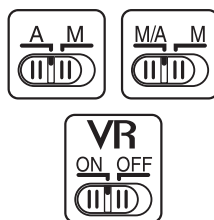
- SD カードには、書き込み禁止スイッチが付いています。このスイッチを「LOCK」の位置にすると、データの書き込みや削除が禁止され、カード内の画像を保護できます。
- 「LOCK」した SD カードをカメラに入れてシャッターをきろうとすると、警告音が鳴り、撮影できません。撮影時や、画像を削除するときは「LOCK」を解除してください。



書き込み禁止
スイッチ

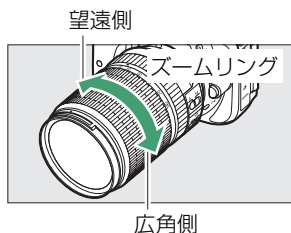
レンズのフォーカスモードと手ブレ補正機能について

- レンズのフォーカスモード (□59) が切り換えられる場合は、オートフォーカス (A、M/A、またはA/M) に設定してください (使用できるレンズについては、□241をご覧ください)。
- 手ブレ補正機能 (□290) を使うときは、手ブレ補正スイッチをONにしてください。



ズームレンズの使い方

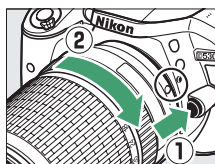
被写体を大きく写したいときはズームリングを望遠側（焦点距離目盛の大きい数値側）に、広い範囲を写したいときはズームリングを広角側（焦点距離目盛の小さい数値側）に回してください。



レンズを取り外すには

カメラの電源をOFFにしてから、カメラ前面のレンズ取り外しボタンを押しながら (①)、レンズを矢印の方向にいっぱいまで回し (②)、引き抜いてください。

- レンズを取り外した後は、カメラのボディーキャップとレンズの裏ぶたをそれぞれ取り付けてください。



カメラの内蔵時計について

カメラの内蔵時計は、一般的な時計（腕時計など）ほど精度は良くありません。定期的に日時設定を行うことをおすすめします。

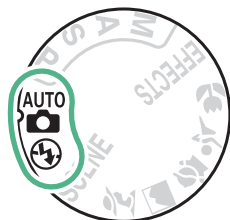
時計用電池について

カメラの内蔵時計は、バッテリーとは別の時計用電池で作動します。カメラにバッテリーを入れると、時計用電池が充電されます。フル充電するには約3日間かかります。充電すると、約1カ月の間時計を動かすことができます。液晶モニターに「日時未設定」と表示された場合は、内蔵時計の設定が初期化されているため、撮影日時が正しく記録されません。もう一度日時設定を行ってください。

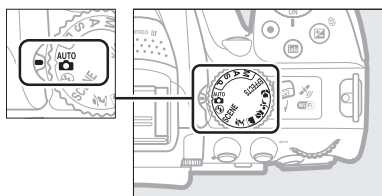
かんたんに静止画/動画を撮影する

(オート/ 発光禁止オート)

撮影モード  (オート) と  (発光禁止オート) を使うと、カメラまかせの簡単な操作で静止画撮影と動画撮影を楽しむことができます。 の場合は、必要に応じてフラッシュが光ります。フラッシュを光らせずに撮影したいときは、 で撮影してください。



カメラの電源をONにして、カメラ上面の撮影モードダイヤルを  または  に合わせます。



ファインダーを
のぞいて撮影する



- | | |
|------------|----|
| 静止画を撮影するには | 20 |
| • 再生するには | 22 |
| • 削除するには | 22 |

液晶モニターを
見ながら撮影する



- | | |
|------------|----|
| 静止画を撮影するには | 24 |
| • 再生するには | 26 |
| • 削除するには | 26 |



- | | |
|-----------|----|
| 動画を撮影するには | 27 |
| • 再生するには | 28 |
| • 削除するには | 29 |

ファインダーをのぞいて静止画を撮影する

1 カメラを構える

- 脇を軽く締め、右手でカメラのグリップを包み込むようにしっかりと持ち、左手でレンズを支えます。

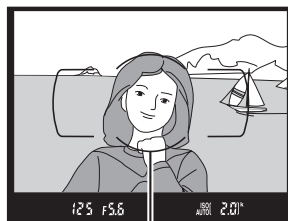


- 人物などを縦位置で撮影する場合は、カメラを縦位置に構えます。



2 構図を決める

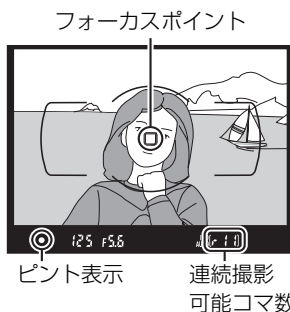
- ファインダーをのぞいて、構図を決めてください。
- 被写体をAFエリアフレーム内に配置します。



AFエリアフレーム

3 シャッターボタンを軽く押して（半押しして）、ピントを合わせる

- 暗い場所などでは、AF補助光が光ったり内蔵フラッシュが上がる場合があります。



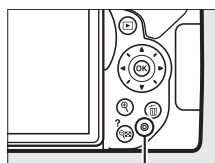
- ピントが合うと、ピピッという電子音が鳴り、ファインダー内のピント表示（●）が点灯します（被写体が動いているときは、電子音が鳴らない場合があります）。

ファインダー内ピント表示	意味
●（点灯）	被写体にピントが合っています。
●（点滅）	オートフォーカスでのピント合わせができません（「オートフォーカスの苦手な被写体」（□54）をご覧ください）。

- ピントが合った位置には、フォーカスポイントが表示されます。

4 シャッターボタンを半押ししたまま、さらに深く押し込んで（全押しして）撮影する

- SDカードアクセスランプが点灯している間は、画像を記録しています。SDカードやバッテリーを取り出さないでください。



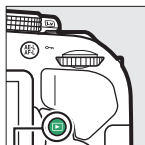
SDカード
アクセスランプ

- 撮影した画像が液晶モニターに数秒間表示されます。



撮影した画像を再生する（1コマ表示モード）

▶ボタンを押すと、撮影した画像が表示されます。



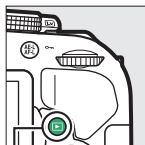
▶ボタン

- マルチセレクターの◀または▶を押すと、他の画像を表示できます。



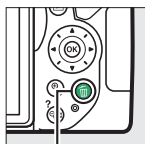
不要な画像を削除する

1 削除したい画像を表示する



▶ボタン

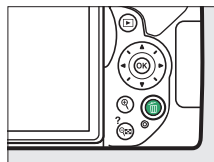
2 冚ボタンを押す



冚ボタン

3 もう一度冚ボタンを押す

- 表示中の画像が削除されます。



📌 シャッターボタンの半押し

シャッターボタンは、2段階に押し込むようになっています。まず、シャッターボタンを軽く抵抗を感じるところまで押し、そのまま指を止めることを、「シャッターボタンを半押しする」といいます。次に、そのまま深く押し込む（これを「シャッターボタンを全押しする」といいます）と、シャッターがきれます。



- 再生中にシャッターボタンを半押しすると、すぐに次の撮影ができます。

📌 半押しタイマーについて

このカメラには、バッテリーの消費を抑えるための「半押しタイマー」という機能があります。シャッターボタンを半押しすると、半押しタイマーがオンになります。何も操作が行われないうちに約8秒経過すると半押しタイマーがオフになり、ファインダー内表示が消灯します。もう一度シャッターボタンを半押しすると、半押しタイマーがオンになり、元の状態に戻ります。半押しタイマーの作動時間は、カスタムメニュー c2 [パワーオフ時間] (□□194) で変更できます。

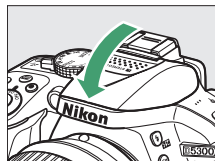
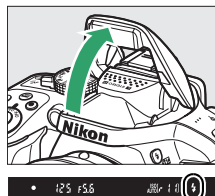


📌 内蔵フラッシュについて

撮影モード では、シャッターボタンを半押しすると必要に応じて自動的に内蔵フラッシュが上がります (□□64)。

- ファインダー内に (レディーライト) が点灯しているとき：シャッターボタンを全押しすると、内蔵フラッシュが発光します。
- 内蔵フラッシュが上がっている状態で が点灯していないとき：フラッシュが充電中のため、撮影できません。

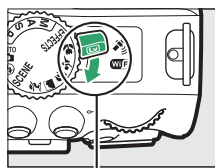
内蔵フラッシュを収納するときは、カチッと音がするまで手で軽く押し下げます。フラッシュを使わないときは常に収納してください。



液晶モニターを見ながら静止画を撮影する (ライブビュー撮影)

1 ライブビュースイッチを回す

- 液晶モニターに被写体が表示されます。



ライブビュースイッチ

2 カメラを構える

- 右手でカメラのグリップを包み込むようにしっかりと持ち、左手でレンズを支えます。
- 人物などを縦位置で撮影する場合は、カメラを縦位置に構えます。



3 シャッターボタンを軽く押して(半押しして)、ピントを合わせる

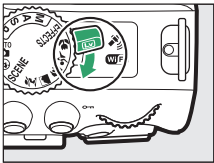
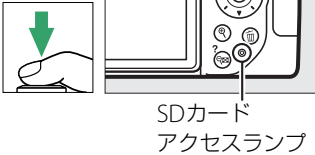
- フォーカスポイントは、オートフォーカス作動中は緑色で点滅し、ピントが合うと緑色で点灯します。ピントが合わないと赤色で点滅します。



フォーカスポイント

4 シャッターボタンを半押ししたまま、さらに深く押し込んで（全押しして）撮影する

- 撮影時は液晶モニターが消灯します。
- SDカードアクセスランプが点灯している間は、画像を記録しています。SDカードやバッテリーを取り出さないでください。
- 撮影後は、撮影した画像が液晶モニターに数秒間表示されます。
- ライブビューを終了する場合は、ライブビュースイッチを回します。



おまかせシーン

撮影モードダイヤルが P または A のときにライブビューに切り換えると、オートフォーカスに設定している状態では、「おまかせシーン」になります。

- おまかせシーンでは、カメラが撮影シーンや被写体に合わせて最適な撮影モードを決定します。
- 液晶モニターの左上に、カメラが選んだ撮影モードのアイコンが表示されます。



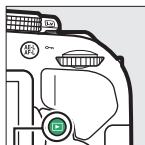
	ポートレート	人物を認識した場合
	風景	自然の風景や街並みを認識した場合
	クローズアップ	近接位置の被写体を認識した場合
	夜景ポートレート	夕景や夜景をバックに人物を認識した場合
	オート	上記のシーンを認識しなかった場合
	発光禁止オート	P または A に適したシーンの場合

ライブビュー撮影について

ライブビュー撮影時のご注意や、撮影時に設定できる機能の説明については、「ライブビュー撮影（液晶モニターを見ながら撮影する）」（□123）をご覧ください。

撮影した画像を再生する（1コマ表示モード）

▶ボタンを押すと、撮影した画像が表示されます。



▶ボタン

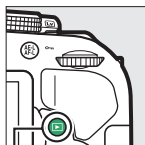


- マルチセレクトターの◀または▶を押すと、他の画像を表示できます。



不要な画像を削除する

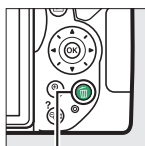
1 削除したい画像を表示する



▶ボタン



2 冚ボタンを押す

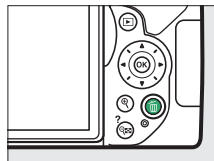


冚ボタン



3 もう一度冚ボタンを押す

- 表示中の画像が削除されます。

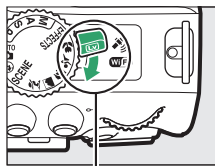


動画を撮影する

ライブビューにすると動画を撮影できます。

1 ライブビュースイッチを回す

- 液晶モニターに被写体が表示されます。



ライブビュースイッチ

2 カメラを構える

- 右手でカメラのグリップを包み込むようにしっかりと持ち、左手でレンズを支えます。



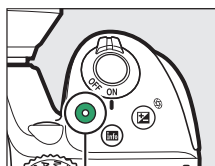
3 シャッターボタンを軽く押して(半押しして)、ピントを合わせる



フォーカスポイント

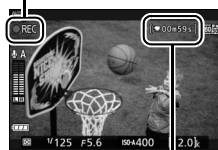
4 動画撮影ボタンを押して、撮影を始める

- 録画中は録画中マークが液晶モニターに表示されます。SDカードに記録できる残り時間の目安も液晶モニターで確認できます。



動画撮影ボタン

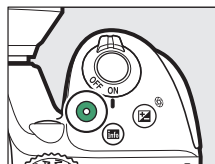
録画中マーク



残り時間

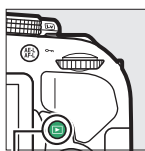
5 もう一度動画撮影ボタンを押して、撮影を終了する

- ライブビューを終了する場合は、ライブビュースイッチを回します。



撮影した動画を再生する

▶ ボタンを押して、マークが表示されている画像を表示します（1コマ表示モード）。



▶ ボタン



-  ボタンを押して動画を再生します。マルチセクターの▲または▶ ボタンを押すと、動画再生を終了します。動画再生時の詳しい操作については、「動画を再生する」（ 137）をご覧ください。



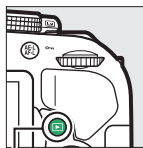
動画撮影について

動画撮影時のご注意や、撮影時に設定できる機能の説明については、「動画を撮影する」（ 132）をご覧ください。

不要な動画を削除する

1 削除したい動画を表示する

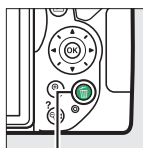
- マークが表示されている画像が動画です。



▶ボタン



2 削除ボタンを押す

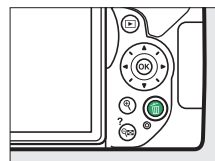


🗑ボタン



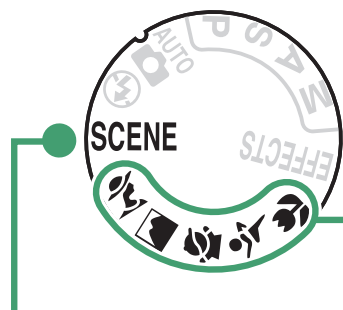
3 もう一度削除ボタンを押す

- 表示中の動画が削除されます。



被写体や状況に合わせて撮影する (シーンモード)

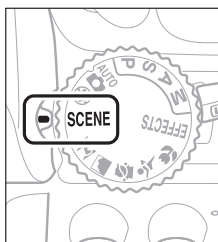
撮影するシーンが決まっているときは、シーンに合わせて撮影モードを選ぶだけで、美しく撮影できます。



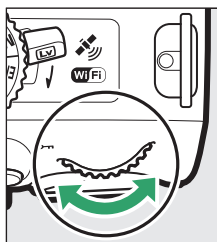
- 撮影モードダイヤルを回して設定できるシーンモード

	ポートレート
	風景
	こどもスナップ
	スポーツ
	クローズアップ

- 撮影モードダイヤルをSCENEにしてからコマンドダイヤルを回して設定できるシーンモード



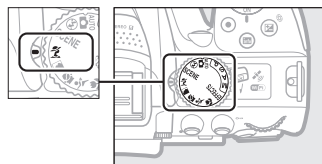
+



	夜景ポートレート
	夜景
	パーティー
	海・雪
	夕焼け
	トワイライト
	ペット
	キャンドルライト
	桜
	紅葉
	料理

撮影モードダイヤルを回して設定できるシーンモード

撮影モードダイヤルを回して設定します。



撮影モードダイヤル

(ポートレート)



人物を美しく撮影したいときに使います。人物の肌をなめらかで自然な感じに仕上げます。

- 被写体と背景が離れているときや、望遠レンズを使って撮影したときは、背景がぼけて立体感のある画像になります。

(風景)



自然の風景や街並みを、色鮮やかに撮影したいときに使います。

ご注意

内蔵フラッシュとAF補助光は光りません。

(こどもスナップ)



子供の撮影に向いています。肌の色を美しく表現すると同時に、服装や背景も鮮やかに仕上げます。

🏀 (スポーツ)



運動会などスポーツ写真の撮影に向いています。動きのある被写体の一瞬の動きを鮮明にとらえ、躍動感のある画像に仕上げます。

☑️ ご注意

内蔵フラッシュとAF補助光は光りません。

🌸 (クローズアップ)



草花や昆虫などの小さな被写体に近づき、大きく写したいときに使います。

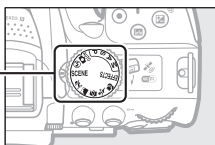
- マイクロレンズを使用すると、より被写体に近づいて撮影することができます。

撮影モードダイヤルをSCENEにしてからコマンドダイヤルを回して設定できるシーンモード

撮影モードダイヤルを**SCENE**に合わせた後、コマンドダイヤルを回して設定します。



撮影モードダイヤル



コマンドダイヤル



液晶モニター



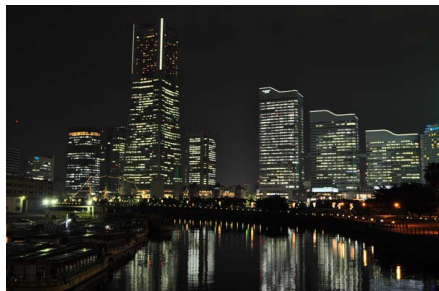
（夜景ポートレート）



夕景や夜景をバックに、人物を撮影したいときに使います。人物と背景の両方を美しく表現します。



（夜景）



夜景の撮影に適しています。ノイズや不自然な発色を抑え、外灯やネオンなどの光を鮮やかにして夜景の雰囲気表現します。

☑ ご注意

内蔵フラッシュとAF補助光ランプは光りません。

(パーティー)



パーティーなどでの撮影に適しています。
パーティー会場の光の雰囲気も表現します。

(海・雪)



晴天の海や湖、砂浜、雪景色などの撮影に適しています。

☒ **ご注意**

内蔵フラッシュとAF補助光ランプは光りません。

(夕焼け)



夕焼けや朝焼けの撮影に適しています。

☒ **ご注意**

内蔵フラッシュとAF補助光ランプは光りません。

(トワイライト)



夜明け前や日没後の風景の撮影に適しています。わずかな自然光での風景をきれいに表現します。

☒ ご注意

内蔵フラッシュとAF補助光ランプは光りません。

(ペット)



動き回るペットなどの撮影に適しています。

☒ ご注意

AF補助光ランプは光りません。

(キャンドルライト)



キャンドルライトでの撮影に適しています。

☒ ご注意

内蔵フラッシュは光りません。

(桜)



桜、花畑などの花がたくさん咲いている風景の撮影に適しています。

ご注意

内蔵フラッシュは光りません。

(紅葉)



紅葉の撮影に適しています。紅葉の赤色や黄色を鮮やかに表現します。

ご注意

内蔵フラッシュは光りません。

(料理)



料理の撮影に適しています。料理を鮮やかに表現します。

ご注意

 () ボタンを押して内蔵フラッシュを上げて、フラッシュ撮影することもできます (□□66)。

三脚の使用について

暗いときや手ブレが気になるときは、三脚の使用をおすすめします。

特殊効果をつけて撮影する (スペシャルエフェクトモード)

特殊な効果のついた画像を撮影できます。

	ナイトビジョン
	カラースケッチ
	トイカメラ風
	ミニチュア効果
	セレクトカラー

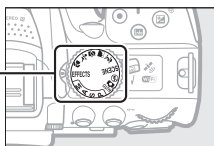
	シルエット
	ハイキー
	ローキー
	HDRペインティング



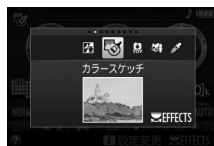
撮影モードダイヤルを**EFFECTS**に合わせた後、コマンドダイヤルを回して設定します。



撮影モードダイヤル

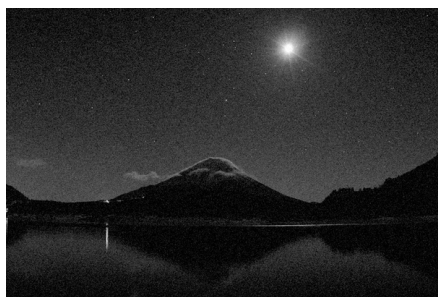


コマンドダイヤル



液晶モニター

(ナイトビジョン)



意図的に高感度で撮影して、モノトーン（白黒）で表現します。暗闇での撮影に適しています。

ご注意

- オートフォーカスはライブビュー撮影時のみ使えます。
- オートフォーカスでピントが合いにくい場合は、フォーカスモードを **[MF]**（マニュアルフォーカス）に設定してください。
- 撮影した画像にノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生する場合があります。
- 内蔵フラッシュとAF補助光ランプは光りません。

(カラスケッチ)



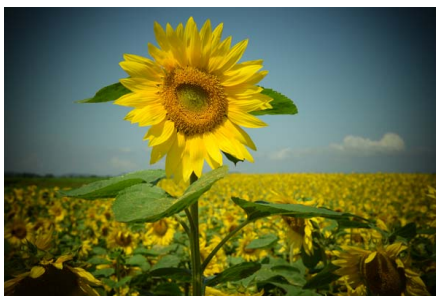
輪郭を抽出して色をつけることで、スケッチ風に表現します。

- 効果はライブビュー表示中に設定できます (□41)。

ご注意

- オートフォーカス中は効果が一時解除されます。
- 動画撮影の場合は、コマ送りのような動画として記録されます。
- 動画撮影中はオートフォーカスは作動しません。

(トイカメラ風)



色の濃さと周辺減光量を調整し、トイカメラで撮影したように表現します。

- 効果はライブビュー表示中に設定できます (□42)。

(ミニチュア効果)



ミニチュア（模型）を接写したように表現します。高いところから見下ろして撮影する場合に適しています。

- 効果はライブビュー表示中に設定できます (□43)。

ご注意

- 内蔵フラッシュとAF補助光ランプは光りません。
- オートフォーカス中は効果が一時解除されます。
- 動画撮影の場合は、早送り動画として記録されます。
- 動画撮影に音声は記録されません。
- 動画撮影中はオートフォーカスは作動しません。

(セレクトカラー)



選んだ色のみを残し、それ以外の色をモノトーン（白黒）で表現します。

- 効果はライブビュー表示中に設定できます（□45）。

☒ ご注意

内蔵フラッシュは光りません。

(シルエット)



背景が明るいシーンで、被写体を意図的にシルエットで表現します。

☒ ご注意

内蔵フラッシュは光りません。

(ハイキー)



全体的に明るめの被写体の撮影に適しています。画像全体を意図的に明るいトーンで表現します。光に満ちた華やいだ雰囲気になります。

☒ ご注意

内蔵フラッシュは光りません。

(ローキー)



全体的に暗めの被写体の撮影に適しています。画像全体を意図的に暗いトーンで表現します。深く落ち着き、ハイライト部分が引き立った雰囲気になります。

ご注意

内蔵フラッシュは光りません。

(HDRペインティング)



絵画のように色彩やディテールが強調された仕上がりになります。

- 1回の撮影で露出が異なる画像を連続2コマ撮影して合成します。

ご注意

- 合成処理中は、液晶モニターにメッセージが表示され、表示が消えるまで次の撮影はできません。
- 動いている被写体を撮影する場合や撮影時の手ブレの量が多い場合は、正しく合成されないことがあります。
- 効果はライブビュー表示時には確認できません。動画撮影時には、撮影モード④として動作します。
- 内蔵フラッシュは光りません。
- レリーズモードを [L] (低速連続撮影) または [H] (高速連続撮影) に設定していても、連続撮影はできません。

三脚の使用について

暗いときや手ブレが気になるときは、三脚の使用をおすすめします。

スペシャルエフェクトモードについて

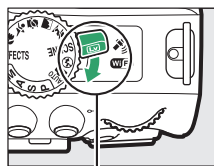
- 撮影モード 、、、 または  の場合に画質モードを [RAW] にして撮影すると、画質モード FINE で画像が記録されます。RAW と JPEG を同時に記録した場合は、JPEG 画像のみが記録されます。
- 撮影モードが  または  のときにレリーズモードを [L] (低速連続撮影) または [H] (高速連続撮影) に設定した場合、連続撮影速度が遅くなります。
- 撮影モードが  または  のときは、ライブビュー時の表示の更新は遅くなります。

■🎨（カラスケッチ）の効果の設定方法

スペシャルエフェクトモードで🎨を選んだ後、効果を設定します。

1 ライブビュースイッチを回す

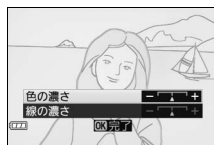
- 液晶モニターに被写体が表示されます。



ライブビュースイッチ

2 OK ボタンを押す

- カラスケッチの設定画面が表示されます。



3 色の濃さを設定する

- マルチセクターの▲または▼を押して「色の濃さ」を選びます。
- ▶を押すと濃くなり、◀を押すと薄くなります。



4 線の濃さを設定する

- ▲または▼を押して「線の濃さ」を選びます。
- ▶を押すと濃くなり、◀を押すと薄くなります。
- 「線の濃さ」を濃くすると、画像全体の色も濃くなります。



5 決定する

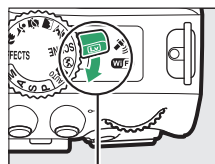
- OK ボタンを押して決定します。
- ライブビューを終了する場合は、ライブビュースイッチを回します。ライブビューを終了しても、設定した効果は維持されます。設定した効果は、ファインダー撮影でも適用されます。

■ (トイカメラ風) の効果の設定方法

スペシャルエフェクトモードで  を選んだ後、効果を設定します。

1 ライブビュースイッチを回す

- 液晶モニターに被写体が表示されます。



ライブビュースイッチ

2 ボタンを押す

- トイカメラ風の設定画面が表示されます。



3 色の濃さを設定する

- マルチセクターの ▲ または ▼ を押して [色の濃さ] を選びます。
- ► を押すと濃くなり、◄ を押すと薄くなります。



4 周辺減光を設定する

- マルチセクターの ▲ または ▼ を押して [周辺減光] を選びます。
- ► を押すと減光効果が強くなり、◄ を押すと減光効果が弱くなります。



5 決定する

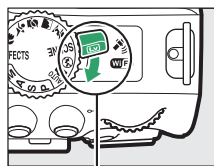
-  ボタンを押して決定します。
- ライブビューを終了する場合は、ライブビュースイッチを回します。ライブビューを終了しても、設定した効果は維持されます。設定した効果は、ファインダー撮影でも適用されます。

■ 効果（ミニチュア効果）の効果の設定方法

スペシャルエフェクトモードで効果を選んだ後、効果を設定します。

1 ライブビュースイッチを回す

- 液晶モニターに被写体が表示されます。



ライブビュースイッチ

2 フォーカスポイントを被写体に重ねる

- マルチセクターの▲▼◀▶ボタンを押して、ぼかさないではっきりと見せたい部分にフォーカスポイントを移動します。
- シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。
- Qボタンを押すと、被写体が拡大表示され、ピントを細部まで確認できます。Q(?)ボタンを押すと画像を縮小表示します。
- 拡大表示中は効果が一時解除されます。



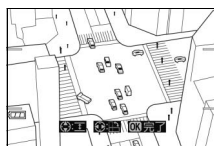
3 OKボタンを押す

- ミニチュア効果の設定画面が表示されます。



4 効果をかける方向と幅を設定する

- ◀または▶を押すと、効果をかける方向を縦と横から選べます。
- ▲または▼を押すと、効果をかける幅を設定できます。



5 決定する

- OKボタンを押して決定します。
- ライブビューを終了する場合は、ライブビュースイッチを回します。ライブビューを終了しても、設定した効果は維持されます。設定した効果は、ファインダー撮影でも適用されます。

ミニチュア効果での動画撮影について

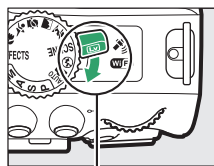
動画の記録時間は撮影にかかる時間よりも短くなります。たとえば、撮影メニュー「**動画の設定**」の「**画像サイズ/フレームレート**」が1920 × 1080、30pの場合（□135）、約3分の動画ファイルを作成するためには、約45分の撮影時間が必要です。

■ 筆 (セレクトカラー) の効果の設定方法

スペシャルエフェクトモードで 筆 を選んだ後、効果を設定します。

1 ライブビュースイッチを回す

- 液晶モニターに被写体が表示されます。



ライブビュースイッチ

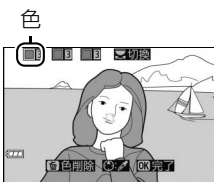
2 OK ボタンを押す

- セレクトカラーの設定画面が表示されます。



3 残したい色を抽出する

- カメラを動かして画面中央の枠を残したい色の被写体に重ねます。
- Q ボタンを押すと、被写体が拡大表示され、残したい色を細部まで確認できます。Q (?) ボタンを押すと画像を縮小表示します。
- マルチセクターの ▲ を押すと、画面中央の枠に重ねた被写体の色が抽出され、色の枠に表示されます。
- 抽出した色以外の色は、モノトーン（白黒）で表示されます。



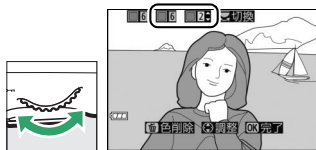
4 抽出する色の感度を設定する

- ▲ または ▼ を押して、抽出する色の感度を [1] ～ [7] から設定します。数値が大きいほど抽出する色の色相が広くなり、小さいほど狭くなります。



5 抽出する色を追加する

- コマンドダイヤルを回して別の色の枠を選び、手順3～4と同じ手順で色を抽出し、色の感度を設定します。
- 最大3色まで設定できます。
- 抽出した色を選んで⌂ボタンを押すと、抽出した色をリセットします。
- 抽出した全ての色を削除したい場合は、⌂ボタンを押し続けます。確認画面で「はい」を選んでOKボタンを押すと、全ての色をリセットします。



6 決定する

- OKボタンを押して決定します。
- ライブビューを終了する場合は、ライブビュースイッチを回します。ライブビューを終了しても、設定した効果は維持されます。設定した効果は、ファインダー撮影でも適用されます。

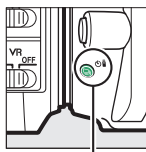
✓ セレクトカラー設定時のご注意

- 残したい色の彩度によっては、抽出しにくい場合があります。彩度の高い色の抽出をおすすめします。
- 色の感度を高く設定しすぎると、選択した色に近い色相の色も抽出されます。

撮影機能を使いこなす

リリースモードを選ぶ

☐ (☺/📷) ボタンを押すと、シャッターをきる（リリースする）ときの動作（リリースモード）の選択画面が表示されます。マルチセクターの▲▼◀▶を押してカーソルを動かし、OKボタンを押して決定します。



☐ (☺/📷) ボタン

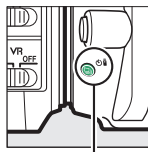


☐ [S]	1コマ撮影	シャッターボタンを全押しするたびに1コマずつ撮影できます。	—
☐ [L]	低速連続撮影	シャッターボタンを全押ししている間、低速連続撮影します。	📖 48
☐ [H]	高速連続撮影	シャッターボタンを全押ししている間、高速連続撮影します。	📖 48
☐ [Q]	静音撮影	1コマ撮影に比べて静かに撮影できます。	📖 50
☐ [T]	セルフタイマー	セルフタイマー撮影ができます。	📖 51
📷 2s	2秒リモコン (ML-L3)	別売のリモコンML-L3の送信ボタンを押すと、2秒後にシャッターがきれます。	📖 72
📷	瞬時リモコン (ML-L3)	別売のリモコンML-L3の送信ボタンを押すと、すぐにシャッターがきれます。	📖 72

連写で撮影する

シャッターボタンを深く押し込んで（全押しして）、そのまま押し続けている間、連写（連続撮影）で撮影できます。[L]（低速連続撮影）と、[H]（高速連続撮影）から選べます。

1 （/) ボタンを押す



（/) ボタン



2 [L]（低速連続撮影）または [H]（高速連続撮影）を選ぶ

-  ボタンを押して設定します。



3 構図を決め、ピントを合わせる



4 シャッターボタンを全押しして連続撮影する

- シャッターボタン深く押し込んで（全押しして）、そのまま押し続けている間、連続撮影します。



連続撮影についてのご注意

- 内蔵フラッシュが発光するときは、連続撮影はできません。連続撮影するには、撮影モードを Ⓢ （発光禁止オート）（ □□19 ）にするか、フラッシュモード（ □□65, 67 ）を [Ⓢ]（発光禁止）にしてください。
- バッテリー残量が減ると、連続撮影速度が遅くなることがあります。撮影中にバッテリーの残量がなくなった場合は、連続撮影は中止され、撮影済みの画像データがSDカードに記録されます。

連続撮影速度について

[Ⓛ]（低速連続撮影）と [ⓗ]（高速連続撮影）設定時の連続撮影速度については、 □□281 ページをご覧ください。

連続撮影可能コマ数の表示

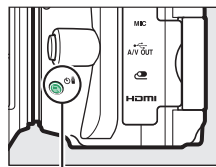
- シャッターボタンを押している間、 Ⓢ と連続撮影可能コマ数（連続撮影速度を維持したまま続けて撮影できるおよそのコマ数）が、ファインダー内に表示されます。
- 連続撮影は最大100コマまでできます。
- 表示される連続撮影可能コマ数は、撮影条件によって増減することがあります。 [Ⓢ00] と表示されたときは、連続撮影速度が低下します。



静音撮影する

1コマ撮影に比べて静かに撮影するため、できるだけ音を立てたくないときに便利です。
ピントが合ったときの電子音は鳴りません。

1 (🔇/🔊) ボタンを押す



 (🔇/🔊) ボタン

2 (静音撮影) を選ぶ

-  ボタンを押して設定します。



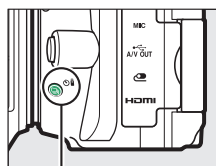
3 シャッターボタンを全押しして撮影する



セルフタイマーを使って撮影する

セルフタイマーによる撮影は、記念写真など、撮影者自身も一緒に写りたいときなどに便利です。セルフタイマー撮影時は、三脚などを使ってカメラを固定してください。

1 (🕒) ボタンを押す



 (🕒) ボタン

2 [🕒] (セルフタイマー) を選ぶ

-  ボタンを押して設定します。



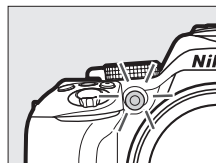
3 構図を決め、ピントを合わせる

- ピントが合っていないときなど、カメラのシャッターがきれない状態ではセルフタイマーは作動しません。



4 セルフタイマー撮影を開始する

- シャッターボタンを全押しすると、約 10 秒後にシャッターがきれます。タイマーが作動している間は、電子音が鳴り、セルフタイマーランプが点滅します。撮影約 2 秒前になると、点滅から点灯に変わり、電子音が鳴る間隔が短くなります。

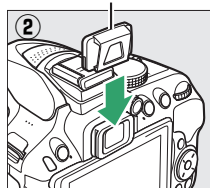
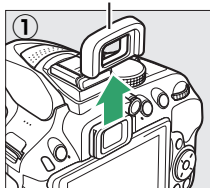


ファインダーから顔を離して撮影するときは

ファインダーから入った光が適正露出や画像に影響を与えることを防ぐため、付属のアイピースキャップを取り付けることをおすすめします。アイピースキャップは、接眼目当てを取り外し (①)、右図のように取り付けます (②)。

接眼目当て

アイピースキャップ



セルフタイマー撮影時のフラッシュについて

内蔵フラッシュを手動で上げる撮影モード（□□66）でフラッシュを使って撮影したいときは、撮影を開始する前に （） ボタンを押して内蔵フラッシュを上げ、ファインダー内の （フラッシュアイコン）が点灯するまでお待ちください。セルフタイマーの作動中にフラッシュを上げると、撮影は中止されます。

セルフタイマー撮影の解除について

作動中のタイマーを解除するには、電源をOFFにしてください。

カスタムメニュー c3 [セルフタイマー]

カスタムメニュー c3 [セルフタイマー] では、セルフタイマーの作動時間や連続撮影コマ数を変更できます（□□195）。

ファインダー撮影時にオートフォーカスでピントを合わせる

ファインダーをのぞいて撮影するときの、オートフォーカスでのピントの合わせ方について説明します。

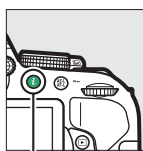
ピントの合わせ方を選ぶ（フォーカスモード）

AF-A	AFサーボモード 自動切り換え	被写体が静止しているときは[AF-S]、動いているときは[AF-C]に自動的に切り替わります。ピントが合っていないときはシャッターはきれません。
AF-S	シングル AFサーボ※	静止している被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。ピントが合っていないときはシャッターはきれません。
AF-C	コンティニュアス AFサーボ※	スポーツなど動きのある被写体の撮影に適しています。ピントが合ってもフォーカスロックはされず、シャッターをきるまでピントを合わせ続けるモードです。 • 初期設定では、ピントが合うまでシャッターをきれませんが、ピント状態に関係なく、シャッターボタンを全押しするとシャッターがきれるように変更できます（□192）。
MF	マニュアル フォーカス	手動でピントを合わせます（□59）。

※撮影モードP、S、A、Mで選べます。

1 「フォーカスモード」を選ぶ

- **i** ボタンを押します。



i ボタン



インフォ画面

- マルチセレクトで「フォーカスモード」を選んで**OK** ボタンを押します。



2 設定したいフォーカスモードを選ぶ

- **OK** ボタンを押して設定します。



予測駆動フォーカスについて

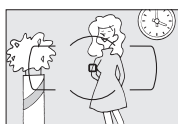
ファインダー撮影時のAFモードが[AF-C]のときや、[AF-A]に設定していて自動的に[AF-C]に切り替わったときは、シャッターボタンの半押し時に被写体が近づいてくるのをカメラが認識すると、自動的に予測駆動フォーカスに切り替わります。予測駆動フォーカスが作動すると、シャッターがきれる時点での到達位置を予測しながらピントを合わせ続けます。

[AF-C] コンティニュアスAFサーボについてのご注意

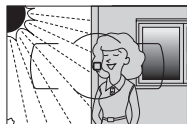
カスタムメニューa1 [AF-Cモード時の優先] を[フォーカス] (□192) に設定している場合、[AF-C]はシャッターチャンスを逃さないために、[AF-S]よりもシャッターのきれるピントの範囲が広がっています。このため、ファインダー内のピント表示 (●) が点灯する前にシャッターがきれることがあります。[AF-A]に設定していて自動的に[AF-C]に切り替わった場合でも、同様の動作をします。

オートフォーカスの苦手な被写体

次のような被写体では、オートフォーカスによるピント合わせができず、シャッターがきれないことや、ピントが合っていないくても電子音が鳴ってピント表示 (●) が点灯し、シャッターがきれることがあります。このような場合は、マニュアルフォーカス (□59) でピントを合わせるか、フォーカスロック (□57) を利用してください。



被写体の明暗差がはっきりしない場合
(白壁や背景と同色の服をきている人物など)



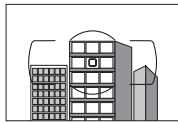
被写体の明暗差が極端に異なる場合
(太陽を背景にした日陰の人物など)



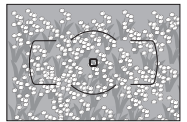
フォーカスポイント内に遠くのと近くのもの混在する被写体
(オリの中の動物など)



背景に対してメインの被写体が小さい場合
(遠くの建物を背景に近くの人物を撮影する場合など)



連続した繰り返しのパターンの被写体
(ビルの窓やブラインドなど)

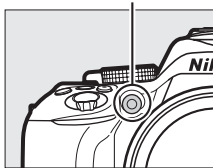


絵柄が細かい場合
(一面の花畑など)

AF補助光について

- 被写体が暗い場合などにシャッターボタンを半押しすると、ピント合わせのために、AF補助光を自動的に照射します (撮影モードや設定によっては、AF補助光を照射しないことがあります (□268))。
- AF補助光ランプを連続して使うと、保護機能が働いて一時的に照射が制限されます。少し時間をおくと再び照射するようになります。また、短時間に何回も使うと、AF補助光ランプが熱くなることがあるのでご注意ください。

AF補助光ランプ



フォーカスポイントの選び方を決める

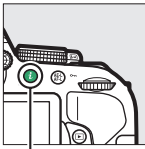
(AFエリアモード)

 シングルポイント AF	静止している被写体の撮影に適しています。選んだフォーカスポイントだけを使ってピント合わせをします。
 9 ダイナミック AF (9点) ※  21 ダイナミック AF (21点) ※  39 ダイナミック AF (39点) ※	不規則な動きをする被写体の撮影に効果的です。選んだフォーカスポイントから被写体が一時的に外れてしまった場合でも、周辺のフォーカスポイントからのピント情報を使ってピントを合わせます。 ● ダイナミック AF (9点)：構図を決めて撮影するときや、被写体の動く方向が予測でき、フォーカスポイントで被写体を捉えやすい撮影に適しています（例：陸上競技やモータースポーツ）。 ● ダイナミック AF (21点)：動きがランダムで予測しにくい被写体の撮影に適しています（例：フィールドスポーツ）。 ● ダイナミック AF (39点)：被写体の動きが速く、選択したフォーカスポイントで被写体を捉えにくい場合の撮影に適しています（例：野鳥撮影）。
 3D 3D-トラッキング※	左右に動く被写体を自由な構図で撮影するのに適しています（例：テニス）。選んだフォーカスポイントで被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間、構図の変化に合わせて、フォーカスポイントを自動的に切り換えてピントを合わせ続けます。
 オートエリア AF	カメラが自動的に、全てのフォーカスポイントから被写体を判別してピントを合わせます。

※フォーカスモードが **[AF-S]** のときは選べません。

1 [AFエリアモード] を選ぶ

- **i** ボタンを押します。



i ボタン



インフォ画面

- マルチセレクターで **[AFエリアモード]** を選んで **OK** ボタンを押します。



2 設定したいAFエリアモードを選ぶ

-  ボタンを押して設定します。



AFエリアモードの設定について

P、S、A、M以外の撮影モードで設定したAFエリアモードは、撮影モードを切り換えると、リセットされます。

3D-トラッキングについて

- [3D] (3D-トラッキング) では、半押ししていったんピントが合ったときに選択したフォーカスポイント周辺の色を背景の色も含めて記憶します。そのため、被写体の色が周囲の色と似ていると、うまく作動しない場合があります。
- 素早い動きをする被写体などの場合、カメラが途中で被写体を見失ってしまうことがあります。その場合、いったんシャッターボタンを放して、もう一度被写体にフォーカスポイントを合わせてください。

フォーカスポイントを自分で選ぶ

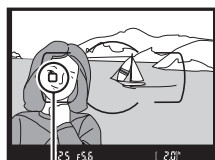
このカメラには、39点のフォーカスポイント（自動でピント合わせを行う領域）があります。フォーカスポイントを自分で選ぶことで、構図を自由に変えられます。

1 **[]**（オートエリアAF）以外のAFエリアモードを選ぶ（ 55）



2 ファインダーをのぞきながらマルチセクターの▲▼◀▶でフォーカスポイントを選ぶ

- 半押しタイマー作動中に▲▼◀▶を押すと、ファインダー内でフォーカスポイントが移動します。
-  ボタンを押すとフォーカスポイントは中央に移動します。
- 選んだフォーカスポイントは、インフォ画面でも確認できます。



フォーカスポイント



フォーカスロック撮影

ピントを合わせたい被写体がいずれのフォーカスポイントにも入らない場合や、オートフォーカスが苦手な被写体（ 54）を撮影する場合には、ピントを固定（フォーカスロック）して撮影すると効果的です。

フォーカスロックを行う前に、AFエリアモード（ 55）を []（オートエリアAF）以外に設定することをおすすめします。

1 ピントを合わせたい被写体にフォーカスポイントを重ね、シャッターボタンを半押しする

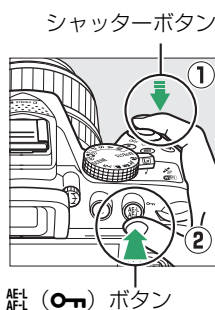
- ピントが合うと、ファインダー内のピント表示（●）が点灯します。



2 ピントを固定する

フォーカスモード (□53) が [AF-A] または [AF-C] のとき：

- シャッターボタンを半押ししたまま ①、**AE-L/AF-L** (●) ボタンを押すと ②、ピントが固定されます。**AE-L/AF-L** (●) ボタンを押している間は、シャッターボタンから指を放しても、ピントが固定されます（この状態をフォーカスロックといいます）。

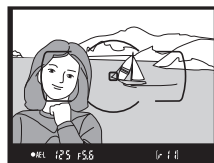


フォーカスモード (□53) が [AF-S] のとき：

- シャッターボタンを半押ししている間は、ピントが固定されます。**AE-L/AF-L** (●) ボタンでフォーカスロックを行うこともできます。

3 フォーカスロックを行ったままで構図を変え、シャッターボタンを全押しして撮影する

- 被写体との距離は変えないでください。フォーカスロック後に被写体との距離が変化した場合は、いったんフォーカスロックを解除し、ピントを合わせ直してください。



ピントを固定したまま繰り返し撮影したいときは

- シャッターボタンの半押しでフォーカスロックした場合は、シャッターをきった後、シャッターボタンを半押しの状態に戻し、そのままもう一度シャッターボタンを全押ししてください。
- AE-L/AF-L** (●) ボタンでフォーカスロックを行った場合は、**AE-L/AF-L** (●) ボタンを押したままもう一度シャッターボタンを全押ししてください。

AEロックについて

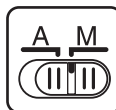
手順2で **AE-L/AF-L** (●) ボタンを押すと、ボタンを押している間、ピントと同時に露出も固定されます。これをAEロックといいます。AEロック撮影については、「AEロック撮影」 (□94) をご覧ください。

マニュアルフォーカスでピントを合わせる

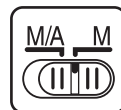
ピントを手動で合わせたいときや、オートフォーカスが使えない場合、オートフォーカスの苦手な被写体の場合には、マニュアルフォーカスでピントを合わせられます。

1 レンズ側のフォーカスモードをM（マニュアルフォーカス）にする

A-M切り換えスイッチ



フォーカスモード
切り換えスイッチ



2 ピントを合わせる

- レンズのフォーカスリングを回して、ファインダー内のメインの被写体をはっきり見えるようにピントを合わせます。



■■ フォーカスエイドによるピント合わせ

開放F値がF5.6以上明るいレンズ（絞りの最も小さい数値がF5.6以下のレンズ）を使ってマニュアルフォーカスで撮影するときは、ファインダー内のピント表示（●）でピントが合っているかどうかを確認できます。ピントが合っているかどうかの基準となるフォーカスポイントは39カ所から選べます。

- ピントが合うとピント表示（●）が表示されます（□4、21）。
- オートフォーカスの苦手な被写体（□54）では、ピントが合っていないでもピント表示（●）が点灯することがありますので、ファインダースクリーンの像でピントが合っていることを確認してください。



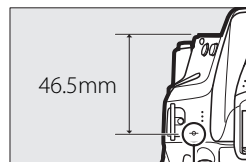
カメラ側での設定

M/A（マニュアル優先オートフォーカス）またはA/M（オート優先オートフォーカス）モード機能付きのレンズをお使いの場合は、フォーカスモード（53）で **[MF]**（マニュアルフォーカス）を選んでもマニュアルフォーカスになります。レンズ側のフォーカスモードを切り換える必要はありません。



距離基準マーク

距離基準マーク  は撮影距離の基準となるマークで、カメラ内の撮像面の位置を示します。レンズ取り付け面（レンズマウント）から撮像面までの寸法（フランジバック）は46.5mmです。



距離基準マーク

画質や画像のサイズを変更する

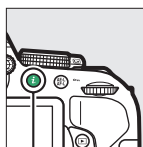
画質モードを設定する

画像を記録するときのファイル形式と画質を設定できます。

画質モード		ファイル形式	説明
RAW		NEF	撮像素子の生データ（RAW形式）を記録します。撮影時に設定したホワイトバランスやコントラストなどを、撮影後に変更できます。
FINE	高 ▲ 画質 ▼ 低	JPEG	画像データは約1/4に圧縮されます。
NORMAL			画像データは約1/8に圧縮されます。
BASIC			画像データは約1/16に圧縮されます。
RAW+FINE		NEF+JPEG	RAWとJPEG（FINE）の2種類の画像を同時に記録します。
RAW+NORMAL			RAWとJPEG（NORMAL）の2種類の画像を同時に記録します。
RAW+BASIC			RAWとJPEG（BASIC）の2種類の画像を同時に記録します。

1 「画質モード」を選ぶ

- **i** ボタンを押します。



i ボタン



インフォ画面

- マルチセレクターで「画質モード」を選んで
OK ボタンを押します。



2 設定したい画質モードを選ぶ

- OK ボタンを押して設定します。



「RAW」 についてのご注意

- 現像には画像編集メニューの **「RAW現像」** (□225)、または付属のソフトウェアViewNX 2や別売のCapture NX 2 (□252) を使います。
- 画質モードをRAWに設定すると **「画像サイズ」** (□63) は変更できません。
- RAWを含む画質モードに設定すると、次の機能は使用できません。
 - WBブラケティング (□112)
 - HDR (□100)
 - カスタムメニュー d6 **「データ写し込み設定」** (□199)

RAW画像とJPEG画像の同時記録について

- カメラでの再生時には、JPEG画像だけが表示されます。
- JPEG画像をカメラ上で削除すると、同時記録されたRAW画像も削除されます。

画像サイズを設定する

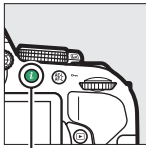
画像を記録するときのファイルサイズを設定できます。

画像サイズ		画像の大きさ	プリント時の大きさ※ (出力解像度300dpiの場合)
 サイズL	大 ↑ サイズ ↓ 小	6000×4000ピクセル	約50.8×33.9 cm
 サイズM		4496×3000ピクセル	約38.1×25.4 cm
 サイズS		2992×2000ピクセル	約25.3×16.9 cm

※ピクセル数÷出力解像度（dpi）×2.54 cmで計算しています。

1 「画像サイズ」を選ぶ

- **i** ボタンを押します。



i ボタン



インフォ画面

- マルチセレクターで「**画像サイズ**」を選んで**OK** ボタンを押します。



2 設定したい画像サイズを選ぶ

- **OK** ボタンを押して設定します。



内蔵フラッシュを使う

内蔵フラッシュを使うと、暗い場所や逆光下など、さまざまな場所での撮影を楽しむことができます。

内蔵フラッシュが自動的に上がる撮影モードの場合

撮影モード 、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、

設定できるフラッシュモード

内蔵フラッシュが自動的に上がる撮影モードで設定できるフラッシュモードは次の通りです。

フラッシュモード	撮影モード
 AUTO 通常発光オート（自動発光） ：暗いときや逆光のときに必要に応じて発光します。	AUTO、  、  、   、  、  、 
  AUTO 赤目軽減オート（自動発光） ：人物撮影に適しています。フラッシュが発光する前に、赤目軽減ランプが点灯して、人物の目が赤く写る「赤目現象」を軽減します。	AUTO、  、  、   、  、  、 
 発光禁止 ：内蔵フラッシュは発光しません。	AUTO、  、  、   、  、  、 
  AUTO SLOW 赤目軽減オート（自動発光）＋スローシャッター ：夜景や夕景をバックにした人物撮影などに適しています。赤目軽減発光に加え、背景をきれいに写すために、自動的にシャッタースピードを遅くする「スローシャッター」が行われます。	
 AUTO SLOW 通常発光オート（自動発光）＋スローシャッター ：通常発光に加え、背景をきれいに写すために、自動的にシャッタースピードを遅くする「スローシャッター」が行われます。	



フラッシュモードの設定について

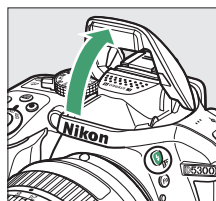
フラッシュモードは、インフォ画面でも設定できます（□7）。



内蔵フラッシュを手動で上げる撮影モードの場合

撮影モードP、S、A、M、 $\frac{1}{1}$ では、 ⚡ (BZ) ボタンを押して、手動で内蔵フラッシュを上げます。

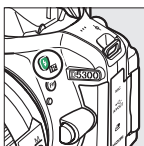
1 ⚡ (BZ) ボタンを押して、内蔵フラッシュを上げる



⚡ (BZ) ボタン

2 フラッシュモードを設定する

- ⚡ (BZ) ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、インフォ画面のフラッシュモード表示が変わります。
- $\frac{1}{1}$ の場合、フラッシュモードを設定する必要はありません。



⚡ (BZ)
ボタン



コマンド
ダイヤル



インフォ画面

3 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせてから撮影する

- 内蔵フラッシュを上げているときは、周囲の明るさなどにかかわらず、フラッシュは常に発光します。

設定できるフラッシュモード

内蔵フラッシュを手動で上げる撮影モードで設定できるフラッシュモードは次の通りです。

フラッシュモード	撮影モード
⚡ 通常発光 ：撮影のたびに内蔵フラッシュが発光します。	P、S、A、M、 
⚡👁️ 赤目軽減発光 ：人物撮影に適しています。フラッシュが発光する前に、赤目軽減ランプが点灯して、人物の目が赤く写る「赤目現象」を軽減します。	P、S、A、M
⚡👁️SLOW 赤目軽減発光+スローシャッター ：夜景や夕景をバックにした人物撮影などに適しています。赤目軽減発光に加え、背景をきれいに写すために、自動的にシャッタースピードを遅くする「スローシャッター」が行われます。	P、A
⚡SLOW 通常発光+スローシャッター ：通常発光に加え、背景をきれいに写すために、自動的にシャッタースピードを遅くする「スローシャッター」が行われます。	P、A
⚡SLOW REAR 後幕発光+スローシャッター ：動いている被写体の後方に流れる光や軌跡などを表現したい場合などに適しています。後幕発光に加え、背景をきれいに写すために、自動的にシャッタースピードを遅くする「スローシャッター」が行われます。	P、A
⚡REAR 後幕発光 ：通常発光時はシャッターが開くと同時にフラッシュが発光します（先幕発光）が、後幕発光ではシャッターが閉じる直前にフラッシュが発光します。 	S、M

-

、、、、、、、P、A	1/200～1/60秒
	1/200～1秒
S	1/200～30秒
M	1/200～30秒、Bulb、Time

-

ISO感度および絞り値								調光範囲（m）
100	200	400	800	1600	3200	6400	12800	
1.4	2	2.8	4	5.6	8	11	16	約1～8.5
2	2.8	4	5.6	8	11	16	22	約0.7～6.0
2.8	4	5.6	8	11	16	22	32	約0.6～4.2
4	5.6	8	11	16	22	32	—	約0.6～3.0
5.6	8	11	16	22	32	—	—	約0.6～2.1
8	11	16	22	32	—	—	—	約0.6～1.5
11	16	22	32	—	—	—	—	約0.6～1.1
16	22	32	—	—	—	—	—	約0.6～0.7

撮影機能を使いこなす 68

ISO感度を設定する

撮影時の周辺の明るさに応じて、光に対する感度（ISO感度）を変更できます。一般的に、ISO感度を高くするほど、より高速のシャッタースピードで撮影できます（同じ被写体を同じ絞り値で撮影する場合）。

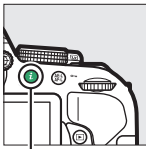
設定できるISO感度は、撮影モードによって異なります。

AUTO、 	AUTO
P、S、A、M	100～12800（1/3段ステップで設定できます）、Hi 0.3、Hi 0.7、Hi 1
その他の撮影モード	AUTO、100～12800（1/3段ステップで設定できます）、Hi 0.3、Hi 0.7、Hi 1

- [AUTO] ではカメラが自動的に ISO 感度を決めます。撮影メニュー [ISO 感度設定] の [感度自動制御] では、撮影モード **P**、**S**、**A**、**M** でも、ISO 感度を自動制御するように設定できます（□188）。
- [Hi 0.3] ～ [Hi 1]（ISO 16000～ISO 25600相当）で撮影した画像には、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が特に発生しやすくなります。

1 [ISO感度] を選ぶ

- **i** ボタンを押します。



i ボタン



インフォ画面

- マルチセレクターで [ISO感度] を選んで **OK** ボタンを押します。



2 設定したいISO感度を選ぶ

- **OK** ボタンを押して設定します。

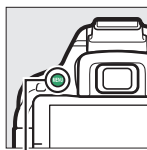


設定した間隔で撮影する（インターバルタイマー撮影）

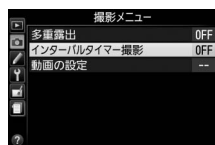
撮影間隔（インターバル）を設定し、1コマずつ自動的に撮影します。つぼみがゆっくりと開く様子や、蝶が羽化する様子などを記録したい場合などに便利です。

1 [インターバルタイマー撮影] を選ぶ

- MENU ボタンを押して、撮影メニューの[インターバルタイマー撮影]を選んでマルチセクターの▶を押します。



MENU ボタン



2 [開始トリガー]（開始方法）を設定する

- すぐに撮影する場合、[即時スタート]を選んで▶を押します（手順4へ）。
- 開始時刻を決めて撮影する場合、[開始時刻設定]を選んで▶を押します（手順3へ）。



3 [開始時刻] を設定する

- ◀または▶を押して時、分を選びます。▲または▼を押すと、数値が変わります。数値の設定後、▶を押して手順4の画面に進みます。



4 [撮影間隔]（インターバル）を設定する

- ◀または▶を押して時、分、秒を選びます。▲または▼を押すと、数値が変わります。数値の設定後、▶を押して手順5の画面に進みます。
- 撮影間隔は、シャッタースピードよりも長い時間を設定してください。



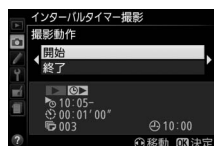
5 [撮影回数] を設定する

- ◀または▶を押して撮影回数を1ケタずつ選びます。▲または▼を押すと、数値が変わります。数値の設定後、▶を押して手順6の画面に進みます。



6 インターバルタイマー撮影を開始する

- [撮影動作] で [開始] を選んで  ボタンを押します。[開始トリガー] で [即時スタート] を選んだ場合は、約3秒後に撮影を開始します。[開始時刻設定] を選んだ場合は、設定した時刻に撮影を開始します。



- インターバルタイマー撮影中は、SDカードアクセスランプが一定間隔で点滅します。
- 設定した撮影回数分撮影すると、インターバルタイマー撮影を終了して、通常の撮影に戻ります。
- すぐに撮影を開始しない場合は、[終了] を選んで  ボタンを押すと、設定を保存して撮影メニューに戻ります。

✓ インターバルタイマー撮影を開始する前に

- 試し撮りをすることをおすすめします。
- あらかじめセットアップメニューの [地域と日時] (□□211) で日時が正確に設定されていることを確認してください。
- カメラを三脚で固定することをおすすめします。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、十分に充電されたバッテリーをお使いください。

✓ インターバルタイマー撮影についてのご注意

- [リリースモード] (□□47) が [📷] (静音撮影) の場合は、撮影時の動作音を抑えて撮影します。その他のリリースモードの場合は、[S] (1コマ撮影) の設定で撮影します。
- 実際のインターバルタイマー撮影には、インターバル時間の他、シャッタースピードやカメラが処理を行う時間が含まれます。撮影間隔が十分な長さに設定されていない場合は、設定した撮影間隔で撮影できず、その回の撮影がキャンセルされることがあります。
- 設定した [開始時刻] が現在時刻後1分以内の場合や、シャッタースピードがBulbやTimeの場合など、インターバルタイマー撮影を開始できないときには警告メッセージを表示します。
- インターバルタイマー撮影とオートブラケティング (□□112)、[多重露出] (□□102)、[HDR (ハイダイナミックレンジ)] (□□100) は併用できません。
- インターバルタイマー撮影中は、設定の変更はできません。
- 電源をOFFにするか撮影モードダイヤルを回すと、インターバルタイマー撮影を中止します。
- ファインダーから顔を離して撮影するときは、ファインダーからの光が適正露出や画像に影響を与えることを防ぐため、付属のアイピースキャップを取り付けることをおすすめします (□□51)。

📝 液晶モニターの開閉について

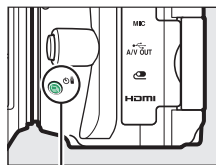
インターバルタイマー撮影中に液晶モニターを収納状態にしても、インターバルタイマー撮影は継続されます。

リモコン撮影する

別売のリモコンML-L3を使って撮影する

別売のリモコンML-L3（□253）を使って、カメラから離れた場所から静止画を撮影することができます。記念写真など撮影者自身も一緒に写りたいときや、シャッターボタンを押すときの手ブレを軽減したいときなどにお使いください。リモコン撮影時は、三脚などを使ってカメラを固定してください。

1 (📶/🔋) ボタンを押す



 (📶/🔋) ボタン

2 [📷 2s] (2秒リモコン (ML-L3)) または [📷] (瞬時リモコン (ML-L3)) を選ぶ

-  ボタンを押して設定します。



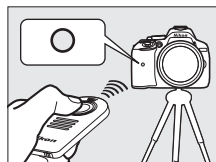
3 構図を決め、ピントを合わせる

- オートフォーカスで撮影する場合、撮影を開始する前にカメラのシャッターボタンを半押しして、ピント合わせを行ってください。



4 ML-L3の送信ボタンを押す

- 5m以内の距離から、ML-L3の送信部をカメラのリモコン受光部に向け、送信ボタンを押してください（リモコン受光部は、カメラ前面と背面の2カ所にあります（□1、2））。
- [📷 2s] (2秒リモコン (ML-L3)) の場合、セルフタイマーランプが約2秒間点灯してからシャッターがきれます。
- [📷] (瞬時リモコン (ML-L3)) の場合、すぐにシャッターがきれ、撮影後にセルフタイマーランプが一瞬点灯します。



リモコンの送信ボタンを押しても撮影できないときは

ピントが合っていないときなど、カメラのシャッターがきれない状態では撮影できないことがあります。

リモコン撮影について

- 別売のリモコンML-L3を初めてお使いになるときは、リモコンにはさんである透明の絶縁シートを引き抜いてください。
- ファインダーから顔を離して撮影するときは、ファインダーからの光が適正露出や画像に影響を与えることを防ぐため、付属のアイピースキャップを取り付けることをおすすめします（□□51）。
- レリーズモードが **[i 2s]（2秒リモコン（ML-L3））** または **[i]（瞬時リモコン（ML-L3））** のときに、カメラや別売のリモートコード、ワイヤレスリモートコントローラーのシャッターボタンを全押しすると、**[S]（1コマ撮影）** で撮影します。

リモコンモード設定（ML-L3）の解除について

次の場合、リモコンモードを解除します。

- 撮影を行わないまま、カスタムメニュー c4 **[リモコン待機時間（ML-L3）]**（□□195）で設定したリモコン待機時間が過ぎた場合
- カメラの電源をOFFにしたとき
- ツーボタンリセットを行った場合（□□74）
- **[撮影メニューのリセット]** を行った場合

リモコン撮影時のフラッシュについて

- 内蔵フラッシュが自動で上がる撮影モード（□□64）では、リモコンの受信待機状態になるとフラッシュの充電が始まり、充電完了後にML-L3の送信ボタンを押すと、必要に応じて内蔵フラッシュが自動的に上がり発光します。フラッシュの充電中にML-L3の送信ボタンを押しても、カメラは反応しません。しばらく待ってから送信ボタンを押してください。
- 内蔵フラッシュを手動で上げる撮影モード（□□66）でフラッシュを使って撮影したいときは、撮影を開始する前に （**[Fn]**）ボタンを押して内蔵フラッシュを上げ、ファインダー内の （フラッシュアイコン）が点灯するまでお待ちください（□□23）。ML-L3の送信ボタンを押した後にフラッシュを上げると、撮影は中止されます。

カスタムメニュー c4 [リモコン待機時間（ML-L3）]

カスタムメニュー c4 **[リモコン待機時間（ML-L3）]** では、リモコンの受信待機時間を変更できます（□□195）。

別売のワイヤレスリモートコントローラーを使って撮影する

別売のワイヤレスリモートコントローラー WR-R10、WR-T10、およびWR-1（□□253）を組み合わせると、無線での遠隔撮影を行えます。ワイヤレスリモートコントローラーのシャッターボタンは、カメラのシャッターボタンと同様に操作して撮影できます。詳しい操作方法については、ワイヤレスリモートコントローラーの使用説明書をご覧ください。

74

■ ■ その他の撮影関連の機能

レリーズモード (Ⓜ47)	
 、 	高速連続撮影
その他の撮影モード	1コマ撮影
フォーカスポイント (Ⓜ57)	中央
AE/AFロックボタンのホールド状態 (Ⓜ203)	
 、④以外の撮影モード	解除
プログラムシフト (Ⓜ87)	
P	解除
多重露出 (Ⓜ102)	
多重露出モード	
P、S、A、M	しない

スペシャルエフェクトモードの効果 (Ⓜ37)	
カラースケッチ (Ⓜ41)	
色の濃さ	0
線の濃さ	0
トイカメラ風 (Ⓜ42)	
色の濃さ	0
周辺減光	0
ミニチュア効果 (Ⓜ43)	
効果をかける方向	横方向
効果をかける幅	標準
セレクトカラー (Ⓜ45)	
抽出した色	リセット
色の感度	3

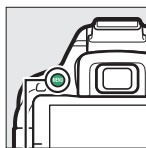
位置情報機能を使う

位置情報を記録しながら撮影する

カメラの位置情報機能を使って、現在の位置情報（緯度、経度、標高）と時刻（UTC（協定世界時））を取得します。取得した位置情報は、撮影する画像に記録できます。位置情報を取得するときは、空のひらけた屋外でカメラを操作してください。

1 [位置情報] を選ぶ

- MENU ボタンを押して、セットアップメニューの [位置情報] を選んでマルチセクターの ► を押します。

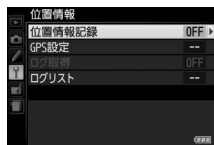


MENU ボタン



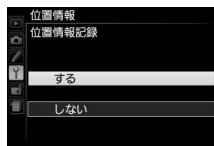
2 [位置情報記録] を選ぶ

- [位置情報記録] を選んで ► を押します。



3 [する] を選ぶ

- [する] を選んで OK ボタンを押すと、位置情報機能が有効になり、衛星から電波を受信して測位が始まります。



位置情報機能をお使いの前に

- 「位置情報機能について」(□□xvii) をお読みください。
- セットアップメニューの [地域と日時] (□□211) で日時が正しく設定されていることを確認してください。
- 操作中のバッテリー切れを防ぐため、十分に充電されたバッテリーをお使いください。

4 インフォ画面で衛星受信状態を確認する

- **Info** ボタンを押して、インフォ画面の衛星受信状態マークを確認します。

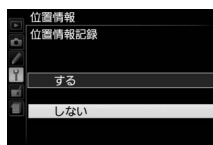


5 撮影する

- 衛星から受信した位置情報が画像に記録されます。
- 画像に記録した位置情報は、再生画面の情報表示 (□142) またはViewNX 2 (□80) で確認できます。

6 測位を終了する

- セットアップメニュー [位置情報] の [位置情報記録] を [しない] にすると、位置情報機能が無効になり、測位を終了します。



衛星受信状態マークについて

- 衛星受信状態マークは、[位置情報] 画面でも確認できます。
- 衛星受信状態マークの見方は次の通りです。
 -  (点灯) : 衛星から測位した緯度、経度、標高の情報が画像に記録されます。
 -  (点灯) : 衛星から測位した緯度、経度の情報が画像に記録されます。標高は記録されません。
 -  (点滅) : 測位できていません。画像に位置情報は記録されません。

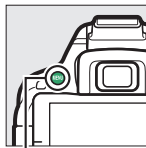


位置情報のログを取得する

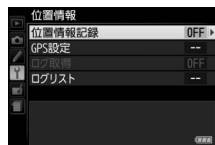
このカメラの位置情報機能を使うと、移動中の位置情報（緯度、経度、標高）と時刻（UTC（協定世界時））のログを取得できます。

1 [位置情報記録] を [する] に設定する

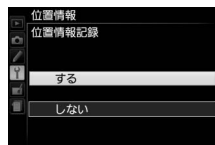
- MENU ボタンを押して、セットアップメニューの [位置情報] で [位置情報記録] を選んでマルチセクターの ► を押します。



MENU ボタン

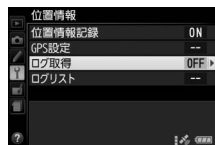


- [する] を選んで OK ボタンを押すと、位置情報機能が有効になります。



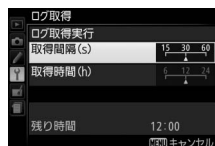
2 [ログ取得] を選ぶ

- [ログ取得] を選んで ► を押します。



3 ログの取得間隔と取得時間を設定する

- [取得間隔(s)] を選んで ◀ または ▶ を押して、ログを取得する間隔（単位：秒）を設定します。
- [取得時間(h)] を選んで ◀ または ▶ を押して、ログを取得し続ける最長時間（単位：時間）を設定します。

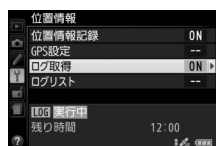


4 ログ取得を開始する

- [ログ取得実行] を選んで▶を押します。[実行開始] を選び、 ボタンを押すと、ログ取得を開始します。



- ログ取得中は、[位置情報] 画面に残り時間が表示されます。



- カメラの電源をOFFにしたり、半押しタイマーがオフになっても、ログを取得し続けます。電池残量に注意してください。

5 ログ取得を終了する

- 設定したログの取得時間が経過する前にログ取得を終了するには、セットアップメニュー [位置情報] → [ログ取得] → [ログ取得実行] で [終了] を選んで  ボタンを押します。



- 取得したログは、SD カードにログファイルとして保存されます。SDカードアクセスランプが点灯している間は、ログファイルの保存中です。SDカードやバッテリーを取り出さないでください。



ログ取得表示について

ログの取得中にはインフォ画面にログ取得表示が表示されます。



ログ取得を中断するには

[ログ取得] 画面で [一時停止] を選ぶと、ログ取得を中断します。[再開] を選ぶと、ログ取得を再開します。



ログを取得した日付の一覧を表示するには

セットアップメニュー【位置情報】の【ログリスト】では、ログを取得した日付の一覧が表示されます。複数のログを取得した日付の後ろには、取得したログの識別番号が表示されます。



ViewNX 2の【地図】機能について

付属のViewNX 2の【地図】機能（□162）を使うと、画像に記録した位置情報を地図上に表示したり、カメラで取得したログを使って地図上に移動ルートを表示できます。

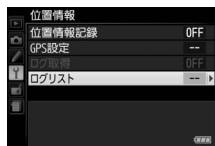
このカメラで取得したログについて

- ログはSDカードの「NIKON」フォルダー内にある「GNSS」フォルダーに保存され、Nyymmddx.log という名前が付けられます。yy にはログを取得した年の西暦下2桁が入り、mmには月が、ddには日が、xには0～9、A～Zの識別番号が入り、拡張子は「.log」になります（たとえば、2013年10月15日に最初に取得したログのファイル名は「N1310150.log」になります）。パソコンに装備されているカードスロットまたは市販のカードリーダーに、ログファイルの入ったSDカードを差し込み、Nikon Transfer 2でパソコンに転送してください。
- NMEAフォーマットに準拠しています。ただし、すべてのソフトウェアやカメラでの表示を保証するものではありません。

保存したログを削除する

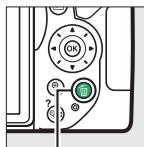
1 ログリストを表示する

- セットアップメニュー [位置情報] の [ログリスト] (□80) を選んで **OK** ボタンを押します。

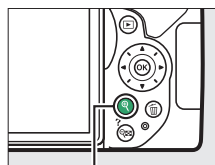
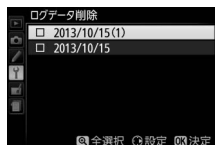


2 削除ボタンを押す

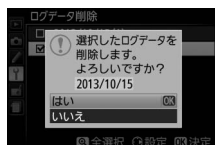
- [ログデータ削除] 画面が表示されます。
- 削除したいログを選び、マルチセレクターの **▶** を押してチェックボックスをオン ☒ にします。もう一度 **▶** を押すと、チェックボックスがオフ ☐ になります。**OK** ボタンを押すと、確認画面が表示されます。
- SDカード内の全てのログを一度に削除する場合、**Q** ボタンを押してから **OK** ボタンを押すと、確認画面が表示されます。
- **[はい]** を選んで **OK** ボタンを押すと、選んだログが削除されます。



▶ ボタン



Q ボタン



GPS設定

セットアップメニュー [位置情報] の [GPS設定] では、位置情報に関する設定を変更できます。

■半押しタイマー

有効	カメラを操作していないときは、カスタムメニュー c2 [パワーオフ時間] の [半押しタイマー] (□194) で設定された時間でオフになります。
	• カメラのバッテリーの消耗を少なくすることができます。 • 電源を ON にした直後または半押しタイマーがオンになった直後は、カメラが位置情報を取得できるまで半押しタイマーがさらに最大1分間延長されます。
無効	カメラの位置情報機能使用時と別売のGPSユニット使用時は、半押しタイマーがオフになりません。

■衛星による日時合わせ

する	位置情報機能を使って取得した日時の情報で、カメラの内蔵時計を合わせます。
しない	位置情報機能を使って日時を合わせません。

■A-GPSデータ更新

最新のA-GPS（アシストGPS）データを使うと、カメラの位置情報機能で位置情報を測位するまでの時間を短くできます。次の方法でA-GPSデータを更新します。

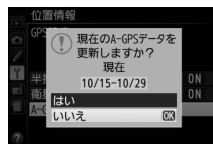
- 1 下記のホームページから最新の A-GPS ファイルをパソコンにダウンロードする
<http://nikonimglib.com/agps2/>
- 2 パソコンに装備されているカードスロットまたは市販のカードリーダーを使って、ダウンロードしたファイルをSDカードの「NIKON」フォルダーにコピーする
 - 「NIKON」フォルダーはSDカードのルートディレクトリ(一番上の階層)にあります。SDカード内に「NIKON」フォルダーがない場合は、フォルダーを新規作成してください。
- 3 A-GPSファイルを保存したSDカードをカメラに入れる
- 4 カメラの電源を入れる

5 [A-GPSデータ更新] でA-GPSデータを更新する

- セットアップメニュー [位置情報] の [GPS設定] で [A-GPSデータ更新] を選んでマルチセクターの▶を押します。
- [はい]を選んでOKボタンを押すと、SDカードに保存したA-GPSファイルで更新します。
- 更新終了まで約2分かかります。

✓ A-GPSデータ更新についてのご注意

- A-GPS ファイルの有効期限は約 2 週間です。有効期限切れの A-GPS ファイルを SD カードに入れて A-GPSデータを更新しようとすると、警告メッセージが表示されます。
- カメラ内のA-GPSデータの有効期限は、[A-GPSデータ更新] 画面で確認できます
- A-GPS データの有効期限が切れている場合は、位置情報の測位は早くなりません。A-GPS データは位置情報機能を使う前に更新することをおすすめします。



✓ 位置情報機能についてのご注意

- 初めて測位したときや、測位できない状態が長時間経過したとき、バッテリーの交換をしたときなど、測位情報を取得するまで時間がかかることがあります。
- 航法衛星の位置は常に変化しています。お使いになる場所や時間などによっては、測位に時間がかかったり、測位できないこともあります。
- 次のような電波を遮断、反射してしまう場所では、測位できなかったり、測位した位置が実際にいた場所と異なることがあります。
 - 建物の中や地下
 - 高層ビルの間
 - 高架の下
 - トンネルの中
 - 高圧電線などの近く
 - 密集した樹木の間
 - 入れ物の中（金属製のカバンなど）
- 携帯電話など、近くに同じ周波数帯の電波を発生するものや、磁気を発生するものがある場合は、測位できないことがあります。
- 航法衛星からの電波の誤差が大きい場合、最大で数百メートルの誤差を生じることがあります。
- 測位するときは、周りの状況や足元にご注意ください。
- 動画の場合は、動画撮影開始時に取得した情報を記録します。
- 画像ファイルに記録されている位置情報は、取得した位置情報の精度および測地系の違いなどによって、実際の撮影地点と異なる場合があります。
- カメラの電源をOFFにしても、位置情報機能は無効になりません。

ログ取得についてのご注意

- 日時が設定されていない場合やSDカードがカメラに入っていない場合は、ログ取得はできません。
- 操作中のバッテリー切れを防ぐため、充分に残量のあるバッテリーをお使いください。
- ログ取得時間内でも、次の場合にログ取得が終了します。
 - バッテリー残量がなくなったとき
 - バッテリーを取り外したとき
 - セットアップメニュー [位置情報] の [位置情報記録] を [しない] にしたとき
 - 別売のGPSユニットをカメラに接続したとき
- 位置情報の測位ができずに、ログの取得が途絶えている間は、ログは記録されません。

GPSユニットとの接続について

- 別売のGPSユニットをカメラに接続するには、カメラの電源をOFFにしてから、GPSユニットに付属のケーブルをアクセサリターミナルに接続します（□□252）。
- GPSユニットをカメラに接続すると、常にGPSユニットを使って位置情報を受信します。セットアップメニュー [位置情報] の [位置情報記録] の設定は無効になります。GPSユニット装着時は、ログの取得はできません。
- 別売のGPSユニットを使って位置情報を取得する場合も、セットアップメニュー [位置情報] → [GPS設定] の [半押しタイマー] と [衛星による日時合わせ] で設定した内容で動作します（□□82）。
- GPSユニットについての詳しい情報は、GPSユニットの使用説明書をご覧ください。

P、S、A、Mモードで撮影する

撮影モードP、S、A、Mを使う

撮影の意図に応じて、シャッタースピードと絞り値のそれぞれを自分で設定したり、カメラまかせにしたりすることができます。

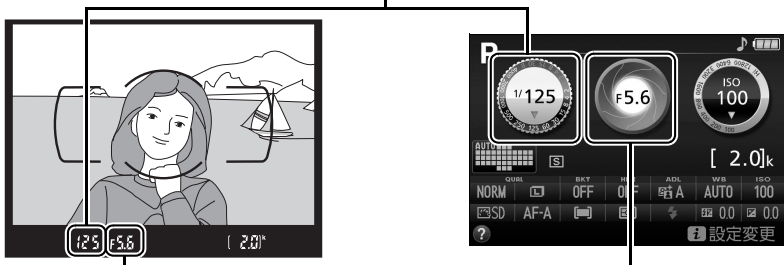


P	プログラムオート (☐87)	シャッターチャンス逃したくないスナップ撮影などに使います。シャッタースピードと絞り値の両方をカメラが自動制御します。
S	シャッター優先オート (☐88)	被写体の動きを強調して撮影したいときなどに使います。シャッタースピードを自分で設定し、絞り値はカメラが自動制御します。
A	絞り優先オート (☐89)	背景のぼかし方を調節して撮影したいときなどに使います。絞り値を自分で設定し、シャッタースピードはカメラが自動制御します。
M	マニュアル (☐90)	シャッタースピードと絞り値の両方を自分で設定します。長時間露出（バルブ、タイム）撮影も、このモードで行います。

📌 シャッタースピードと絞り値について

シャッタースピードと絞り値は、ファインダー内とインフォ画面に表示されます。

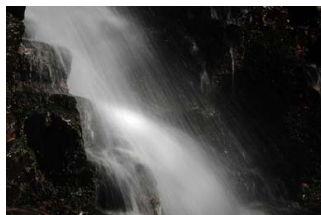
シャッタースピード



絞り値



動きの速い被写体を撮影したいときは、
速いシャッタースピードに設定する
(シャッタースピード：1/1600秒)



被写体の動きを強調したいときは、
遅いシャッタースピードに設定する
(シャッタースピード：1秒)



メインとなる被写体を浮き立たせたいときは、
絞りを開く
(絞り値：F5.6)

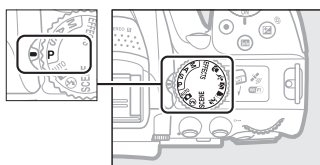


近くから遠くまでピントの合った写真を
撮影するには、絞りを絞りこむ
(絞り値：F22)

P: プログラムオート

シャッターチャンス逃したくないスナップなど幅広い撮影に適しています。被写体の明るさに応じて、露出が適正になるようにカメラがシャッタースピードと絞り値を自動的に決定します。「プログラムオート」にするには、撮影モードを**P**に合わせます。

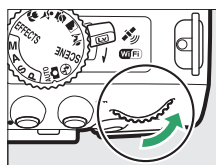
撮影モードダイヤル



プログラムシフトの操作方法

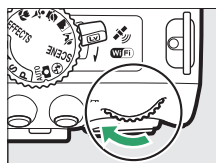
〔プログラムオート〕(P)では、カメラがシャッタースピードと絞り値を決めますが、「プログラムシフト」を行うと、適正露出のまま、シャッタースピードと絞り値の組み合わせを変えられます。

動きの速い被写体を撮影したいときや、背景をぼかしたいときは、コマンドダイヤルを右に回します（シャッタースピードが速くなり、絞りが開きます）。



コマンドダイヤル

被写体の動きを強調したいときや、近くから遠くまでピントの合った写真を撮影したいときは、コマンドダイヤルを左に回します（シャッタースピードが遅くなり、絞りが絞られます）。



- プログラムシフト中はファインダー内とインフォ画面にプログラムシフトマーク  (P) が点灯します。
- プログラムシフトを解除するには、プログラムシフトマーク  (P) が消灯するまでコマンドダイヤルを回します。電源をOFFにしたときや、他の撮影モードに切り換えたときも、プログラムシフトは解除されます。

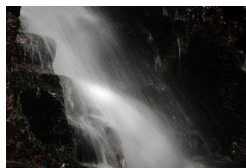


S：シャッター優先オート

動きを写し止めて撮影したいときや、被写体の動きを強調する撮影に適しています。シャッタースピードを自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的に絞り値を決定します。



速いシャッタースピードに
設定したとき
(シャッタースピード：1/1600秒)

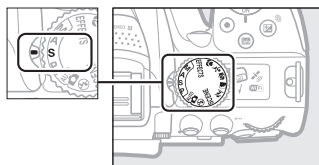


遅いシャッタースピードに
設定したとき
(シャッタースピード：1秒)

シャッタースピードは次の方法で設定します。

1 撮影モードダイヤルをSに合わせる

撮影モードダイヤル



2 シャッタースピードを設定する

- コマンドダイヤルを右に回すとシャッタースピードが速くなり、左に回すとシャッタースピードが遅くなります。



コマンド
ダイヤル



A：絞り優先オート

背景をぼかしてメインとなる被写体を浮き立たせたい場合や、近くから遠くまでピントの合った写真を撮影したい場合に適しています。絞り値を自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的にシャッタースピードを決定します。



絞りを開いたとき
(絞り値：F5.6)

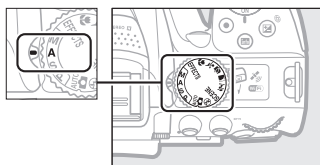


絞りを絞り込んだとき
(絞り値：F22)

絞り値は次の方法で設定します。

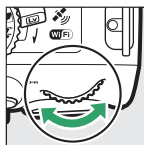
1 撮影モードダイヤルをAに合わせる

撮影モードダイヤル



2 絞り値を設定する

- コマンドダイヤルを左に回すと絞りが開き（絞り値が小さくなり）、右に回すと絞りが絞り込まれ（絞り値が大きくなり）ます。



コマンド
ダイヤル

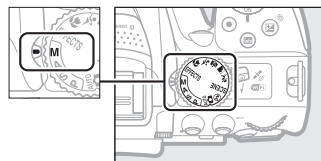


M：マニュアル

シャッタースピードと絞り値の両方を自分で決定します。花火や星空などを長時間露出（バルブ、タイム）撮影（□91）で撮影する場合にもこの撮影モードを使います。

1 撮影モードダイヤルをMに合わせる

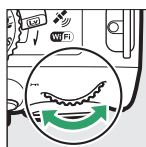
撮影モードダイヤル



2 露出インジケータ（下記参照）を確認しながら、シャッタースピードと絞り値を設定する

シャッタースピードの設定：

- コマンドダイヤルを右に回すとシャッタースピードが速くなり、左に回すとシャッタースピードが遅くなります。

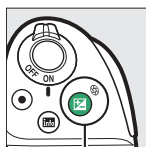


コマンド
ダイヤル

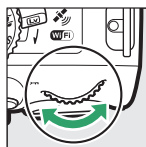


絞り値の設定：

-  (Ⓜ) ボタンを押しながらコマンドダイヤルを左に回すと絞りが開き（絞り値が小さくなり）、右に回すと絞りが絞り込まれ（絞り値が大きくなります）。



 (Ⓜ) ボタン



コマンド
ダイヤル



露出インジケータの見方

適正露出	1/3段アンダー	2段以上オーバー
		

- 長時間露出（バルブ、タイム）撮影時（□91）と非CPUレンズ使用時（□246）は、露出インジケータは表示されません。

長時間露出で撮影する（撮影モードMのみ）

長時間露出撮影には、バルブ撮影とタイム撮影の2種類があります。花火や夜景、星空の撮影や、自動車のライトの流れを表現したいときなどに使います。



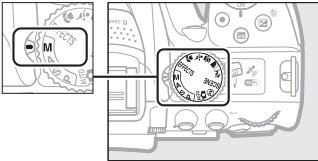
シャッタースピードを35秒、絞り値をF25にして撮影した場合の画像

バルブ撮影	シャッターボタンを押し続けている間シャッターが開いたままになり、シャッターボタンを放すとシャッターが閉じます。 リモコンML-L3（別売）の送信ボタンを押すと、シャッタースピードをBulbにしても、タイム撮影します。
タイム撮影	シャッターボタンを全押しするとシャッターが開いたままになり、もう一度押すとシャッターが閉じます。

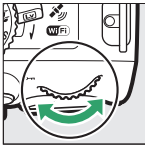
■バルブ撮影する

1 撮影モードダイヤルをMに合わせる

撮影モードダイヤル



2 コマンドダイヤルを回して、シャッタースピードをBulbに設定する



コマンドダイヤル



3 ピントを合わせて、撮影を開始する

- シャッターボタンを全押しして撮影を開始します。シャッターボタンは押し続けてください。

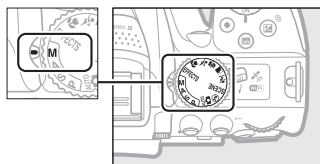
4 撮影を終了する

- シャッターボタンを放すと、撮影が終了します。

■ タイム撮影する

1 撮影モードダイヤルをMに合わせる

撮影モードダイヤル



2 コマンドダイヤルを左に回して、シャッター速度をTime（ファインダー内表示は- -）に設定する



コマンドダイヤル



3 ピントを合わせて、撮影を開始する

- シャッターボタンを全押しすると、シャッターが開き、撮影を開始します。

4 もう一度シャッターボタンを全押しして撮影を終了する

- シャッターが開いてからボタンを押さないまま30分経つと、シャッターが自動的に閉じて撮影を終了します。

別売のリモコンML-L3をお使いの場合

撮影前にレリーズモードをリモコンモード（**[1/2s]**（2秒リモコン（ML-L3））または**[1/6]**（瞬時リモコン（ML-L3））に設定してください（□72）。

長時間露出撮影を開始する前に

- 手ブレを抑えるために三脚や別売のリモコン、ワイヤレスリモートコントローラーまたは、リモートコードが必要です（□252、253）。ワイヤレスリモートコントローラーとリモートコードのシャッターボタンは、カメラのシャッターボタンと同様に機能します。
- 露光時間が長くなると、画像にノイズ（ざらつき、むら、輝点）が発生することがあります。このノイズは、あらかじめ撮影メニューの**「長秒時ノイズ低減」**（□187）を**「する」**にしておくことで低減できます。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、充分に充電されたバッテリーをお使いになることをおすすめします。
- 適正露出や画像に影響を与える接眼部からの逆入射光を防ぐため、シャッターボタンを押す前に付属のアイピースキャップを取り付けてください（□51）。

被写体の露出（明るさ）を設定する

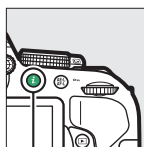
明るさを測る方法を設定する（測光モード）

適正な露出を得るためにカメラが被写体の明るさを測る方法（測光モード）を設定します。

 マルチパターン測光	ほとんどの撮影状況に対応できる測光モードです。画面の広い領域を測光して、被写体の輝度（明るさ）分布、色、距離や構図などさまざまな情報を瞬時に分析するため、見た目に近い画像が得られます。
 中央部重点測光	画面中央にメインの被写体を大きく配置して撮影する場合などに適しています。画面の中央部分を重点的に測光します。 露出倍数のかかるフィルターをお使いになるときは、中央部重点測光をおすすめします。
 スポット測光	逆光時や被写体の明暗差が激しいときなど、狭い範囲での露出を基準にして撮影したい場合に適しています。選んだフォーカスポイントに重なる部分だけを測光します。

1 「測光モード」を選ぶ

- **i** ボタンを押します。
- マルチセレクターで「測光モード」を選んで **OK** ボタンを押します。



i ボタン



インフォ画面



2 設定したい測光モードを選ぶ

- **OK** ボタンを押して設定します。



スポット測光について

測光エリアは、フォーカスポイントに連動します。ただし、ファインダー撮影時の「AFエリアモード」(□55)が[

AEロック撮影

AEロック撮影とは、被写体の特定の部分を測光して露出を決め、そのまま構図を変えて撮影する方法です。露出を合わせたい部分とその周囲とで、極端に明るさが異なる場合などに効果的です。測光モードは [□] (スポット測光) または [⊗] (中央部重点測光) に設定してください (□93)。撮影モード  と  では、AEロックできません。

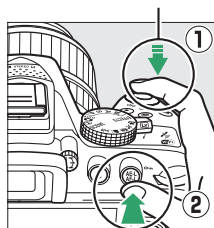
1 シャッターボタンを半押しする



2 露出を固定する

- シャッターボタンを半押ししたまま (①)、 (AE-L) ボタンを押すと (②)、露出が固定されます。 ボタンを押している間は、シャッターボタンから指を放しても、露出が固定されます (この状態をAEロックといいます)。

シャッターボタン

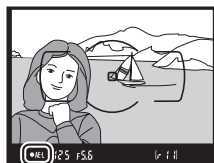


 (AE-L) ボタン

-  ボタンを押している間、ファインダー内にはAE-Lマークが点灯します。



3 AEロックを行ったままで構図を変え、シャッターボタンを全押しして撮影する



AEロック中のカメラ操作について

- AEロックしている間もコマンドダイヤルで次の操作ができます。

撮影モード	操作
P (プログラムオート)	プログラムシフト (□87)
S (シャッター優先オート)	シャッタースピードの変更
A (絞り優先オート)	絞り値の変更

- AEロック中は、測光モードは変更できません。

画像の明るさを調整する（露出補正）

露出補正とは、カメラが制御する適正露出値を意図的に変えることです。画像全体を明るくしたり、暗くしたいときなどに使います（□282）。露出補正を行うときは、測光モード（□93）を [⊙]（中央部重点測光）または [□]（スポット測光）にすると効果的です。



－1段補正



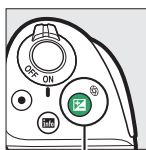
露出補正なし



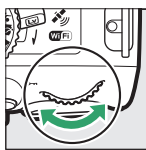
＋1段補正

露出補正值を変える

- [⊕/⊖] ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、ファインダー内とインフォ画面の露出補正値が変わります。
- 被写体を明るくしたいときは＋側に、暗くしたいときは－側に補正します。



[⊕/⊖] ボタン



コマンドダイヤル



インフォ画面



－0.3段補正



＋2段補正



露出補正の設定について

露出補正は、インフォ画面でも設定できます（□7）。



露出補正の解除について

露出補正を解除するには、補正値を0.0にしてください。カメラの電源をOFFにしても、補正値の設定は解除されません。

撮影モードMで露出補正をした場合

露出補正値を0.0以外に設定すると、露出インジケータの基準値が変わります。

撮影モードAで露出補正をした場合

撮影モードAでも露出補正ができます。Aで露出補正を行った場合、撮影モードを切り換えると、露出補正値の設定は解除されます。

フラッシュ使用時の露出補正

フラッシュ使用時に露出補正を行った場合は、背景露出とフラッシュの発光量の両方に補正が行われます。

オートブラケティング撮影

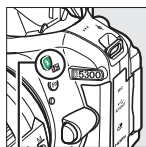
露出補正値を変えながら、明るさの異なる画像を続けて撮影できます (p112)。

フラッシュの発光量を調整する（フラッシュ調光補正）

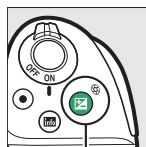
調光補正とは、フラッシュの発光量を意図的に変えることで、被写体の明るさを調整したいときなどに使います（□282）。発光量を多くしてメインの被写体をより明るく照らしたり、発光量を少なくしてメインの被写体に光が強く当たりすぎないようにできます。

調光補正値を変える

- ⚡（**FL**）ボタンと **FL**（**⊗**）ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、ファインダー内とインフォ画面の調光補正値が変わります。
- 被写体を明るくしたいときは+側に、暗くしたいときは-側に補正します。



⚡（**FL**）
ボタン



FL（**⊗**）
ボタン



コマンド
ダイヤル



インフォ画面



-0.3段補正



+1段補正

調光補正の設定について

調光補正は、インフォ画面でも設定できます（□7）。



調光補正の解除について

調光補正を解除するには、補正値を0.0にしてください。カメラの電源をOFFにしても、補正値の設定は解除されません。

別売スピードライト使用時の調光補正

- 別売のニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト（□247）使用時も、調光補正を行うことができます。
- カメラ側とスピードライト側で同時に調光補正を行う場合、両方の補正値を加算します。

白とびや黒つぶれを抑えて撮影する

アクティブD-ライティング

アクティブD-ライティングを使うと、暗い室内から外の風景を撮ったり、直射日光の強い海辺など明暗差の大きい景色を撮影するのに効果的です。ハイライト部（明るい部分）の白とびを抑え、シャドー部（暗い部分）の黒つぶれを軽減する効果があるため、目で見たコントラストに近い画像に仕上がります。アクティブD-ライティングを設定したときは、**M**以外の撮影モードで撮影するか、測光モードを **[☉]**（マルチパターン測光）に設定して撮影することをおすすめします（□93）。



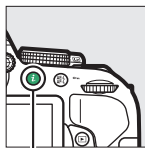
アクティブD-ライティング
[OFF しない]



アクティブD-ライティング
[暗A オート]

1 [アクティブD-ライティング] を選ぶ

- **i** ボタンを押します。



i ボタン



インフォ画面

- マルチセクターで [アクティブD-ライティング] を選んで **OK** ボタンを押します。



2 設定したいアクティブ D- ライティングの効果の度合いを選ぶ（□282）

- **OK** ボタンを押して設定します。



アクティブD-ライティングについてのご注意

- アクティブD-ライティングを設定して撮影をするとき、撮影シーンによっては、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が強調される場合があります。
- 被写体によっては画像に階調とびが発生する場合があります。
- ISO感度がHi 0.3以上の場合、アクティブD-ライティングは機能しません。

【アクティブD-ライティング】と画像編集メニュー【D-ライティング】の違い

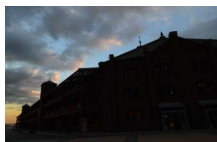
撮影前に**【アクティブD-ライティング】**を設定すると、撮影シーンに応じてハイライト部やシャドー部および中間調を適切に調整して画像を記録します。一方、**【D-ライティング】**は、撮影した画像に対してシャドー部を明るく補正します。

オートブラケティング撮影

アクティブD-ライティングを行わない画像と行う画像を2枚続けて撮影できます（□112）。

HDR（ハイダイナミックレンジ）合成を行う

1回の撮影で露出が異なる画像を2コマ撮影して合成することにより、輝度範囲の広いシーンでも白とびや黒つぶれの少ない画像を記録します。明暗差が著しい撮影シーンなどで、暗いところから明るいところまで幅広く再現された画像になります。HDR（ハイダイナミックレンジ）を設定したときは、測光モードを☒（マルチパターン測光）に設定して撮影することをおすすめします（□93）。



露出暗めで撮影した画像

+



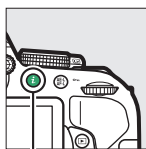
露出明るめで撮影した画像



HDRで合成された画像

1 [HDR（ハイダイナミックレンジ）] を選ぶ

- **i** ボタンを押します。



i ボタン



インフォ画面

- マルチセクターで [HDR（ハイダイナミックレンジ）] を選んで **OK** ボタンを押します。



2 HDRの効果の度合いを選ぶ

- [AUTO オート]、[HIGH より強め]、[HIGH 強め]、[NORM 標準]、[LOW 弱め]、[OFF しない] に設定できます。
- **OK** ボタンを押して設定します。
- [HDR（ハイダイナミックレンジ）] を [OFF しない] 以外に設定すると、ファインダー内に **Hdr** が表示されます。



3 構図を決め、ピントを合わせて撮影する

- シャッターボタンを全押しすると、2回連続してシャッターがきれます。
- 合成処理中は、ファインダー内に **Job Hdr** が点滅します。
この表示が消えるまで次の撮影はできません。
- 1回撮影すると、HDR撮影が解除されます。



✓ HDR撮影時のご注意

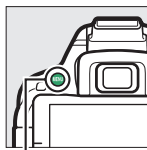
- RAWを含む画質モードの場合、HDR撮影はできません。
- 撮影した画像の周辺部は切り取られます。
- 動いている被写体を撮影する場合や撮影時の手ブレの量が多い場合は、正しく合成されないことがあります。
- 撮影シーンによっては、明るい被写体の周辺に暗い影がでたり、暗い被写体の周辺が明るくなったりします。また、HDRの効果が出にくい場合があります。
- 被写体によっては画像に階調とびが発生する場合があります。
- 内蔵フラッシュは発光しません。
- リリースモードを [L] (低速連続撮影) または [H] (高速連続撮影) に設定していても、連続撮影はできません。
- P、S、A、M以外の撮影モードに変更すると、HDR撮影は解除されます。

多重露出撮影をする

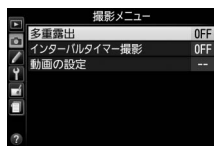
多重露出撮影では、2～3コマまで重ねて写し込み、1つの画像として記録します。通常のアプリケーションソフトウェアなどで後から画像を合成する場合と比べ、階調特性に優れた画像になります。

1 撮影メニューの【多重露出】を選ぶ

- MENU ボタンを押して、撮影メニューの【多重露出】を選んで、マルチセクターの▶を押します。

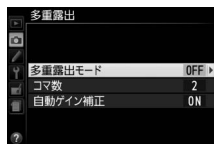


MENUボタン

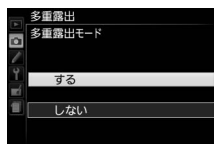


2 【多重露出モード】を設定する

- 【多重露出モード】を選んで▶を押します。

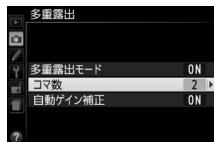


- 【する】を選んでOKボタンを押します。



3 【コマ数】（露光回数）を設定する

- 【コマ数】を選んで▶を押します。

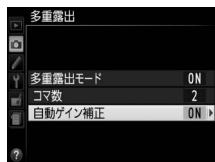


- ▲または▼を押して露光回数を設定し、OKボタンを押します。

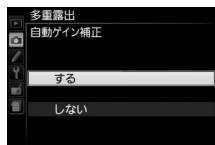


4 「自動ゲイン補正」を設定する

- 「自動ゲイン補正」を選んで▶を押します。



- 自動ゲイン補正を設定し、OKボタンを押します。



する	重ね合わせた画像の露出が適正になるように、露光回数に合わせて自動的にゲイン（出力）を補正します。 各コマのゲインは、「1 ÷ 露光回数」となります。たとえば、露光回数が「2コマ」の場合は1/2、「3コマ」の場合は1/3になります。
しない	ゲインを補正せず、全ての露光結果をそのまま重ね合わせます。背景が暗いときは、「しない」を選んでください。

5 1回目の撮影をする



6 2回目以降の撮影をする

- 設定した回数分の撮影をすると、多重露出撮影が解除されます。



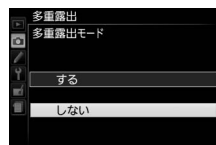
多重露出の表示について

「多重露出モード」を「する」に設定すると、インフォ画面にが点灯します。1回目の撮影を行った後、多重露出撮影が終了するまで、が点滅します。



■■ 多重露出撮影を中断するには

設定したコマ数分を撮影する前に多重露出撮影を中断するには、多重露出モードを「しない」に設定します。多重露出撮影を中断すると、その時点までの露光結果だけを重ね合わせた画像が記録されます（「自動ゲイン補正」を「する」にしていたときは、露光回数に合わせてゲイン補正が行われます）。



この他、次の場合も、多重露出は中断されます。

- ツーボタンリセット（□74）を行ったとき
- カメラの電源をOFFにしたとき
- バッテリーの残量がなくなったとき
- 多重露出中に撮影した画像を削除したとき
- P、S、A、M以外の撮影モードに変更したとき

撮影間隔が長くなる場合について

多重露出撮影中にカメラを操作しない状態が続いた場合、カスタムメニュー c2 「パワーオフ時間」の「半押しタイマー」（□194）で設定した時間に30秒を加えた時間が過ぎると、自動的に撮影を終了します（終了する前に撮影した画像は記録されます）。撮影間隔が長くなる場合は、「半押しタイマー」を長めに設定することをおすすめします。

多重露出撮影時のご注意

- 多重露出撮影中は、ライブビュー撮影ができません。
- レリーズモードを「」（低速連続撮影）または「」（高速連続撮影）に設定している場合でも、多重露出撮影が終了した時点で撮影はいったん停止します。
- 多重露出の撮影データ（撮影日時、測光モード、シャッタースピード、絞り値、撮影モード、露出補正值、焦点距離、縦横位置情報など）は、1コマ目の内容になります。

ホワイトバランスを合わせる

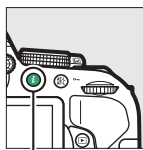
光源に合わせて、画像が見た目に近い色で撮影されるようにすることを「ホワイトバランスを合わせる」といいます。

通常は、初期設定の**AUTO**（オート）で撮影してください。撮影した画像の色味を変えたいときは、天候や光源に合わせてホワイトバランスを変更してください。

AUTO	オート	カメラが自動的にホワイトバランスを調節します。ほとんどの撮影状況に適しています。
	電球	白熱電球下での撮影に適しています。
	蛍光灯	蛍光灯などの光源（□106）を使った撮影に適しています。
	晴天	晴天の屋外での撮影に適しています。
	フラッシュ	フラッシュを使って撮影する場合に適しています。
	曇天	曇り空の屋外での撮影に適しています。
	晴天日陰	晴天の日陰での撮影に適しています。
PRE	プリセット マニュアル	撮影者が被写体や光源を基準にホワイトバランスを合わせたり、SDカード内の画像と同じホワイトバランスで撮影したりできます（□108）。

1 「ホワイトバランス」を選ぶ

- **i** ボタンを押します。



i ボタン



インフォ画面

- マルチセクターで「**ホワイトバランス**」を選んで**OK** ボタンを押します。



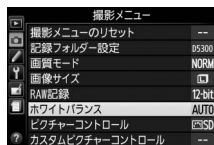
2 設定したいホワイトバランスを選ぶ

- **OK** ボタンを押して設定します。



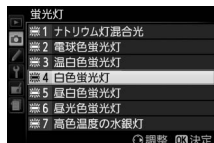
📌 撮影メニュー【ホワイトバランス】

ホワイトバランスは、メニュー操作でも設定できます（□184）。撮影メニューで【ホワイトバランス】を選ぶと、ホワイトバランスを微調整したり（□107）、ホワイトバランスを自分で取得する（□108）ことができます。



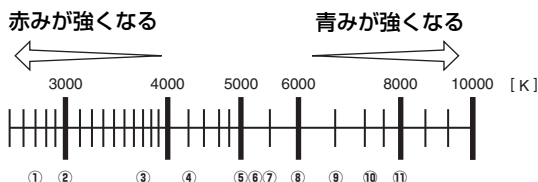
📌 蛍光灯の種類について

撮影メニュー（□184）の【ホワイトバランス】で【 蛍光灯】を選ぶと、細かく蛍光灯の種類を設定できます。



📌 色温度について

光の色には、赤みを帯びたものや青みを帯びたものがあり、人間の主観で光の色を表すと、見る人によって微妙に異なります。そこで、光の色を絶対温度（K：ケルビン）という客観的な数字で表したのが色温度です。色温度が低くなるほど赤みを帯びた光色になり、色温度が高くなるほど青みを帯びた光色になります。



- | | | |
|---|--|-------------------|
| ① | | ナトリウム灯混合光（約2700K） |
| ② | | 電球（約3000K） |
| | | 電球色蛍光灯（約3000K） |
| ③ | | 温白色蛍光灯（約3700K） |
| ④ | | 白色蛍光灯（約4200K） |
| ⑤ | | 昼白色蛍光灯（約5000K） |

- | | | |
|---|--|------------------|
| ⑥ | | 晴天（約5200K） |
| ⑦ | | フラッシュ（約5400K） |
| ⑧ | | 曇天（約6000K） |
| ⑨ | | 昼光色蛍光灯（約6500K） |
| ⑩ | | 高色温度の水銀灯（約7200K） |
| ⑪ | | 晴天日陰（約8000K） |

📌 オートブラケティング撮影

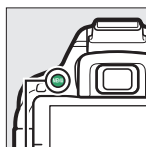
ホワイトバランスの設定を変えながら、色温度の異なる画像を一度に撮影できます（□112）。

ホワイトバランスを微調整する

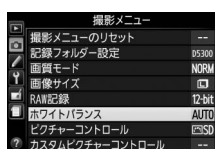
撮影メニューの「ホワイトバランス」では、選んだホワイトバランスをさらに微調整することができます。

1 設定したいホワイトバランスを選ぶ

- MENU ボタンを押して、撮影メニューの「ホワイトバランス」を選んでマルチセクターの▶を押します。



MENU ボタン



- 微調整したいホワイトバランスを選んで ▶ を押します。[⚡ 蛍光灯] の場合は、蛍光灯の種類を選んでから、▶を押します (□106)。



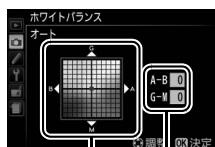
2 微調整値を設定する

- ▲▼◀▶を押して、座標上のカーソルを動かします。
- A (アンバー)、B (ブルー)、G (グリーン)、M (マゼンタ)の4方向で、各方向6段まで微調整できます。

グリーンが強くなる



マゼンタが強くなる



座標 設定段数

3 決定する

- OK ボタンを押して決定します。



✓ ホワイトバランスの微調整について

- [PRE プリセットマニュアル] の場合、微調整画面は表示されません。
- ホワイトバランスの微調整画面で表示されている色は、色温度方向の目安の色を表しています。微調整画面で設定しても、設定したそのままの色の画像にはならない場合があります。たとえば、ホワイトバランスを [⚡ 蛍光灯] に設定してB (ブルー) 方向に微調整しても、青色が強い画像にはなりません。

プリセットマニュアルを使う

特殊な照明の下で撮影するときなど、[AUTO]（オート）や[●]（電球）などの設定では望ましい結果が得られない場合や、SDカード内の画像と同じホワイトバランスで撮影したいときは、事前に取得したホワイトバランスを使うことができます。

プリセットマニュアルデータは次の方法で取得できます。

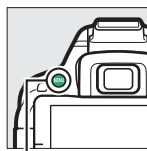
取得データ	カメラで取得したホワイトバランスを、プリセットマニュアルデータとして使います（下記参照）。
撮影データ	SDカード内の画像のホワイトバランスデータをプリセットマニュアルデータとして使います（□111）。撮影済みの画像と同じホワイトバランスで撮影できます。

■プリセットマニュアルデータをカメラで取得する

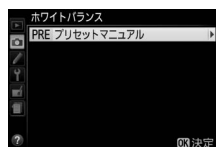
1 撮影時に使う照明と、無彩色（白またはグレー）の被写体を用意する

2 [PREプリセットマニュアル] を選ぶ

- MENUボタンを押して、撮影メニューの[ホワイトバランス]で[PREプリセットマニュアル]を選んでマルチセクターの▶を押します。

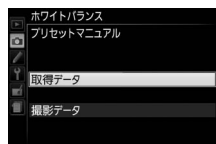


MENUボタン



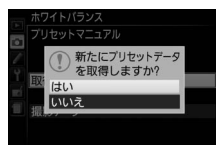
3 [取得データ] を選ぶ

- プリセットマニュアルの設定画面で[取得データ]を選んで▶を押します。

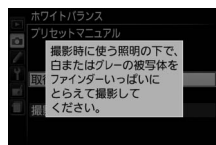


4 [はい] を選ぶ

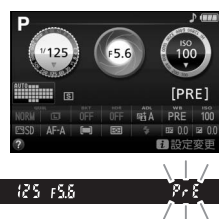
- [はい] を選んでOKボタンを押します。



- プリセットマニュアルデータ取得モードに入ります。



- インフォ画面とファインダー内でPRE (P-r-E) が点滅します。



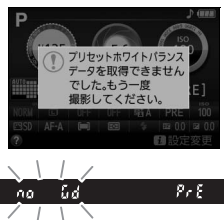
5 PRE (P-r-E) の点滅中に、撮影時に使う照明の下で、用意した無彩色（白またはグレー）の被写体をファインダーいっぱいにとらえて、シャッターボタンを全押しする



- ピントが合わなくてもシャッターがきれ、プリセットマニュアルデータが取得されます。
- シャッターボタンを押しても、SDカードに画像は記録されません。

6 正常にプリセットマニュアルデータが取得されたことを確認する

- データが取得されると、インフォ画面に「取得に成功しました」と表示されます。また、ファインダー内のシャッタースピード表示部に「C d」の文字が点滅します。
- 約8秒間点滅後、撮影できる状態に戻ります。点滅中にシャッターボタンを半押しすれば、すぐに撮影できます。
- インフォ画面に右のように表示された場合（ファインダー内のシャッタースピード表示部/絞り値表示部に「no C d」の文字が点滅表示された場合）、データ取得は失敗です。原因として、被写体が明るすぎる、または暗すぎることが考えられます。もう一度手順5からやり直してください。



✓ データ取得についてのご注意

- プリセットマニュアルデータとして保存できる〔取得データ〕は1つだけです。カメラでプリセットマニュアルデータを取得するたびに、以前保存した〔取得データ〕は、新しいデータに置き換えられます。
- ホワイトバランスを厳密に合わせたいときは、被写体をグレー（ホワイトバランス取得用の 18% 標準反射板）にしてプリセットマニュアルデータを取得してください。
- 無彩色（白またはグレー）の被写体を基準にプリセットマニュアルデータを取得するときは、カメラが露出を通常よりも1段オーバーになるように自動的に調整します。撮影モードが**M**の場合は、露出インジケーターを確認して、適正露出になるよう設定してください（□90）。

✓ プリセットマニュアル取得モードの時間制限について

プリセットマニュアル取得モードは、何も操作しないままカスタムメニュー c2〔パワーオフ時間〕（□194）の〔半押しタイマー〕で設定した時間（初期設定では8秒）が過ぎると解除されます。

✓ プリセットマニュアルデータのその他の取得方法

プリセットマニュアルデータは、メニュー操作で取得する他に次の方法で取得できます。

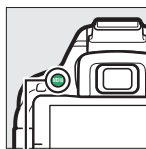
- □105 に記載されている方法で〔ホワイトバランス〕を〔PRE〕（プリセットマニュアル）にしてから、**OK** ボタンを押し続けると、プリセットマニュアル取得モード（□109）になります。
- カスタムメニュー f1〔Fnボタンの機能〕（□202）が〔ホワイトバランス設定〕になっているときに、〔ホワイトバランス〕を〔PRE〕（プリセットマニュアル）にしてから**Fn** ボタンを押し続けると、プリセットマニュアル取得モード（□109）になります。

■SDカード内の画像のホワイトバランスデータを使う

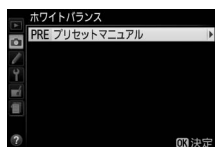
ホワイトバランスのプリセットマニュアルデータは、SDカード内にある撮影済み画像（撮影データ）からコピーすることもできます。

1 [PREプリセットマニュアル] を選ぶ

- MENU ボタンを押して、撮影メニューの [ホワイトバランス] で [PREプリセットマニュアル] を選んでマルチセクターの ► を押します。

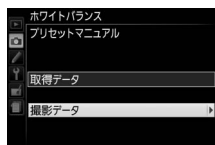


MENU ボタン



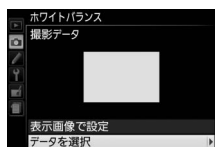
2 [撮影データ] を選ぶ

- プリセットマニュアルの設定画面で [撮影データ] を選んで ► を押します。



3 [データを選択] を選ぶ

- [データを選択] を選んで ► を押します。
- [表示画像で設定] を選ぶと、前回設定した表示中の画像のホワイトバランスデータがそのまま使えます。



4 使いたい画像が保存されているフォルダーを選ぶ

- 使いたい画像が保存されているフォルダーを選んで ► を押します。



5 ホワイトバランスデータをコピーしたい画像を選ぶ

- ▲▼◀▶ を押して、黄色い枠を移動して画像を選びます。
- 選んだ画像は、Q ボタンを押している間、拡大して確認できます。



6 ホワイトバランスデータをコピーする

- OK ボタンを押してデータをコピーします。



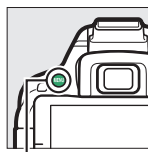
明るさ、ホワイトバランス、アクティブD-ライティングを変えながら撮影する (オートブラケティング撮影)

明るさ（露出）、ホワイトバランス、またはアクティブD-ライティングの設定をカメラが自動的に変えながら撮影します。画像の明るさの調整が難しい場合や複数の光源が混在していてホワイトバランスを決めにくい場合の撮影に効果的です。

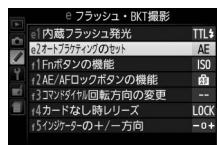
AE AE ブラケティング	露出値を変えながら合計3コマ撮影します。    補正なし 一側に補正 +側に補正
WB WB ブラケティング	1回の撮影でホワイトバランス（WB）を変えた画像を合計3コマ記録します。 RAWを含む画質モードの場合、WBブラケティングは使用できません。
 ADL ADL ブラケティング	アクティブD-ライティング（□98）を行わない画像とアクティブD-ライティングを行う画像を2コマ続けて撮影します。

1 オートブラケティングのセットを選ぶ

- MENUボタンを押して、カスタムメニュー e2
[オートブラケティングのセット] を選んでマルチセレクターの▶を押します。



MENUボタン

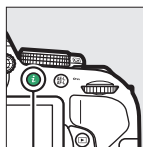


- オートブラケティングの種類を選び、OK ボタンを押して設定します。



2 [オートブラケティング] を選ぶ

- **i** ボタンを押します。



i ボタン



インフォ画面

- マルチセレクトで「オートブラケティング」を選んで **OK** ボタンを押します。



3 オートブラケティングの設定を変える

AEブラケティング撮影の場合：

- 補正ステップを **[AE0.3]** ～ **[AE2.0]** から設定します。設定した数値が大きいほど、撮影ごとに露出が変わる度合いが大きくなります。



WBブラケティング撮影の場合：

- 補正ステップを **[WB1]** ～ **[WB3]** から設定します。設定した数値が大きいほど、ホワイトバランスが変わる度合いが大きくなります。



ADLブラケティング撮影の場合：

- **[ADL]** を選んでください。



- **OK** ボタンを押して設定します。

4 構図を決めて撮影する



AEブラケット撮影の場合：

- 設定した補正ステップで「補正なし」→「－（マイナス）側に補正」→「＋（プラス）側に補正」の順に合計3コマ撮影します。
- シャッタースピードと絞り値は、補正された値が表示されます。

WBブラケット撮影の場合：

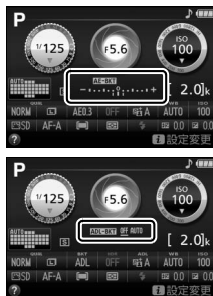
- シャッターボタンを1回全押しすると、設定した補正ステップで「補正なし」→「A方向（アンバーを強め）に補正」→「B方向（ブルーを強め）に補正」の順に撮影されます。

ADLブラケット撮影の場合：

- 「補正なし」→「補正あり」の順に合計2コマ撮影します。
- 「補正あり」は、[アクティブD-ライティング]（□98）で設定している効果の度合いになります。[アクティブD-ライティング]が[しない]のときは、[オート]の設定で撮影します。

ブラケット表示について

- AEブラケット撮影時には、撮影するたびに、インフォ画面のオートブラケットインジケータから、コマ数を示す表示が消えます（ $-1, 0, +1 \rightarrow -1, 0, +1$ ）。
- ADL ブラケット撮影時には、インフォ画面で次に撮影するアクティブD-ライティングの設定が下線表示されます。



オートブラケット撮影をやめるには

手順3（□113）の画面で [OFF] を選ぶと、オートブラケット撮影を解除します。

オートブラケットについて

- リリースモードを [L]（低速連続撮影）または [H]（高速連続撮影）に設定している場合でも、オートブラケット撮影が終了した時点で撮影はいったん停止します。
- 撮影中に電源をOFFにしても、再びONにすれば残りの撮影を再開できます。いったん電源をOFFにしてSDカードを交換したときも同様です。
- 撮影中にP、S、A、M以外の撮影モードに変更すると、オートブラケット撮影は終了します。
- AEブラケットに露出補正（□95）を組み合わせると、露出補正値を基準にしてオートブラケット撮影ができます。

AEブラケットिंग

AEブラケットングでは、撮影モードによって補正される内容（シャッタースピード/絞り値）が異なります。

撮影モード	操作
P （プログラムオート）	シャッタースピードと絞り値
S （シャッター優先オート）	絞り値
A （絞り優先オート）	シャッタースピード
M （マニュアル）	シャッタースピード

- 撮影メニュー **[ISO感度設定]** の **[感度自動制御]**（ 188）が **[する]** の場合、必要に応じてISO感度も変わることがあります。

画像の仕上がりを設定したり、思い通りに調整する（ピクチャーコントロール）

「ピクチャーコントロール（Picture Control）システム」とは、輪郭強調、コントラスト、明るさ、色の濃さ（彩度）、色合い（色相）などの画像調整の設定を、対応するカメラやソフトウェアで相互に利用できるニコン独自の画作りシステムです。

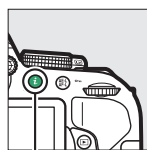
ピクチャーコントロールを選ぶ

被写体や撮影シーンに合わせて、次のピクチャーコントロールから選びます。

 SD スタンダード	ほとんどの撮影状況に適しています。鮮やかでバランスの取れた標準的な画像になります。
 NL ニュートラル	撮影した画像を積極的に調整、加工する場合に適しています。素材性を重視した自然な画像になります。
 VI ビビッド	青、赤、緑など、原色の色を強調したいときに適しています。メリハリのある生き生きとした色鮮やかな画像になります。
 MC モノクローム	白黒やセピアなど、単色の濃淡で表現した画像になります。
 PT ポートレート	人物の肌がなめらかで自然な画像になります。
 LS 風景	自然の風景や街並みが色鮮やかな画像になります。

1 「ピクチャーコントロール」を選ぶ

- **i** ボタンを押します。



i ボタン



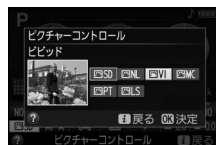
インフォ画面

- マルチセクターで「ピクチャーコントロール」を選んで **OK** ボタンを押します。



2 設定したいピクチャーコントロールを選ぶ

- **OK** ボタンを押して設定します。

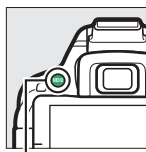


ピクチャーコントロールを調整する

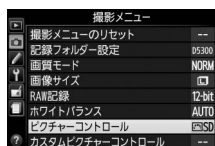
ピクチャーコントロールやカスタムピクチャーコントロール（□120）の設定は、撮影目的や好みに合わせて調整できます。輪郭強調、コントラスト、色の濃さ（彩度）をバランス良く自動的に調整できる「クイック調整」や各項目を手動で細かく調整する「手動調整」ができます。

1 調整したいピクチャーコントロールを選ぶ

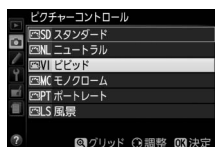
- **MENU** ボタンを押して、撮影メニューの「ピクチャーコントロール」を選んでマルチセクターの▶を押します。



MENUボタン

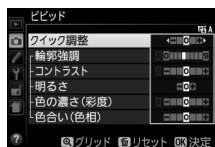


- 調整したいピクチャーコントロールを選んで ▶ を押します。



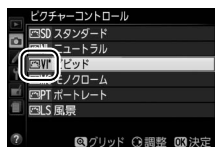
2 ピクチャーコントロールを調整する

- ▲または▼で調整する項目（□118）を選んで、◀または▶で値を設定します。
- 「クイック調整」を選ぶと、各項目のレベルを自動的に調整します（□118）。
- 戻るボタンを押すと初期設定の内容に戻せます。



3 決定する

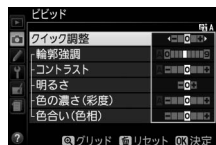
- **OK** ボタンを押して決定します。
- ピクチャーコントロールを調整すると、アイコンにアスタリスク（*）が表示されます。



カスタムピクチャーコントロールについて

撮影メニューで「カスタムピクチャーコントロール」を選ぶと、調整したピクチャーコントロールに名前を付けて登録したり（□120）、SDカードを使って、登録したピクチャーコントロールに対応するカメラやソフトウェアと共用する（□122）ことができます。

■■ ピクチャーコントロール調整時の設定項目



クイック調整※1		輪郭強調、コントラスト、色の濃さ（彩度）のレベルを自動的に調整します。
手動調整	輪郭強調	輪郭の強弱を調整できます。[A]（オート）を選ばと、自動で調整します。
	コントラスト	画像のコントラストを調整できます。[A]（オート）を選ばと、自動で調整します。
	明るさ	白とびや黒つぶれを抑えながら画像の明るさを調整します。
	色の濃さ（彩度）※2	画像の彩度（色の鮮やかさ）を調整できます。[A]（オート）を選ばと、自動で調整します。
	色合い（色相）※2	画像の色合いを調整できます。
	フィルター効果※3	白黒写真用カラーフィルターを使って撮影したときのような効果が得られます（□119）。
	調色※3	印画紙を調色したときのように、画像全体の色調を調整できます（□119）。

※1 [ニュートラル] と [モノクローム] はクイック調整できません。カスタムピクチャーコントロール（□120）の場合も、クイック調整できません。

手動調整した後にクイック調整を行うと、手動調整で設定した値は無効になります。

※2 [モノクローム] や [モノクローム] を元にしたカスタムピクチャーコントロールのときは、表示されません。

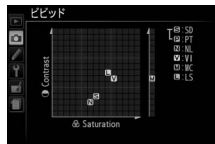
※3 [モノクローム] や [モノクローム] を元にしたカスタムピクチャーコントロールのときのみ表示されます。

✓【輪郭強調】、【コントラスト】、【色の濃さ(彩度)】の【A】(オート)についてのご注意

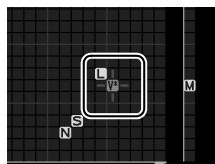
同じような状況で撮影しても、被写体の位置や大きさ、露出によって、仕上がりが具合は変化します。

📎 ピクチャーコントロール調整時のグリッド表示

- ピクチャーコントロール調整中に🔍ボタンを押している間、調整しているピクチャーコントロールのコントラストと彩度が座標で表示されます。
- 【モノクローム】の場合、彩度のグリッド表示は表示されません。

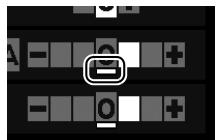


- 【コントラスト】または【色の濃さ(彩度)】に【A】(オート)が設定されたピクチャーコントロールは、グリッド表示時にアイコンが緑色になり、各軸に平行な上下または左右の線が表示されます。



📎 ピクチャーコントロール調整時のアンダーバーについて

ピクチャーコントロール調整中に各項目に表示されるアンダーバーは、調整する前の値を示しています。



📎 【モノクローム】の【フィルター効果】について

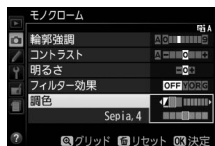
【フィルター効果】には、次のような効果があります。

Y (黄※)	コントラストを強調する効果があり、風景撮影で空の明るさを抑えたい場合などに使います。【Y】→【O】→【R】の順にコントラストが強くなります。
O (オレンジ※)	
R (赤※)	
G (緑※)	肌の色や唇などを落ち着いた感じに仕上げます。ポートレート撮影などに使います。

※市販の白黒写真用カラーフィルターの色です。【フィルター効果】で得られる効果は、市販の白黒写真用カラーフィルターよりも強くなります。

📎 【モノクローム】の【調色】について

- 調色は【B&W】、【Sepia】、【Cyanotype】、【Red】、【Yellow】、【Green】、【Blue Green】、【Blue】、【Purple Blue】、【Red Purple】から選べます。
- 【調色】の項目（【B&W】以外）を選んでマルチセクターの▼を押すと、さらに色の濃淡を選べます。◀または▶を押して選んでください。



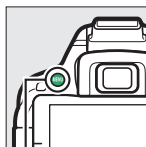
カスタムピクチャーコントロールを登録する

カメラに搭載された「ピクチャーコントロール」は、好みに合わせて調整して、「カスタムピクチャーコントロール」として登録できます。

■ カスタムピクチャーコントロールの登録方法

1 [カスタムピクチャーコントロール] を選ぶ

- MENU ボタンを押して、撮影メニューの [カスタムピクチャーコントロール] を選び、マルチセレクトターの ► を押します。

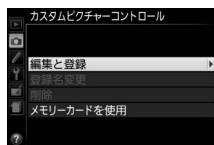


MENU ボタン



2 [編集と登録] を選ぶ

- [編集と登録] を選んで ► を押します。



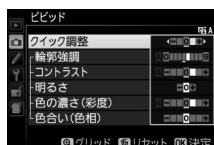
3 元にするピクチャーコントロールを選ぶ

- ピクチャーコントロールを選んで ► を押します。
- 調整を行わない場合は OK ボタンを押します (手順5へ)。



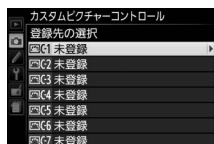
4 ピクチャーコントロールを調整する

- 「ピクチャーコントロールを調整する」(□117) に記載されている方法でピクチャーコントロールを調整してから OK ボタンを押します。
- 左ボタンを押すと調整前の内容に戻ります。



5 登録先を選ぶ

- C-1～9 (カスタム1～9) の中から登録先を選んで ► を押します。



カスタム1～9で調整できる項目について

カスタム1～9を選んだ場合は、元になったピクチャーコントロールと同じ項目が調整できます。

6 登録名を編集する

- 初期状態では、「(元になったピクチャーコントロール名)-XX」が名前エリアに入力されています。XXには自動的に数値が設定されます。登録名を変更しない場合は、手順7へ進みます。
- ピクチャーコントロールの登録名は19文字まで入力できます。
- 名前エリアに新しい文字を入力する場合は、マルチセクターを操作して入力するキーボードエリアの文字上にカーソルを移動させ、**OK** ボタンを押します。
- 名前エリアのカーソルを左右に移動する場合は、コマンドダイヤルを回します。
- 名前エリアからあふれた文字は削除されます。
- 登録名を1文字削除するには、コマンドダイヤルを回して削除する文字の上にカーソルを移動させ、**削除** ボタンを押します。

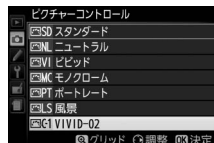


キーボード
エリア

名前エリア

7 登録名の編集を終了する

- OK** ボタンを押します。
- 登録したピクチャーコントロールは、ピクチャーコントロールの一覧画面 (P.117) に表示されます。



登録名変更について

「カスタムピクチャーコントロール」で「登録名変更」を選ぶと、登録したカスタムピクチャーコントロールの登録名を変更できます。

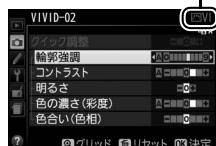
登録したピクチャーコントロールを削除するには

「カスタムピクチャーコントロール」で「削除」を選ぶと、登録したピクチャーコントロールを削除できます。

元になったピクチャーコントロールの表示について

カスタムピクチャーコントロールの調整画面では、元になった二コンピクチャーコントロールがアイコンで表示されます。

元になった
二コンピクチャー
コントロール

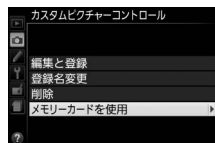


SDカードを使ってピクチャーコントロール を対応ソフトウェアと共有する

付属のViewNX 2 や別売のCapture NX 2 のピクチャーコントロールユーティリティ（Picture Control Utility）で作成したカスタムピクチャーコントロールを、SDカードからカメラに読み込んで登録したり、カメラで作成したカスタムピクチャーコントロールをSDカードにコピーすることができます。また、SDカード内の不要なピクチャーコントロールを削除することもできます。

1 【カスタムピクチャーコントロール】画面で 【メモリーカードを使用】を選ぶ

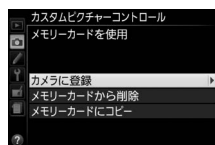
- 【メモリーカードを使用】を選んでマルチセクターの▶を押します。



2 【カメラに登録】、【メモリーカードから削除】 または【メモリーカードにコピー】を選ぶ

【カメラに登録】：

- SD カードにあるピクチャーコントロールをカメラに登録できます。カメラに登録したいピクチャーコントロールと登録先（C-1～9（カスタム1～9））を選んで名前を付けると、選んだピクチャーコントロールがカメラに登録されます。



【メモリーカードから削除】：

- SDカードにあるピクチャーコントロールを選んで削除できます。

【メモリーカードにコピー】：

- SDカードにコピーしたいピクチャーコントロールとコピー先（1～99）を選んでOKボタンを押すと、選んだピクチャーコントロールがSDカードにコピーされます。

SDカードへのコピー /SDカードからの削除について

- カメラに搭載されているピクチャーコントロールは、コピーや削除ができません。
- SDカードに保存できるピクチャーコントロールは、99個までです。

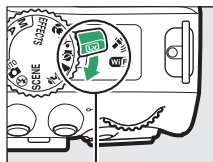
ライブビュー撮影

(液晶モニターを見ながら撮影する)

ライブビュー撮影する

1 ライブビュースイッチを回す

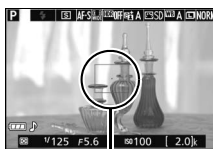
- 液晶モニターに被写体が表示されます。



ライブビュースイッチ

2 フォกัสポイントを被写体に重ねる

- フォーカスポイントの形状は[AFエリアモード]によって異なります (□126)。



フォーカスポイント

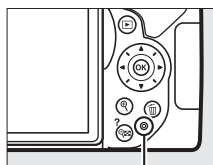
3 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせる

- 半押し時のフォーカスポイントは、オートフォーカス作動中は緑色で点滅し、ピントが合うと緑色で点灯します。ピントが合わないとき赤色で点滅します。
- ☺と④以外の撮影モードでは、 (AF-ON) ボタンを押し続けている間、露出を固定 (AE ロック) できます。



4 シャッターボタンを全押しして撮影する

- 撮影時は液晶モニターが消灯します。
- SDカードアクセスランプが点灯している間は、画像を記録しています。SDカードやバッテリーを取り出さないでください。
- 撮影後は、撮影した画像が液晶モニターに数秒間表示されます。
- ライブビューを終了する場合は、ライブビュースイッチを回します。



SDカード
アクセスランプ

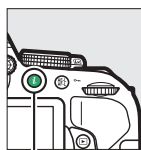
ライブビュー撮影時のピントの合わせ方を選ぶ (フォーカスモード)

AF-S シングルAFサーボ	静止している被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。
AF-F 常時AFサーボ※	動いている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しするまで、カメラは被写体の動きに合わせてピントを合わせ続けます。半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。
MF マニュアルフォーカス	手でピントを合わせます (□131)。

※ 撮影モードが 、、 のときは、選べません。

1 「フォーカスモード」を選ぶ

- ライブビュー表示中に **i** ボタンを押します。



i ボタン



- マルチセクターで「フォーカスモード」を選んで **OK** ボタンを押します。



2 設定したいフォーカスモードを選ぶ

- OK** ボタンを押して決定します。



ライブビュー撮影時のフォーカスポイントの選び方を決める（AFエリアモード）

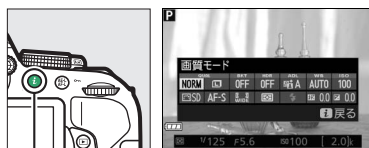
ライブビュー撮影時に、ピントを合わせるフォーカスポイントをカメラがどのように選ぶかを設定します。撮影モードが AF 、 AF-S 、 AF-C の場合は設定できません。

 顔認識AF	記念写真など、人物の顔にピントを合わせたい場合に適しています。
 ワイドエリアAF	風景などを手持ちで撮影する場合に適しています。フォーカスポイントは任意の位置に移動できます。
 ノーマルエリアAF	画面の任意の位置にピンポイントでピントを合わせたい場合に適しています。三脚の使用をおすすめします。
 ターゲット追尾AF※	指定した被写体に追尾させてフォーカスポイントを動かしたい場合に適しています。

※ 撮影モードが AF 、 AF-S 、 AF-C 、 AF-L のときは、選べません。

1 「AFエリアモード」を選ぶ

- ライブビュー表示中に i ボタンを押します。



i ボタン

- マルチセクターで「AFエリアモード」を選んで OK ボタンを押します。



2 設定したいAFエリアモードを選ぶ

- OK ボタンを押して決定します。



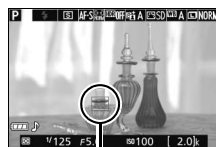
3 フォกัสポイントを被写体に重ねる

- [AFエリアモード] が [顔認識AF] (□125) の場合は、カメラが人物の顔を自動的に認識し、フォーカスポイントが黄色の二重枠に変わります。複数の顔を認識した場合（最大35人まで）は、カメラが最も近いと判断した人物の顔を二重枠で表示します。このとき、マルチセレクターの▲▼◀▶を押して二重枠を移動して、他の顔を選ぶこともできます。途中で顔が後ろを向くなどしてカメラが顔を認識できなくなると、枠が消えます。



フォーカスポイント

- [ワイドエリア AF] または [ノーマルエリア AF] (□125) の場合は、▲▼◀▶を押してフォーカスポイントをピントを合わせる被写体の位置に移動させます。OKボタンを押すと、フォーカスポイントは中央に移動します。



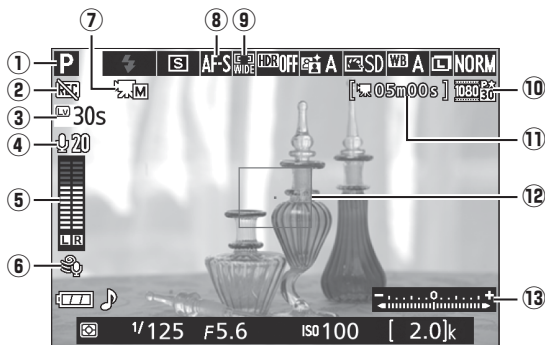
フォーカスポイント

- [ターゲット追尾 AF] (□125) の場合は、フォーカスポイントを被写体に重ねてOKボタンを押すと、被写体の追尾を開始し、被写体の動きに合わせてフォーカスポイントが移動します。もう一度OKボタンを押すと、追尾を終了します。



フォーカスポイント

■ ライブビュー撮影中の情報表示（説明のため、全ての表示を点灯させています）

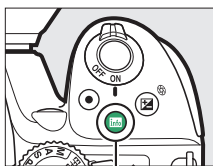


① 撮影モード	撮影モードダイヤルで選択中の撮影モードを表示します。	☞19、30、37、85
② 動画記録禁止マーク	動画が撮影できない状態のときに表示します。	—
③ ライブビュー残り時間	ライブビューが自動的に終了する30秒前から、ライブビュー残り時間のカウントダウンを表示します。	☞129
④ マイク感度設定	動画撮影時のマイク感度を表示します。	☞135
⑤ 音声レベルインジケータ	音声を記録するときの音量レベルを表示します。インジケータの色が赤で表示される場合、音量が大きすぎることを示しています。マイク感度を調節してください。	☞135
⑥ 風切り音低減	撮影メニュー「動画の設定」の「風切り音低減」が「する」の場合に表示します。	☞135
⑦ 動画のマニュアル設定	撮影モードがMで、撮影メニュー「動画の設定」の「動画のマニュアル設定」が「する」のときに表示されます。	☞136
⑧ フォーカスモード	ライブビュー撮影時のフォーカスモードを表示します。	☞124
⑨ AFエリアモード	ライブビュー撮影時のAFエリアモードを表示します。	☞125
⑩ 動画の画像サイズ	動画を記録するときの画像サイズを表示します。	☞135
⑪ 動画記録残り時間	動画撮影時に、SDカードに記録できる残り時間を表示します。	☞132
⑫ フォーカスポイント	枠内の被写体にピントが合います。フォーカスポイントの形状は、選んだAFエリアモード（☞125）により異なります。	☞126
⑬ 露出インジケータ	自分で設定した露出値と、カメラが測光した露出値との差が表示されます（撮影モードがMの場合のみ）。	☞90

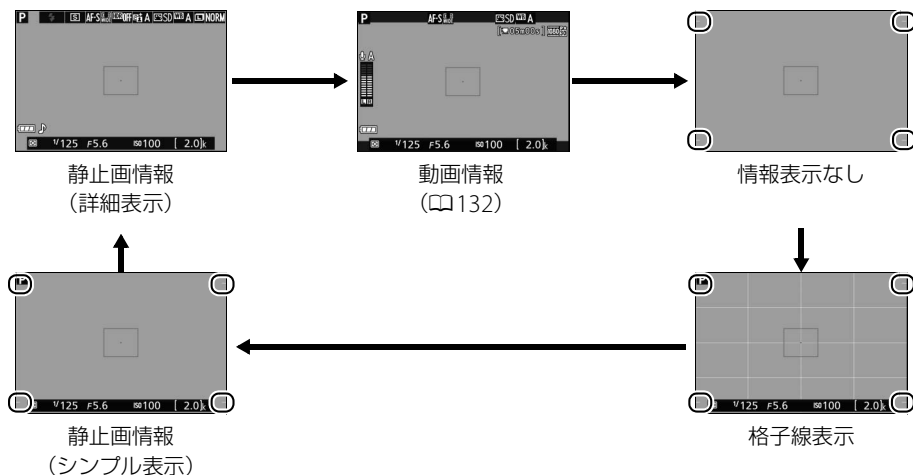
🔗 ライブビュー表示中の情報表示について

ライブビュー表示中に **Info** ボタンを押すたびに、次のように画面の表示が切り替わります。

- 「情報表示なし」、「格子線表示」、「静止画情報（シンプル表示）」時は、動画が記録される範囲を示すガイドが表示されます。「動画情報」時には、記録されない部分が薄暗く表示されます。撮影メニュー「動画の設定」の「**画像サイズ/フレームレート**」で、解像度が 640 × 424 ピクセルの場合（□135）、ガイドは表示されません。



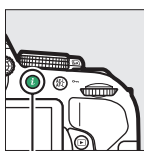
Info ボタン



🔗 静止画撮影に関する設定の変更について

ライブビュー表示中に **i** ボタンを押すと、次の静止画撮影に関する設定を変更できます（情報表示が「動画情報」の場合は、動画撮影に関する設定を変更できます（□133））。

- 画質モード（□61）
- 画像サイズ（□63）
- オートブラケティング（□113）
- HDR（ハイダイナミックレンジ）（□100）
- アクティブD-ライティング（□98）
- ホワイトバランス（□105）
- ISO感度（□69）
- ピクチャーコントロール（□116）
- フォーカスモード（□124）
- AFエリアモード（□125）
- 測光モード（□93）
- フラッシュモード（□65、67）
- フラッシュ調光補正（□97）
- 露出補正（□95）



i ボタン



インフォ画面

HDMI接続時の撮影について

- HDMI対応機器との接続時には、接続した機器とカメラのモニターに被写体が表示されます。
- HDMI-CEC対応機器との接続時にライブビュー撮影を行うには、セットアップメニューの[HDMI]の[機器制御]を[しない]に設定してください(□173)。

ライブビュー撮影時のご注意

- ライブビュー表示中は、液晶モニターの表示に次のような現象が発生することがありますが、実際に記録される画像に影響はありません。
 - 電車や自動車など、高速で画面を横切る被写体が歪んで表示される
 - カメラを左右に動かした場合、画面全体が歪んで見える
 - カメラを動かした場合、照明などの明るい部分に残像が発生する
 - 輝点が発生する
- 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、ライブビュー表示中に画面にちらつきや横縞が生じる「フリッカー現象」は、セットアップメニューの[フリッカー低減](□210)で低減できますが、設定しているシャッタースピードによっては、撮影した静止画に記録されることがあります。
- 液晶モニターを閉じると(テレビやハイビジョンテレビなどの外部モニターでの表示中は除く)、ライブビュー撮影を終了します。
- 長時間ライブビューで撮影すると、カメラ内部の温度が上昇することがあるため、ノイズ(ざらつき、むら、輝点)が発生する場合があります。撮影時以外は、ライブビューを終了してください。
- 次のような場合は、高温によるカメラへの損傷を抑えるために、ライブビューの開始を制限したり自動的に終了したりすることがあります。
 - 撮影時の気温が高い場合
 - ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行った場合
 - 連続撮影を行った直後など

カメラが熱くなってライブビューを開始できない場合は、カメラ内部の温度が下がるまでライブビューを一時休止してください。このとき、カメラボディー表面が熱くなることがありますが故障ではありません。

- ライブビュー表示中は、太陽など強い光源にカメラを向けないでください。内部の部品が破損するおそれがあります。

ライブビュー撮影時の露出について

- ファインダー撮影時とライブビュー撮影時では、シーンによっては、露出が異なる場合があります。ライブビュー撮影時は、ライブビュー表示に適した測光を行うため、液晶モニターに表示された明るさに近い露出で撮影されます。
- 露出補正を行った場合、画面で露出を確認できるのは±3段の範囲に限られます。
- 適正露出や画像に影響を与える接眼部からの逆入射光を防ぐため、シャッターボタンを押す前に付属のアイピースキャップを取り付けてください(□51)。

ライブビュー残り時間のカウントダウンについて

自動的にライブビューを終了する30秒前から、液晶モニターの左上にカウントダウンを表示します(□127)。

- カスタムメニュー c2 [パワーオフ時間] (□194) の設定により終了する場合は、終了30秒前から黒字で表示し、終了5秒前から赤字で表示します。
- カメラ内部の温度上昇により終了する場合は、終了30秒前から赤字で表示します。撮影条件によっては、ライブビュー開始後すぐにカウントダウンが始まる場合があります。

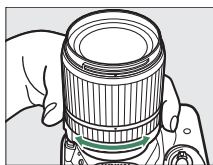
ライブビュー撮影時のオートフォーカスについてのご注意

- ライブビュー撮影時のオートフォーカスは、通常のオートフォーカスよりピント合わせに時間がかかります。また、次の被写体はピントが合わない場合がありますので、ご注意ください。
 - 画面の長辺側と平行な線の被写体
 - 明暗差の少ない被写体
 - フォーカスポイント内の被写体の輝度が著しく異なる場合
 - イルミネーション、夜景などの点光源や、ネオンなど明るさが変化する被写体
 - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画面にちらつきや横縞が見える場合
 - クロスフィルターなど、特殊なフィルターを使用した場合
 - フォーカスポイントに対して被写体が小さい場合
 - 連続した繰り返しパターンの被写体（ビルの窓やブラインドなど）
 - 動く被写体
- [ターゲット追尾AF] で次のような被写体を撮影する場合は、追尾動作が正常に行われなかったことがありますので、ご注意ください。
 - 色、明るさが背景と似ている場合
 - 大きさ、色、明るさが著しく変わる場合
 - 大きすぎる/小さすぎる/明るすぎる/暗すぎる場合
 - 動きが速すぎる場合
 - 隠れたり、画面から外れた場合
- オートフォーカス作動中は、画面の明るさが変わることがあります。
- フォーカスポイントが緑色に点滅しているとき（オートフォーカス作動中）は、シャッターはきれません。ただし、赤色に点滅しているとき（ピントがあっていないとカメラが判断したとき）でもシャッターはきれます。
- ピントが合わなくてもピント表示（緑枠）が点灯する場合があります。

マニュアルフォーカスで撮影するときのピント合わせについて

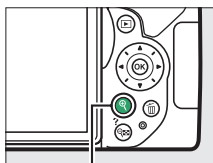
マニュアルフォーカス（□59）で撮影するときは、次の方法で被写体にピントを合わせます。

- レンズのフォーカスリングを回して、被写体にピントを合わせます。



-  ボタンを押すと、被写体が拡大表示され、ピントの状態を細部まで確認できます（最大約8.3倍）。

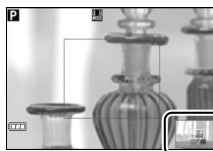
-  ボタンを押すごとに拡大率が上がり、 (?) ボタンを押すごとに拡大率が下がります。



 ボタン

- 拡大表示中は、画面の右下に構図のどの部分を拡大しているかを表すナビゲーションウィンドウ（グレーの枠）が表示されます。

- ライブビュー/動画撮影時の【AFエリアモード】が【ワイドエリアAF】または【ノーマルエリアAF】の場合、拡大表示中にマルチセクターの▲▼◀▶で画面をスクロールさせて見たい部分に移動できます。



ナビゲーション
ウィンドウ

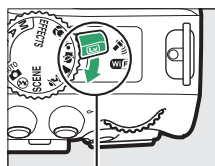
動画の撮影と再生

動画を撮影する

ライブビューにすると、動画を撮影できます。

1 ライブビュースイッチを回す

- 液晶モニターに被写体が表示されます。



ライブビュースイッチ

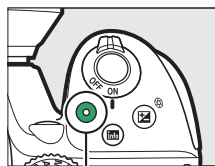
2 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせる

- 動画撮影を開始する前に、「ライブビュー撮影する」の手順 2～3 (□123) と同じ手順で被写体にピントを合わせます (ピントの合わせ方については、□124～126をご覧ください)。



3 動画撮影ボタンを押して、撮影を始める

- ㉞と㉟以外の撮影モードでは、㉞ (ON) ボタンを押しながら、露出を固定 (AEロック) できます (□94)。
- 撮影モードP、S、A、Mの場合、M (AE-L/AF-L) ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、1/3段ステップで±3段の範囲で露出補正ができます (□95)。
- 録画中は録画中マークが液晶モニターに表示されます。SDカードに記録できる残り時間の目安も液晶モニターで確認できます。



動画撮影ボタン

録画中マーク



残り時間

4 もう一度動画撮影ボタンを押して、撮影を終了する

別売ステレオマイクロホンについて

別売ステレオマイクロホンを外部マイク入力端子に接続すると、動画撮影中にオートフォーカスでピント合わせをしたときに生じるレンズの振動ノイズが録音されるのを低減できます。

動画撮影中の静止画撮影について

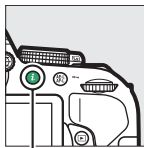
動画撮影中にシャッターがきれるまでシャッターボタンを全押しすると、動画撮影を終了して静止画撮影し、ライブビュー表示に戻ります。

動画記録範囲について

ライブビュー表示中に動画が記録される範囲を示すガイドを表示するには、 ボタンを押して情報表示を「動画情報」、「情報表示なし」、「格子線表示」、または「静止画情報（シンプル表示）」に切り換えます（□128）。ただし、撮影メニュー「動画の設定」の「画像サイズ/フレームレート」で、解像度が640×424ピクセルの場合（□135）は、ガイドは表示されません。

動画撮影に関する設定の変更について

ライブビュー表示中に ボタンを押して情報表示を「動画情報」に切り換えてから **i** ボタンを押すと、次の動画撮影に関する設定を変更できます。



i ボタン



インフォ画面

- 動画のサイズ/画質（□135）
- 録音設定（□135）
- ホワイトバランス（□105）
- ISO感度（□69）
- ピクチャーコントロール（□116）
- フォーカスモード（□124）
- AFエリアモード（□125）
- 露出補正（□95）

動画撮影について

- 使用しているSDカードの書き込み速度によっては、最長記録時間に満たないで撮影が自動的に終了する場合があります（□254）。
- 動画撮影時は、[AFエリアモード] が[顔認識AF] の場合に認識できる人数が少なくなります。
- 動画撮影時は、内蔵フラッシュと別売のスピードライト（□247）は発光しません。
- （動画記録禁止）マーク（□127）が表示されているときは、動画撮影できません。
- 1つの動画ファイルで記録可能な最大ファイルサイズは4GBです。
- 動画撮影時の測光モードは[☉]（マルチパターン測光）に固定され、カメラがシャッタースピードやISO感度を決めます（「動画のマニュアル設定」が[する] のときに撮影モードをMにすると、自分で設定したシャッタースピードとISO感度で動画撮影できます（□136））。
- 撮影モードがAまたはMの場合は、ライブビューを開始する前に絞り値を設定します（□89、90）。
- 被写体の明るさによっては、露出補正の効果が反映されないことがあります。

AV機器（HDMI対応機器含む）との接続時の撮影について

- HDMI対応機器との接続時には、接続した機器とカメラのモニターに被写体が表示されます。
- HDMI-CEC対応機器との接続時にライブビュー撮影を行うには、セットアップメニューの[HDMI]の[機器制御]を[しない]に設定してください（□173）。

ライブビュー残り時間のカウントダウンについて

- 自動的に動画撮影を終了する30秒前から、液晶モニターの左上にカウントダウンを表示します（□127）。
- 撮影条件によっては、動画撮影を開始後すぐにカウントダウンが始まる場合があります。
- 動画記録中にカウントダウンが始まった場合は、液晶モニターの右上に表示されている動画残り記録時間にかかわらず、ライブビュー残り時間のカウントダウン時間で動画撮影を自動的に終了します。

動画撮影時のご注意

- 動画撮影中の液晶モニターの表示に、次のような現象が発生する場合があります。これらの現象は撮影した動画にも記録されます。
 - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画面にちらつきや横縞が発生する（□210）
 - 電車や自動車など、高速で画面を横切る被写体が歪む
 - カメラを左右に動かした場合、画面全体が歪む
 - カメラを動かした場合、照明などの明るい部分に残像が発生する
 - ジャギー、偽色、モアレ、輝点が発生する
 - 周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光された場合、画面の一部が明るくなったり、明るい横帯が発生する
- 次のような場合は、動画撮影は自動的に終了します。
 - 最長記録時間に達した場合（□135）
 - SDカードの残量がなくなった場合
 - 撮影モードダイヤルを回した場合
 - 液晶モニターを閉じた場合（テレビやハイビジョンテレビなどの外部モニターでの表示中は除く）
- 長時間ライブビューで撮影すると、カメラ内部の温度が上昇することがあるため、ノイズ（ざらつき、むら、輝点）が発生する場合があります。撮影時以外は、ライブビューを終了してください。
- 次のような場合は、高温によるカメラへの損傷を抑えるために、カメラは自動的に動画撮影を終了することがあります。
 - 撮影時の気温が高い場合
 - ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行った場合
 - 連続撮影を行った直後などカメラが熱くなってライブビューまたは動画撮影を開始できない場合は、カメラ内部の温度が下がるまでライブビューおよび動画撮影を一時休止してください。このとき、カメラボディー表面が熱くなることがありますが故障ではありません。
- 動画撮影時、太陽など強い光源にカメラを向けないでください。内部の部品が破損するおそれがあります。
- マイク（□1）を指などでふさがないようにしてください。音声記録できない場合があります。
- 次の場合は、レンズの動作音が録音されることがあります。
 - オートフォーカス作動中
 - VRレンズ使用時にVR（手ブレ補正）をONにした場合

動画の設定

■ 画像サイズ/フレームレート、動画の画質

「画像サイズ/フレームレート」では、動画を記録するときの画像サイズ（ピクセル）/フレームレートを設定します。「動画の画質」では、動画の画質を高画質と標準から選べます。

	画像サイズ/フレームレート		最長記録時間 （「動画の画質」※3の設定： ★高画質/標準）※4
	解像度（ピクセル）	フレームレート※1,2	
	1920×1080	60p	10分/20分
	1920×1080	50p	
	1920×1080	30p	
	1920×1080	25p	20分/ 29分59秒
	1920×1080	24p	
	1280×720	60p	
	1280×720	50p	
	640×424	30p	29分59秒/ 29分59秒
	640×424	25p	

- ※1 60p:59.94コマ/秒(fps)、50p:50コマ/秒、30p:29.97コマ/秒、25p:25コマ/秒、24p:23.976コマ/秒
- ※2 60p/30pは、セットアップメニューの「ビデオ出力」(□213)が「NTSC」の場合に選べます。50p/25pは、「ビデオ出力」が「PAL」の場合に選べます。
- ※3 「動画の画質」が高画質の場合は、アイコンに★が表示されます。
- ※4 の場合、最長記録時間は3分です。

■ 録音設定

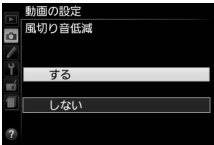
内蔵マイクまたは別売のステレオマイクロホン（□253）の感度の程度を設定します。

マイク感度 オート	カメラが自動的にマイク感度を調整します。
マイク感度 マニュアル	マイク感度を手動調整します。[1] ～ [20] の調整ができます。数字が大きいほど感度が高く、小さいほど低くなります。
録音しない	音声は記録しません。

■ 風切り音低減

「する」を選ぶと、ローカットフィルター機能により、内蔵マイクに吹き付ける風の音を抑えて記録できます。ただし、風切り音以外の音も聞こえにくくなる場合があります。

- 別売のステレオマイクロホン（□253）をお使いの場合は、カメラ側で「風切り音低減」で「する」を選んでいても風切り音は低減されません。



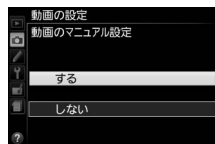
■動画のマニュアル設定（撮影モードMのみ）

[する] を選ぶと、撮影モードが**M**の場合に、動画撮影時のシャッタースピードとISO感度を変更できます。

- シャッタースピードおよびISO感度は、動画のフレームレート（□135）によって次の範囲に制限されます。ライブビュー開始前の数値が次の範囲でない場合、ライブビュー開始後に自動的に次の範囲内に設定が変更されます。変更後の数値は、ライブビューを終了しても保持されます。

フレームレート	シャッタースピード	ISO感度
24p、25p、30p	1/4000～1/30秒	100～12800、Hi 0.3～Hi 1
50p	1/4000～1/50秒	
60p	1/4000～1/60秒	

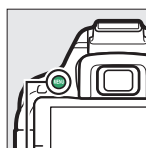
- 撮影メニューの[ISO感度設定]で[感度自動制御]（□188）を[する]に設定しても、自動制御は動作しません。



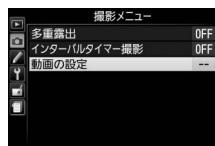
■動画の設定を変更する

1 [動画の設定] を選ぶ

- MENUボタンを押して、撮影メニューの[動画の設定]を選んでマルチセクターの▶を押します。



MENUボタン



2 動画の設定項目を選ぶ

- 動画の設定項目を選んで▶を押します。



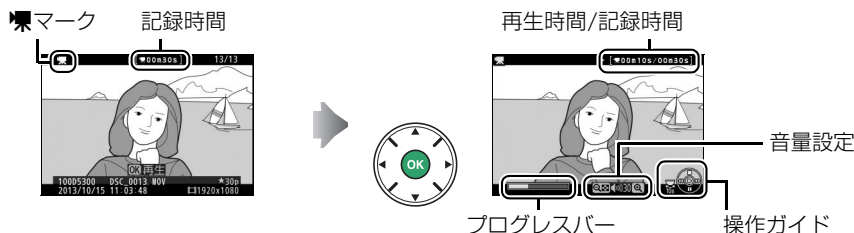
3 設定したい内容を選ぶ

- OKボタンを押して設定します。



動画を再生する

1コマ表示モード (□141) で **●**マークが表示されている画像が動画です。Ⓚボタンを押して動画を再生します (プログレスバーで再生中の位置の目安を確認できます)。



■ 動画再生時の操作方法

一時停止する		マルチセクターの▼を押すと、一時停止します。
再生を再開する		一時停止中または早送り/巻き戻し中にⓀボタンを押すと、動画再生を再開します。
巻き戻しする/ 早送りする		- 再生中に◀を押すと巻き戻し、▶を押すと早送りします。同じ方向のボタンを押すごとに、巻き戻し/早送りの速度が2倍、4倍、8倍、16倍に切り替わります。 ◀を押し続けると、最初のコマに移動し、▶を押し続けると、最後のコマに移動します。 - 先頭フレームには⏮アイコンが、最終フレームには⏭アイコンが、画面右上に表示されます。
コマ戻しする/ コマ送りする		- 一時停止中に◀または▶を押すと、コマ戻し/コマ送りします。 ◀または▶を押し続けると連続でコマ戻し/コマ送りします。
10秒進める/ 10秒戻す		コマンドダイヤルを回すと、10秒前または後ろに移動します。
音量を調節する		🔊ボタンを押すと音量が大きくなり、🔇(?)ボタンを押すと小さくなります。
再生を終了する		▲または▶ボタンを押すと、1コマ表示モードに戻ります。

動画の編集

撮影した動画を編集できます。

 始点/終点の設定	動画の前半、後半、または前後両端を切り取って、選択した範囲だけを残します。
 選択フレームの保存	選択した1フレームを切り出して、JPEG画像として保存します。

動画の必要な部分を残す

1 1コマ表示モード（ 141）で編集したい動画を表示する

2 切り取りたい位置で動画を一時停止する

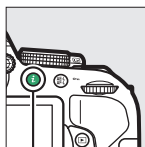
- **OK** ボタンを押すと、動画が再生されます。再生中にマルチセクターの **▼** を押すと、一時停止します。



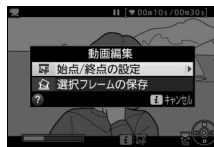
プログレスバー

3 [始点/終点の設定] を選ぶ

- **i** ボタンを押して、[始点/終点の設定] を選んで **▶** を押します。

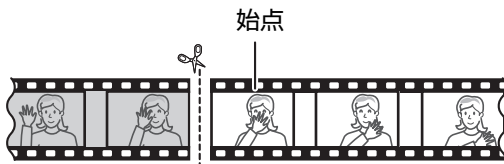


i ボタン

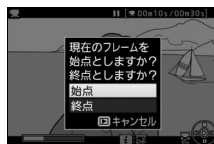
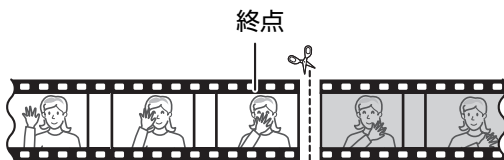


4 始点または終点を選ぶ

- **[始点]** を選んで **OK** ボタンを押すと、選んだ始点より後ろの部分が残ります。



- **[終点]** を選んで **OK** ボタンを押すと、選んだ終点より前の部分が残ります。



5 切り取りたい位置を調整する

- ◀または▶を押して、切り取りたい位置を調整します。
- コマンドダイヤルを回すと、10 秒前または後ろに移動します。



6 ▲を押して決定する



7 保存する動画を確認する

- [プレビュー] を選んでⓀボタンを押すと、編集後の動画のプレビューが再生されます。
- [キャンセル] を選んでⓀボタンを押すと、手順5の画面に戻ります。



8 動画ファイルの保存方法を選ぶ

- [新規保存] を選ぶと、編集前の動画とは別に、新しい動画として保存します。[上書き保存] を選ぶと、編集前の画像が上書きされます。



9 動画ファイルを保存する

- Ⓚボタンを押して決定します。

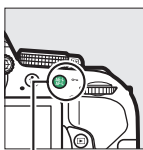


✓ 動画編集時のご注意

- SDカードに十分な空き容量がない場合、動画編集できません。
- [始点/終点の設定] では、2秒未満の動画は編集できません。
- 動画編集で作成した動画の日時情報は、撮影時の日時になります。

📎 動画の前後を切り取るには

手順5の画面で、 (Ⓚ) ボタンを押すと、 (始点) または  (終点) を切り換えられ、一度の操作で動画の前後を切り取ることができます。



AF-L (Ⓚ) ボタン



動画の1フレームをJPEG画像として保存する

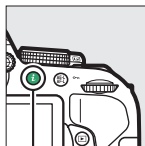
1 保存したい位置で動画を一時停止する

- 動画の再生中にマルチセクターの ▼ を押すと、一時停止します。

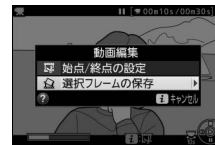


2 [選択フレームの保存] を選ぶ

- **i** ボタンを押して、[選択フレームの保存] を選んで▶を押します。



i ボタン



3 JPEG画像として保存したいフレームを決める

- 保存したいフレームを選んで▲を押します。



4 JPEG画像を保存する

- [はい] を選んで **OK** ボタンを押すと、JPEG の画像として保存します。



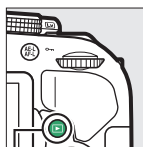
[選択フレームの保存] で作成した画像について

- 画質モード [FINE] (□□61) のJPEG画像を作成します。
- 動画から作成したJPEG画像に対して、画像編集することはできません。
- 再生時の画像情報で表示されない項目があります。

画像の再生と削除

画像を1コマずつ再生する（1コマ表示モード）

□ボタンを押すと、最後に撮影した画像が液晶モニターに表示されます。



□ボタン



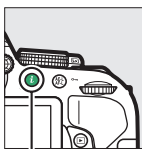
■ 1コマ表示モードでの操作方法

前後の画像を見る		マルチセレクトターの◀を押すと前の画像が、▶を押すと次の画像が表示されます。
画像情報の切り換え		画像情報の切り換えができます（□142）。
複数画像を一覧表示する		サムネイル表示モード（□148）に切り替わります。
画像を拡大する		表示中の画像を拡大表示します（□150）。
画像を削除する		表示中の画像を削除します（□154）。
画像を保護する	AE-L AF-L (🔑)	表示中の画像にプロテクト（保護）を設定します（□151）。
動画を再生する		🔍マークが表示されている画像の場合、動画を再生します（□137）。

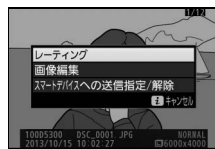
📌 i ボタン

1コマ表示モード、サムネイル表示モード（□148）、カレンダー表示モード（□149）でiボタンを押すと、右の画面が表示されます。選んだ画像に対して次の操作を行えます。

- レーティング（重要度）（□152）
- 画像編集（静止画の場合）（□216） / 動画編集（動画の場合）（□138）
- スマートデバイスへの送信指定/解除（□180）

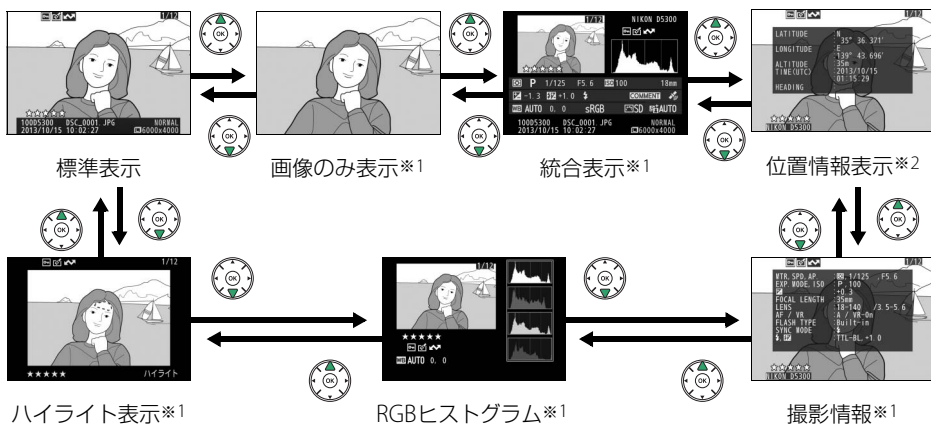


i ボタン



画像情報を表示する

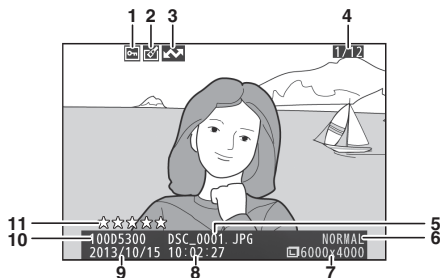
1コマ表示モードでは、画像についての詳しい情報を見ることができます。マルチセクターの▲または▼を押すと、次のように撮影情報の表示が切り替わります。



※1 再生メニュー「再生画面設定」(□183) で設定している場合のみ表示します。

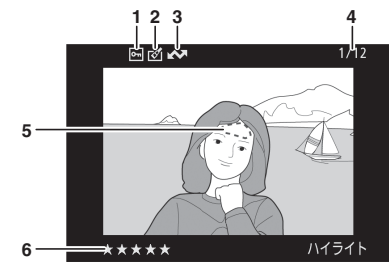
※2 撮影時に位置情報 (□76) を記録した画像の場合のみ表示します。

標準表示



1	プロテクト設定の有無	151
2	画像編集の有無	217
3	送信指定の有無	180
4	コマ番号/フォルダー内全画像数	
5	ファイル名	198
6	画質モード	61
7	画像サイズ	63
8	撮影時刻	13、211
9	撮影日付	13、211
10	フォルダー名	185
11	レーティング設定	152

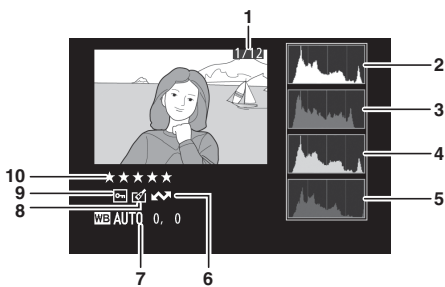
■ ハイライト表示※



1	プロテクト設定の有無	151
2	画像編集の有無	217
3	送信指定の有無	180
4	コマ番号/フォルダー内全画像数	
5	画像のハイライト部分が点滅表示されます。	
6	レーティング設定	152

※ ハイライトとは、画像の中の非常に明るい部分です。露出補正などで画像の明るさを調整する際に、点滅しているハイライト部分を目安にしてください。

■ RGBヒストグラム



1	コマ番号/フォルダー内全画像数	
2	RGBのヒストグラム	
3	赤色 (R) のヒストグラム	
4	緑色 (G) のヒストグラム	
5	青色 (B) のヒストグラム	
6	送信指定の有無	180
7	ホワイトバランス	105
	ホワイトバランス微調整	107
	プリセットマニュアル	108
8	画像編集の有無	217
9	プロテクト設定の有無	151
10	レーティング設定	152

拡大ヒストグラム表示について

RGBヒストグラム表示で $\mathbb{Q}$ ボタンを押すと、ヒストグラム表示のまま拡大画面になります。拡大ヒストグラム表示では、拡大領域のヒストグラムを表示することができます。また、拡大表示中にマルチセレクターの $\blacktriangle \blacktriangledown \blacktriangleleft \blacktriangleright$ を押すと画面をスクロールして見たい部分に移動できます。 $\mathbb{Q}$ (?) ボタンを押すと画像を縮小表示します。

カメラのヒストグラム表示機能について

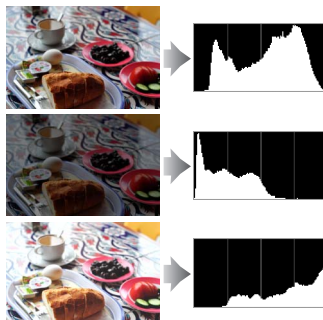
ヒストグラム表示は、画像加工アプリケーションで表示されるヒストグラムと異なることがあります。目安としてお使いください。



ヒストグラムについて

ヒストグラムとは、画像の明るさ（輝度）の分布を表すグラフのことです。横軸は明るさ、縦軸は明るさごとのピクセル数を示しています。

- いろいろな明るさの被写体が写っている画像では、グラフの山が全体的に分布したヒストグラムになります。
- 暗い画像はヒストグラムの分布が左側に寄った形になります。
- 明るい画像はヒストグラムの分布が右側に寄った形になります。

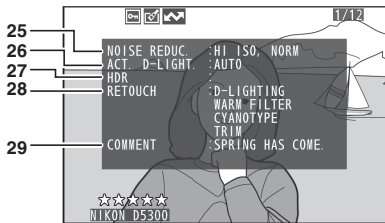
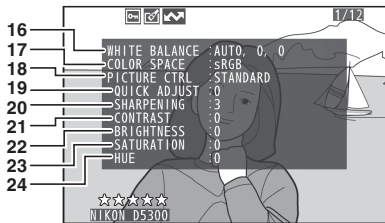
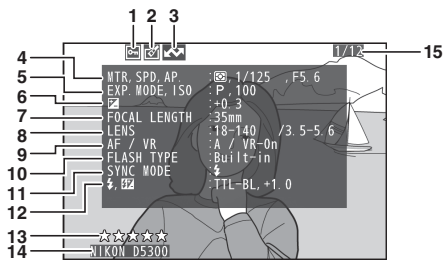


露出補正を＋側にすれば山が右側に寄り、－側にすれば山が左側に寄ります。

屋外などで周りが明るすぎて液晶モニターでは画像の明るさが確認しにくいときでも、ヒストグラムから画像全体の露出傾向を確認することができます。

■ 撮影情報

撮影時の設定の詳細を表示します。

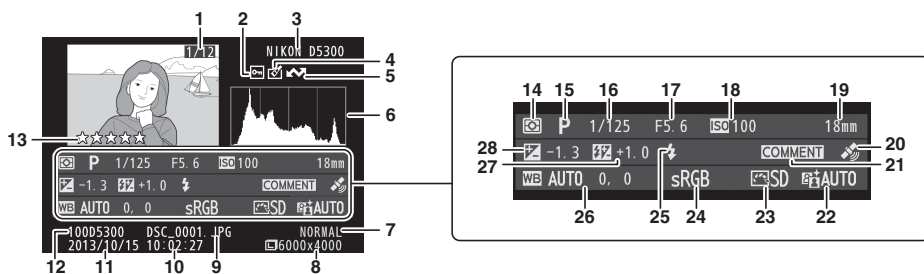


1	プロテクト設定の有無	151
2	画像編集の有無	217
3	送信指定の有無	180
4	測光モード	93
	シャッタースピード	86
	絞り値	86
5	撮影モード	19、30、37、85
	ISO感度※1	69
6	露出補正值	95
7	焦点距離	242

8	レンズ情報	
9	フォーカスモード	53、124
	レンズのVR（手ブレ補正）機能の ON/OFF※2	290
10	フラッシュの種類	201、247
	コマンダーモードの有無※2	
11	フラッシュモード	65、67
12	フラッシュ発光方式	201
	フラッシュ調光補正值	97
13	レーティング設定	152
14	カメラ名	
15	コマ番号/フォルダー内全画像数	
16	ホワイトバランス	105
	ホワイトバランス微調整	107
	プリセットマニュアル	108
17	色空間	187
18	ピクチャーコントロール	116
19	クイック調整※3	118
	元になったピクチャーコントロール※3	116
20	輪郭強調	118
21	コントラスト	118
22	明るさ	118
23	色の濃さ（彩度）※3	118
	フィルター効果※3	118
24	色合い（色相）※3	118
	調色※3	118
25	高感度ノイズ低減	188
	長秒時ノイズ低減	187
26	アクティブD-ライティング	98
27	HDR（ハイダイナミックレンジ）	100
28	画像編集メニュー（□216）で行われた画像 編集の内容が一覧表示されます。 複数の画像編集が行われた場合は、順番に 表示されます。	
29	画像コメント	213

※1 感度自動制御した画像の場合、ISO感度を赤く表示します。
※2 設定した機能、装着したレンズやアクセサリにより表示されない場合があります。
※3 設定したピクチャーコントロールにより、表示される内容が異なります。

■■ 統合表示



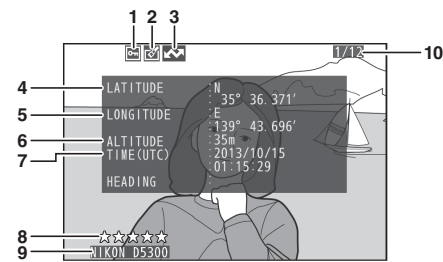
1	コマ番号/フォルダー内全画像数		16	シャッタースピード	86
2	プロテクト設定の有無	151	17	絞り値	86
3	カメラ名		18	ISO感度※1	69
4	画像編集の有無	217	19	焦点距離	242
5	送信指定の有無	180	20	位置情報の有無	76
6	画像のヒストグラム (□144) を表示します。 横軸は明るさ、縦軸は明るさごとのピクセル数を表します。		21	画像コメントの有無	213
7	画質モード	61	22	アクティブD-ライティング	98
8	画像サイズ	63	23	ピクチャーコントロール	116
9	ファイル名	198	24	色空間	187
10	撮影時刻	13、211	25	フラッシュモード	65、67
11	撮影日付	13、211	26	ホワイトバランス	105
12	フォルダー名	185		ホワイトバランス微調整	107
13	レーティング設定	152		プリセットマニュアル	108
14	測光モード	93	27	フラッシュ調光補正值	97
15	撮影モード	20、30、85、37		コマンダーモードの有無※2	
			28	露出補正值	95

※1 感度自動制御された画像の場合、ISO感度を赤く表示します。

※2 設定した機能や装着したアクセサリにより表示されない場合があります。

■■位置情報表示

撮影時に位置情報（📍76）を記録した画像の場合に表示します※。



1	プロテクト設定の有無	151
2	画像編集の有無	217
3	送信指定の有無	180
4	緯度	
5	経度	
6	標高	
7	UTC（協定世界時）	
8	レーティング設定	152
9	カメラ名	
10	コマ番号/フォルダー内全画像数	

※ 動画の場合は、動画撮影開始時に取得した情報を表示します。

複数の画像を一覧表示する（サムネイル表示モード）

1コマ表示モードのときに $\text{Q} \otimes (?)$ ボタンを押すと、複数の縮小画像（サムネイル画像）を表示する「サムネイル表示モード」に切り替わります。



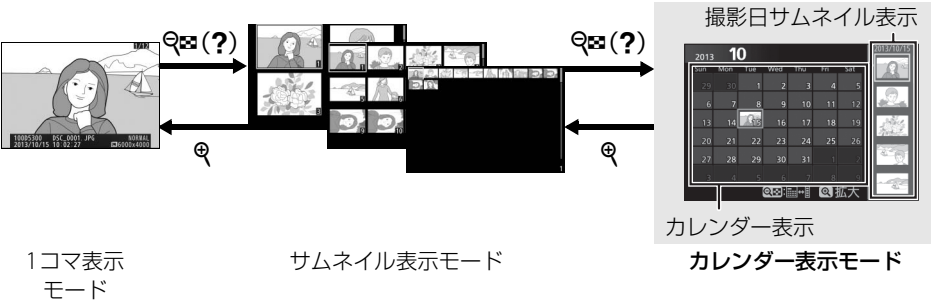
■ サムネイル表示モードでの操作方法

表示コマ数を増やす	$\text{Q} \otimes (?)$	1コマ表示時にボタンを押すと4コマ表示に、4コマ表示時にボタンを押すと12コマ表示に、12コマ表示時にボタンを押すと80コマ表示に切り替わります。
表示コマ数を減らす	Q	80コマ表示時にボタンを押すと12コマ表示に、12コマ表示時にボタンを押すと4コマ表示に、4コマ表示時にボタンを押すと1コマ表示に切り替わります。
画像を選ぶ		マルチセレクターの $\blacktriangle \blacktriangledown \blacktriangleleft \blacktriangleright$ を押して、黄色の枠（カーソル）を動かして画像を選びます。 マルチセレクターの代わりにコマンドダイヤルを使うこともできます。
1コマ表示する		サムネイル表示モードを終了して、1コマ表示モードに戻ります。
画像を削除する		選んだ画像を削除します（□154）。
画像を保護する	AE-L AF-L ()	選んだ画像にプロテクト（保護）を設定します（□151）。

撮影した日付ごとに画像を表示する

(カレンダー表示モード)

80コマ表示時（□148）に $\text{Q} \oplus (?)$ ボタンを押すと、撮影した日付ごとに縮小画像を表示する「カレンダー表示モード」に切り替わります。



■ カレンダー表示モードでの操作方法

表示を切り換える	$\text{Q} \oplus (?)$	・カレンダー表示時に$\text{Q} \oplus (?)$ ボタンまたはOK ボタンを押すと、黄色い枠が撮影日サムネイル表示に移動し、選択中の日付に撮影した画像が選べます。 ・撮影日サムネイル表示時に$\text{Q} \oplus (?)$ ボタンを押すと、カレンダー表示に戻り、日付を選べます。
80コマ表示に戻る/ 画像を拡大する	Q	・カレンダー表示時は80コマ表示に切り替わります。 ・撮影日サムネイル表示時は、Q ボタンを押している間、拡大表示をします。
日付を選ぶ/ 画像を選ぶ		・カレンダー表示時は、マルチセクターの$\blacktriangle \blacktriangledown \blacktriangleleft \blacktriangleright$を押して、黄色の枠（カーソル）を動かして撮影した日付を選びます。 ・撮影日サムネイル表示時は、$\blacktriangle$または$\blacktriangledown$を押して画像を選びます。
1コマ表示する		撮影日サムネイル表示時に OK ボタンを押すと、選択した画像を1コマ表示します。
画像を削除する		・カレンダー表示時にボタンを押すと、選んだ日付の画像を全て削除します。 ・撮影日サムネイル表示時にボタンを押すと、選んだ画像を個別に削除します（□154）。
画像を保護する	AE-L AF-L	撮影日サムネイル表示時にボタンを押すと、選んだ画像を個別にプロテクトします（□151）。

画像を拡大表示する

画像の再生中に **Q** ボタンを押すと、拡大表示されます。拡大できる最大の大きさ（長さ比）は、画像サイズが **[L]**（サイズL）の場合は約33倍、**[M]**（サイズM）では約25倍、**[S]**（サイズS）では約13倍です。拡大表示中に人物の顔を認識した場合、最大35人までの顔を白枠で囲んで表示します。

■■ 拡大表示中の操作方法

拡大率を上げる		ボタンを押すごとに拡大率が上がります。	 拡大表示中に拡大率を操作すると、画面の右下にナビゲーションウィンドウが表示され、拡大表示中の部分が黄色い枠で囲んで示されます。数秒すると消えます。
拡大率を下げる		ボタンを押すごとに拡大率が下がります。	
画面をスクロール（移動）させる		画面をスクロールさせて、見たい部分に移動できます。マルチセレクトターを押し続けると、高速で移動します。	
人物の顔へ移動させる/ 人物の顔の拡大率を変更する		i ボタンを押すと、次の操作ができます。もう一度押すと、通常の拡大表示に戻ります。 - マルチセレクトターの ▲▼◀▶ を押すたびに、認識した顔に順次移動します。 OK ボタンを押すと、人物の顔を拡大表示します。	 拡大表示中に人物の顔を認識すると、画面右下のナビゲーションウィンドウに白い枠が表示されます。
前後の画像を見る		コマンドダイヤルを回すと、そのままの拡大率と表示範囲で、前後の画像を表示します（動画を選べると、拡大表示を終了します）。	
1コマ表示する		拡大表示を終了して、1コマ表示モードに戻ります。	
画像を保護する	AE-L AF-L ()	表示中の画像にプロテクト（保護）を設定します（ [Q] 151）。	

画像を保護する（プロテクト）

大切な画像を誤って削除しないために、画像にプロテクト（保護）を設定できます。ただし、SDカードを初期化（フォーマット □206）すると、プロテクトを設定した画像も削除されますのでご注意ください。

1 プロテクトする画像を選ぶ

- 1コマ表示モード/拡大表示の場合は、プロテクトする画像を表示します。
- サムネイル表示モード/カレンダー表示モードの場合は、プロテクトする画像を選びます。



2 (P) ボタンを押す

-  アイコンが表示されます。



 (P) ボタン

プロテクトを解除するには

解除する画像を表示（選択）して、 (P) ボタンを押します。

プロテクトの一括解除について

画像の再生中に、 (P) ボタンと  ボタンを同時に2秒以上押し続けると、再生メニューの「再生フォルダー設定」(□183) で設定されているフォルダー内の全ての画像のプロテクトをまとめて解除できます。

画像にレーティング（重要度）を設定する

選んだ画像にレーティングを設定できます。ただし、プロテクトした画像はレーティングを設定できません。

表示中の画像にレーティングを設定する

1 レーティングを設定する画像を選ぶ

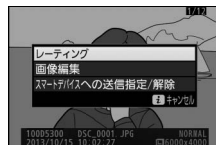
- 1コマ表示モードのときは、レーティングを設定する画像を表示します。
- サムネイル表示モードまたはカレンダー表示モードのときは、レーティングを設定する画像を選びます。

2 i ボタンを押す



i ボタン

3 [レーティング] を選んで OK ボタンを押す



4 レーティングを設定する

- マルチセクターの◀または▶を押して、
★★★★★～★、星なし、☒（削除候補）から選
びます。



5 OK ボタンを押して決定する

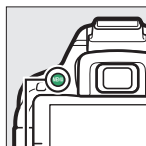


複数の画像にレーティングを設定する

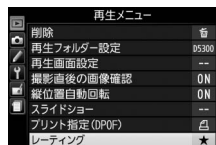
再生メニューの「レーティング」では、複数の画像にレーティングを設定できます。

1 「レーティング」を選ぶ

- MENU ボタンを押して、再生メニューの「レーティング」を選んでマルチセクターの▶を押します。



MENUボタン



2 画像を選んでレーティングを設定する

- ◀または▶を押して、レーティングを設定したい画像を選びます。
- ▲または▼を押して、★5～★1、星なし、✂（削除候補）から選びます。
- Q ボタンを押している間は、選択中の画像が拡大表示されます。



3 OK ボタンを押して決定する



画像を削除する

SDカードに記録された画像を削除します。削除した画像は元には戻せないご注意ください。ただし、プロテクトを設定した画像は削除できません。

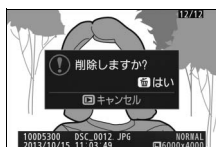
表示中の画像を削除する

1 削除する画像を選ぶ

- 1コマ表示モードのときは、削除する画像を表示します。
- サムネイル表示モードまたはカレンダー表示モードのときは、削除する画像を選びます。

2 𠂇ボタンを押す

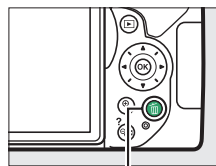
- 削除確認の画面が表示されます。
- 𠂇ボタンを押すと、画像の削除はキャンセルされます。



1コマ表示モード



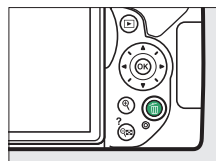
サムネイル表示モード



𠂇ボタン

3 もう一度𠂇ボタンを押す

- 選択した画像が削除されます。



複数の画像をまとめて削除する

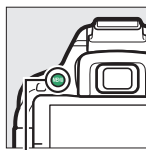
再生メニューの〔削除〕では、複数の画像をまとめて削除できます。たくさんの画像を削除するときは、時間がかかることがあります。

 選択画像削除	選択した画像を削除します。
 日付選択	選択した日付に撮影した画像をまとめて削除します。
ALL 全画像削除	〔再生フォルダー設定〕(□183) で設定したフォルダー内の全ての画像を削除します。

■ 選択画像削除

1 〔削除〕を選ぶ

- MENU ボタンを押して、再生メニューの〔削除〕を選んでマルチセレクターの▶を押します。



MENU ボタン



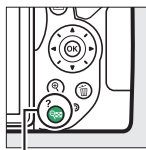
2 〔選択画像削除〕を選ぶ

- 〔選択画像削除〕を選んで▶を押します。



3 削除する画像を選ぶ

- ▲▼◀▶を押して、画像を選びます。
- Q (?) ボタンを押して設定します。設定すると⏏アイコンが表示され、もう一度 Q (?) ボタンを押すと解除されます。
- 削除する画像全てに設定してください。
- Q ボタンを押すと、ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。

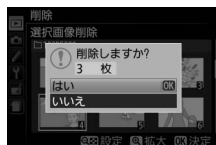


Q (?) ボタン



4 設定を完了する

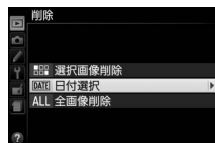
- OK ボタンを押して、設定を完了します。
- 確認画面で〔はい〕を選択し、OK ボタンを押すと、選択した画像が全て削除されます。



■ 日付選択

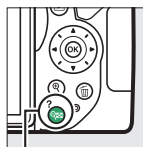
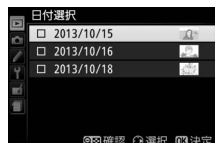
1 [削除] 画面で [日付選択] を選ぶ

- [日付選択] を選んでマルチセクターの ► を押します。



2 日付を選ぶ

- 日付を選び、►を押してチェックボックスをオン☒にします。もう一度►を押すと、チェックボックスがオフ☐になります。
- 削除する日付全てに設定してください。
- ㊟ (?) ボタンを押すと、選択している日付に撮影した画像をサムネイル表示して確認できます。もう一度㊟ (?) ボタンを押すと、日付選択画面に戻ります。
- サムネイル表示中に ㊟ ボタンを押すと、ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。

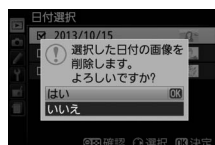


㊟ (?) ボタン



3 設定を完了する

- ㊟ ボタンを押して、設定を完了します。
- 確認画面で [はい] を選択し、㊟ ボタンを押すと、選択した日付の画像が全て削除されます。

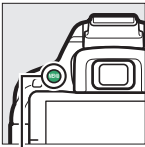


スライドショーで再生する

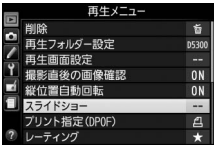
再生メニューの[スライドショー]では、[再生フォルダー設定] (□183) で設定したフォルダー内の画像を記録された順番に1コマずつ連続再生できます。

1 [スライドショー] を選ぶ

- MENUボタンを押して、再生メニューの[スライドショー]を選んでマルチセクターの▶を押します。



MENUボタン



2 スライドショーを開始する

- [開始]を選んでOKボタンを押すと、スライドショーが始まります。
- スライドショー再生時には次の操作を行えます。



1コマ進む/ 戻る		◀を押すと前の画像が、▶を押すと次の画像が表示されます。
画像情報の 切り換え		画像情報の切り換えができます (□142)。
一時停止/再開		スライドショーが一時停止します。もう一度OKボタンを押すと再開します。
動画の音量を 調節する	/	動画再生中にボタンを押すと音量が大きくなり、 (?) ボタンを押すと小さくなります。
通常再生に戻る		スライドショーを中止して、1コマ表示モード (□141)、サムネイル表示モード (□148) またはカレンダー表示モード (□149) に戻ります。

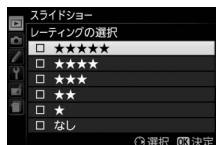
- 再生が終わると、右のような画面が表示されます。[再開]を選んでOKボタンを押すと、スライドショーが再開します。[終了]を選んでOKボタンを押すと、スライドショーが終了します。



■■再生画像の種類を設定する

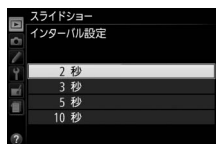
[再生画像の種類] を選ぶと、スライドショーで再生する画像の種類を「静止画と動画」、
「静止画のみ」、[動画のみ]、[レーティングの選択] から選べます。

- [レーティングの選択] を選んでマルチセクターの
▶を押すと、選んだレーティングを設定した画像だけ
を再生できます。
- レーティング項目を選び、▶を押してチェックボッ
クスをオン☒にします。もう一度▶を押すと、チェッ
クボックスがオフ☐になります。
- **OK** ボタンを押して、設定を完了します。



■■1コマの静止画を表示する時間（インターバル）を設定する

[インターバル設定] を選ぶと、1コマの静止画を表示する時間
を設定できます。



パソコン、プリンター、テレビとの接続

ViewNX 2をインストールする

付属のソフトウェアをインストールして、画像をパソコンに取り込めば、静止画や動画の表示、編集ができます。インストールを始める前に、お使いのパソコンの環境が□160の動作環境に合っているか確認してください。



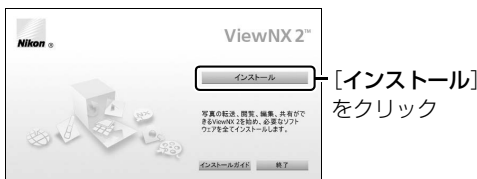
1 パソコンを起動し、ViewNX 2 CD-ROMをCD-ROMドライブに入れ、インストーラーを起動する

- 右の画面で言語を選びます。



2 インストールを開始する

- 画面の指示に従ってインストールしてください。



3 インストールを終了する

Windows



[はい] をクリック

Mac OS



[OK] をクリック

4 CD-ROMをCD-ROMドライブから取り出す

ViewNX 2の動作環境について

	Windows	Mac OS
プロセッサ (CPU)	• 静止画：Intel Celeron/Pentium4/Coreシリーズ1.6GHz以上 • 動画： - 再生時：Pentium D 3.0GHz以上 - 編集時：Intel Core i5以上 • 1280×720ピクセル以上でフレームレート30fps以上、または1920×1080ピクセル以上で動画再生をする場合：Intel Core i5以上を推奨	• 静止画：Intel Coreシリーズ/Xeonシリーズ • 動画： - 再生時：Core Duo 2GHz以上 - 編集時：Intel Core i5以上 • 1280×720ピクセル以上でフレームレート30fps以上、または1920×1080ピクセル以上で動画再生をする場合：Intel Core i5以上を推奨
OS	Windows 8、Windows 7、Windows Vista、Windows XP • 全てプリインストールされているモデルに対応 • 64ビット版Windows XP上では動作しません。	• OS X 10.8、10.7 • Mac OS X 10.6
実装メモリー (RAM)	• 32ビット版 Windows 8、Windows 7、Windows Vista：1 GB 以上（2 GB 以上推奨） • 64ビット版 Windows 8、Windows 7、Windows Vista：2 GB 以上（4 GB 以上推奨） • Windows XP：512 MB以上（2 GB以上推奨）	• OS X 10.8、10.7：2 GB 以上（4 GB 以上推奨） • Mac OS X 10.6：1 GB 以上（4 GB 以上推奨）
ハードディスク	OS起動ディスクの空き容量が1 GB以上（3 GB以上推奨）	
モニター	解像度：1024×768ピクセル（XGA）以上（1280×1024ピクセル以上推奨）、表示色数：24ビットカラー以上	解像度：1024×768ピクセル（XGA）以上（1280×1024ピクセル以上推奨）、表示色数：1670万色以上

※ 対応OSに関する最新情報は、当社ホームページのサポート情報（□xv）でご確認ください。

必ず最新バージョンのソフトウェアをお使いください

- お使いのカメラに対応していないバージョンのソフトウェアを使用すると、RAW 画像をカメラからパソコンへ正常に転送できないことがあります。必ず最新バージョンのViewNX 2をお使いください。
- 最新版のViewNX 2は、当社ホームページ（□xv）からダウンロードしてインストールすることもできます。

ニコンホームページへのアクセスについて（Windowsのみ）

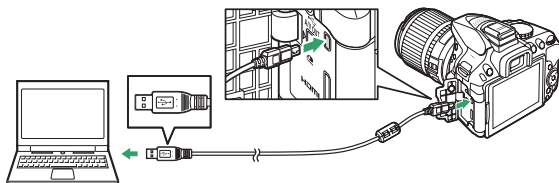
ViewNX 2をインストールした後、Windowsの［スタート］メニューから［すべてのプログラム］→［Link to Nikon］の順にクリックすると、当社のホームページにアクセスできます（インターネットに接続できる環境が必要です）。

ViewNX 2を使う

パソコンに画像を取り込む

1 パソコンに接続する

- SDカードを入れたカメラの電源をOFFにしてから、付属のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続し、カメラの電源をONにする。



2 ViewNX 2のNikon Transfer 2が起動する

- 起動するプログラム（ソフトウェア）を選ぶ画面がパソコンに表示されたときは、Nikon Transfer 2を選びます。

3 画像をパソコンに取り込む

- 〔転送開始〕をクリックすると、記録されている画像がパソコンに取り込まれます（ViewNX 2の初期設定）。



〔転送開始〕

4 接続を解除する

- カメラの電源をOFFにして、USBケーブルを抜きます。

Windows 7をお使いの場合

右の画面が表示されたときは、次の手順でNikon Transfer 2を選びます。

1 [画像とビデオのインポート] で使用するプログラムにNikon Transfer 2を選ぶ

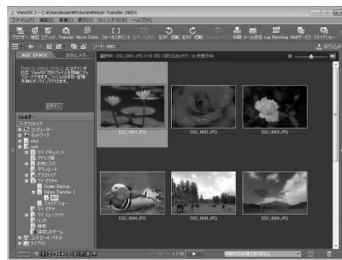
- [画像とビデオのインポート] の [プログラムの変更] をクリックすると表示される画面で、[画像ファイルを取り込む-Nikon Transfer 2使用] を選んで、[OK] をクリックします。

2 [画像ファイルを取り込む] をダブルクリックする



画像を見る

画像の取り込みが終わると、ViewNX 2が自動的に起動し、取り込んだ画像が表示されます。



■■ 静止画を編集する

ViewNX 2のツールバーで「**エディット**」をクリックします。

階調の補正、シャープネスの調整、画像の切り抜き（クロップ）などの編集ができます。



■■ 動画を編集する

ViewNX 2のツールバーで「**Movie Editor**」をクリックします。

このカメラで撮影した動画の不要部分を削除するなどの編集ができます。



■■ 画像をプリントする

ViewNX 2のツールバーで「**印刷**」をクリックします。

ダイアログが表示され、パソコンにつないだプリンターから、画像をプリントできます。



■■ 取得した位置情報をパソコンで地図上に表示する

ViewNX 2のツールバーで「**地図**」をクリックします。画像に記録した位置情報を地図上に表示したり、カメラで取得したログを使って地図上に移動ルートを表示できます。

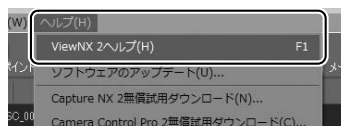


ViewNX 2を手動で起動するには

- Windows : デスクトップの「**ViewNX 2**」のショートカットアイコンをダブルクリックする
- Mac OS : Dockの「**ViewNX 2**」アイコンをクリックする

ViewNX 2の詳しい使い方は

ViewNX 2のヘルプを参照してください。



パソコンとの接続時のご注意

- カメラとパソコンが通信している間は、カメラの電源をOFFにしたり、USBケーブルを抜いたりしないでください。
- ケーブルを接続するときは、端子の挿入方向を確認して無理な力を加えずに、まっすぐに差し込んでください。端子を引き抜くときも、まっすぐに引き抜いてください。
- ケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源がOFFになっていることを確認してください。
- カメラとパソコンを接続するときは、十分に充電されたバッテリーをお使いになることをおすすめします。

USBハブについて

USBハブを使ってカメラをパソコンやプリンターに接続すると、正しく動作しないことがあります。

端子カバーについて

使用しない場合は、必ず端子カバーを閉じてください。ゴミなどが入ると、誤作動の原因となることがあります。

プリンターで印刷する（ダイレクトプリント）

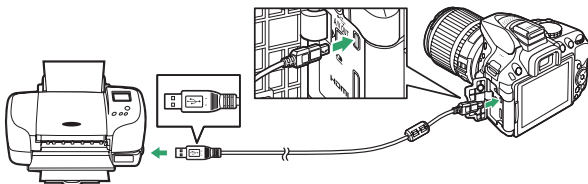
PictBridge（ピクトブリッジ ㊞294）対応プリンターをお使いの場合、パソコンを使わずに、カメラとプリンターを付属のUSBケーブルで直接接続してSDカード内の画像をプリントできます（ダイレクトプリント）。

カメラとプリンターを接続する

1 カメラの電源をOFFにしてからプリンターの電源をONにする

2 カメラとプリンターを接続する

- USBケーブルは、無理な力を加えず、端子にまっすぐ差し込んでください。



3 カメラの電源をONにする

- 正しく接続されると、液晶モニターに PictBridge のロゴが表示された後、撮影された画像が表示されます。

1コマだけプリントする

1 プリントしたい画像を選ぶ

- マルチセクターの◀または▶を押してプリントしたい画像を選びます。



- 1コマ表示中に⌕ボタンを押すと、表示中の画像を拡大表示します (□□150)。▶ボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。
- ⌕❏ (?) ボタンを押して6コマ表示に切り換えて、画像を選ぶことができます。⌕ボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。

2 プリント設定画面を表示する

- Ⓚボタンを押すとプリント設定画面が表示されます。



✓ ダイレクトプリントについての注意

- RAW画像 (□□61) はダイレクトプリントできません。RAW画像は画像編集メニューの[RAW現像] (□□225) で作成したJPEG画像をプリントしてください。
- [フチ設定] と [範囲指定] は、接続したプリンターがそれぞれの機能に対応していない場合は、選べません。なお、[範囲指定] で狭い範囲を大きくプリントした場合は、画像が粗くプリントされる場合があります。

✓ [デート写し込み設定] で日時を写し込んだ画像についての注意

カスタムメニュー d6 [デート写し込み設定] (□□199) で日時を写し込んだ画像をプリントするときは、次のことにご注意ください。

- [日付プリント] を [なし] に設定してください。[あり] にしてプリントすると、日付が二重にプリントされます。
- [フチ設定] を [なし] にしたときや、範囲指定の設定によっては、日時部分が用紙に収まらないことがあります。

3 プリント設定の項目を設定する

- ▼または▲を押して設定したい項目を選んで▶を押すと、それぞれの設定画面が表示されます。

用紙設定	▼または▲を押して、プリントする用紙のサイズまたは[プリンターの設定] (プリンターの設定を優先) を選んでOKボタンを押します。プリンターが対応する用紙サイズのみが表示されます。
枚数指定	▼または▲を押して、プリントする枚数 (1～99枚) を設定してOKボタンを押します。
フチ設定	▼または▲を押して、[プリンターの設定] (プリンターの設定を優先)、[あり] (フチありプリント) または[なし] (フチなしプリント) を選んでOKボタンを押します。
日付 プリント	▼または▲を押して、[プリンターの設定] (プリンターの設定を優先)、[あり] (日付を印刷する) または[なし] (日付を印刷しない) を選んでOKボタンを押します。
範囲指定	[する] を選んで、▶を押すと、[範囲指定] 画面が表示されます。黄色の枠は、プリントされる範囲を示しています。 - Q(?) ボタンを押すと枠が小さく (プリント範囲が狭く) なり、Q ボタンを押すと枠が大きく (プリント範囲が広く) なります。 - マルチセクターを操作すると、プリント範囲が移動します。 - OK ボタンを押すと、プリント範囲が決定します。

4 プリントを開始する

- [プリント実行] を選んで、OK ボタンを押すとプリントが始まります。
- プリントを中断したいときは、もう一度OK ボタンを押してください。



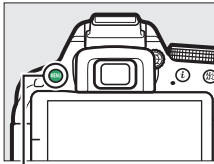
プリンターの設定を優先してプリントしたいときは

[用紙設定]、[フチ設定]、[日付プリント] の設定について、プリンターの設定を優先したいときは、それぞれの設定時に「プリンターの設定」を選んでください。

複数の画像をプリントする

あらかじめカメラとプリンターを正しく接続してから（□164）、次の手順でプリントしてください。

1 「カメラとプリンターを接続する」の手順 3（□164）で、撮影した画像が表示されたら、MENUボタンを押す



MENUボタン

2 プリント方法を選んでマルチセクターの▶を押す

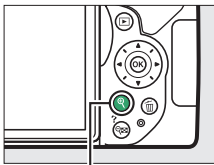


プリント 画像選択	プリントする画像と枚数を選んでプリントします。
日付選択	指定した日付に撮影した画像を全てプリントします。
DPOF プリント	再生メニューの［プリント指定（DPOF）］（□169）で、事前に設定した画像をプリントします。プリント指定した画像と枚数は、手順3の画面に反映されます。
INDEX プリント	SDカードの中のJPEG画像（□61）を一覧できる「インデックス」をプリントします。 • インデックスプリントできるのは256コマまでです。SDカード内に257コマ以上の画像がある場合は、印刷されない画像があります（確認画面が表示されます）。

3 プリントする画像と枚数を設定する

［プリント画像選択］または［DPOFプリント］の場合：

- ◀または▶を押してプリントする画像を選びます。
- ▲または▼を押して、プリント枚数（99枚まで）を設定します。
- プリントされる画像には、🖨️アイコンとプリント枚数が表示されます。枚数を0にすると、🖨️アイコンが消え、その画像はプリントされません。
- 🔍ボタンを押している間は、選択中の画像が拡大表示されます。
- 画像と枚数を設定したら、ⓄKボタンを押します。



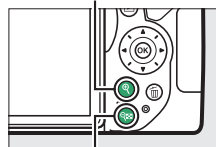
🔍ボタン

【日付選択】の場合：

- ▲または▼を押してプリントする日付を選び、▶を押して設定します。
- プリントする枚数は設定できません。選択した日付の画像の全てが1枚ずつプリントされます。
- ④(?) ボタンを押すと、選択している日付に撮影した画像をサムネイル表示して確認できます。もう一度④(?) ボタンを押すと、日付選択画面に戻ります。
- サムネイル表示中に④ ボタンを押すと、ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。
- 日付を設定したら、OK ボタンを押します。



④ ボタン



④(?) ボタン

【INDEXプリント】の場合：

- 【INDEXプリント】画面が表示されたら、OK ボタンを押します。

4 プリント設定の項目を設定する

- ▼または▲を押して設定したい項目を選んで▶を押すと、それぞれの設定画面が表示されます。
- 「1 コマだけプリントする」の手順3 (□□166) と同様に、**【用紙設定】**、**【フチ設定】**、**【日付プリント】** を設定してください。
- 【INDEXプリント】の場合、用紙サイズによっては、プリントできない場合があります（警告メッセージが表示されます）。



5 プリントを開始する

- **【プリント実行】**を選んでOK ボタンを押すと、プリントが始まります。プリントが終わると、手順2の画面に戻ります。
- プリントを中断したいときは、もう一度OK ボタンを押してください。

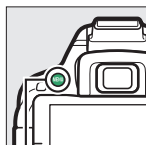


プリントしたい画像を指定する (プリント指定)

SDカードをプリンターのカードスロットに挿入して印刷するときや、プリントサービス店に持ち込んでプリントを依頼するとき、またはカメラとプリンターを直接接続してダイレクトプリントするとき (□164) に、どの画像を何枚プリントするかをあらかじめ指定できます (プリンターやプリントサービス店がDPOF規格に対応している必要があります)。プリント指定の方法は次の通りです。

1 [プリント指定(DPOF)]で[設定]を選ぶ

- **MENU** ボタンを押して、再生メニューの [**プリント指定 (DPOF)**] で [**設定**] を選びます。マルチセクターの **▶** を押します。

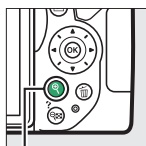


MENUボタン



2 プリントする画像と枚数を設定する

- **◀** または **▶** を押してプリントする画像を選びます。
- **▲** または **▼** を押して、プリント枚数 (99枚まで) を設定します。
- 設定した画像には、**凸** アイコンとプリント枚数が表示されます。枚数を0にすると**凸** アイコンが消え、その画像はプリントされません。
- **Q** ボタンを押している間は、選択中の画像が拡大表示されます。
- 画像と枚数を設定したら、**OK** ボタンを押します。

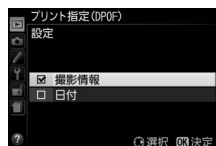


Qボタン



3 プリント指定の項目を設定する

- 撮影情報や日付を画像に写し込まない場合は、手順4へ進みます。
- 指定した画像全てに撮影情報や日付をプリントしたい場合は、**[撮影情報]** または **[日付]** を選び、**▶** を押してチェックボックスをオン ☒ にします。



4 **OK** ボタンを押して、プリント指定を終了する



プリント指定についてのご注意

- ダイレクトプリント時には、[**プリント指定 (DPOF)**] の [**撮影情報**]、[**日付**] の設定は無効になります。ダイレクトプリントで日付をプリントしたい場合は、ダイレクトプリントの [**日付プリント**] を [**あり**] にしてください。
- SDカードの残量が充分にないときは、プリント指定ができない場合があります。
- RAW画像 (□□61) は、プリント指定ができません。RAW画像は画像編集メニューの [**RAW現像**] (□□225) で作成したJPEG画像をプリントしてください。
- プリント指定を行ったSDカード内のデータを、このカメラ以外で削除しないでください。正しくプリントできなくなる場合があります。

設定したプリント指定をまとめて解除したいときは

前ページの手順1の画面で [**一括解除**] を選ぶと、プリント指定 (DPOF) で設定した内容を全て解除します。

テレビで見る

カメラをテレビや録画機器などに接続して、撮影した画像をテレビ画面に表示したり、録画したりできます。

AVケーブルを使ってテレビと接続する

カメラをテレビに接続する手順を説明します。接続には付属のオーディオビデオケーブルをお使いください。

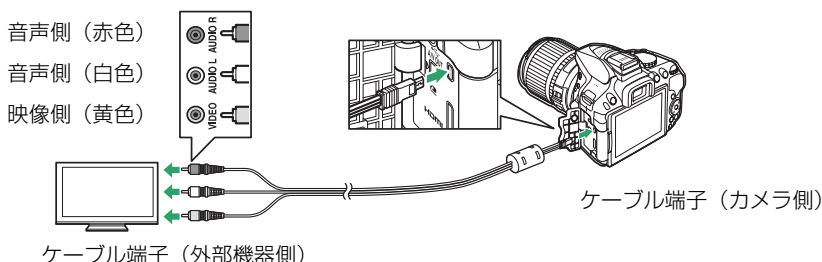
1 セットアップメニューの【ビデオ出力】を、テレビに合わせる (□213)

- 日本国内では【NTSC】にしてください。

2 カメラの電源をOFFにする

- AVケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。

3 カメラとテレビを接続する



4 テレビの入力をビデオ入力に切り換える

5 カメラの電源をONにして、▶ボタンを押す

- 撮影した画像がテレビの画面に表示されます。

画像がテレビに映らないとき

AVケーブルでカメラとテレビを正しくつないでも、画像がテレビに映らないときは、セットアップメニューの【ビデオ出力】(□213) がお使いのテレビに合っているかを確認してください。

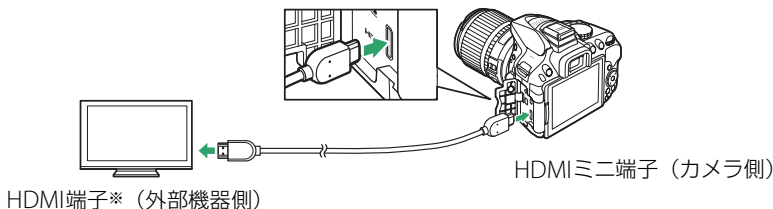
HDMIケーブルを使ってハイビジョンテレビと接続する

カメラをHDMI端子のあるハイビジョンテレビなどと接続できます。接続には市販のHDMIミニ端子用ケーブル（Type C）が必要です。別途お買い求めください。

1 カメラの電源をOFFにする

- HDMIケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。

2 カメラとハイビジョンテレビを接続する



※使用する外部機器の端子に合わせたケーブルをお使いください。

3 テレビの入力をHDMI入力に切り換える

4 カメラの電源をONにして、▶ボタンを押す

- 撮影した画像がテレビの画面に表示されます。

📌 テレビでの画像の再生について

- 画像の再生方法は、液晶モニターで再生するときと同じです。
- テレビ画面では、画像の周辺部が一部ケラレて表示される場合があります。
- テレビでの再生などでカメラを長時間使うときは、ACアダプターをお使いになることをおすすめします。

📌 動画の音声について

テレビで動画を再生するときは、音量をテレビ側で調節してください。カメラでは音量調節できません。

■ HDMI対応機器への出力解像度を変更する

セットアップメニュー (□205) の [HDMI] の [出力解像度] では、HDMI対応機器への出力解像度を設定できます。

- [出力解像度] が [オート] の場合、出力先の映像信号形式を自動的に検出します。



■ HDMI-CEC対応テレビのリモコンを使って再生操作をする

セットアップメニュー (□205) の [HDMI] の [機器制御] では、HDMI-CEC対応テレビのリモコンを使って、1コマ表示とスライドショー再生のカメラ操作を行えます。

1 カメラとHDMI-CEC対応テレビを接続する

2 HDMI-CEC対応テレビとカメラの電源をONにする

- [機器制御] が [する] の場合、カメラのマルチセクターやⓧボタンの代わりにHDMI-CEC対応テレビのリモコンを使ってカメラを操作できるようになります。
- [機器制御] が [しない] の場合は、HDMI-CEC対応テレビのリモコンでカメラは動作しません。ライブビュー撮影や動画撮影を行いたいときは、[しない] に設定してください。

HDMI-CECとは

[HDMI-CEC]とは、HDMI-Consumer Electronics Controlの略で、対応機器間での連携動作を可能にします。

HDMI-CEC対応テレビとの接続時の表示

HDMI-CEC対応テレビとの接続時には、ファインダーの記録可能コマ数表示部に「EE」が表示されます。

HDMIケーブル接続時の動画の撮影と再生について

- HDMI対応機器に接続して、撮影メニュー [動画の設定] の [画像サイズ/フレームレート] を [1920 × 1080 60p] または [1920 × 1080 50p] に設定して動画を記録すると、HDMIの出力解像度やフレームレートが変わることがあります。
- [画像サイズ/フレームレート] を [1920 × 1080 60p] または [1920 × 1080 50p] にして記録した動画を再生する場合 (□137)、HDMI対応機器のモニターには再生中の動画のみが表示されます。

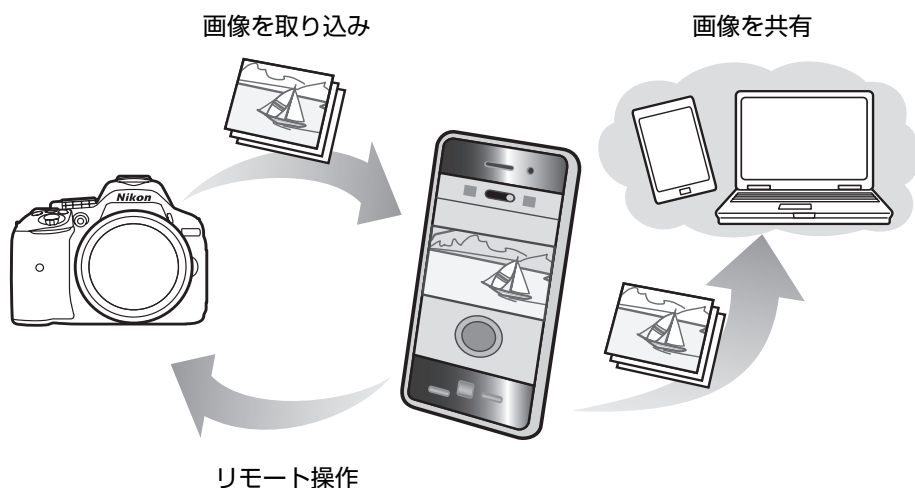
[HDMI] の [出力解像度] についてのご注意

このカメラでは、[1920 × 1080 60p] または [1920 × 1080 50p] でのHDMI出力はできません。HDMI対応機器によっては、[出力解像度] を [オート] に設定すると、HDMI出力できないことがあります。その場合は、[出力解像度] を [1080i (インターレース)] に設定してください。

Wi-Fiを使う

Wi-Fiを使ってできること

このカメラと専用ソフトウェアWireless Mobile Utilityをインストールしたスマートデバイスを接続すると、スマートデバイスにカメラの撮影画面を表示し、カメラをリモートで操作できます。また、リモートで撮影した画像やカメラのSDカードに保存されている画像をスマートデバイスに取り込んだり、スマートデバイスに取り込んだ画像をインターネット経由で共有することができます。



詳しい操作方法については、Wireless Mobile Utility (□175) の使用説明書をご覧ください。

カメラとスマートデバイスを接続する

Wi-Fi（無線LAN）を使う前に、Android OS またはiOS のスマートデバイスに専用ソフトウェアWireless Mobile Utilityをインストールしてから、スマートデバイスとカメラを接続してください。スマートデバイスとカメラを接続する方法は、お使いのスマートデバイスの種類によって異なります。

Android OS	WPS プッシュボタン方式 : スマートデバイスがWPS接続に対応している場合（スマートデバイスの【Wi-Fi設定】に【WPS ボタン接続】がある場合）、簡単な操作でカメラとスマートデバイスを接続できます。	☞176
	WPS PINコード方式 : スマートデバイスがWPS接続に対応している場合、スマートデバイスのPINコードをカメラに入力することで、カメラとスマートデバイスを接続できます。	☞177
	SSIDの表示 : スマートデバイスがWPS 接続に対応していなくても、カメラに表示されるSSIDをスマートデバイス側で選ぶことで、カメラとスマートデバイスを接続できます。	☞178
iOS	SSIDの表示 : カメラに表示されるSSIDをスマートデバイス側で選ぶことで、カメラとスマートデバイスを接続できます。	☞178

📌 スマートデバイスにソフトウェアをインストールする

最初にスマートデバイスでGoogle PlayサービスやApp Storeなどに接続して「Wireless Mobile Utility」を検索し、スマートデバイスにインストールしてください。ソフトウェアの検索方法については、お使いのスマートデバイスの説明書をご覧ください。

- ソフトウェアの詳しい操作方法は、下記のホームページから使用説明書（PDF形式）をダウンロードしてご覧ください。
 - Android OS : <http://nikonimglib.com/ManDL/WMAU/>
 - iOS : <http://nikonimglib.com/ManDL/WMAU-ios/>

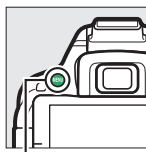
📌 WPS について

「WPS（Wi-Fi Protected Setup）」とは、無線LAN 機器の接続とセキュリティの設定を簡単に実行するための規格です。スマートデバイスによって、設定方法や待ち受け時間が異なります。【WPSプッシュボタン接続】の詳細については、お使いのスマートデバイスの説明書をご覧ください。

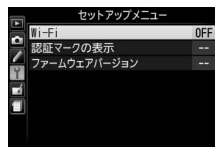
WPS プッシュボタン接続でスマートデバイスと接続する（Android OSのみ）

1 Wi-Fiの〔通信機能〕を〔有効〕にする

- MENUボタンを押して、セットアップメニューの〔Wi-Fi〕を選んでマルチセレクトの▶を押します。



MENUボタン



- 〔通信機能〕を選んで▶を押し、〔有効〕を選んでⓀボタンを押します（通信機能が有効になるまで、数秒間かかります）。



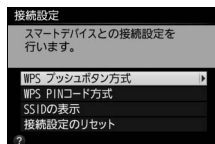
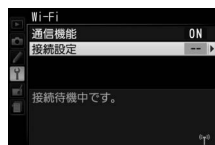
2 カメラ側とスマートデバイス側で同時にWPSボタン接続操作をする

- カメラ側：

- 〔接続設定〕を選んで▶を押します。



- 〔WPS プッシュボタン方式〕を選んで▶を押すと、カメラが約2分間接続待機状態になります。
- 接続待機状態を延長するには、Ⓚボタンを押してください。



- スマートデバイス側：

- スマートデバイスの〔Wi-Fi設定〕から〔WPSボタン接続〕を選びます。

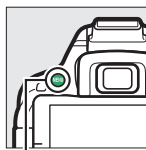
3 スマートデバイスにインストールしたWireless Mobile Utilityを起動する

- スマートデバイスにWireless Mobile Utilityのトップ画面が表示されます。

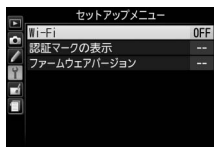
スマートデバイスのPINコードをカメラに入力して接続する（Android OSのみ）

1 Wi-Fiの「通信機能」を「有効」にする

- MENUボタンを押して、セットアップメニューの「Wi-Fi」を選んでマルチセレクターの▶を押します。



MENUボタン



- 「通信機能」を選んで▶を押し、「有効」を選んでⓄボタンを押します（通信機能が有効になるまで、数秒間かかります）。

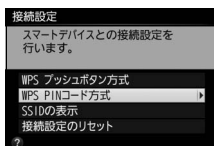
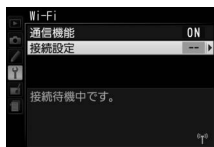


2 「接続設定」で「WPS PINコード方式」を選ぶ

- 「接続設定」を選んで▶を押します。



- 「WPS PINコード方式」を選んで▶を押します。



3 スマートデバイスのPINコードを入力する

- ◀または▶を押して桁を選び、▲または▼を押して数値を設定し、Ⓞボタンを押します。

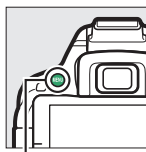
4 スマートデバイスにインストールしたWireless Mobile Utilityを起動する

- スマートデバイスにWireless Mobile Utilityのトップ画面が表示されます。

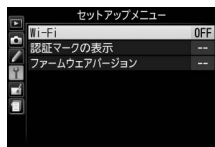
カメラのSSIDをスマートデバイスで選んで接続する (Android OS/iOS)

1 Wi-Fiの〔通信機能〕を〔有効〕にする

- MENUボタンを押して、セットアップメニューの〔Wi-Fi〕を選んでマルチセレクターの▶を押します。



MENUボタン



- 〔通信機能〕を選んで▶を押し、〔有効〕を選んでⓀボタンを押します（通信機能が有効になるまで、数秒間かかります）。

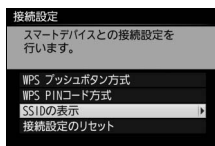
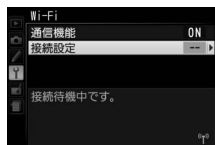


2 カメラのSSIDを表示する

- 〔接続設定〕を選んで▶を押します。



- 〔SSIDの表示〕を選んで▶を押します。



3 スマートデバイスのWi-Fi設定でカメラのSSIDを選ぶ

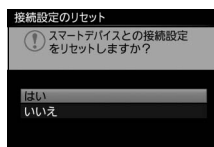
- スマートデバイスのWi-Fi接続に関連する設定メニューで、カメラの液晶モニターに表示されているSSIDを選びます。

4 スマートデバイスにインストールしたWireless Mobile Utilityを起動する

- スマートデバイスにWireless Mobile Utilityのトップ画面が表示されます。

■ Wi-Fi接続設定をリセットするには

[Wi-Fi] の [接続設定] で [接続設定のリセット] を選んで▶を押すと、確認画面が表示されます。[はい] を選んでⓀボタンを押すと、接続先などの接続設定が、工場出荷時の設定にリセットされます。



📌 Wi-Fi通信表示について

Wi-Fiの [通信機能] を [有効] にすると、インフォ画面で📶 (Wi-Fi通信表示) が点滅します。スマートデバイスとカメラの接続が完了し、Wireless Mobile Utilityで通信している間は、📶が点灯します。



✅ Wi-Fi接続についてのご注意

- Wi-Fi (無線LAN) をお使いの前に、「Wi-Fi (無線LAN) 機能について」(□xviii) をお読みください。
- 電波の出力が禁止されている場所では、[Wi-Fi] の [通信機能] を [無効] にしてください。
- カメラのWi-Fi機能は、SDカードを挿入していないと使えません。USBケーブルまたはHDMIケーブルを接続しているときも使えません。
- スマートデバイスからWireless Mobile Utilityでカメラと通信している間は、半押しタイマーはオフになりません (通信を行わずに約5分経過すると、半押しタイマーがオフになります)。
- Wi-Fi接続中は、Eye-Fiカードでデータを送信できません。
- 操作中のバッテリー切れを防ぐため、十分に充電されたバッテリーをお使いください。
- 次の場合に、Wi-Fiの通信機能が無効になります。
 - セットアップメニュー [Wi-Fi] の [通信機能] で [無効] を選んだとき
 - カメラの電源をOFFにしたとき
 - 動画撮影を開始したとき

スマートデバイスに取り込みたい画像をカメラで送信指定する

スマートデバイスに取り込みたい静止画をあらかじめカメラで選んで送信指定することができます。動画は送信指定できません。

表示中の画像を送信指定する

1 送信指定する画像を選ぶ

- 1コマ表示モードのときは、送信指定する画像を表示します。
- サムネイル表示モードまたはカレンダー表示モードのときは、送信指定する画像を選びます。

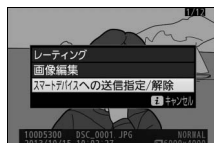
2 i ボタンを押す



i ボタン

3 [スマートデバイスへの送信指定/解除]を選んでOKボタンを押す

-  アイコンが表示されます。



送信指定を解除するには

解除したい画像を選んで、手順2と3を行います。

アイコンについて

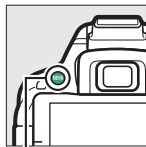
スマートデバイスに画像を送信し終わると、画像情報から  アイコンが消えます。

複数の画像をまとめて送信指定する

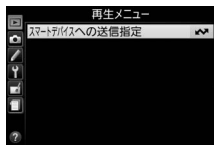
再生メニューの「スマートデバイスへの送信指定」では、複数の画像をまとめて送信指定できます。

1 「スマートデバイスへの送信指定」を選ぶ

- MENU ボタンを押して、再生メニューの「スマートデバイスへの送信指定」を選んでマルチセクターの▶を押します。

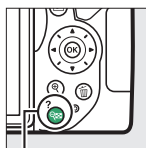


MENU ボタン



2 送信指定する画像を選ぶ

- ▲▼◀▶を押して、画像を選びます。
- Q (?) ボタンを押して設定します。設定すると🖼️アイコンが表示され、もう一度Q (?) ボタンを押すと解除されます。
- 送信指定する画像全てに設定してください。
- Q ボタンを押すと、ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。



Q (?) ボタン



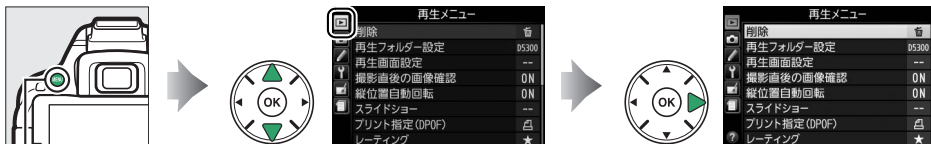
3 設定を完了する

- OK ボタンを押して、設定を完了します。

メニュー項目

▶ 再生メニュー：再生で使える便利な機能

MENUボタンを押してタブの▶アイコンを選ぶと、再生メニューが表示されます。



MENUボタン

再生メニューの項目は、次の通りです。

メニュー項目	初期設定	📖
削除	—	155
再生フォルダー設定	記録中のフォルダー	183
再生画面設定	—	183
撮影直後の画像確認	する	183
縦位置自動回転	する	183
スライドショー		
再生画像の種類	静止画と動画	157、
インターバル設定	2秒	158
プリント指定 (DPOF)	—	169
レーティング	—	153
スマートデバイスへの送信指定	—	181

再生フォルダー設定

MENUボタン → 再生メニュー

画像はSDカード内のフォルダーに保存されます。

画像の再生（ 141）時に表示するフォルダーを設定します。

記録中のフォルダー	画像の記録に実際に使われているフォルダーの画像を再生します。
全てのフォルダー	SDカード内の全てのフォルダーの画像を再生します。

✓ 再生フォルダー設定についてのご注意

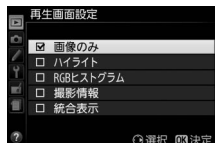
- [全てのフォルダー] にした後に撮影を行うと、自動的に [記録中のフォルダー] に変更されます。全てのフォルダーの画像を再生するには、改めて [全てのフォルダー] にしてください。
- 画像を記録するフォルダーは撮影メニューの [記録フォルダー設定]（ 185）で設定できます。

再生画面設定

MENUボタン → 再生メニュー

1コマ表示時の画像情報に、画像のみ表示、ハイライト表示、RGBヒストグラム表示、撮影情報表示、統合表示を追加します。

- 追加したい項目を選び、マルチセレクターの を押してチェックボックスをオン ☒ にします。もう一度 を押すと、チェックボックスがオフ ☐ になります。
- ボタンを押すと、設定を完了します。



撮影直後の画像確認

MENUボタン → 再生メニュー

撮影直後に画像を自動的に表示するかどうかを設定します。

縦位置自動回転

MENUボタン → 再生メニュー

[する] を選ぶと、縦位置で撮影した画像を自動的に回転して表示します。

✓ 縦位置自動回転についてのご注意

- セットアップメニューの [縦横位置情報の記録]（ 212）を [しない] にして撮影した画像は、全て横位置で表示されます。
- 撮影直後の画像確認時は自動回転しません。

📷 撮影メニュー：撮影で使える便利な機能

MENUボタンを押してタブの📷アイコンを選ぶと、撮影メニューが表示されます。



MENUボタン

撮影メニューの項目は、次の通りです。

メニュー項目	初期設定	📖
撮影メニューのリセット	—	185
記録フォルダー設定	—	185
画質モード	NORMAL	61
画像サイズ	サイズ L	63
RAW記録	12ビット 記録	186
ホワイトバランス	オート	105
蛍光灯	白色蛍光灯	106
ピクチャーコントロール	スタンダード	116
カスタムピクチャー コントロール	—	120
自動ゆがみ補正	しない	186
色空間	sRGB	187
アクティブ D-ライティング	オート	98
HDR（ハイダイナミック レンジ）	しない	100
長秒時ノイズ低減	しない	187
高感度ノイズ低減	標準	188

ISO感度設定

ISO感度		
撮影モードP、S、A、M	100	69、 188
その他の撮影モード	オート	
感度自動制御	しない	

メニュー項目	初期設定	📖
レリーズモード		
撮影モード 📷、🐾	高速連続撮影	47
その他の撮影モード	1コマ撮影	
多重露出		
多重露出モード	しない	102
コマ数	2	
自動ゲイン補正	する	
インターバルタイマー 撮影	設定解除	70
動画の設定		
画像サイズ/フレーム レート	—※	135
動画の画質	標準	135
録音設定	マイク感度 オート	135
風切り音低減	しない	135
動画のマニュアル設定	しない	136

※ 販売地域によって異なります。

📌 設定できない撮影メニュー項目について

撮影モードやカメラの状態によって、設定できないメニュー項目があります。この場合、その項目はグレーで表示されて選べません。

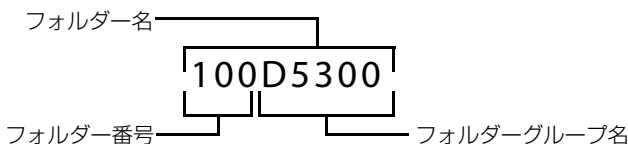
撮影メニューをリセットして初期設定に戻します (□184)。

記録フォルダー設定

MENU ボタン →  撮影メニュー

画像を記録するフォルダー（画像が記録される場所）を選んだり、新しく作成することができます。

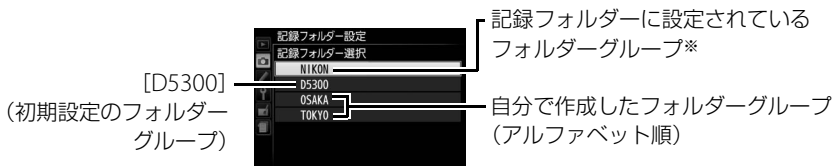
フォルダー名は3ケタの数字（フォルダー番号）と変更可能な5ケタの英数字（フォルダーグループ名）で構成されています。



■ 記録フォルダー選択

「記録フォルダー選択」を選ぶと、次のような「記録フォルダー選択」画面が表示され、画像を記録するフォルダーグループを選ぶことができます。

フォルダー選択画面の見方は次の通りです。



※ 記録フォルダーに設定したフォルダーグループは、「空フォルダー削除」で削除したり、SDカードを交換した場合でもそのまま表示されます。このフォルダーグループを選んだままで撮影を行うと、同じ名称のフォルダーグループが、再び作成されます。

■ 新規作成

新しいフォルダーグループを作成します。「新規作成」を選ぶと、フォルダー名の編集画面が表示されます。5文字までのフォルダーグループ名を入力し、 ボタンを押すと、フォルダーグループが作成されます。

- 入力画面での文字の入力方法については、「カスタムピクチャーコントロールを登録する」の手順6をご覧ください (□121)。

■ フォルダー名変更

「**フォルダー名変更**」を選ぶと、フォルダーグループ名の一覧が表示されます。名称を変更したいフォルダーグループを選ぶと、フォルダー名の編集画面が表示されます。5文字までのグループ名を入力し、 ボタンを押すと、グループ名が変更され、同時にそのグループ内の全てのフォルダーのフォルダー名が変更されます。ただし、フォルダー番号は変更されません。

■ 空フォルダー削除

画像が1コマも記録されていないフォルダーが全て削除されます。

グループ内に複数のフォルダーがある場合のご注意

使用中のフォルダー内の画像ファイルが999コマに達するか、ファイル番号が9999に達したときに撮影を行うと、同じグループ名で番号が更新されたフォルダーが自動的に作成されます。

グループ内に複数のフォルダーがある場合、「**記録フォルダー選択**」でそのグループを選べば、グループ内でフォルダー番号が最大のフォルダーが選ばれます。たとえば、101D5300、102D5300というフォルダーがある場合、「**記録フォルダー選択**」で「**D5300**」を選べば、102D5300に画像が記録されます。

RAW記録

MENUボタン →  撮影メニュー

RAW画像の記録ビット数を設定します。

12-bit 12ビット記録	RAW画像を12ビットで記録します。
14-bit 14ビット記録	RAW画像を14ビットで記録します。「 12ビット記録 」の場合よりもさらに豊かな階調表現になります。画像のファイルサイズは「 12ビット記録 」よりも大きくなります。

自動ゆがみ補正

MENUボタン →  撮影メニュー

広角レンズ使用時のたる型のゆがみや、望遠レンズ使用時の糸巻き型のゆがみを補正して撮影したいときは、「**する**」を選びます。

- ゆがみを大きく補正するほど、画像周辺部は切り取られます。
- 自動ゆがみ補正を行う場合、シャッターをきってから、記録が始まるまで時間がかかることがあります。
- 動画撮影時は、自動ゆがみ補正の効果は適用されません。

自動ゆがみ補正の制限について

「**自動ゆがみ補正**」はGタイプ・Eタイプ・Dタイプレンズを装着した場合のみ機能します。ただし、PCレンズ、フィッシュアイレンズ、その他一部のレンズを装着した場合は機能しません。また、対応レンズ以外を装着した場合には、動作を保証しません。

色空間

MENU ボタン → 📷 撮影メニュー

記録する画像の色空間を指定します（色空間とは、モニターやプリンターで表現できる色の範囲のことです）。[sRGB] 色空間は、再生やプリントなど、一般的な用途で画像を楽しむのに適しています。[Adobe RGB] 色空間は [sRGB] 色空間に比べて色域が広いので、商業印刷などの業務用途に適しています。



📌 Adobe RGB色空間について

適切な色再現には、カラーマネジメント機能に対応したアプリケーション、モニター、プリンターなどの環境が必要です。

✔ 色空間についてのご注意

- 動画を撮影するときは、色空間を [sRGB] に設定することをおすすめします。
- 付属のソフトウェアViewNX 2または別売のCapture NX 2をお使いになると、正しい色空間での処理が自動的に行われます。他社製の画像閲覧用または画像編集用ソフトウェアを使うと、正しく色が表示されないことがあります。

長秒時ノイズ低減

MENU ボタン → 📷 撮影メニュー

低速シャッタースピードになったときに発生するノイズ（ざらつき、むら、輝点）を低減します。

する	シャッタースピードが1秒より低速になった場合に、長秒時ノイズの低減処理を行います。
しない	長秒時ノイズの低減処理を行いません。

長秒時ノイズ低減処理は、撮影後に行われます。処理中は、ファインダー内に **Long NR** が表示されます。この表示が消えるまで、撮影はできません。



長秒時ノイズの低減処理を行う場合、画像を記録するまでの時間は、長秒時ノイズ低減を行わない場合の約2倍になります。

✔ 長秒時ノイズ低減についてのご注意

処理中に電源をOFFにすると、長秒時ノイズ低減処理は行われません。

高感度ノイズ低減

MENUボタン → 撮影メニュー

感度が高くなるほど発生しやすいノイズ（ざらつき、むら、すじ）を低減します。

強め	全てのISO感度で高感度ノイズの低減処理を行います。ISO感度が高くなるほど効果的です。
標準	
弱め	• ノイズ低減の効果は、強い順に [強め] 、 [標準] 、 [弱め] になります。
しない	ノイズが発生しやすい条件下でのみ、ノイズ低減処理を行います。この場合のノイズ低減効果は [弱め] よりもさらに弱くなります。

ISO感度設定

MENUボタン → 撮影メニュー

ISO感度（□69）と感度自動制御を設定します。



■ 感度自動制御

撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で使えます。感度自動制御機能は、設定したISO感度で適正露出が得られない場合に、カメラが自動的にISO感度を変更する機能です。

する	カメラが自動的にISO感度を変更します。 • 制御上限感度と低速限界設定を設定してください。
しない	[ISO感度] （□69）で設定したISO感度に固定されます。

- **[する]** にしたときは、ISO感度の制御条件を設定してください。

制御上限感度	ISO感度が高くなると、低いときに比べて撮影した画像に多少ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生する場合があります。感度自動制御では、ISO感度が高くなりすぎないように上限感度（200～Hi 1）を設定できます。ISO感度の下限は100になります。
低速限界設定	撮影モード P または A で感度自動制御が働き始めるシャッタースピードを1/2000～1秒から設定できます。また、 [オート] に設定すると、レンズの焦点距離に応じてシャッタースピードの低速限界をカメラが自動で設定します（CPUレンズ装着時のみ）。 • [オート] を選んでマルチセレクトターの▶を押して、低速限界の補正を高速側または低速側に調整できます。 • ISO 感度を上欄の [制御上限感度] まで上げても露出不足になる場合は、適正露出を得るために、低速限界設定よりもさらにシャッタースピードが低速になります。

[感度自動制御] を [する] にすると、インフォ画面にISO-A、ファインダー内にISO-AUTOが表示されます。

- ISO-AUTOマークが点灯している場合は、[ISO感度] で設定したISO感度で撮影されます。
- ISO-AUTOマークが点滅している場合は、設定したISO感度では適正露出が得られないため、カメラがISO感度を変更していることを示しています。



✓ 感度自動制御についてのご注意

- ISO感度が高くなると、撮影した画像に多少ノイズ(ざらつき、むら、すじ)が発生する場合があります。
- [制御上限感度] で設定したISO感度よりも [ISO感度] (□69) で設定したISO感度が高い場合、[ISO感度] で設定したISO感度を制御上限感度として撮影します。
- 内蔵フラッシュ撮影時または別売スピードライト (□247) の装着時にフラッシュモードをスローシャッターに設定していても、背景の明るさがより適正になるように感度自動制御が機能してISO感度が自動的に上がり、シャッタースピードが低速にならないことがあります。
- 内蔵フラッシュまたは別売スピードライトを使って、i-TTL 以外の発光方式でフラッシュ撮影する場合 (□201、248)、[感度自動制御] を [する] にしていても、常に [ISO感度] で設定したISO感度で撮影します。

📎 インフォ画面の制御上限感度と低速限界設定表示について

[感度自動制御] が [する] の場合、インフォ画面のISO感度イメージに制御上限感度が、シャッタースピードイメージに低速限界設定が表示されます。

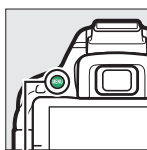
低速限界設定



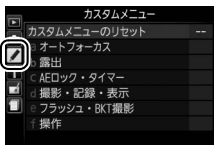
制御上限感度

カスタムメニュー：撮影に関するさらに詳細な設定

MENUボタンを押してタブの  アイコンを選ぶと、カスタムメニューが表示されます。



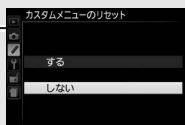
MENUボタン



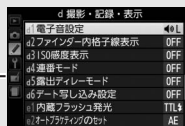
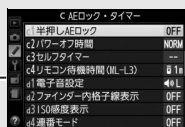
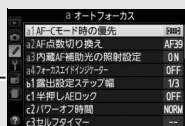
カメラの各種設定を撮影者の好みに合わせて変更できます。カスタムメニュー画面は2つの階層で構成されています。

<第2階層>

<第1階層>



カスタムメニューのリセット (191)



カスタムメニューの項目は、次の通りです。

カスタムメニュー項目	初期設定	□
カスタムメニューのリセット		191
a オートフォーカス		
a1：AF-Cモード時の優先	フォーカス	192
a2：AF点数切り換え	39点	192
a3：内蔵AF補助光の照射設定	する	192
a4：フォーカスエイドインジケーター	しない	193
b 露出		
b1：露出設定ステップ幅	1/3段	193
c AEロック・タイマー		
c1：半押しAEロック	しない	194
c2：パワーオフ時間	標準	194
c3：セルフタイマー	時間：10秒、撮影コマ数：1コマ	195
c4：リモコン待機時間（ML-L3）	1分	195
d 撮影・記録・表示		
d1：電子音設定	低音	196
d2：ファインダー内格子線表示	しない	196
d3：ISO感度表示	しない	196
d4：連番モード	しない	197
d5：露出ディレーモード	しない	198
d6：デート写し込み設定	しない	199
e フラッシュ・BKT撮影		
e1：内蔵フラッシュ発光	TTLモード	201
e2：オートブラケティングのセット	AEブラケティング	202
f 操作		
f1：Fnボタンの機能	ISO感度設定	202
f2：AE/AFロックボタンの機能	AE-L/AF-L	203
f3：コマンドダイヤル回転方向の変更	露出補正の設定時：□、 シャッタースピード/ 絞り値の設定時：□	204
f4：カードなし時リリース	リリース禁止	204
f5：インジケーターの+/-方向	→・↓・↑・←	204

設定できないカスタムメニュー項目について

撮影モードやカメラの状態によって、設定できないメニュー項目があります。この場合、その項目はグレーで表示されて選べません。

カスタムメニューのリセット

MENU ボタン →  カスタムメニュー

カスタムメニューをリセットして初期設定に戻します。

a : オートフォーカス

a1 : AF-Cモード時の優先

MENU ボタン →  カスタムメニュー

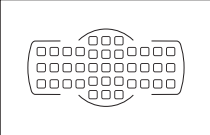
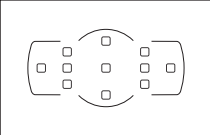
ファインダー撮影時のフォーカスモードが **[AF-C]** のとき (□□53) にシャッターボタンを押した場合の動作を設定できます。

 レリーズ	シャッターボタンを押すと、ピント状態に関係なくシャッターをきることができます。
 フォーカス	シャッターボタンを押しても、ピントが合うまでシャッターをきるできません。

a2 : AF点数切り換え

MENU ボタン →  カスタムメニュー

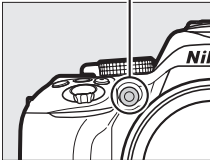
手動で選べるフォーカスポイントの数を設定できます。

AF39 39点	39点全てのフォーカスポイントを選べます。	
AF11 11点	11点のフォーカスポイントから選べます。フォーカスポイントの位置をすばやく動かしたいときに便利です。	

a3 : 内蔵AF補助光の照射設定

MENU ボタン →  カスタムメニュー

暗い場所でもAF補助光を自動的に照射させないように設定できます。

する	ファインダー撮影時にオートフォーカスでピントを合わせる場合、被写体が暗いときに自動的にAF補助光を照射します (撮影モードや設定によっては、AF補助光を照射しないことがあります (□□269))。	AF補助光ランプ 
しない	AF補助光を照射しません。被写体が暗いときなどは、オートフォーカスでのピント合わせができなくなる場合があります。	

a4：フォーカスエイドインジケータ

MENU ボタン → カスタムメニュー

M以外の撮影モードでマニュアルフォーカスで撮影するときに、ピントのズレ具合をファインダーで確認できます。

[する] に設定してフォーカスモードを [MF]（マニュアルフォーカス）（□53、59）にすると、ファインダー内の露出インジケータが、次のようなフォーカスエイドインジケータに切り替わります。

インジケータ	意味	インジケータ	意味
	フォーカスポイント内の被写体にピントが合っています。		被写体の少し後方にピントが合っています。
	被写体の少し前方にピントが合っています。		被写体のかなり後方にピントが合っています。
	被写体のかなり前方にピントが合っています。		ピントエラー（ピントを合わせられません）

フォーカスエイドインジケータについて

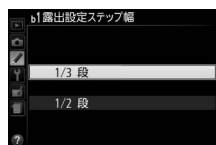
- 開放F値がF5.6以上明るいレンズで使えます。
- ライブビュー時には使えません。
- オートフォーカスの苦手な被写体（□54）では、適切に作動しないことがあります。

b：露出

b1：露出設定ステップ幅

MENU ボタン → カスタムメニュー

シャッタースピード、絞り値、オートブラケティング補正量、露出補正量、および調光補正量のステップ幅を設定できます。



c : AEロック・タイマー

c1 : 半押しAEロック

MENUボタン →  カスタムメニュー

シャッターボタンを半押ししたときにAEロックを行うかどうかを設定できます。

c2 : パワーオフ時間

MENUボタン →  カスタムメニュー

液晶モニターの表示時間、ライブビューの表示時間、および半押しタイマーがオフになるまでの時間を変更できます。インフォ画面の表示時間を変更したい場合は、**〔半押しタイマー〕** の設定を変えてください。

SHORT 短め	• [再生/メニュー表示] : SHORT 20秒、NORM 1分、LONG 5分
NORM 標準	• [撮影直後の画像確認] : SHORT 4秒、NORM 4秒、LONG 20秒
LONG 長め	• [ライブビュー表示] : SHORT 5分、NORM 10分、LONG 20分
	• [半押しタイマー] : SHORT 4秒、NORM 8秒、LONG 1分
 カスタマイズ	[再生/メニュー表示]、[撮影直後の画像確認]、[ライブビュー表示]、[半押しタイマー] の各時間をそれぞれ設定できます。各項目の設定後、  ボタンを押すと設定が有効になります。

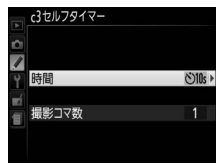
パワーオフ時間について

- パワーオフ時間が長いほど、バッテリーの消耗が早くなります。
- パソコンやPictBridge対応のプリンターを接続しているときは、**〔パワーオフ時間〕** の設定にかかわらず、ファインダー内表示や液晶モニターは消灯しません。

c3：セルフタイマー

MENU ボタン →  カスタムメニュー

セルフタイマー撮影時（□51）にシャッターボタンを全押ししてからシャッターがきるまでの時間と、撮影するコマ数を変更できます。



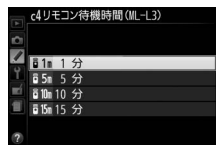
時間	シャッターがきるまでの時間を選べます。	
撮影コマ数	マルチセクターの▲または▼を押して、1コマ～9コマの間で設定できます。撮影コマ数を1コマ以外に設定した場合、約4秒間隔で連続撮影します。	

c4：リモコン待機時間（ML-L3）

MENU ボタン →  カスタムメニュー

ファインダー撮影時に、リモコンモード（□72）に設定してから、カメラが別売のリモコンML-L3からの信号を待ち受ける時間を設定します。

- リモコンモードにしてから、リモコン撮影をしないままで受信待機時間が過ぎると、リモコンモードが解除されます。
- リモコン待機時間を長くすると、カメラのバッテリーの消耗が早くなります。



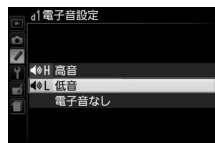
d：撮影・記録・表示

d1：電子音設定

MENUボタン →  カスタムメニュー

電子音を鳴るようにしたり、鳴らないようにしたりできます。

- [高音] または [低音] に設定すると、セルフタイマー撮影時、リモコン撮影時、オートフォーカスでピントが合ったときに電子音が鳴ります。



電子音設定時の表示について

[高音] または [低音] のときはインフォ画面に♪マークが、[電子音なし] のときはⓈマークが表示されます。



d2：ファインダー内格子線表示

MENUボタン →  カスタムメニュー

ファインダー内に構図用格子線（4）を表示するかどうかを設定できます。

d3：ISO感度表示

MENUボタン →  カスタムメニュー

ファインダー内の記録可能コマ数表示部に、ISO感度を表示するかどうかを設定できます。

ファイル名に使われるファイル番号の連番について設定できます。

する	SDカードを交換したり、画像を記録するフォルダーを変更しても、以前からの続きの連番でファイル番号が付きます。複数のSDカードを使って撮影してもファイル番号が重複しないため、撮影後の画像ファイルを管理しやすくなります。
しない	SDカードや画像を記録するフォルダーを変更するたびに、ファイル番号が「0001」に戻ります。画像を記録するフォルダー内にすでに画像ファイルがある場合は、次の番号からファイル番号が付きます。 連番モードを「する」から「しない」に変更しても、カメラはファイル番号を記憶しています。次に「する」に切り換えたときは、以前記憶した番号からの連番でファイル番号が付きます。
リセット	連番モードを「する」に設定したときのファイル番号をリセットします。リセットした後に撮影を行うと、新しいフォルダーが作成され、「0001」からの連番でファイル番号が付きます。

フォルダーの自動作成について

- 撮影中に記録フォルダー内に999個のファイルが記録された場合、SDカード内に存在する最大フォルダー番号+1という番号のフォルダーが自動的に作成され、記録フォルダーとしてそのフォルダーが選ばれます。
- 撮影中にファイル番号が9999となった場合、SDカード内に存在する最大フォルダー番号+1の番号のフォルダーが自動的に作成され、記録フォルダーとしてそのフォルダーが選ばれます。

ファイル番号について

- ファイル番号が9999に達したときに撮影を行うと、自動的に新規フォルダーが作成され、ファイル番号が0001番に戻ります。
- フォルダー番号が999に達しているときにファイル番号が9999に達するか、ファイル数が999個に達すると、それ以上フォルダーを作成できず、シャッターがきれなくなります。この場合は「連番モード」を「リセット」した後、SDカードを初期化するか交換してください。

ファイル名について

- このカメラで撮影した画像には、DSC_nnnn.xxx という名前が付けられます。nnnn には撮影順に 0001～9999までの数字が入ります。xxxにはファイルの種類によって、次の拡張子が入ります。
 - NEF：画質モードがRAWの場合
 - JPG：画質モードがFINE/NORMAL/BASICの場合
 - MOV：動画の場合
 - NDF：イメージダストオフデータの場合（㊦209）
- [動画編集]（㊦138）で作成した画像のファイル名は「DSC_nnnn.MOV」になります。
- [画像合成] および [動画編集] 以外の画像編集メニュー（㊦216）で作成した静止画のファイル名は「CSC_nnnn.JPG」になります。
- 撮影メニューの [色空間]（㊦187）を [Adobe RGB] にした場合は、ファイル名が「_DSCnnnn.xxx」（または「_CSCnnnn.xxx」となります）。

d5：露出ディレーモード

MENUボタン →  カスタムメニュー

露出ディレーモードにするかどうかを設定できます。

する	シャッターボタンを押すと最初にミラーが作動し、約1秒後にシャッターがきれます。顕微鏡撮影時などのカメラブレを最小限に抑えることができます。
しない	シャッターボタンを押すと同時にシャッターがきれます。

d6：デート写し込み設定

MENU ボタン →  カスタムメニュー

撮影する画像に直接日時を写し込みます。写し込まれた日時を画像から消したり、撮影した後で日時を写し込んだりすることはできません。

しない	日付、時刻のどちらも写し込みません。
DATE 年・月・日	撮影した画像の右下に、日付を写し込みます。2013.10.15
DATE 年・月・日・時刻	撮影した画像の右下に、日付と時刻を写し込みます。2013.10.15 10:02
 誕生日カウンター (□□200)	撮影した画像の右下に、撮影した日付と（誕生日など）登録した日までの日数を写し込みます。

デート写し込み設定をすると、インフォ画面に **DATE** が表示されます。



デート写し込みについてのご注意

- 年月日の並びは、[地域と日時] (□□211) での設定と同じになります。
- RAWを含む画質モード (□□61) の場合、日時を写し込みできません。
- 日時を写し込んだ画像を編集する場合 (□□216)、画像編集機能の種類によっては、写し込んだ日時が切れたり、きれいに表示されないことがあります。

■誕生日カウンターの使い方

誕生日や結婚式など記念日までの日数をカウントダウン形式で入れたり、お子様が産まれた日からの経過日数を入れたりするときなどに使います。日付は3種類まで登録できます。



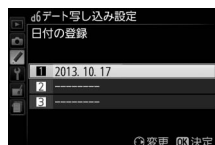
1 最初の日付を登録する

- [誕生日カウンター] を選んでマルチセクターの▶を押します。
- マルチセクターで日付を設定してからOKボタンを押すと、日付が登録されます。



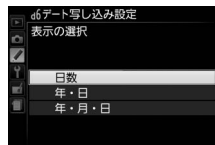
2 日付を追加する

- 最初の日付を登録すると、[日付の登録] 画面が表示されます。
- 日付を登録したい番号を選んで▶を押すと、[誕生日設定] 画面が表示され、続けて日付を登録できます。
- [日付の登録] 画面で番号を選んでOKボタンを押すと、選んだ番号の日付を撮影に使います。



3 日付の表示順を選ぶ

- [表示の選択] を選んで▶を押します。
- 日数の表示形式を選び、OKボタンを押します。



4 OKボタンを押して設定を完了する

誕生日カウンターを使って撮影した画像には、次のように日付が写し込まれます。



記念日まであと2日の場合



記念日から2日後の場合

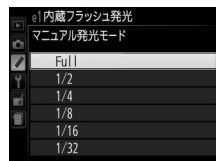
e：フラッシュ・BKT撮影

e1：内蔵フラッシュ発光

MENUボタン →  カスタムメニュー

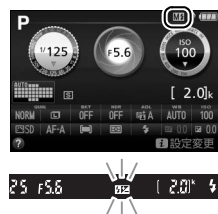
撮影モードP、S、A、Mで使えます。内蔵フラッシュの発光方式を設定できます。

TTL  TTLモード	内蔵フラッシュの光量は、撮影状況に応じて自動的に調節されます。
M  マニュアル 発光モード	選んだ発光量でフラッシュが発光します。 • [Full]（フル発光）に設定した場合、内蔵フラッシュのガイドナンバーは約13（ISO 100・m、20℃）となります。



フラッシュ調光補正マークの表示について

【マニュアル発光モード】にすると、フラッシュ使用時にインフォ画面にMFマークが、ファインダー内に  マークが点滅します。



別売スピードライトSB-400、SB-300について

別売スピードライトSB-400またはSB-300を装着してスピードライトの電源をONにすると、カスタムメニューe1【内蔵フラッシュ発光】がe1【外付けフラッシュ発光】に切り替わり、SB-400またはSB-300の発光方式を【TTLモード】または【マニュアル発光モード】に設定できます。

TTLモードについて

CPUレンズをお使いの場合、内蔵フラッシュの発光量は、次の2種類の制御方式のどちらかで決定されます。通常はi-TTL-BL調光ですが、測光モード（ 93）を  （スポット測光）にした場合は、スタンダードi-TTL調光になります。

i-TTL-BL調光	2016分割RGBセンサーによる測光情報を元に、メインの被写体と背景のバランスを考慮して発光量を決定します。
スタンダードi-TTL調光	背景の明るさを考慮せず、メインの被写体を基準にして発光量を決定します。

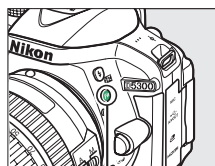
e2：オートブラケティングのセット MENU ボタン → カスタムメニュー

オートブラケティングの種類を、[AEブラケティング]、[WBブラケティング]、[ADLブラケティング] から選べます。[オートブラケティングのセット] で設定できる項目については、「明るさ、ホワイトバランス、アクティブD-ライティングを変えながら撮影する（オートブラケティング撮影）」をご覧ください（□112）。

f：操作

f1：Fnボタンの機能 MENU ボタン → カスタムメニュー

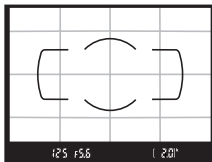
Fnボタンを押したときの機能を設定できます。



Fnボタン

QUAL	画質モード/ 画像サイズ設定	Fnボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、画質モード（□61）と画像サイズ（□63）の組み合わせが切り替わります。
ISO	ISO感度設定	Fnボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、ISO感度（□69）が切り替わります。
WB	ホワイトバランス設定	Fnボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、ホワイトバランス（□105）が切り替わります（撮影モードP、S、A、Mのみ）。
	アクティブD-ライティング 設定	Fnボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すとアクティブD-ライティング（□98）が切り替わります（撮影モードP、S、A、Mのみ）。
HDR	HDR設定	Fnボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すとHDR（ハイダイナミックレンジ）（□100）が切り替わります（撮影モードP、S、A、Mのみ）。
+RAW	プラスRAW記録	画質モードがJPEG（FINE）、JPEG（NORMAL）、JPEG（BASIC）の場合、Fnボタンを押してから、1回の撮影のみRAW画像を同時記録します。シャッターをきるか、もう一度Fnボタンを押すと、[プラスRAW記録] を解除します。撮影モードが、、、、、のときは、Fnボタンを押してもプラスRAW記録は設定できません。

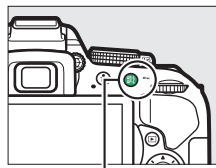
BKT オートブラケットング	Fn ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、現在選択されているオートブラケットングの内容を設定します。カスタムメニュー e2 [オートブラケットングのセット] が[AEブラケットング] または [WBブラケットング] の場合は補正ステップを設定できます。[ADLブラケットング] の場合はON/OFFを設定できます (□112) (撮影モード P、S、A、M のみ)。
[*] AFエリアモード設定	Fn ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、AFエリアモード (□55、125) が切り替わります。
 ファインダー内格子線表示	Fn ボタンを1回押すと、ファインダーに格子線を表示します。もう一度 Fn ボタンを押すと、格子線表示を終了します。
 Wi-Fi	Fn ボタンを押すと、セットアップメニューの [Wi-Fi] 画面 (□176) を表示します。



f2：AE/AFロックボタンの機能

MENU ボタン →  カスタムメニュー

 () ボタンを押したときの機能を設定できます。



 () ボタン

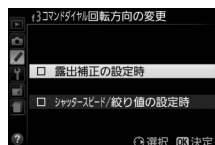
 AE-L/AF-L	 () ボタンを押すと、AEロック (□94) とフォーカスロック (□57) が同時に行われます。
 AE-L	 () ボタンを押すと、AEロックだけが行われます。
 AE-L (ホールド)	 () ボタンを押すと、カメラの半押しタイマーがオフになるか、もう一度  () ボタンを押すまで、AEロックが維持されます。シャッターをきってもAEロックは解除されません。
 AF-L	 () ボタンを押すと、フォーカスロックだけが行われます。
 AF-ON	 () ボタンを押すと、オートフォーカスが作動します。この場合、シャッターボタンの半押しではオートフォーカスは作動しません。

f3：コマンドダイヤル回転方向の変更

MENU ボタン →  カスタムメニュー

露出補正や調光補正の設定時（[露出補正の設定時]）、シャッタースピードや絞り値の設定時（[シャッタースピード/絞り値の設定時]）にコマンドダイヤルを操作するときの回転方向を逆方向に変更できます。

- [露出補正の設定時] または [シャッタースピード/絞り値の設定時] を選び、マルチセクターの▶を押してチェックボックスをオン☒にします。もう一度▶を押すと、チェックボックスがオフ☐になります。
-  ボタンを押すと、設定を完了します。



f4：カードなし時リリース

MENU ボタン →  カスタムメニュー

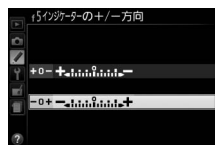
カメラにSDカードを入れていないときのリリース操作を設定できます。

LOCK リリース禁止	SDカードを入れていないときは、シャッターはきれません。
OK リリース許可	SDカードを入れていないときでも、シャッターがきれます。ただし、SDカードが入っていないときに撮影した画像は液晶モニターに表示されますが、画像上に[デモモード]と表示され、プリントやSDカードへの保存はできませんのでご注意ください。

f5：インジケータの+/-方向

MENU ボタン →  カスタムメニュー

ファインダー内表示、インフォ画面での露出、露出補正、オートブラケットの+と-方向を入れ換えることができます。

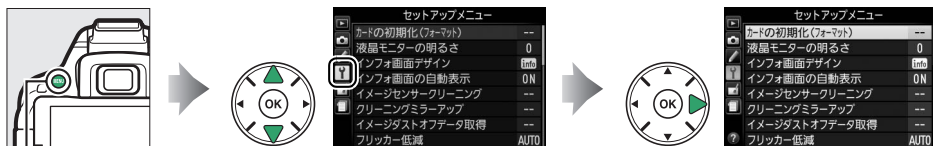


+0- +. -	インジケータの+側を左に、-側を右に表示します。
-0+ -. +	インジケータの-側を左に、+側を右に表示します。

🔧 セットアップメニュー：

カメラを使いやすくする基本設定

MENUボタンを押してタブの🔧アイコンを選ぶと、セットアップメニューが表示されます。



MENUボタン

セットアップメニューの項目は次の通りです。

項目	初期設定	📖
カードの初期化 (フォーマット)	—	206
液晶モニターの明るさ	0	206
インフォ画面デザイン		
AUTO/SCENE/ EFFECTSモード	グラフィック デザイン	206
P/S/A/Mモード	グラフィック デザイン	
インフォ画面の 自動表示	自動表示する	209
イメージセンサークリーニング		
電源スイッチに連動	電源ONと OFFで実行	257
クリーニングミラー アップ※1	—	259
イメージダスト オフデータ取得	—	209
フリッカー低減	オート	210
地域と日時※2		
夏時間の設定	しない	211
言語(Language)※2	—	211
縦横位置情報の記録	する	212

項目	初期設定	📖
画像コメント	—	213
位置情報		
位置情報記録	しない	76
GPS設定	—	82
ログ取得	—	78
ログリスト	—	81
ビデオ出力※2	—	213
HDMI		
出力解像度	オート	173
機器制御	する	
リモート操作		
リモート撮影	静止画撮影	214
Fnボタンの機能	カメラのFn ボタンと同じ	214
Wi-Fi		
通信機能	無効	176
接続設定	—	176
Eye-Fi送信機能※3	有効	214
認証マークの表示	—	215
ファームウェア バージョン	—	215

※1 バッテリー残量表示が🔋以下のときは選べません。

※2 販売地域によって異なります。

※3 この機能に対応したEye-Fiカードを挿入したときのみ表示されます。



設定できないセットアップメニュー項目について

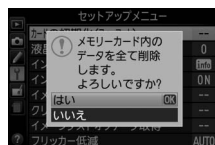
カメラの状態によって、設定できないメニュー項目があります。この場合、その項目はグレーで表示されて選べません。

カードの初期化（フォーマット） MENUボタン→ セットアップメニュー

このカメラに他の機器で使ったSDカードを初めて入れたときは、必ずこのカメラで初期化してからお使いください。**SDカードを初期化すると、カード内のデータは全て削除されます。**必要なデータがある場合は、初期化する前にパソコンなどに保存してください（ 161）。

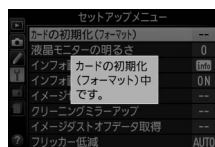
1 【カードの初期化（フォーマット）】画面で 【はい】を選ぶ

- 初期化をキャンセルするには、【いいえ】を選びます。



2 ボタンを押す

- 初期化が完了してセットアップメニュー画面に戻るまで、電源をOFFにしたり、バッテリーやSDカードを取り出したりしないでください。



液晶モニターの明るさ

MENUボタン→ セットアップメニュー

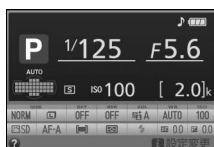
液晶モニターの明るさを、マルチセクターの▲または▼を押して調整できます。+にすると明るく、-にすると暗くなります。



インフォ画面デザイン

MENUボタン→ セットアップメニュー

インフォ画面（ 6）のデザインを、次のような「クラシックデザイン」、「グラフィックデザイン」の2種類から選べます。インフォ画面デザインは、[AUTO/SCENE/EFFECTSモード]と[P/S/A/Mモード]でそれぞれ設定できます。



クラシックデザイン（ 208）

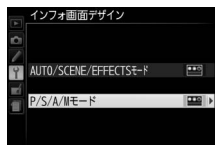


グラフィックデザイン（ 6）

■ インフォ画面デザインの設定方法

1 撮影モードを選ぶ

- インフォ画面デザインを変更したい撮影モードを、**「AUTO/SCENE/EFFECTSモード」** と **「P/S/A/Mモード」** から選んでマルチセクターの▶を押します。



2 背景色を選ぶ

- ▲▼◀▶を押して、設定したい画面デザインを選びます。

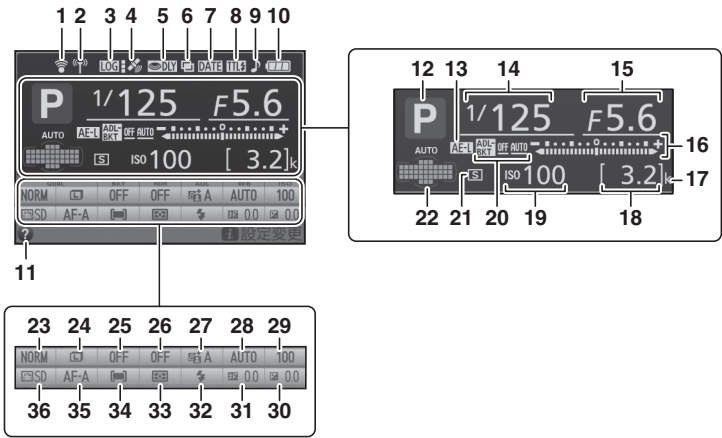


3 OKボタンを押して設定を完了する



■ クラシックデザインについて

「クラシックデザイン」の表示内容は次の通りです（説明のため、全ての表示を点灯させています）。



1	Eye-Fi通信マーク	214	13	AEロックマーク	94	23	画質モード	61
2	Wi-Fi通信表示	174	14	シャッタースピード	86	24	画像サイズ	63
3	ログ取得表示	78	15	絞り値	86	25	オートブラケティング	112
4	衛星受信状態マーク	76	16	インジケター		26	HDR (ハイダイナミックレンジ)	100
5	露出ディレイモードマーク	198		露出	90	27	アクティブD-ライティング	98
6	多重露出マーク	102		露出補正	95	28	ホワイトバランス	105
7	デート写し込み設定マーク	199		AEブラケティング	114	29	ISO感度	69
8	フラッシュ発光方式マーク	201		WBブラケティング	114	30	露出補正值	95
	スピードライト調光補正マーク	249	17	1000コマ以上補助表示	14	31	フラッシュ調光補正值	97
9	電子音マーク	196	18	記録可能コマ数	14	32	フラッシュモード	64
10	バッテリー残量表示	16		ホワイトバランスプリセット		33	測光モード	93
11	ヘルプあり表示	8、275		マニュアルデータ		34	AFエリアモード	55、125
12	撮影モード			取得モード表示	108	35	フォーカスモード	53、124
	④ (オート) または			PCカメラモード表示		36	ピクチャーコントロール	116
	⑤ (発光禁止オート) で							
	撮影する	19	19	ISO感度	69			
	シーンに合わせて撮影する	30		ISO-AUTOマーク	189			
	特殊効果をつけて撮影する	37	20	オートブラケティングマーク	112			
	撮影モードP、S、A、Mを使う	85		ADLブラケティング度合い	114			
			21	レリーズモード	47			
			22	オートエリアAF設定マーク	55			
				3D-トラッキング設定マーク	55			
				フォーカスポイント	57			

インフォ画面の自動表示

MENUボタン → セットアップメニュー

- [自動表示する] の場合、シャッターボタンを半押しして指を放すだけで、液晶モニターにインフォ画面を表示できます。
- [自動表示しない] の場合、インフォ画面を表示するには、 ボタンを押してください。

イメージダストオフデータ取得

MENUボタン → セットアップメニュー

別売のCapture NX 2 (□252) の「イメージダストオフ機能」を使うためのデータを取得します。イメージダストオフとは、カメラの撮像素子前面に付いたゴミの写り込みをRAW画像から取り除く機能です。イメージダストオフ機能については、Capture NX 2 の使用説明書をご覧ください。

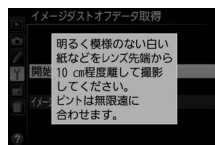
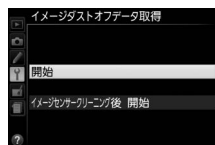
■ イメージダストオフデータ取得の手順

1 イメージダストオフデータの取得方法を選ぶ

- [開始] を選んで ボタンを押すと、[イメージダストオフデータ取得] 画面が表示されます。



- [イメージセンサークリーニング後 開始] を選んで ボタンを押すと、すぐにイメージセンサークリーニングを実行します。イメージセンサークリーニングの実行後に、[イメージダストオフデータ取得] 画面が表示されます。
- ファインダー内に、右のように表示されます。
- データ取得を取り消したいときは、MENU ボタンを押してください。

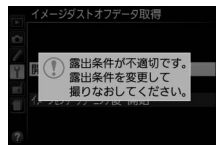


2 レンズ先端から10cm程度離れた、明るく白い無地の被写体を画面いっぱいにとらえ、シャッターボタンを半押しする

- オートフォーカスのときは、カメラが自動的に無限遠にピントを合わせます。
- マニュアルフォーカスのときは、手動で無限遠に合わせてください。

3 シャッターボタンを全押しして撮影する

- 被写体が明るすぎ、または暗すぎたために、データが取得できなかった場合は、液晶モニターに右の画面が表示され、手順1の状態に戻ります。被写体の明るさを変えて、もう一度撮影してください。



✓ イメージセンサークリーニングについてのご注意

イメージセンサークリーニングを実行する前に取得したイメージダストオフデータは、クリーニング実行後に撮影した画像とゴミの位置が一致なくなるため、Capture NX 2のイメージダストオフ機能を使用できません。イメージセンサークリーニング機能とイメージダストオフ機能を併用する場合は、**「イメージセンサークリーニング後 開始」**を選択後に撮影することをおすすめします。

✓ イメージダストオフデータ取得についてのご注意

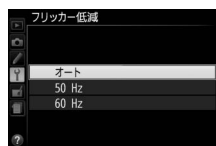
- 非CPUレンズをお使いの場合は、**「イメージダストオフデータ取得」**を選べません。
- お使いになるCPUレンズは、焦点距離が50mm以上のものをおすすめします（□□241）。
- ズームレンズは望遠側にしてください。
- 取得したイメージダストオフデータは、データ取得後にレンズや絞り値を変更して撮影した画像にも適用できます。
- イメージダストオフデータは画像処理ソフトウェアなどで開けません。
- イメージダストオフデータをカメラで再生すると、右の画面が表示されます。



フリッカー低減

MENU ボタン → セットアップメニュー

蛍光灯や水銀灯などの光源下で、ライブビュー表示中（□□123）や動画撮影時（□□132）に画面にちらつきや横縞が生じる「フリッカー現象」を低減できます。通常はカメラが自動的に電源周波数を選ぶ**「オート」**をお使いください。**「オート」**でフリッカー低減効果が得られない場合は、お使いの地域の電源周波数に応じて、**「50 Hz」**と**「60 Hz」**から選びます。



✓ フリッカー低減についてのご注意

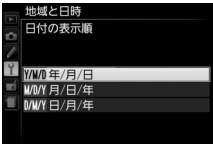
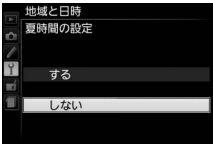
- 「オート」**でもフリッカー低減効果が得られない場合や電源周波数がわからない場合は、設定を切り換えて試し撮りすることをおすすめします。
- 被写体が非常に明るい場合、フリッカー低減効果が得られない場合があります。撮影モード**A**または**M**で、ライブビュー開始前に絞りを絞り込んで（より大きい数値にして）ください。
- 撮影メニュー**「動画の設定」**の**「動画のマニュアル設定」**が**「する」**で、撮影モードが**M**の場合、フリッカー低減は機能しません（□□136）。

地域と日時

MENUボタン →  セットアップメニュー

現在地と日時、年月日の表示順を設定します。



現在地の設定	現在地のタイムゾーンを選びます。現在地のタイムゾーンを変更すると、[日時の設定] で設定された日時が、時差に合わせて自動的に更新されます。	
日時の設定	[現在地の設定] で選ばれているタイムゾーンの時刻を設定します。	
日付の表示順	液晶モニターに表示される日付の年、月、日の表示順を、[年/月/日]、[月/日/年]、[日/月/年]から選びます。	
夏時間の設定	現在地で夏時間（サマータイム制）が実施されている場合は [する] に、そうでない場合は [しない] に設定します。[する] にすると、時刻が1時間進みます。	

言語 (Language)

MENUボタン →  セットアップメニュー

メニュー画面やメッセージの表示言語を選びます。

縦横位置情報の記録

MENU ボタン →  セットアップメニュー

撮影時のカメラの縦横位置情報を画像に記録できます。

する	撮影時に横位置で撮影したか、縦位置で撮影したかを画像情報として記録できます。液晶モニターで再生するときや、付属のViewNX 2または、別売のCapture NX 2で画像を再生するときも、記録した情報を利用して自動的に回転して表示できます。  横位置  縦位置 時計回りに90°回転  縦位置 反時計回りに90°回転
しない	縦横位置情報は記録されず、再生時には常に横位置で表示します。

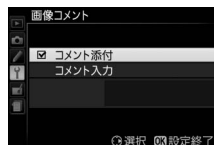
縦横位置情報記録についてのご注意

カメラを上向きまたは下向きにして撮影したり流し撮りすると、縦横位置情報が正しく得られない場合があります。

再生メニュー【縦位置自動回転】

再生メニューの【縦位置自動回転】(□183)では、【縦横位置情報の記録】を【する】に設定して縦位置で撮影された画像を、液晶モニターに縦位置で表示するように変更できます。

あらかじめコメントを登録しておき、撮影する画像に添付できます。添付されたコメントは、付属の ViewNX 2 や別売の Capture NX 2 (□252) のメタデータで確認できます。



■ コメント入力

36文字までのコメントを登録できます。[コメント入力] を選んでマルチセクターの▶を押すと表示される入力画面でコメントを入力します。入力画面での文字の入力方法については、「カスタムピクチャーコントロールを登録する」の手順6をご覧ください(□121)。

■ コメント添付

登録したコメントを画像に添付したいときは、[コメント添付] を選び、マルチセクターの▶を押してチェックボックスをオン☒にします。Ⓞ ボタンを押すと、その後撮影した画像には全てコメントが添付されます。

画像情報に表示される画像コメントについて

添付された画像コメントは、「撮影情報」の「画像コメント」に表示されます(□145)。

ビデオ出力

テレビやビデオなどに接続する場合のビデオ出力方式を設定します。

NTSC	NTSC方式のテレビやビデオに接続する場合に使います。通常、日本国内でお使いの場合は、こちらを選びます。
PAL	PAL方式のテレビやビデオに接続する場合に使います。

■■ リモート撮影

別売のリモートコードまたはワイヤレスリモートコントローラー（□252、253）のシャッターボタンを押したときの動作を設定できます。

 静止画撮影	ワイヤレスリモートコントローラーまたはリモートコードのシャッターボタンを全押しすると、静止画を撮影します。
 動画撮影	- ワイヤレスリモートコントローラーまたはリモートコードのシャッターボタンを押して、次の操作を行います： - シャッターボタンを半押しする：ライブビューを開始します。フォーカスモードが [AF-S] または [AF-F] の場合、ライブビュー中にシャッターボタンを半押しするとピント合わせを行います。 - シャッターボタンを全押しする：動画撮影を開始します。もう一度全押しすると、動画撮影を終了します。 - ライブビューを終了するには、カメラのライブビュースイッチを回してください（□123）。

■■ Fnボタンの機能

ワイヤレスリモートコントローラーのFnボタンを押したときの機能を設定できます。

 カメラの  ボタンと同じ	カメラの  (○Fn) ボタンと同じ機能になります（□203）。
 ライブビュー	ワイヤレスリモートコントローラーのFnボタンを押すとライブビューを開始し、もう一度Fnボタンを押すとライブビューを終了します。

Eye-Fi送信機能

このメニューは、市販のEye-Fiカードをカメラに挿入したときのみ、表示されます。

有効	カメラで作成した画像を、あらかじめ設定した保存先へ送信します。
無効	Eye-Fi送信機能を使用しません。

- 電波の状態が悪い場合、**[有効]** に設定していても送信できないことがあります。
- 電波の出力が禁止されている場所では、設定を **[無効]** にしてください。

Eye-Fi送信機能が無効のときの警告表示について

[無効] に設定しているときでも、カードにエラーが生じた場合などに電波が出力される場合があります。液晶モニターに警告表示（□276）が表示された場合は、カメラの電源をOFFにしてカードを取り出してください。

Eye-Fiカード使用時の表示について

カメラ内のEye-Fiカードの通信状態は、インフォ画面のEye-Fi通信マークで確認できます。

- ：「Eye-Fi送信機能」が【無効】に設定されています。
- （点灯）：画像の送信を待っています。
- （点滅）：画像の送信中です。
- ：未送信の画像はありません。
- ：エラーが発生しました。



アドホックモードの接続について

アドホックモードを使う場合は、通信の手続きに時間がかかることがあるため、セットアップメニュー「パワーオフ時間」の「半押しタイマー」を長めに設定してください（□□194）。

Eye-Fiカードを使用するときのご注意

- Eye-Fi カードの使用方法は Eye-Fi カードの使用説明書をご覧ください。カードに関する不具合は、カードメーカーにお問い合わせください。
- このカメラにはEye-Fiカードの通信機能をON/OFFする機能がありますが、Eye-Fiカードの全ての機能を保障するものではありません。
- Eye-Fiカードは、ご購入された国でのみ使用が認められています。使用する国の法律に従ってお使いください。
- Eye-Fiカードの販売の有無は地域によって異なりますので、カードメーカーにお問い合わせください。
- Eye-Fiカードのファームウェアを最新版にバージョンアップしてお使いください。

認証マークの表示

MENUボタン →  セットアップメニュー

このカメラが取得している認証マークの一部を表示します。

ファームウェアバージョン

MENUボタン →  セットアップメニュー

カメラを制御する「ファームウェア」のバージョンを表示します。

画像編集メニュー：撮影した画像に行う編集機能

MENUボタンを押してタブのアイコンを選ばと、画像編集メニューが表示されます。



MENUボタン

画像編集メニューでは、SDカード内の撮影済み画像を編集することができます。編集された画像は、元の画像とは別に、新しい画像としてSDカードに記録されます。画像編集メニューの項目は次の通りです。

- カメラにSDカードが入っていない場合やSDカードに画像が記録されていない場合は、画像編集メニューはグレーで表示されて選べません。

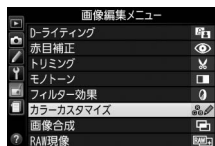
メニュー項目		メニュー項目	
 D-ライティング	218	 傾き補正	228
 赤目補正	219	 ゆがみ補正	229
 トリミング	219	 魚眼効果	229
 モノトーン	220	 塗り絵	230
 フィルター効果	221	 カラースケッチ	230
 カラーカスタマイズ	222	 アオリ効果	231
 画像合成	223	 ミニチュア効果	232
 RAW現像	225	 セレクトカラー	233
 リサイズ	226	 動画編集	138
 簡単レタッチ	228	 編集前後の画像表示※	235

※ 編集前または編集後の画像を1コマ表示してボタンを押して、「[画像編集]」を選んだときのみ表示されます。

画像編集の操作方法

1 画像編集メニューでメニュー項目を選ぶ

- マルチセレクトターの▲または▼でメニュー項目を選び、▶を押します。



2 画像を選ぶ

- ▲▼◀▶を押して画像を選び、OK ボタンを押します。
- Q ボタンを押している間は、選択中の画像が拡大表示されます。



3 画像を編集する

- 画像の編集方法については、各項目の説明をご覧ください。
- 画像編集を途中でやめるには、MENU ボタンを押してください。画像編集メニューに戻ります。



4 編集した画像を記録する

- OK ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。
- 画像編集した画像には📎が付きます。ただし、1コマ表示モードで「画像のみ表示」(□142) にしている場合は、📎は表示されません。



📎 1コマ表示モードで選んだ画像を編集する

1コマ表示モード(□141)で静止画を選んでからi ボタンを押して「画像編集」を選ぶと、画像編集メニューが表示され、選んだ画像を編集できます(「画像合成」を除く)。

✔ 画像編集についてのご注意

このカメラ以外で撮影または編集した画像やパソコンで編集した画像は、このカメラでは再生または編集できないことがあります。

📎 画質モードについて

- 元画像がRAWを含む画質モードで撮影された画像の場合、「画質モード」(□61)が[FINE]のJPEG画像になります。
- 元画像がJPEGの場合は、元画像と同じ画質モードになります。
- RAWとJPEGを同時に記録した場合(□61)は、RAW画像が画像編集の対象になります。

画像サイズについて

- 元画像がRAWを含む画質モードで撮影された画像の場合、[画像サイズ] (□63) が [□] (サイズL) のJPEG画像になります。
- 元画像がJPEGの場合は、元画像と同じ画像サイズになります ([トリミング] と [リサイズ] を除く)。

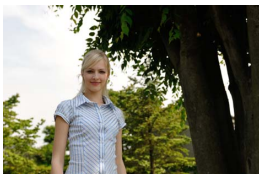
繰り返し画像編集する場合のご注意

- 画像編集によって作成した画像に、さらに画像編集を行うこともできますが、画像が粗くなったり、退色したりする場合があります。
- 同じ画像編集を繰り返し行うことはできません ([画像合成]、[動画編集] の [始点/終点の設定] を除く)。
- 画像編集の組み合わせによっては、繰り返し編集できないものもあります。
- 選択中の画像に使用できない画像編集項目は、画像編集メニューでグレーで表示されて選ばれません。

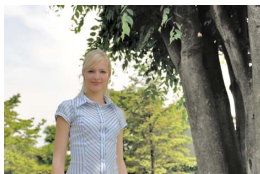
D-ライティング

MENUボタン →  画像編集メニュー

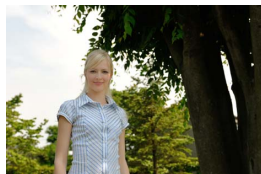
D-ライティングでは、画像の暗い部分を明るく補正できます。逆光で撮影したために顔の部分だけが暗くなった画像や、フラッシュの光量不足で暗くなった画像などに効果的です。



D-ライティング前



D-ライティング後



D-ライティング後
(人物優先あり)

- 編集画面では、D-ライティング効果の適用前と適用後のプレビュー画像を表示します。
- マルチセクターの ◀ または ▶ を押して、効果の度合いを選びます。
- OK ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

■■ 人物優先

背景の明るさはそのままに、人物のみを補正することもできます。

- [人物優先] を選び、▶ を押してチェックボックスをオン ☒ にしてください。

[人物優先] について

- カメラが自動的に認識した人物に対して補正します。
- ポーズや絵柄によっては、望ましい効果が得られない場合があります。そのときは、[人物優先] のチェックボックスをオフ ☐ にしてください。
- 最大3人まで補正できます。
- セットアップメニュー [縦横位置情報の記録] (□212) を [しない] にして撮影した画像の場合は、[人物優先] を設定できません。

赤目補正

MENUボタン →  画像編集メニュー

フラッシュ撮影時の「赤目現象」によって人物の瞳の部分が赤くなってしまった画像を補正できます。

- フラッシュを発光しないで撮影した画像は選べません。
- カメラが赤目現象を検出できない画像は補正されません。
- **OK** ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

✓ 赤目補正についてのご注意

赤目補正を行う場合は、次のことにご注意ください。

- 画像によっては、望ましい結果が得られないことがあります。
- ごくまれに赤目以外の部分が補正されることがあります。

赤目補正を行う場合は、画像を保存する前に、プレビュー画像で効果をよく確認してください。

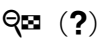
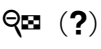
トリミング

MENUボタン →  画像編集メニュー

画像の必要な部分だけを切り抜きます。

編集画面では、トリミング範囲の黄色い枠が表示され、次の操作ができます。



切り抜く範囲を狭くする		 ボタンを押すごとにトリミングで切り抜かれる範囲が狭くなります。
切り抜く範囲を広くする		 ボタンを押すごとにトリミングで切り抜かれる範囲が広がります。
画像のアスペクト比（縦横比）を変更する		コマンドダイヤルを回すと、アスペクト比を3：2、4：3、5：4、1：1、16：9に変更できます。
画面をスクロール（移動）する		トリミングで切り抜く範囲を移動します。画面をスクロールさせて、切り抜きたい部分をプレビュー画像に表示します。
トリミングを実行して画像を保存する		トリミングした画像が記録されます。

✓ トリミングした画像についてのご注意

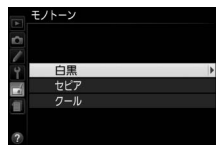
- 拡大表示できないことがあります。
- トリミングした画像の画像サイズは編集画面の左上に表示されます（トリミング時の拡大率とアスペクト比により変わります）。

モノトーン

MENUボタン →  画像編集メニュー

モノトーンの画像（1種類の色の明暗のみで構成される画像）を作成します。

〔モノトーン〕を選ぶと、右のメニューが表示され、色調を選ぶことができます。



白黒	モノクロになります。
セピア	セピア色（褐色）のモノトーンになります。
クール	ブルー系のモノトーンになります。

- 〔セピア〕または〔クール〕を選んだ場合は、マルチセクターで色の濃さを調整できます。▲を押すと色が濃くなり、▼を押すと色が薄くなります。調整した色の濃さはプレビュー画像に反映されます。

濃くする



薄くする

-  ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。



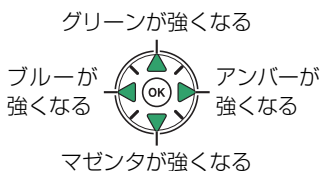
フィルター効果

MENUボタン → 画像編集メニュー

スカイ ライト	スカイライトフィルターのように、画像の青みを抑える効果があります。	
ウォーム トーン	画像を暖色にする効果があります。	
赤強調	赤色が強調されます。	 マルチセクターで強調の度合い（色の濃さ）を調整できます。▲を押すと色が濃くなり、▼を押すと色が薄くなります。
緑強調	緑色が強調されます。	
青強調	青色が強調されます。	
クロス スクリーン	クロスフィルターのように、太陽の反射や街灯などの光源から、放射状に光のすじが伸びる効果があります。 • [光線の本数]：光線の本数を、3種類から選べます。 • [クロスの量]：クロスフィルターがかかる光源の量を3段階から選べます。 • [光線の傾き]：光線の傾きを3段階から選べます。 • [光線の長さ]：放射状に伸びる光の長さを3段階から選べます。	 【確認】を選んで $\odot$ ボタンを押すと、現在設定している内容を画像に反映します。 $\odot$ ボタンを押している間、1コマ表示モードと同じ大きさで画像を確認できます。保存する場合は【保存】を選んで $\odot$ ボタンを押してください。
ソフト	ソフトフィルターのように、画像をソフトな雰囲気仕上げてます。	 ◀または▶を押して、効果の度合いを選びます。

- $\odot$ ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

右のような画面が表示され、マルチセクターで画像全体の色調を調整できます。▲▼◀▶を押すたびに、画面全体の色調が次のように変わります。



色調を操作すると、プレビュー画像と画面右側のRGBヒストグラム（色の分布図 □143）に反映されます。

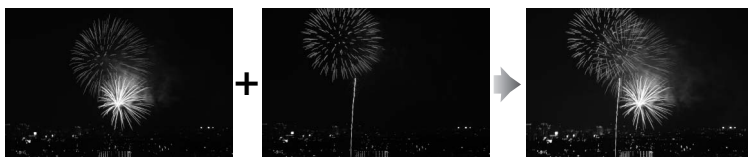
- ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

プレビュー画像の拡大表示について

調整画面で ボタンを押すと、プレビュー画像を拡大表示し、拡大領域のヒストグラムを表示することができます。拡大表示中に () ボタンを押すと、色調の調整と拡大表示の操作を切り換えられます。拡大表示中に ▲▼◀▶ を押すと画面をスクロールして、見たい部分に移動できます。 (?) ボタンを押すと画像を縮小表示します。

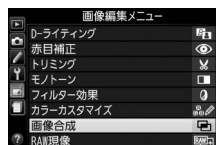


SDカードに記録されているRAW画像2コマを重ね合わせて1コマの画像に合成できます。RAWデータを使用して合成するため、通常のアプリケーションソフトウェアなどで画像を合成する場合と比べ、階調特性に優れた画像になります。



1 画像編集メニュー画面で「画像合成」を選ぶ

- 「画像合成」を選んでマルチセクターの▶を押します。



2 「画像1」を選ぶ

- 「画像1」を選んでOKボタンを押すと、RAW画像がサムネイル表示されます。



3 合成する画像の1コマ目を選ぶ

- マルチセクターを操作して、1コマ目の画像を選びます。
- Qボタンを押している間、選択画像を拡大表示できます。



4 1コマ目の画像を決定する

- OKボタンを押すと、選んだ画像が1コマ目に設定され、「画像1」欄にプレビューが表示されます。



5 2コマ目の画像を選ぶ

- ▶を押して「画像2」を選び、手順2～4と同じ手順で2コマ目の画像を選びます。



6 ゲインを調節する

- プレビュー欄に「画像1」と「画像2」を合成した画像が表示されます。プレビュー欄で確認しながら、合成した画像の明るさが適正になるように、「画像1」または「画像2」を選んでから▲または▼を押してゲイン（出力）を設定します。
- ゲインは0.1～2.0の範囲で、0.1ステップで設定できます。
- 各数値は初期設定の1.0（補正なし）を基準にした比率です。たとえば0.5にするとゲインは約半分になります。



7 プレビュー欄に移動する

- ◀または▶を押して、プレビュー欄に移動します。
- 画像合成結果を確認せずに画像を保存したいときは、「保存」を選んでⓀボタンを押してください。



8 合成した画像を確認する

- 「合成」を選び、Ⓚボタンを押すと、画像合成結果の確認画面が表示されます。
- 設定をやり直したいときは、Q&A(?)ボタンを押してください。手順6の画面に戻ります。



9 合成した画像を保存する

- もう一度Ⓚボタンを押すと、合成した画像が保存されます。



✓ 画像合成についてのご注意

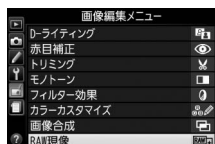
- 合成できる画像は、このカメラで撮影したRAW画像だけです。機種異なるカメラやRAW以外の画質モードで撮影した画像は選べません。
- 合成した画像の画質モード（□□61）と画像サイズ（□□63）は、カメラで設定している画質モードと画像サイズになります。画像合成を行う前に、これらの設定をご確認ください。
- 合成した画像をさらに別の画像と合成したいときは、カメラの画質モードをRAWに設定してください。
- 「RAW記録」（□□184）が同じ設定のRAW画像のみ合成できます。
- 合成した画像の撮影データなどは、画像1で選んだ画像の内容を引き継ぎます。

RAW 現像 (パソコンを使わずに RAW画像をJPEG画像に変換する)

MENUボタン →  画像編集メニュー

1 画像編集メニュー画面で [RAW現像] を選ぶ

- [RAW 現像] を選んでマルチセクターの ► を押すと、RAW画像がサムネイル表示されます。

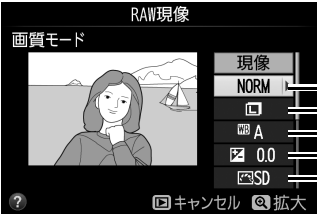


2 RAW現像する画像を選ぶ

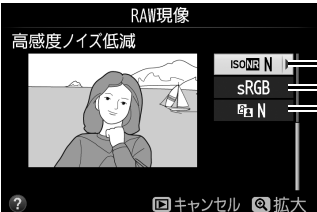
- ▲▼◀▶ で画像を選んで OK ボタンを押します。
-  ボタンを押している間、選択画像を拡大表示できます。



3 表示されている各項目をそれぞれ設定する



- 画質モード (□61)
- 画像サイズ (□63)
- ホワイトバランス (□105)
- 露出補正 (□95)
- ピクチャーコントロール (□116)



- 高感度ノイズ低減 (□188)
- 色空間 (□187)
- D-ライティング (□218)

4 RAW現像する

- [現像] を選んで OK ボタンを押すと、JPEG画像を保存します。
- キャンセルして画像編集メニューに戻るときは、MENU ボタンを押してください。



✓ RAW現像についてのご注意

- RAW現像できる画像は、このカメラで撮影したRAW画像だけです。機種異なるカメラで撮影したRAW画像やRAW以外の画質モードで撮影した画像は選べません。
- 多重露出撮影した画像や「画像合成」で編集した画像の場合、「ホワイトバランス」を選べません。
- 露出補正で設定できる明るさは目安です。撮影時の露出補正とは効果が異なる場合があります。

リサイズ

MENUボタン → 画像編集メニュー

■■ 複数の画像を選んで同時にリサイズする

MENUボタンを押して画像編集メニューを選んだ場合、複数の画像を同時にリサイズして保存できます。

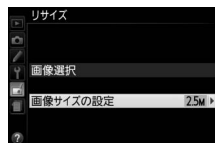
1 画像編集メニュー画面で「リサイズ」を選ぶ

- 「リサイズ」を選んでマルチセレクターの▶を押します。



2 「画像サイズの設定」を設定する

- 「画像サイズの設定」を選んで▶を押します。



- ▲または▼で画像サイズを選び、OKボタンを押します。



3 「画像選択」を選ぶ

- 「画像選択」を選んで▶を押します。



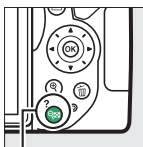
4 リサイズしたい画像を選ぶ

- マルチセクターを操作して、リサイズしたい画像を選びます。
-  ボタンを押している間、選択画像を拡大表示します。



5 設定する

-  (?) ボタンを押して設定します。設定すると  が表示されます。もう一度  (?) ボタンを押すと、 が消えます。
- リサイズする画像全てに設定したら、 ボタンを押します。

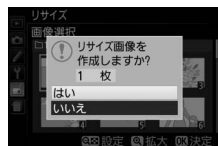


 (?) ボタン



6 リサイズした画像を作成する

- 確認画面で **[[はい]]** を選び、 ボタンを押すと、リサイズ画像が保存されます。



リサイズした画像についてのご注意

拡大表示できないことがあります。

簡単レタッチ

MENUボタン →  画像編集メニュー

カメラがD-ライティングの機能を使って、画像の暗い部分を明るく補正したり、コントラストと彩度（色の鮮やかさ）を高めます。

- マルチセクターの◀または▶を押して、効果の度合いを選びます。
-  ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

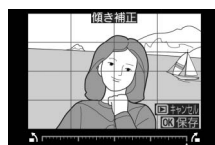


傾き補正

MENUボタン →  画像編集メニュー

画像の傾きを±5°の範囲（約0.25°ステップ）で補正できます。

- 補正する傾きが大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。



傾きを補正する		マルチセクターの▶を押すと時計回りに傾き、◀を押すと反時計回りに傾きます。
傾き補正を実行して 画像を保存する		傾き補正した画像が記録されます。

ゆがみ補正

MENUボタン →  画像編集メニュー

広角レンズ使用時のたる型のゆがみや、望遠レンズ使用時の糸巻き型のゆがみを補正できます。[オート] を選ぶと選択した画像のゆがみを自動的に判別して補正しますが、好みに応じて微調整することもできます。[マニュアル] を選ぶと自分でゆがみを補正できます。



- [オート] はGタイプ・Eタイプ・Dタイプレンズで撮影した画像のみ機能します。ただし、PCレンズ、フィッシュアイレンズ、その他一部のレンズを装着して撮影した画像の場合は機能しません。また、対応レンズ以外で撮影した画像については、動作を保証しません。
- [自動ゆがみ補正] (□186) を行った画像の場合、[マニュアル] のみ選べます。
- 補正するゆがみが大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。

ゆがみを補正する		• たる型のゆがみを補正するには、マルチセクターの▶を押します。 • 糸巻き型のゆがみを補正するには、◀を押します。
ゆがみ補正を実行して画像を保存する		ゆがみ補正した画像が記録されます。

魚眼効果

MENUボタン →  画像編集メニュー

フィッシュアイ(魚眼)レンズで撮影したような画像になります。

- 魚眼効果が大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。



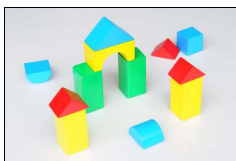
魚眼効果を調節する		マルチセクターの▶を押すほど、魚眼効果は大きくなり、◀を押すほど小さくなります。
魚眼効果を実行して画像を保存する		魚眼効果の画像が記録されます。

塗り絵

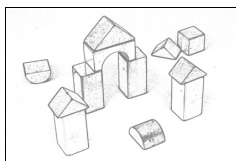
MENUボタン → 画像編集メニュー

輪郭を抽出して塗り絵の原画風の画像を作成できます。

- **OK** ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。



塗り絵処理前



塗り絵処理後



カラスケッチ

MENUボタン → 画像編集メニュー

輪郭を抽出して色をつけることで、スケッチ風の画像を作成できます。



色の濃さを変える		マルチセクターの▲または▼で「色の濃さ」を選んだ後、▶を押すと色が濃くなり、◀を押すと薄くなります。
線の濃さを変える		▲または▼で「線の濃さ」を選んだ後、▶を押すと線が濃くなり、◀を押すと薄くなります。「線の濃さ」を濃くすると、画像全体の色も濃くなります。
カラスケッチ画像を保存する		カラスケッチ画像が記録されます。

ミニチュア（模型）を接写したように加工します。ミニチュア効果には、高いところから見下ろして撮影した画像が適しています。

- [ミニチュア効果] を選ぶと、黄色い枠（ぼかさない範囲）が表示されます。

効果をかける方向を変える		Q (?) ボタンを押すと、効果をかける方向を縦と横から選べます。
ぼかさない範囲を決める		横方向に効果をかける場合、マルチセクターの▲または▼を押して枠を動かし、ぼかさないではっきりと見せる範囲を選びます。 ぼかさない範囲
		縦方向に効果をかける場合、◀または▶を押して枠を動かし、ぼかさないではっきりと見せる範囲を選びます。 ぼかさない範囲
効果をかける幅を変える		横方向に効果をかける場合、◀または▶で効果をかける幅の広さを選びます。
		縦方向に効果をかける場合、▲または▼で効果をかける幅の広さを選びます。
ミニチュア効果を実行して画像を保存する		ミニチュア効果の画像が記録されます。

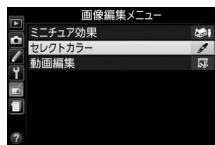
セレクトカラー

MENUボタン → 画像編集メニュー

選択した色のみを残し、それ以外の色をモノトーン（白黒）に加工します。

1 画像編集メニュー画面で【セレクトカラー】を選ぶ

- 【セレクトカラー】を選んでマルチセクターの ▶ を押します。



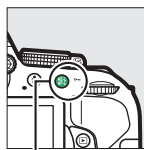
2 加工する画像を選ぶ

- ▲▼◀▶で画像を選んで、OKボタンを押します。
- ㉑ボタンを押している間、選択画像を拡大表示できます。



3 残したい色を抽出する

- ▲▼◀▶を押して、色取得の枠を画像上の残したい色に重ねます。
- ㉑ボタンを押すと拡大表示され、残したい色を細部まで確認できます。㉒(?)ボタンを押すと縮小表示します。
- ㉓(ON)ボタンを押すと、色の枠に抽出した色が表示されます。



㉓ (ON) ボタン



4 色の感度の枠を選ぶ

- コマンドダイヤルを回して、色の感度の枠を選びます。
- 抽出した色以外の色は、モノトーンで表示されます。



5 抽出する色の感度を設定する

- ▲または▼を押して、抽出する色の感度を [1] ～ [7] から設定します。数値が大きいほど抽出する色の色相が広くなり、小さいほど狭くなります。



6 抽出する色を追加する

- コマンドダイヤルを回して、別の色の枠と感度の枠を選び、手順3～5と同じ手順で色を抽出し、色の感度を設定します。
- 最大3色まで設定できます。
- 抽出した色の枠を選んで $\leftarrow$ ボタンを押すと、抽出した色をリセットします。
- 抽出した全ての色を削除したい場合は、 $\leftarrow$ ボタンを押し続けます。確認画面で「はい」を選んで $\odot$ ボタンを押すと、全ての色をリセットします。



7 決定する

- $\odot$ ボタンを押すと、セレクトカラー画像が保存され、1コマ表示になります。



✓ セレクトカラー設定時のご注意

- 残したい色の彩度によっては、抽出しにくい場合があります。彩度の高い色の抽出をおすすめします。
- 色の感度を高く設定しすぎると、選択した色に近い色相の色も抽出されます。

編集前後の画像表示

画像編集を行った画像を、元画像と並べて表示して、画像編集の効果を確認できます。このメニュー項目は、編集元または編集後の画像を1コマ表示してから **i** ボタンを押して、**〔画像編集〕** を選んだときのみ表示されます。

■ 編集前後の画像表示方法

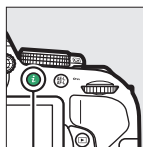
1 1コマ表示モードで画像を選ぶ

- 画像編集で作成した画像（ が表示されている画像）または画像編集の元画像を選びます。

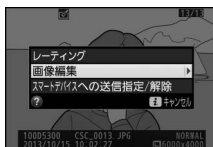


2 〔画像編集〕を選ぶ

- **i** ボタンを押し、**〔画像編集〕** を選んで **OK** ボタンを押します。

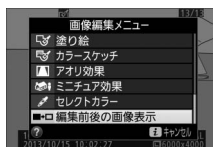


i ボタン



3 〔編集前後の画像表示〕を選ぶ

- **〔編集前後の画像表示〕** を選んで **OK** ボタンを押すと、**〔編集前後の画像表示〕** 画面を表示します。



4 編集前と編集後の画像を比較する

- 編集前の画像を左側、編集後の画像を右側に表示します。
- 画像編集の内容は、2つの画像の上に表示されます。
- マルチセレクターの◀または▶で、編集前/編集後の画像を切り換えられます。
- 画像合成の元画像の場合、▲または▼で2枚の元画像を切り換えられます。
- 1枚の元画像から複数の画像編集を行った場合、▲または▼で編集後の画像を切り換えられます。
- ㊄ ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- ㊌ ボタンを押すと、黄色の枠で選択中の画像を1コマ表示モードで再生します。

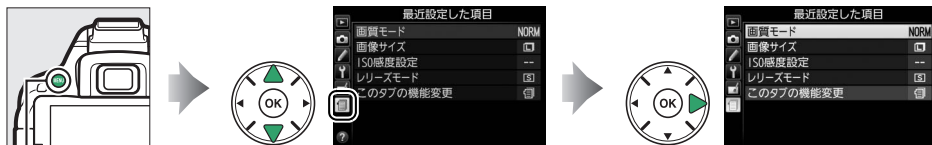


✓ 編集前後の画像表示についてのご注意

編集時の元画像にプロテクト（□151）が設定されている場合や、元画像を削除した場合、編集前の画像は表示されません。

📄 最近設定した項目 / 📄 マイメニュー

MENU ボタンを押してタブの📄アイコンを選ぶと、[最近設定した項目] 画面が表示されます。



MENU ボタン

[このタブの機能変更] でタブの機能を変更することにより、最近設定したメニューと自分で登録したマイメニューの表示を切り換えられます。

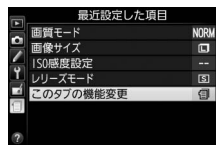
📄 最近設定した項目	最後に設定したメニュー項目から順番に20項目が自動的に表示されます。
📄 マイメニュー	各メニューから、よく使う項目だけを選んで、20項目までマイメニューに登録できます。

■「最近設定した項目」をマイメニューに変更する

[最近設定した項目] は、[このタブの機能変更] からマイメニューに変更することもできます。

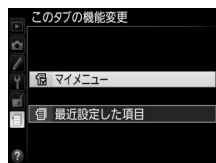
1 [最近設定した項目] 画面で [このタブの機能変更] を選ぶ

- [このタブの機能変更] を選んでマルチセレクトターの▶を押します。



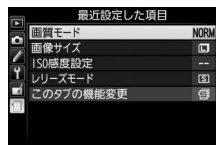
2 [マイメニュー] を選ぶ

- [このタブの機能変更] 画面で [マイメニュー] を選び、OK ボタンを押します。
- [最近設定した項目] が [マイメニュー] に切り替わります。
- マイメニューの操作方法は、📄238をご覧ください。



📖 最近設定したメニューをたどる（最近設定した項目）

最後に設定したメニュー項目から順番に最新の20項目が自動的に表示されます。マルチセクターで設定したいメニュー項目を選んで▶を押すと、選択した項目の設定画面が表示されます。



📌 最近設定した項目を削除するには

【最近設定した項目】画面で削除したい項目を選んで⏏ボタンを押すと、確認画面が表示されます。もう一度⏏ボタンを押すと、選択した項目を削除します。

📖 よく使うメニューを登録する（マイメニュー）

再生、撮影、カスタム、セットアップ、画像編集の各メニューから、よく使う項目だけを選んで、20項目までマイメニューに登録できます。登録した項目は、削除したり、表示順序を変えたりできます。

■ マイメニューに登録する

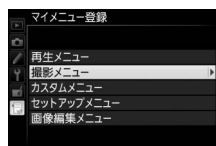
1 【マイメニュー】画面で【マイメニュー登録】を選ぶ

- 【マイメニュー登録】を選んで▶を押します。



2 登録したいメニューを選ぶ

- 登録したいメニューを選んで▶を押すと、選んだメニューが一覧表示されます。



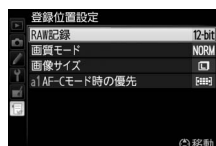
3 マイメニューに登録する項目を選ぶ

- マイメニューに登録する項目を選んで Ⓚ ボタンを押します。



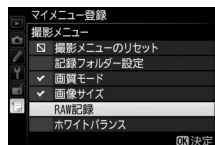
4 登録する項目の表示位置を選ぶ

- ▲または▼で登録する項目の表示位置を選んで Ⓚ ボタンを押します。
- 手順1～4を繰り返して、マイメニューに表示したい全ての項目を登録してください。



マイメニュー登録について

- ✓が表示されている項目は、すでにマイメニューに登録済みです。
- 左横に  が表示されている項目は、マイメニューに登録できません。



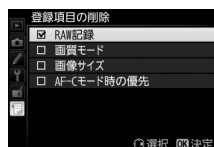
■登録した項目を削除する

1 【マイメニュー】画面で【登録項目の削除】を選ぶ

- 【登録項目の削除】を選んでマルチセクターの▶を押します。

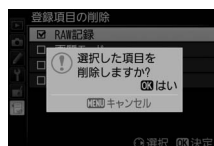
2 削除したいメニュー項目を選ぶ

- 削除したいメニュー項目を選び、▶を押してチェックボックスをオン ☒ にします。もう一度▶を押すと、チェックボックスがオフ ☐ になります。
- 削除したい全ての項目に✓を入れます。



3 選んだ項目を削除する

-  ボタンを押すと、確認画面が表示されます。もう一度  ボタンを押すと、選択した項目が削除されます。



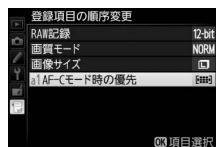
■ 登録した項目の表示順序を変える

1 [マイメニュー] 画面で [登録項目の順序変更] を選ぶ

- [登録項目の順序変更] を選んでマルチセクターの▶を押します。

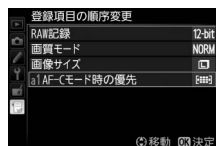
2 順番を変えたい項目を選ぶ

- 順番を変えたい項目を選んでOKボタンを押します。



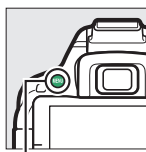
3 選んだ項目を移動したい位置を選ぶ

- ▲または▼で移動したい位置を選んでOKボタンを押すと、マイメニューの中で位置が変わります。
- 必要に応じて手順2～3を繰り返します。



4 [マイメニュー] 画面に戻る

- MENUボタンを押すと、[マイメニュー] 画面に戻ります。



MENUボタン



資料

このカメラで使えるアクセサリやカメラの主な仕様など、カメラを使うときに役立つ情報を記載しています。また、カメラの動作がおかしいときや警告メッセージが表示されたときの対処方法についても説明しています。

使用できるレンズ

このカメラでオートフォーカスでピントを合わせるには、AF-SレンズまたはAF-Iレンズが必要です。AF-SまたはAF-Iは、レンズ名の次の部分に明示されています。

AF-S DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VR

レンズ名のこの部分がAF-SまたはAF-Iであることをご確認ください。

このカメラで使用できるCPUレンズとレンズの仕様によるファインダー撮影時の制限は次の通りです。

レンズ	モード	フォーカスモード			撮影モード		測光モード		
		AF (オート フォーカス)	フォーカス エイド	MF (マニュアル フォーカス)	M	M以外	マルチパターン 測光		中央部重点 測光/ スポット測光
							3D-RGB	RGB	
AF-Iレンズ、AF-Sレンズ		○	○	○	○	○	○	×	○※1
Gタイプレンズ、DタイプのAFレンズ		×	○	○	○	○	○	×	○※1
PC-E NIKKORシリーズ※2,3		×	○※4	○	○	○	○	×	○※1
PCマイクロ 85mm F2.8D※5		×	○※4	○	○	×	○	×	○※1
AF-S/AF-Iテレコンバーター※6		○※7	○※7	○	○	○	○	×	○※1
Gタイプ、Eタイプ、Dタイプ以外のAF レンズ (F3AF用を除く)		×	○※8	○	○	○	×	○	○※1
AI-Pニコッール		×	○※9	○	○	○	×	○	○※1

※1 フォーカスポイントの選択によりスポット測光エリアの移動が可能 (□93)。

※2 PC-E NIKKOR 24mm f/3.5D EDの装着時にアオリ操作をすると、レンズとカメラボディーが接触してキズが付いたり、ケガをする可能性があります。充分ご注意ください。

※3 アオリ操作をしているときは適正露出になりません。

※4 アオリ操作をしていない場合のみ可能。

※5 アオリ操作をしているとき、または開放絞り以外のときは適正露出になりません。

※6 AF-Sレンズ、AF-Iレンズ専用。

※7 合成絞り値がF5.6以上明るい場合に使用可能。

※8 AF80-200mm f/2.8S、AF35-70mm f/2.8S、AF28-85mm f/3.5-4.5S (New)、AF28-85mm f/3.5-4.5Sレンズを使用し、ズームの望遠側かつ至近距離で撮影した場合、ファインダースクリーンのマット面の像とオートフォーカスのピント表示が合致しない場合があります。このような場合は、マニュアルフォーカスによりファインダースクリーンのマット面を利用してピントを合わせて撮影してください。

※9 開放F値がF5.6以上明るいレンズのみ使用可能。

- ・高感度で動画撮影を行う場合、オートフォーカスの作動中にノイズ (すじ) が発生することがあります。この場合は、マニュアルフォーカスまたはフォーカスロックを利用して撮影してください。

✓ 使用できるレンズについてのご注意

AF-SやAF-I以外のオートフォーカス（AF）レンズを装着しても、このカメラではオートフォーカス撮影できません。また、IXニッコールレンズは装着できません。

🔑 CPUレンズ、Gタイプレンズ、Eタイプレンズ、Dタイプレンズの見分け方

CPUレンズにはCPU信号接点があります。Gタイプレンズには「G」マークが、Eタイプレンズには「E」マークが、Dタイプレンズには「D」マークが付いています。GタイプレンズとEタイプレンズには、絞りリングがありません。



- 絞りリングのあるCPUレンズを取り付ける場合は、最小絞り（一番大きい数値）にして、ロックしてください。

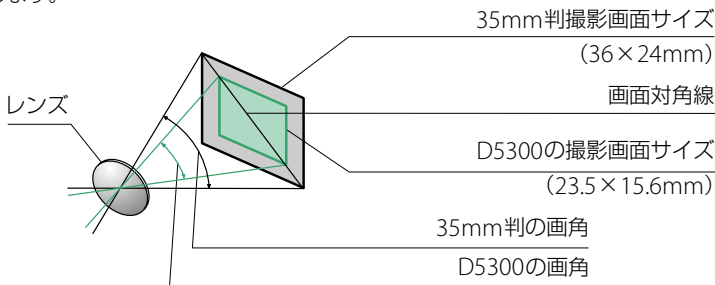
🔑 マルチパターン測光について

このカメラは2016分割RGBセンサーを搭載しています。Gタイプ、EタイプまたはDタイプレンズ（□242）使用時は、このセンサーから得られるさまざまな情報を最大限に利用できる「3D-RGBマルチパターン測光Ⅱ」という測光方式になります。その他のCPUレンズをお使いのときは、距離情報を考慮しない「RGBマルチパターン測光Ⅱ」という測光方式になります。

🔑 レンズの画角と焦点距離について

D5300ではさまざまな二コンー眼レフカメラ用レンズが使えます。ただし、これらのレンズをD5300に装着したときの画角は、レンズに表記されている焦点距離の1.5倍のレンズに相当する画角になります。これは35mm判カメラの撮影画面サイズ（36×24mm）に対して、D5300の撮影画面（23.5×15.6mm）が小さいためです。

例：D5300に24mmのレンズを装着した場合の画角は、35mm判カメラ換算でおおよそ36mmの焦点距離となります。



✓ 赤目軽減モードについてのご注意

レンズの種類によっては、赤目軽減ランプの光がさえぎられ、フラッシュ撮影時に十分な赤目軽減効果が得られない場合があります。

AF補助光撮影（☞54）に制限のあるレンズについてのご注意

使用できるAFレンズの焦点距離は18～200mm、AF補助光が届く距離範囲の目安は約0.5mから3mです。AF補助光使用時は、レンズフードを取り外してください。

AF補助光を使ってオートフォーカス撮影ができないレンズ

- AF-S NIKKOR 14–24mm f/2.8G ED
- AF-S NIKKOR 28–300mm f/3.5–5.6G ED VR
- AF-S DX NIKKOR 55–300mm f/4.5–5.6G ED VR
- AF-S VR Zoom-Nikkor 70–200mm f/2.8G IF-ED
- AF-S NIKKOR 70–200mm f/2.8G ED VR II
- AF-S Zoom-Nikkor 80–200mm f/2.8D IF-ED
- AF-S NIKKOR 80–400mm f/4.5–5.6G ED VR
- AF-S VR Nikkor 200mm f/2G IF-ED
- AF-S NIKKOR 200mm f/2G ED VR II
- AF-S VR Zoom-Nikkor 200–400mm f/4G IF-ED
- AF-S NIKKOR 200–400mm f/4G ED VR II

次のレンズでは、撮影距離1m以内でAF補助光がレンズによってさえぎられる場合があります。
この場合、AF補助光を使ったオートフォーカス撮影はできません。

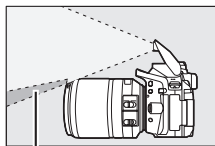
- AF-S DX NIKKOR 10–24mm f/3.5–4.5G ED
- AF-S NIKKOR 16–35mm f/4G ED VR
- AF-S Zoom-Nikkor 17–35mm f/2.8D IF-ED
- AF-S DX Zoom-Nikkor 17–55mm f/2.8G IF-ED
- AF-S NIKKOR 18–35mm f/3.5–4.5G ED
- AF-S DX NIKKOR 18–105mm f/3.5–5.6G ED VR
- AF-S DX VR Zoom-Nikkor 18–200mm f/3.5–5.6G IF-ED
- AF-S DX NIKKOR 18–200mm f/3.5–5.6G ED VR II
- AF-S DX NIKKOR 18–300mm f/3.5–5.6G ED VR
- AF-S NIKKOR 24–70mm f/2.8G ED
- AF-S VR Zoom-Nikkor 24–120mm f/3.5–5.6G IF-ED
- AF-S NIKKOR 24–120mm f/4G ED VR
- AF-S NIKKOR 28mm f/1.8G
- AF-S Zoom-Nikkor 28–70mm f/2.8D IF-ED
- AF-S NIKKOR 35mm f/1.4G
- AF-S NIKKOR 70–200mm f/4G ED
- AF-S NIKKOR 70–200mm f/4G ED VR
- AF-S NIKKOR 85mm f/1.4G
- AF-S VR Micro-Nikkor 105mm f/2.8G IF-ED

✓内蔵フラッシュ撮影に制限のあるレンズについてのご注意

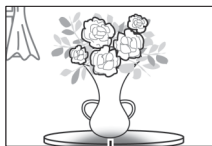
内蔵フラッシュ撮影には、焦点距離が18mmから300mmまでのレンズが使えます。

- ケラレ※を防止するため、レンズフードは取り外して使用してください。

※ケラレとは、内蔵フラッシュの光がレンズの先端でさえぎられて影になり、写真に映り込む現象です。



ケラレ



ケラレ

- 撮影距離0.6m未満では使用できません。
- マクロ付きズームレンズはマクロ領域では使用できません。
- 次のCPUレンズではフラッシュの光がさえぎられるため、焦点距離や撮影距離に制限があります。

レンズ	ケラレなく撮影できる焦点距離と撮影距離
AF-S DX NIKKOR 10–24mm f/3.5–4.5G ED	• 焦点距離24mmでは撮影距離1.5m以上
AF-S DX Zoom-Nikkor 12–24mm f/4G IF-ED	• 焦点距離24mmでは撮影距離1m以上
AF-S NIKKOR 16–35mm f/4G ED VR	• 焦点距離35mmでは撮影距離1m以上
AF-S DX NIKKOR 16–85mm f/3.5–5.6G ED VR	• 焦点距離24mm以上は制約なし
AF-S Zoom-Nikkor 17–35mm f/2.8D IF-ED	• 焦点距離28mmでは撮影距離1m以上 • 焦点距離35mmでは制約なし
AF-S DX Zoom-Nikkor 17–55mm f/2.8G IF-ED	• 焦点距離28mmでは撮影距離1.5m以上 • 焦点距離35mmでは撮影距離1m以上 • 焦点距離45mm以上は制約なし
AF-S NIKKOR 18–35mm f/3.5–4.5G ED	• 焦点距離24mmでは撮影距離1.5m以上 • 焦点距離28mmでは撮影距離1m以上 • 焦点距離35mmでは制約なし
AF Zoom-Nikkor 18–35mm f/3.5–4.5D IF-ED	• 焦点距離24mmでは撮影距離1m以上 • 焦点距離28mm以上は制約なし
AF-S DX Zoom-Nikkor 18–70mm f/3.5–4.5G IF-ED	• 焦点距離18mmでは撮影距離1m以上 • 焦点距離24mm以上は制約なし
AF-S DX NIKKOR 18–105mm f/3.5–5.6G ED VR	• 焦点距離18mmでは撮影距離2.5m以上 • 焦点距離24mmでは撮影距離1m以上
AF-S DX Zoom-Nikkor 18–135mm f/3.5–5.6G IF-ED	• 焦点距離18mmでは撮影距離2m以上 • 焦点距離24mm以上は制約なし
AF-S DX NIKKOR 18–140mm f/3.5–5.6G ED VR	• 焦点距離24mmでは撮影距離1m以上 • 焦点距離35mm以上は制約なし
AF-S DX VR Zoom-Nikkor 18–200mm f/3.5–5.6G IF-ED AF-S DX NIKKOR 18–200mm f/3.5–5.6G ED VR II	• 焦点距離24mmでは撮影距離1m以上 • 焦点距離35mm以上は制約なし
AF-S DX NIKKOR 18–300mm f/3.5–5.6G ED VR	• 焦点距離35mm以上では撮影距離1m以上
AF Zoom-Nikkor 20–35mm f/2.8D IF	• 焦点距離24mmでは撮影距離2.5m以上 • 焦点距離28mmでは撮影距離1m以上 • 焦点距離35mmでは制約なし
AF-S NIKKOR 24mm f/1.4G ED	• 撮影距離1m以上
AF-S NIKKOR 24–70mm f/2.8G ED	• 焦点距離35mmでは撮影距離1.5m以上 • 焦点距離50mm以上は制約なし
AF-S VR Zoom-Nikkor 24–120mm f/3.5–5.6G IF-ED	• 焦点距離24mmでは撮影距離1m以上 • 焦点距離28mm以上は制約なし

レンズ	ケラレなく撮影できる焦点距離と撮影距離
AF-S NIKKOR 24–120mm f/4G ED VR	焦点距離 24mm では撮影距離 1.5m 以上
AF-S Zoom-Nikkor 28–70mm f/2.8D IF-ED	- 焦点距離 35mm では撮影距離 1.5m 以上 - 焦点距離 50mm 以上は制約なし
AF-S NIKKOR 28–300mm f/3.5–5.6G ED VR	- 焦点距離 28mm では撮影距離 1.5m 以上 - 焦点距離 35mm では撮影距離 1m 以上
AF-S VR Zoom-Nikkor 200–400mm f/4G IF-ED	- 焦点距離 250mm では撮影距離 2.5m 以上 - 焦点距離 350mm では撮影距離 2m 以上
AF-S NIKKOR 200–400mm f/4G ED VR II	- 焦点距離 200mm では撮影距離 5m 以上 - 焦点距離 250mm では撮影距離 3m 以上 - 焦点距離 300mm 以上は制約なし
PC-E NIKKOR 24mm f/3.5D ED	アオリ操作をしていない状態で撮影距離 3m 以上
AF-S NIKKOR 14–24mm f/2.8G ED 使用時は、全ての撮影距離でケラレが発生します。	

使用できる非CPUレンズ※1

モード レンズ	フォーカスモード			撮影モード	
	AF (オートフォーカス)	フォーカスエイド	MF (マニュアルフォーカス)	M	M以外
AI-S、AI、シリーズEレンズ、AI改造レンズ	×	○※2	○	○※3	×
メディカル120mm f/4	×	○	○	○※4	×
レフレックスレンズ	×	×	○	○※3	×
PCニッコール	×	○※5	○	○※3	×
AI-S、AIテレコンバーター	×	○※6	○	○※3	×
ペロースアタッチメントPB-6 ※7	×	○※2	○	○※3	×
オート接写リング (PK-11A、12、13、PN-11)	×	○※2	○	○※3	×

※1 一部装着不可能なレンズがあります（下記参照）。

※2 開放F値がF5.6以上明るいレンズのみ使用可能。

※3 露出インジケータは使用不可。

※4 フラッシュ同調シャッタースピードより1段以上低速のシャッタースピードで使用可。露出インジケータは使用不可。

※5 アオリ操作をしていない場合のみ可能。

※6 合成絞り値がF5.6以上明るい場合に使用可能。

※7 縦位置にして装着してください（装着後、横位置に戻すことは可能です）。

✓ 非CPUレンズについてのご注意

- 非CPUレンズ装着時は、撮影モード**M**で撮影してください。**M**以外の撮影モードでは、シャッターがきけません。
- 絞り値の設定や確認はレンズの絞りリングで行ってください。
- カメラの露出計は使えません。
- 測光モードは設定できません。
- i-TTLモードでのフラッシュ撮影などの機能は使えません。

✓ 使用できない非CPUレンズ

次の非CPUレンズは使用できません。無理に装着しようとすると、カメラやレンズを破損しますのでご注意ください。

- AFテレコンバーター TC-16AS
- AI改造をしていないレンズ（AI方式以前の連動爪を使用するタイプ）
- フォーカシングユニットAU-1を必要とするレンズ（400mm f/4.5、600mm f/5.6、800mm f/8、1200mm f/11）
- フィッシュアイ（6mm f/5.6、7.5mm f/5.6、8mm f/8、OP10mm f/5.6）
- 2.1cm f/4
- K2リング
- ED180–600mm f/8（製品No.174041～174180）
- ED360–1200mm f/11（製品No.174031～174127）
- 200–600mm f/9.5（製品No.280001～300490）
- F3AF用（AF80mm f/2.8、AF ED200mm f/3.5、テレコンバーター TC-16S）
- PC28mm f/4（製品No.180900以前の製品）
- PC35mm f/2.8（製品No.851001～906200）
- 旧PC35mm f/3.5
- 旧レフレックス1000mm f/6.3
- レフレックス1000mm f/11（製品No.142361～143000）
- レフレックス2000mm f/11（製品No.200111～200310）

外付けのスピードライトについて（別売フラッシュ）

このカメラは、ニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライトとの組み合わせで、さまざまな機能が利用できます。なお、別売スピードライト装着時は、内蔵フラッシュは発光しません。

ニコンクリエイティブライティングシステム対応 スピードライトについて

	ガイドナンバー（ISO 100・m/ISO 200・m、20℃）
SB-910※1	34/48（照射角35mm、スタンダード配光時）
SB-900※1	34/48（照射角35mm、スタンダード配光時）
SB-800	38/53（照射角35mm時）
SB-700※1	28/39（照射角35mm、スタンダード配光時）
SB-600	30/42（照射角35mm時）
SB-400※2	21/30
SB-300※2	18/25
SB-R200※3	10/14

- ※1 カメラのホワイトバランスを **AUTO**（オート）または （フラッシュ）に設定し、SB-910、SB-900、またはSB-700用カラーフィルターを装着して撮影すると、カメラが自動的にフィルターを識別し、最適なホワイトバランスを設定します。
- ※2 ワイヤレス機能はありません。
- ※3 リモート発光用スピードライトSB-R200を使用するには、SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、またはワイヤレススピードライトコマンダー SU-800が必要です。

■ SU-800について

ワイヤレススピードライトコマンダー SU-800は、ニコンクリエイティブライティングシステム対応カメラに装着すると、ワイヤレスでSB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、SB-R200を制御するコマンダーです。スピードライトを3つのグループに分けて制御できます。SU-800には発光機能はありません。

ニコンクリエイティブライティングシステム（CLS）について

ニコンクリエイティブライティングシステム（CLS）は、ニコンのスピードライトとカメラのデータ通信 방식을改良したシステムで、スピードライト撮影に新たな可能性を開く、さまざまな機能を提供します。詳細はお使いになる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。

ガイドナンバーとは

フラッシュの光量を示す値で、大きいほど光が遠くまで届きます。「ガイドナンバー＝絞り値×撮影距離（m）」（ISO感度が100の場合）という関係があります。SB-800はガイドナンバーが38（照射角35mm、ISO感度100、20℃）なので、ISO感度が100で絞り値がF5.6なら、 $38 \div 5.6 = \text{約}6.8\text{m}$ までフラッシュの光が届くこととなります。また、実効ガイドナンバーはISO感度が2倍になると約1.4倍（ $\sqrt{2}$ 倍）になります。たとえば、このカメラでISO感度200でSB-800を使用すると、絞り値がF5.6なら $38 \div 5.6 \times 1.4 = \text{約}9.5\text{m}$ まで光が届きます。

ニコンクリエイティブライティングシステム対応 スピードライトとの組み合わせで使える機能

			ニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト									
			SB-910	SB-900	SB-800	SB-700	SB-600	SU-800		SB-R200	SB-400	SB-300
								コマンダー 撮影	クローズ アップ撮影			
1灯	i-TTL	i-TTL-BL 調光※1	○	○	○	○	—	—	—	○	○	
		スタンダード i-TTL 調光	○※2	○※2	○	○※2	—	—	—	○	○	
		AA 絞り連動外部自動調光	○※3	○※3	—	—	—	—	—	—	—	
		A 外部自動調光	○※3	○※3	—	—	—	—	—	—	—	
		GN 距離優先 マニュアル発光	○	○	○	—	—	—	—	—	—	
		M マニュアル発光	○	○	○	○	—	—	—	○※4	○※4	
RPT	リピーティングフラッシュ	○	○	—	—	—	—	—	—	—		
アドバンスドワイヤレスライティング	主灯	リモートフラッシュへの発光指示	○	○	○	—	○	○	—	—	—	
		i-TTL i-TTL 調光	○	○	○	—	—	—	—	—	—	
		[A:B] クイックワイヤレス コントロール	—	—	○	—	—	○	—	—	—	
		AA 絞り連動外部自動調光	○※5	○※5	—	—	—	—	—	—	—	
		A 外部自動調光	○	○	—	—	—	—	—	—	—	
		M マニュアル発光	○	○	○	—	—	—	—	—	—	
		RPT リピーティングフラッシュ	○	○	—	—	—	—	—	—	—	
	補助灯	i-TTL i-TTL 調光	○	○	○	○	—	—	○	—	—	
		[A:B] クイックワイヤレス コントロール	○	○	○	○	—	—	○	—	—	
		AA 絞り連動外部自動調光	○※5	○※5	—	—	—	—	—	—	—	
		A 外部自動調光	○	○	—	—	—	—	—	—	—	
		M マニュアル発光	○	○	○	○	—	—	○	—	—	
		RPT リピーティングフラッシュ	○	○	○	○	—	—	—	—	—	
		発光色温度情報伝達		○	○	○	○	—	—	—	○	○
		マルチポイントAF補助光		○	○	○	○	○	—	—	—	—
赤目軽減発光		○	○	○	○	—	—	—	○	—		
カメラからの発光モード設定		—	—	—	—	—	—	—	○	○		
カメラからのスピードライトファームアップ		○	—	○	—	—	—	—	—	○		

※1 スポット測光時は設定できません。

※2 スピードライト側でも設定できます。

※3 AAモードとAモードの選択は、スピードライトのカスタム設定で行います。また、非CPUレンズを装着した場合はAモードになります。

※4 カメラ側でのみ設定できます（□□201）。

※5 スピードライトのカスタム設定にかかわらず、非CPUレンズを装着した場合はAモードになります。

🔧 ホットシューアダプター AS-15

別売のホットシューアダプター AS-15を装着すると、シンクロターミナルが利用できます。

✅ その他のスピードライトとの組み合わせで利用できる機能

- 撮影モードを**S**または**M**にして1/200秒より遅いシャッタースピードに設定してから撮影してください。
- 次のスピードライトを使用する場合、外部自動調光（A）あるいはマニュアル発光撮影となります。装着レンズによって機能が変わることはありません。

スピードライト			SB-80DX/ SB-28DX	SB-50DX※1	SB-28/SB-26/ SB-25/SB-24	SB-30/SB-27※2 SB-22S/SB-22/ SB-20/SB-16B/ SB-15	SB-23/SB-29※3/ SB-21B※3/ SB-29S※3
区分	A	外部自動調光	○	—	○	○	—
	M	マニュアル発光	○	○	○	○	○
	649	マルチフラッシュ	○	—	○	—	—
	REAR※4	後幕シンクロ	○	○	○	○	○

※1 撮影モードを**P**、**S**、**A**、**M**に設定し、内蔵フラッシュを収納した状態にして内蔵フラッシュが光らないようにしてください。内蔵フラッシュが自動的に上がって光ることがあるため、その他の撮影モードは使用しないでください。

※2 このカメラと SB-27 を組み合わせると自動的に TTL モードになりますが、TTL モードでは使えません。SB-27をAモードに設定し直してください。

※3 SB-29・21B・29Sでオートフォーカスができるレンズは、AF-S VR Micro-Nikkor 105mm f/2.8G IF-EDと AF-S Micro NIKKOR 60mm F2.8G EDのみです。

※4 カメラ側のフラッシュモードで設定してください。

✅ スピードライト使用時のご注意

- 詳細はお使いになる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- ニコンクリエイティブライティングシステム対応のスピードライトの使用説明書にカメラ分類表が記載されている場合は、ニコンクリエイティブライティングシステム対応デジタル一眼レフに該当する箇所をお読みください。なお、このカメラはSB-80DX、SB-28DX、SB-50DXの使用説明書に記載のデジタル一眼レフカメラには該当しません。
- スピードライト装着時は、内蔵フラッシュは発光しません。
- フラッシュモード（64）の AUTO（オート：自動発光）機能は解除され、常に外付けのスピードライトが発光します。
- スピードライトを使うと📷、📷、📷、📷を除く全ての撮影モードでフラッシュ撮影できます。
- スピードライト SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、またはワイヤレススピードライトコマンダー SU-800 装着時に外付けスピードライト側で調光補正をしたときは、インフォ画面に📷マークが点灯します。
- ニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト使用時には、i-TTL や外部自動調光モードにおいて、フル発光でも露出不足になる可能性のある場合に、発光直後にレディーライト📷が約3秒間点滅して露出アンダー警告を行います。その他のスピードライトの場合、充電完了表示と露出アンダー警告は、スピードライト側で確認してください。詳細はお使いになる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。

- i-TTLモード時のISO感度連動範囲はISO 100～12800相当です。
- ISO感度を12800よりも増感した場合には、距離や絞り値によっては適正な発光量にならない場合があります。
- スピードライトSB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、SB-400の使用時に、フラッシュモードが赤目軽減、赤目軽減スローシャッターの場合は、スピードライト側で赤目軽減発光が行われます。
- スピードライトSB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、ワイヤレススピードライトコマンダーSU-800の使用時に、AF補助光の発光条件が満たされると、スピードライト側のAF補助光を自動的に照射します。
- スピードライトSB-910、SB-900のAF補助光は、17～135mmまでのAFレンズに対応しています。各焦点距離でオートフォーカス可能なフォーカスポイントは、次の図の通りです。

AFレンズの焦点距離が 17mmから19mmの場合	AFレンズの焦点距離が 20mmから105mmの場合	AFレンズの焦点距離が 106mmから135mmの場合

- スピードライトSB-800、SB-600、ワイヤレススピードライトコマンダーSU-800のAF補助光は、24～105mmまでのAFレンズに対応しています。各焦点距離でオートフォーカス可能なフォーカスポイントは、次の図の通りです。

AFレンズの焦点距離が 24mmから34mmの場合	AFレンズの焦点距離が 35mmから49mmの場合	AFレンズの焦点距離が 50mmから105mmの場合

- スピードライトSB-700のAF補助光は、24～135mmまでのAFレンズに対応しています。各焦点距離でオートフォーカス可能なフォーカスポイントは、次の図の通りです。

AFレンズの焦点距離が 24mmから135mmの場合

- i-TTLモード時に、調光コードSC-17、SC-28、SC-29を使用してカメラからスピードライトを離して撮影する場合、スタンダードi-TTL調光以外では適正露出を得られない場合があります。この場合は、スタンダードi-TTL調光に切り換えて撮影してください。また、あらかじめテスト撮影を行ってください。
- i-TTLモード時に、発光面に内蔵パネルまたは付属のバウンスアダプター以外の部材（拡散板など）を装着しないでください。カメラ内の演算に誤差が生じ、適正露出とならない場合があります。

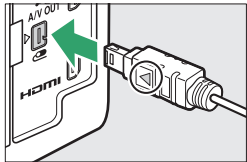
他社製フラッシュについてのご注意

他社製のフラッシュ（カメラのX接点に250V以上の電圧がかかるものや、アクセサリシュー部の接点をショートしてしまうもの）を使用しないでください。カメラの正常な機能が発揮できないだけでなく、カメラおよびフラッシュのシンクロ回路を破損することがあります。

使用できるアクセサリー

このカメラには撮影領域を広げるさまざまなアクセサリーが用意されています。詳しくは最新のカatalogや当社のホームページなどでご確認ください。

電源	● Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14a (□11) ニコンデジタルカメラD5300用のバッテリーです。 - EN-EL14aの代わりにEN-EL14も使えます。 ● バッテリーチャージャー MH-24*1 (□11) Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL14aおよびEN-EL14用のチャージャーです。 ● パワーコネクター EP-5A、ACアダプター EH-5b*2 ACアダプターを使用すると、長時間カメラを使用するときに安定して電源を供給できます。 - このカメラは、カメラ本体とACアダプターを接続するためにパワーコネクターEP-5Aが必要です。カメラとパワーコネクター、ACアダプターを接続する方法については、「カメラとパワーコネクター、ACアダプターの接続方法」(□255)をご覧ください。 - EH-5bの代わりにACアダプターEH-5/EH-5aも使えます。 ※1 家庭用電源のAC 100～240 V、50/60 Hzに対応しています。日本国外では、必要に応じて市販の変換プラグアダプターを装着してお使いください。変換プラグアダプターは、あらかじめ旅行代理店などでお確かめの上、お買い求めください。 ※2 日本国内専用電源コード (AC 100V対応) 付属。日本国外でお使いになるには、別売の電源コードが必要です。
フィルター	● フィルターをレンズ保護のために常用する場合は、NCフィルターをお使いください。 ● カメラ測光系の特性上、従来の偏光フィルター (Polar) は使用できません。円偏光フィルター (C-PL、C-PL II) をお使いください。 ● 逆光撮影や、輝度の高い光源を画面に入れて撮影する場合は、フィルターによって画像上にゴーストが発生するおそれがあります。このような場合は、フィルターを外して撮影することをおすすめします。 ● 露出倍数のかかるフィルター (Y44、Y48、Y52、O56、R60、X0、X1、C-PL (円偏光フィルター)、ND25、ND45、ND4、ND85、ND8、ND400、A2、A12、B2、B8、B12) を使用する場合は、[測光モード] (□93) を [☒] (中央部重点測光) にして撮影することをおすすめします。[☒] (マルチパターン測光) では、十分な効果が得られない場合があります。詳しくは、フィルターの使用説明書をご覧ください。 ● 特殊フィルターなどを使用する場合は、オートフォーカスやフォーカスイドが行えないことがありますのでご注意ください。
USB/ オーディオ ビデオ出力 端子	● USBケーブル UC-E17、UC-E6 (□161) USBケーブルUC-E17は、単体では販売しておりません。UC-E6をお買い求めください。 ● オーディオビデオケーブル EG-CP16
ボディー キャップ	● ボディーキャップBF-1B、BF-1A レンズを取り外したカメラボディーに取り付けることにより、ミラーや撮像素子、ファインダースクリーンなどへのゴミやほこりの付着を防ぎ、カメラ内部を保護します。

ニコンデジタル カメラ専用 ソフトウェア	● Capture NX 2 画像を詳細に編集できる、画像編集用ソフトウェアです。ホワイトバランス調整やカラーコントロールポイントなどさまざまな機能を備えています。 ● Camera Control Pro 2 パソコンからカメラを操作して静止画や動画を撮影したり、撮影した画像を直接ハードディスクなどへ保存したりできる、カメラコントロール用ソフトウェアです。 ● ソフトウェアは、必ず最新版にバージョンアップしてお使いください。お使いのパソコンがインターネットに接続されていれば、ソフトウェアの起動時にニコンメッセージセンター 2 (Nikon Message Center 2) が自動的に更新情報をチェックします。 ● 対応OSについては、当社ホームページのサポート情報 (□xv) でご確認ください。
ファインダー用 アクセサリ	● 接眼補助レンズDK-20C 遠視、近視の方のための補助レンズで、接眼部に差し込むだけで簡単に取り換えることができます。－5、－4、－3、－2、0、＋0.5、＋1、＋2、＋3m⁻¹の9種類が用意されていますが、いずれもこのカメラの視度調節ダイヤルが基準位置 (－1m⁻¹) の場合の値です。視度補正は個人差が大きいので店頭で実際に取り付けてお選びください。このカメラには視度調節機能が付いています (－1.7～＋1.0m⁻¹) ので、この範囲外の視度補正が必要なおきにお使いください。なお、接眼補助レンズを使用している場合は、接眼目当ては使用できません。 ● マグニファイヤー DG-2 ファインダー中央部の像を拡大します。より厳密なピント合わせが必要なおきに使用します。 ● アイピースアダプター DK-22※1 上記DG-2を取り付けるためのアダプターです。 ● 角窓用変倍アングルファインダー DR-6※1 カメラの接眼部に取り付けると、撮影レンズと直角の方向 (水平方向に向けたカメラの真上など) からファインダー内の画像を確認できます。
アクセサリ ターミナル	アクセサリターミナルに次のアクセサリを接続することができます。 ● ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10※2 (□253) ● ワイヤレスリモートコントローラー WR-1 (□253) ● リモートコードMC-DC2 (□91、214) ● GPSユニットGP-1/GP-1A (□84) 図のようにアクセサリターミナルの▷マークとコネクターの◁マークを合わせて、コネクターをアクセサリターミナルに接続します。  使用しないときは、必ず端子カバーを閉じてください。ゴミ等が入ると、誤作動の原因となることがあります。

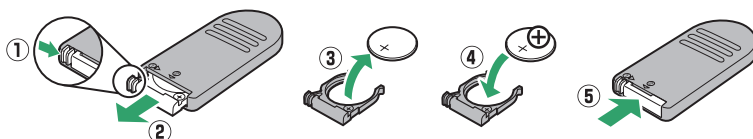
※1 装着時には、カメラの液晶モニターを回転できません。

※2 ワイヤレスリモートコントローラーは、ステレオマイクロホンME-1と同時に装着できません。無理に取り付けようとすると、カメラやアクセサリの破損や故障の原因となります。

リモコン/
ワイヤレス
リモートコン
トローラー

• リモコンML-L3 (□72)

リモコン用電池 (CR2025型3Vリチウム電池) の交換方法

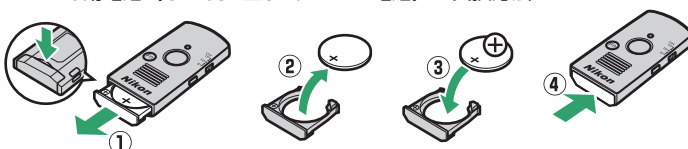


電池室のノブを右側に押しながら (①)、隙間に爪などを差し込んで手前に引き出して (②) ください。リチウム電池を入れる際は、「+」と「-」の向きをよくご確認ください (④)。

• ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10※/WR-T10 (□73、214)

ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10をカメラのアクセサリターミナルに装着すると、ワイヤレスリモートコントローラー WR-T10からの操作で無線での遠隔撮影を行えます。

WR-T10用電池 (CR2032型3Vリチウム電池) の交換方法



電池室のノブの隙間に爪などを差し込んで手前に引き出して (①) ください。リチウム電池を入れる際は、「+」と「-」の向きをよくご確認ください (③)。

• ワイヤレスリモートコントローラー WR-1 (□73、214)

WR-1は2台以上を組み合わせで送信機と受信機として使います。受信機に設定したWR-1をカメラのアクセサリターミナルに取り付けると、送信機に設定したWR-1からの操作で、無線での遠隔撮影を行えます。

外部マイク

• ステレオマイクロホンME-1※ (□132)

※ワイヤレスリモートコントローラーは、ステレオマイクロホンME-1と同時に装着できません。無理に取り付けようとすると、カメラやアクセサリーの破損や故障の原因となります。

使用できるアクセサリーについて

- 国または地域によって、販売していない場合があります。
- アクセサリーの最新情報は、当社ホームページやカタログなどでご確認ください。

推奨SDカード

次のSDカードの動作を確認しています。

	SDメモリーカード	SDHCメモリーカード※2	SDXCメモリーカード※3
SanDisk製	2 GB※1	4 GB、8 GB、16 GB、 32 GB	64 GB
東芝製	2 GB※1	4 GB、8 GB、16 GB、 32 GB	64 GB
Panasonic製	2 GB※1	4 GB、6 GB、8 GB、 12 GB、16 GB、24 GB、 32 GB	48 GB、64 GB
LEXAR MEDIA社製	2 GB※1	4 GB、8 GB、16 GB、 32 GB	—
プラチナⅡシリーズ	2 GB※1	4 GB、8 GB、16 GB、 32 GB	64 GB
プロフェッショナルシリーズ	2 GB※1	4 GB、8 GB、16 GB、 32 GB	64 GB、128 GB
フルHDビデオカードシリーズ	—	4 GB、8 GB、16 GB	—

※1 カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器が2 GBのSDカードに対応している必要があります。

※2 SDHC 規格に対応しています。カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器がSDHC規格に対応している必要があります。このカメラは、UHS-I規格に対応しています。

※3 SDXC規格に対応しています。カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器がSDXC規格に対応している必要があります。このカメラは、UHS-I規格に対応しています。

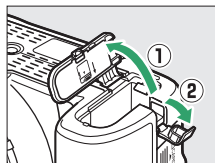


- 動画の撮影には、SDスピードクラスがClass 6以上のカードをおすすめします。転送速度が遅いカードでは、動画の撮影が途中で終了することがあります。
- 上記SDカードの機能、動作の詳細、動作保証などについては、SDカードメーカーにご相談ください。その他のメーカー製のSDカードにつきましては、動作の保証はいたしかねます。

カメラとパワーコネクター、ACアダプターの接続方法

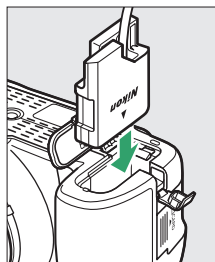
カメラとパワーコネクター、ACアダプターを接続する前に、カメラ本体の電源をOFFにしてください。

1 カメラのバッテリー室カバー(①)とパワーコネクターカバー(②)を開ける



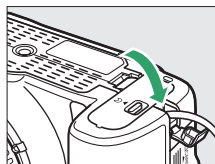
2 パワーコネクター EP-5Aを入れる

- パワーコネクターは、接点の向きに注意しながら入れてください。
- オレンジ色のバッテリーロックレバーをパワーコネクター側面で押しながら、パワーコネクターを奥まで入れてください。



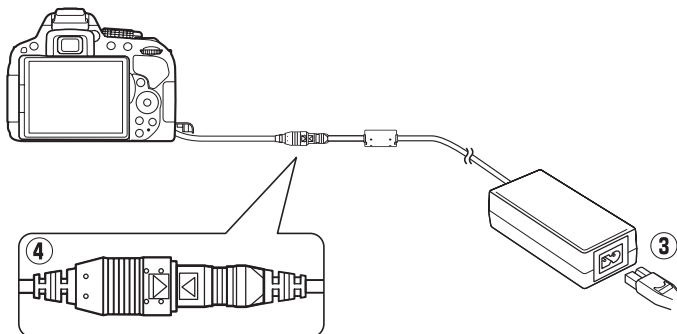
3 カメラのバッテリー室カバーを閉じる

- パワーコネクターのコードがパワーコネクターカバーを開けた部分から出るように注意して、バッテリー室カバーを閉じます。



4 パワーコネクターとACアダプターを接続する

- 電源コードのACプラグを、ACアダプターのACプラグ差し込み口に差し込みます (③)。
- パワーコネクターのDCプラグコネクターにACアダプターのDCプラグを差し込みます (④)。
- パワーコネクターとACアダプターの使用時には、液晶モニター上のバッテリー残量表示がに変わります。



カメラのお手入れについて

保管について

長期間カメラを使用しないときは、必ずバッテリーを取り出してください。

カメラを保管するときは、次の場所は避けてください。

- 換気の悪い場所や湿度が60%を超える場所
- テレビやラジオなど強い電磁波を出す装置の周辺
- 温度が50℃以上、または－10℃以下の場所

クリーニングについて

カメラ本体	ほこりや糸くずをブローアード払い、柔らかい乾いた布で軽く拭きます。海辺でカメラを使用した後は、砂や塩を真水で湿らせた布で軽く拭き取り、よく乾かします。 ご注意：カメラ内部にゴミ、ほこりや砂などが入り込むと故障の原因となります。この場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。
レンズ・ミラー・ファインダー	ガラスは傷つきやすいので、ほこりや糸くずをブローアード払います。スプレー缶タイプのブローアードは、缶を傾けずにお使いください（中の液体が気化されずに吹き出し、レンズ・ミラー・ファインダーを傷つけることがあります）。指紋や油脂などの汚れは、柔らかい布にレンズクリーナーを少量付けて、ガラスを傷つけないように注意して拭きます。
液晶モニター	ほこりや糸くずをブローアード払います。指紋や油脂などの汚れは、表面を柔らかい布かセーム革で軽く拭き取ります。強く拭くと、破損や故障の原因となることがありますのでご注意ください。

アルコール、シンナーなど揮発性の薬品はお使いにならないでください。

定期点検、オーバーホールのおすすめ

カメラは精密機械ですので、1～2年に1度は定期点検を、3～5年に1度はオーバーホールすることをおすすめします（有料）。

- 特に業務用にお使いの場合は、早めに点検整備を受けてください。
- より安心してご愛用いただけるよう、お使いのレンズやスピードライトなども併せて点検依頼されることをおすすめします。

カメラ内部のお手入れについて

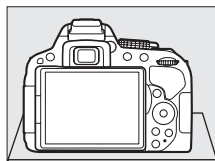
レンズを取り付けるときなどに、撮像素子前面にゴミやほこりが付くと、画像に影が写り込むことがあります。イメージセンサークリーニングを作動させると、撮像素子前面のゴミをふるい落とすことができます。

イメージセンサークリーニングは、メニューから操作する方法と、電源のON/OFF時に自動的にを行う方法があります。

■ セットアップメニューの【イメージセンサークリーニング】から操作する

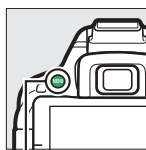
1 カメラを右図のように正位置に置く

- 効果的にゴミをふるい落とせるように、正位置（カメラを横位置で構えるときの向き）にしてイメージセンサークリーニングを行ってください。



2 【イメージセンサークリーニング】を選ぶ

- MENU** ボタンを押して、セットアップメニューの【イメージセンサークリーニング】を選んでマルチセクターの▶を押します。

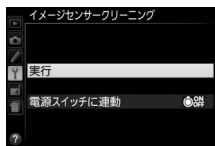


MENUボタン

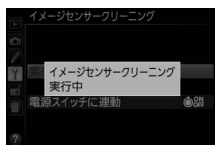


3 【実行】を選ぶ

- 【実行】を選んで**OK** ボタンを押すと、イメージセンサークリーニングが開始されます。実行中は、ファインダー内に**b5y**が点滅し、撮像素子のチェックも行われます。



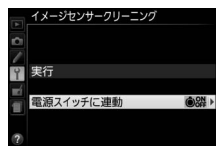
- 右の画面が表示されている間は、カメラの操作はできません。バッテリーやACアダプターを取り外さないでください。



■ 電源 ON/OFF のタイミングでイメージセンサークリーニング する

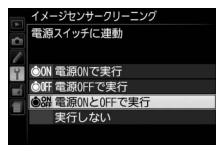
1 [イメージセンサークリーニング] の [電源スイッチに連動] を選ぶ

- [電源スイッチに連動] を選んでマルチセクターの▶を押します。



2 イメージセンサークリーニングの方法を選ぶ

- [電源ONで実行]、[電源OFFで実行]、[電源ONとOFFで実行] のいずれかを選ぶと、電源のON/OFFのタイミングでイメージセンサークリーニングが作動します。
- OK ボタンを押して設定します。



✓ イメージセンサークリーニングについての注意

- 完全にゴミを取り除けないことがあります。そのときは、撮像素子前面を市販のプロアーで掃除する（□259）か、ニコンサービス機関にご相談ください。
- 電源スイッチに連動してイメージセンサークリーニングが作動しているときにカメラを操作すると、イメージセンサークリーニングは中断します。
- イメージセンサークリーニングを連続で行うと、内部の回路を保護するため、一時的に作動しなくなる場合があります。少し時間をおくと再び作動するようになります。

■ 撮像素子前面をブローで掃除する

イメージセンサークリーニング (□257) でゴミやほこりを取りきれないときは、撮像素子前面を次の手順でクリーニングできます。ただし、カメラ内部の撮像素子は非常に傷つきやすいため、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けくださることをおすすめします。

クリーニング中のバッテリー切れを防ぐため、十分に充電されたバッテリーをお使いください。

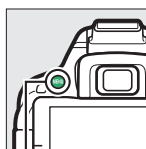
1 カメラの電源をOFFにしてからレンズを取り外す

- レンズを取り外したら、カメラの電源をONにしてください。

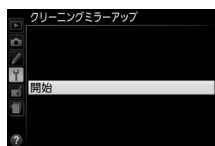
2 [クリーニングミラーアップ] ※を選ぶ

- MENU ボタンを押して、セットアップメニューの [クリーニングミラーアップ] を選んで、マルチセレクターの ► を押します。

※ バッテリー残量が  以下の場合、このメニュー項目は操作できません。

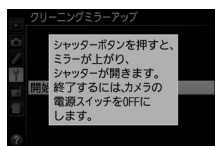


MENU ボタン



3 OK ボタンを押す

- 右のようなメッセージが表示され、クリーニングミラーアップの待機状態になります。



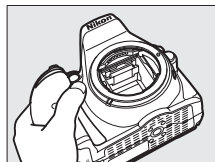
4 シャッターボタンを全押しする

- ミラーが上がり、シャッターが開いた状態になります。



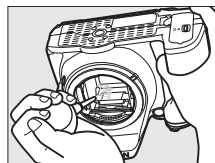
5 カメラの内部に光が当たるようにカメラを持ち、ゴミやほこりが付いていないかどうかを点検する

- ゴミやほこりが付いていない場合は、手順7にお進みください。



6 撮像素子前面に付いたゴミやほこりをブローアで払う

- ブラシの付いていないブローアをお使いください。ブラシで撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- ブローアで取り除けない汚れがある場合は、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けください。絶対に、手でこすったり、布で拭き取ったりしないでください。



7 カメラの電源をOFFにし、付属のボディーキャップを付ける

- ミラーがダウンしてシャッター幕が閉じます。

✓ クリーニング中のシャッター幕の破損を防ぐために

カメラのシャッター幕は非常に破損しやすい部品です。シャッター幕はカメラに電源の供給がなくなると、自動的に閉じる構造になっています。クリーニング中に不意にシャッター幕が閉じて破損することを防ぐために、次の点にご注意ください。

- クリーニング中に電源をOFFにしないでください。
- クリーニング中にバッテリーやACアダプターを取り外さないでください。
- ミラーアップ中にバッテリー残量が少なくなった場合、電子音が鳴り、セルフタイマーランプが点滅してお知らせします。約2分経過するとシャッター幕が閉じてミラーがダウンするので、ただちにクリーニング作業を終了してください。

✓ 撮像素子前面のゴミ付着について

ニコンデジタルカメラは、撮像素子前面に付着するゴミについて、当社の品質基準に基づいて製造しています。しかし、このカメラはレンズ交換方式のため、レンズ交換の際にカメラ内にゴミが入り込むことがあり、撮影条件によっては、撮像素子前面に付着したゴミが写り込む場合があります。カメラ内へのゴミの侵入を防止するため、ほこりの多い場所でのレンズ交換は避け、レンズを外してカメラを保管するときは、必ず付属のボディーキャップを装着してください。その際、ボディーキャップのゴミも必ず除去してください。撮像素子前面に付着したゴミを、イメージセンサークリーニング(□257)で取り除ききれないときは、上記の手順でクリーニングしていただくか、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けください。なお、ゴミの写り込みは、別売のCapture NX 2 (□252)や画像加工アプリケーションなどで修正できます。

カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意

カメラの取り扱い上のご注意

● 強いショックを与えない

カメラやレンズを落としたり、ぶつけたりしないようにご注意ください。強い衝撃や振動を加えると、破損したり精密に調整された部分に悪影響を及ぼします。

● 水にぬらさない

カメラは水にぬらさないようにご注意ください。カメラ内部に水滴が入ったりすると部品がさびついてしまい、修理費用が高額になるだけでなく、修理不能になることがあります。

● 急激な温度変化を与えない

極端に温度差のある場所に急にカメラを持ち込むと、カメラ内外に水滴が生じ、故障の原因となります。カメラをバッグやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてからお使いください。

● 強い電波や磁気の発生する場所で撮影しない

強い電波や磁気を発生するテレビ塔などの周囲や、強い静電気の周囲では、記録データが消滅したり、撮影画像へのノイズ混入等、カメラが正常に機能しないことがあります。

● 長時間、太陽に向けて撮影または放置しない

太陽などの高輝度被写体に向けて長時間直接撮影したり、放置したりしないでください。過度の光照射は撮像素子の褪色・焼き付きを起こすおそれがあります。また、その際撮影された画像に、真っ白くにじみが生じることがあります。

● カメラ本体のお手入れについて

カメラ本体のお手入れの際は、ブロアーでゴミやほこりを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。特に、海辺で使った後は、真水を数滴たらした柔らかい清潔な布で塩分を拭き取ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いて乾かしてください。

● ミラーやレンズの手入れ方法について

ミラーやレンズは傷が付きやすいので、ゴミやほこりが付いているときは、ブロアーで軽く吹き払う程度にしてください。なお、スプレー缶タイプのブロアーの場合、スプレー缶を傾けずにお使いください（中の液体が気化されずに吹き出し、ミラーやレンズを傷つける場合があります）。レンズに万一指紋などが付いてしまった場合は、柔らかい清潔な布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせて、軽く拭き取ってください。

● 撮像素子前面の手入れ方法について

撮像素子前面のクリーニングの方法については□257をご覧ください。

● シャッター幕に触れない

シャッター幕は非常に薄いため、押さえたり、突いたり、ブロアーなどで強く吹くなどは、絶対にしないでください。傷や変形、破損などの原因となります。

● 風通しのよい場所に保管する

カビや故障などを防ぐため、風通しのよい乾燥した場所を選んでカメラを保管してください。防虫剤のあるところ、磁気を発生する器具のそば、高温となる夏季の車内、使用しているストーブの前などにカメラを置かないでください。故障の原因になります。

● 長期間使用しないときは、バッテリーを取り出し、乾燥剤と一緒に保管する

カメラを長期間使用しないときは、バッテリーの液もれなどからカメラを保護するために、必ずカメラからバッテリーを取り出しておいください。保管する際は、カメラをポリエチレン袋などに乾燥剤と一緒に入れておくことより安全です。ただし、皮ケースをビニール袋に入れると、変質することがありますので避けてください。バッテリーは高温、多湿となる場所を避けて保管してください。乾燥剤（シリカゲル）は湿気を吸うと効力がなくなるので、ときどき交換してください。カメラを長期間使用しないまま放置しておくと、カビや故障の原因となることがあるので、月に一度を目安にバッテリーを入れ、カメラを操作することをおすすめします。

● バッテリーやACアダプターを取り外すときは、必ずカメラの電源をOFFにする

カメラの電源がONの状態、バッテリーを取り出したり、ACアダプターを取り外すと、故障の原因となります。特に撮影中や記録データの削除中に前記の操作は行わないでください。

● 液晶モニターについて

- モニター画面は、非常に精密度の高い技術で作られており、99.99%以上の有効ドットがありますが、0.01%以下でドット抜けするものがあります。そのため、常時点灯（白、赤、青、緑）あるいは非点灯（黒）の画素が一部存在することがありますが、故障ではありません。また、記録される画像には影響ありません。あらかじめご了承ください。
- 屋外では日差しの加減で液晶モニターが見えにくい場合があります。
- 液晶モニター表面を強くこすったり、強く押しつりしないでください。液晶モニターの故障やトラブルの原因になります。もしゴミやほこり等が付着した場合は、ブローで吹き払ってください。汚れがひどいときは、柔らかい布やセーム革等で軽く拭き取ってください。万一、液晶モニターが破損した場合、ガラスの破片などでケガをするおそれがあるので充分ご注意ください。中の液晶が皮膚や目に付着したり、口に入ったりしないよう、充分ご注意ください。

● モアレについて

モアレは、被写体の模様と撮像素子の配列とが干渉して起きる現象で、連続するパターンのある画像（建物の格子や格子模様、格子状に並んだビルの窓など）や、規則的に繰り返す細かい模様を持つ被写体（カーテンレースの網目や衣類など）を撮影したときに発生することがあります。

モアレが発生しやすい被写体を撮影するときは、撮影距離を変える、ズームレンズをご使用の場合はズーミングして焦点距離を変える、被写体に対する角度を変えて撮影する、などの方法をおすすめします。

バッテリーの取り扱いについて

● 使用上のご注意

- バッテリーの使用方法を誤ると液もれにより製品が腐食したり、バッテリーが破裂したりするおそれがあります。次の使用上の注意をお守りください。
 - バッテリーはカメラの電源を OFF にしてから入れる。
 - バッテリーを長時間使用した後は、バッテリーが発熱していることがあるので注意する。
 - バッテリーの端子は、汚さないように注意する。
 - 必ず指定のバッテリーを使う。
 - バッテリーを火の中に投入したり、ショートさせたり、分解したりしない。
 - カメラやチャージャーから取り外したバッテリーには、必ず端子カバーを付ける。
- カメラの使用直後など、バッテリーの温度が高くなっている場合は、温度が下がるのを待ってから充電してください。バッテリー内部の温度が高い状態では、充電ができなかったり、または不完全な充電になるばかりでなく、バッテリーの性能が劣化する原因になります。
- しばらく使わない場合は、カメラでバッテリーを使い切った状態で涼しいところで保管してください。周囲の温度が15℃～25℃くらいの乾燥したところをおすすめします。暑いところや極端に寒いところは避けてください。
- 使用後のバッテリーは半年以内に充電するようおすすめします。長期間保管する場合は、半年に一回程度充電した後、カメラでバッテリーを使い切ってから涼しいところで保管してください。
- 使用しないときは必ずバッテリーをカメラやチャージャーから取り外してください。付けたままにしておくと、電源が切れていても微小電流が流れていますので、過放電になり使えなくなるおそれがあります。

● 撮影前にバッテリーをあらかじめ充電する

撮影前にバッテリーを充電してください。付属のバッテリーは、ご購入時にはフル充電されています。

● 予備バッテリーを用意する

撮影の際は、充電された予備のバッテリーをご用意ください。特に、海外の地域によってはバッテリーの入手が困難な場合があるので、ご注意ください。

● 低温時にはフル充電したバッテリーを使用し、予備のバッテリーを用意する

低温時に消耗したバッテリーを使用すると、カメラが作動しないことがあります。低温時にはフル充電したバッテリーを使用し、保温した予備のバッテリーを用意して暖めながら交互に使用してください。低温のために一時的に性能が低下して使えなかったバッテリーでも、常温に戻ると使えることがあります。

● バッテリーの残量について

- 電池残量がなくなったバッテリーをカメラに入れたまま、何度も電源のON/OFFを繰り返すと、バッテリーの寿命に影響を及ぼすおそれがあります。電池残量がなくなったバッテリーは、充電してお使いください。
- 十分に充電したにもかかわらず、室温での使用状態でバッテリーの使用時間が極端に短くなってきた場合は、バッテリーの寿命です。新しいリチャージャブルバッテリーEN-EL14aをお求めください。

● 充電が完了したバッテリーを続けて再充電しない

バッテリー性能が劣化します。

● 小型充電式電池のリサイクル

不要になった充電式電池は、貴重な資源を守るために、廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。



Li-ion00

数字の有無と数値は、電池によって異なります。

撮影モード別：設定できる機能一覧

それぞれの撮影モードごとに、設定できる機能とできない機能をまとめています。表の見方は次の通りです。

- ：設定できます。ツーボタンリセット（□74）で初期設定に戻ります。
- △：設定できます。撮影メニュー [撮影メニューのリセット]（□185）で初期設定に戻ります。
- ：設定できます。撮影モードを切り換えると、初期設定に戻ります。
- ◎：設定できます。カスタムメニュー [カスタムメニューのリセット]（□191）で初期設定に戻ります。
- －：設定できません。

■ 撮影モード 、、P、S、A、M、、、、、、、、、

	AUTO	P、S、A、M	、、、、、、、、
撮影メニュー	画質モード	●/△	●/△
	画像サイズ	●/△	●/△
	ホワイトバランス	－	●/△
	ピクチャーコントロール	－	●/△
	自動ゆがみ補正	△	△
	色空間	△	△
	アクティブD-ライティング	－	●/△
	HDR（ハイダイナミックレンジ）	－	●/△
	長秒時ノイズ低減	△	△ (のみ設定できません)
	高感度ノイズ低減	△	△ (のみ設定できません)
	ISO感度設定※1	－	●/△ (のみ設定できません)
	レリーズモード	●/○/△	●/○/△
	多重露出※2	－	●/△
撮影関連の設定	インターバルタイマー撮影	△	△ (のみ設定できません)
	動画の設定	△	△
	ファインダー撮影時のフォーカスモード	●	● (のみ設定できません)
	ファインダー撮影時のAFエリアモード	●/○	●/○ (とでは設定できません)
	ライブビュー/動画撮影時のフォーカスモード	●	●
	ライブビュー/動画撮影時のAFエリアモード	－	●/○ (のみ設定できません)
	AE/AF ロックボタンのホールド状態	－	●○

		AUTO、	P、S、A、M	、、、、、、、
撮影関連の設定	プログラムシフト	—	● (S、A、Mでは設定できません)	—
	測光モード	—	●	—
	露出補正	—	●	●/○ (、、、、、、、では設定できません)
	オートブラケティング	—	●	—
	フラッシュモード	●/○ (のみ設定できません)	●	●/○ (、、、、、、、では設定できません)
	調光補正	—	●	—
カスタムメニュー	a1：AF-Cモード時の優先	○	○	○
	a2：AF点数切り換え	○	○	○
	a3：内蔵AF補助光の照射設定	○	○	○ (とでは設定できません)
	a4：フォーカスイドインジケーター	○	○	○
	b1：露出設定ステップ幅	○	○	○
	c1：半押しAEロック	○	○	○
	c2：パワーオフ時間	○	○	○
	c3：セルフタイマー	○	○	○
	c4：リモコン待機時間 (ML-L3)	○	○	○
	d1：電子音設定	○	○	○
	d2：ファインダー内格子線表示	○	○	○
	d3：ISO感度表示	○	○	○
	d4：連番モード	○	○	○
	d5：露出ディレーモード	○	○	○
	d6：デオート写し込み設定	○	○	○
	e1：内蔵フラッシュ発光/ 外付けフラッシュ発光	—	○	—
	e2：オートブラケティングの セット	—	○	—
	f1：Fnボタンの機能	○	○	○
	f2：AE/AFロックボタンの機能	○	○	○
	f3：コマンドダイヤル回転方向 の変更	○	○	○
	f4：カードなし時リリース	○	○	○
	f5：インジケーターの+/-方向	○	○	○

※1 [ISO感度設定] の [ISO感度] を [AUTO] にしてから撮影モードをP、S、A、Mのいずれかに切り換えた場合は、以前に設定したISO感度に戻ります。

※2 ツーボタンリセット時は、多重露出モードが解除されます。その他の設定はリセットされません。

■■■ 撮影モード

		📷、🎥、📱、🔊、🔇、🔊、
--	--	--

	               
a1：AF-Cモード時の優先	○
a2：AF点数切り換え	○
a3：内蔵AF補助光の照射設定	○ ( 、  、  、  、  、  、  では 設定できません)
a4：フォーカスエイドインジケーター	○
b1：露出設定ステップ幅	○
c1：半押しAEロック	○
c2：パワーオフ時間	○
c3：セルフタイマー	○
c4：リモコン待機時間（ML-L3）	○
d1：電子音設定	○
d2：ファインダー内格子線表示	○
d3：ISO感度表示	○
d4：連番モード	○
d5：露出ディレーモード	○
d6：デート写し込み設定	○
e1：内蔵フラッシュ発光/外付けフラッシュ発光	—
e2：オートブラケティングのセット	—
f1：Fnボタンの機能	○
f2：AE/AFロックボタンの機能	○
f3：コマンドダイヤル回転方向の変更	○
f4：カードなし時リリース	○
f5：インジケーターの+/-方向	○

困ったときは

カメラの動作がおかしいときは、ご購入店やニコンサービス機関にお問い合わせになる前に、次の項目をご確認ください。

電源・表示関連

● 電源ONの状態、カメラの操作ができない

- 画像や動画の記録などの処理が終わるまでお待ちください。
- 操作できない状態が続くときは、電源をOFFにする操作をしてください。
電源がOFFにならない場合は、バッテリーを入れ直してください。
ACアダプター使用時は付け直してください。
- 記録中であったデータは保存されません。
- 保存済みのデータはバッテリーやACアダプターの取り外しでは失われません。

● ファインダー内がはっきり見えない

- ファインダー内の見え方は、視度調節ダイヤルを回して調節できます（□□14）。
- 視度調節しても被写体がはっきり見えない場合は、フォーカスモード（□□53）を **[AF-S]**、AFエリアモード（□□55）を **[**[i]**]**（**シングルポイントAF**）に設定します。次に、中央のフォーカスポイントを選んで、コントラストの高い被写体にオートフォーカスでピントを合わせます。その状態で被写体が最もはっきり見えるように調節してください。
- 視度調節ダイヤルの範囲を超える補正が必要な場合は、別売の接眼補助レンズをお使いになることをおすすめします（□□252）。

● ファインダー内や液晶モニターの表示が、すぐに消えてしまう

カスタムメニューc2 **[パワーオフ時間]** で、表示が消えるまでの時間を設定できます（□□194）。

● インフォ画面が表示されない

- シャッターボタンの半押し中はインフォ画面は表示されません。
- シャッターボタンの半押しして指を放してください。それでもインフォ画面が表示されない場合は：
- セットアップメニューの **[インフォ画面の自動表示]** が **[自動表示しない]** になっています（□□209）。
- バッテリー残量がありません（□□11、16）。

● ファインダー内の表示が薄い、表示が遅い

低温や高温のときは液晶表示の濃度が変わったり、応答速度が遅くなることがあります。

撮影関連（全撮影モード共通）

● 電源をONにしてから、撮影できる状態になるまでに時間がかかる

SDカード内にフォルダーや画像が大量にあるときは、ファイル検索のため時間がかかる場合があります。

● シャッターがきれない

- 残量のあるSDカードが入っていますか？ (□11、14)
- SDカードがロックされていませんか？ (□17)
- 内蔵フラッシュの充電中はシャッターがきれません (□23)。
- ピント表示 (●) は点灯していますか？ (□21)
- レンズの絞りリングは最小絞り (最も大きい値) になっていますか？ (□242)
- CPUレンズが装着されていますか？非CPUレンズは撮影モードM以外ではお使いになれません (□246)。
- カスタムメニューf4 [カードなし時リリース] が [リリース禁止] になっていますか？ (□204)

● 連続撮影できない

内蔵フラッシュが発光する場合は、連続撮影できません (□68)。

● ファインダーで見た視野と、撮影される画像の範囲が違う

このカメラのファインダー視野率は上下左右とも約95%です。このため、ファインダーで見た視野よりも、やや広い範囲が撮影されます (□280)。

● ピントが合わない

- AF-Sレンズ、AF-Iレンズ以外の場合、オートフォーカス撮影はできません。
- 次のような被写体では、オートフォーカスではピントが合わせづらい場合があります。マニュアルフォーカス、フォーカスロックを利用して撮影してください (□57、59)。
明暗差がはっきりしない/遠くのものと同くのもの混在する/連続した繰り返しパターン/輝度差が著しく異なる/背景に対して主要被写体が小さい/絵柄が細かい
- フォーカスモードが [MF] (マニュアルフォーカス) になっていませんか？ (□53、124)

● シャッターボタンを半押ししても、フォーカスロックされない

ファインダー撮影時の [フォーカスモード] が [AF-C] のとき、または [AF-A] で自動的に [AF-C] が選ばれたときは、 ボタンでフォーカスをロックしてください (□53、57)。

● フォーカスポイントを選べない

- [AFエリアモード] が [] (オートエリアAF) のときは、選べません (□55)。
- 半押しタイマーがオフになっていませんか？フォーカスポイントを選ぶには、シャッターボタンを半押しして半押しタイマーをオンにしてください (□23)。

● AFエリアモードを変更できない

フォーカスモードが [MF] (マニュアルフォーカス) になっていませんか？ (□53、124)

● AF補助光ランプが光らない

- 次の場合、AF補助光を照射しません。
 - ファインダー撮影時の [フォーカスモード] が [AF-C] または [AF-A] で自動的に [AF-C] が選ばれたとき (□53)
 - ライブビュー/動画撮影時
 - [AFエリアモード] が [] (3D-トラッキング) の場合 (□55)
 - [] (オートエリアAF) と [] (3D-トラッキング) 以外のAFエリアモードで中央以外のフォーカスポイントが選択された場合 (□55、57)
- カスタムメニューa3 [内蔵AF補助光の照射設定] が [しない] になっていませんか？ (□192)
- AF補助光ランプを連続して使うと、保護機能が働いて一時的に照射が制限されます。少し時間をおくと再び照射するようになります。また、短時間に何回も使うと、AF補助光ランプが熱くなることがあるのでご注意ください。
- AF補助光が光らない撮影モードです (□264)。

● 画像サイズを変更できない

[画質モード] がRAWを含む画質モードのときは、画像サイズを変更できません (□62)。

● 画像の記録に時間がかかる

- 連続撮影が終了しても、SDカードの性能や撮影条件によっては、最大で1分間程度、SDカードアクセスランプが点灯し続ける場合があります (□21)。
- 撮影メニュー [長秒時ノイズ低減] が [する] になっていませんか? (□187)

● 画像がざらつく

- ISO感度が高くなっていませんか? 撮影メニュー [高感度ノイズ低減] を [強め]、[標準]、[弱め] のいずれかに設定すると、ざらつきを低減できます (□188)。
- シャッタースピードが1秒より低速な場合は、ざらつきが発生しやすくなります。撮影メニュー [長秒時ノイズ低減] を [する] にして撮影すると、ざらつきを低減できます (□187)。
- アクティブD-ライティングを設定していませんか? 撮影シーンによっては、ざらつきが強調される場合があります (□98)。

● リモコンの送信ボタンを押しても撮影できない

- リモコンの電池残量はありますか? (□253)
- リモコンモードに設定されていますか? (□72)
- フラッシュの充電中は、シャッターがきれません (□73)。
- 送信ボタンを押す前にカスタムメニュー c4 [リモコン待機時間 (ML-L3)] を過ぎると、リモコンモードはリセットされます (□195)。
- 極端な逆光状態などでは、別売のリモコンML-L3でのリモコン撮影ができない場合があります。

● 電子音が鳴らない

- カスタムメニュー d1 [電子音設定] が [電子音なし] になっていませんか? (□196)
- レリーズモードが [回] (静音撮影) になっていませんか? (□50)
- ファインダー撮影時のフォーカスモードが [AF-C] のとき、または [AF-A] で自動的に [AF-C] が選ばれたとき、[MF] (マニュアルフォーカス) のときは電子音は鳴りません (□53)。
- 動画撮影中は電子音は鳴りません (□132)。

● 画像にゴミが写り込む

- レンズの前面または背面 (マウント側) が汚れていませんか?
- 撮像素子前面にゴミが付着していませんか? イメージセンサークリーニングを行ってください (□257)。

● デート写し込みができない

RAWを含む画質モードに設定されていませんか? (□61、199)

● 動画に音声録音されない

撮影メニュー [動画の設定] の [録音設定] が [録音しない] になっていませんか? (□135)

● ライブビュー表示中や動画撮影時に画面にちらつきや横縞が生じる

セットアップメニュー [フリッカー低減] の設定を、カメラをお使いになる地域の電源周波数に合わせてください (□210)。

● 選択または設定できないメニュー項目がある

撮影モードによっては、設定できない機能があります。この場合、その項目は選べません (□264)。

撮影関連（撮影モードP、S、A、M）

● シャッターがきれない

- CPUレンズが装着されていますか？非CPUレンズは撮影モード**M**以外ではお使いになれません（□246）。
 - 撮影モード**M**でシャッタースピードをBulbまたはTimeに設定し、そのまま撮影モードを**S**に変更した場合は、シャッタースピードを再設定してから撮影してください（□88）。
 - WBブラケティング撮影時に撮影コマ数が記録可能コマ数より多い場合、ファインダー内の記録可能コマ数表示が点滅し、シャッターがきれません。新しいSDカードに交換してください。
-

● 設定できるシャッタースピードの範囲が狭い

- フラッシュ撮影時は、シャッタースピードが制限されます（□68）。
 - 撮影メニュー「**動画の設定**」の「**動画のマニュアル設定**」が「**する**」のときは、フレームレートによってシャッタースピードは制限されます（□136）。
-

● 設定したい絞り値が選べない

- 設定できる最小絞り、開放絞りはレンズによって異なります。
-

● 画像の色合いがおかしい

- ホワイトバランスは正しく設定されていますか？（□105）
 - 「**ピクチャーコントロール**」は正しく設定されていますか？（□116）
-

● ホワイトバランスのプリセットマニュアルのデータが取得できない

被写体が明るすぎるか、暗すぎます（□109）。

● ホワイトバランスのプリセットマニュアルのデータとして設定できない画像がある

この機種以外のカメラで撮影した画像は、プリセットマニュアルデータとして設定することはできません（□111）。

● 「ピクチャーコントロール」の効果が安定しない

「**ピクチャーコントロール**」、**「カスタムピクチャーコントロール」**の調整画面で、「**輪郭強調**」、「**コントラスト**」、「**色の濃さ（彩度）**」のいずれかが「**A**」（オート）に設定されています。ピクチャーコントロールの効果を一定にするには、これらの項目を「**A**」（オート）以外に設定してください（□118）。

● 測光モードが変更できない

AEロック中は測光モードを変更できません（□94）。

● 露出補正ができない

撮影モードが**M**の場合、露出補正を行っても、露出インジケータの基準値が変わるだけで、シャッタースピードと絞り値は変化しません（□96）。

● 画像の一部が赤っぽくなる

シャッタースピードをBulbまたはTimeにした場合など、長時間露出で撮影すると、画像の一部が赤っぽくなることがあります。この現象は、撮影メニュー「**長秒時ノイズ低減**」を「**する**」に設定することで低減できます（□187）。

再生関連

● RAW画像が表示されない

「画質モード」を「RAW + FINE」、[RAW + NORMAL]、[RAW + BASIC] にして撮影した画像は、JPEG画像しか再生されません (□62)。

● 全ての画像が表示されない

再生メニュー「再生フォルダー設定」を「全てのフォルダー」にしてください。なお、「全てのフォルダー」にした後に撮影すると、「再生フォルダー設定」は自動的に「記録中のフォルダー」に変更されます (□183)。

● 画像の縦位置・横位置が正しく表示されない

- 再生メニュー「縦位置自動回転」が「しない」になっていませんか？ (□183)
- セットアップメニュー「縦横位置情報の記録」が「しない」になっていませんか？ (□212)
- 撮影直後の画像確認時は、自動回転しません (□183)。
- カメラを上向き・下向きにして撮影すると、縦横位置情報が正しく得られない場合があります (□212)。

● 画像を削除できない

- SDカードがロックされていませんか？ (□17)
- 画像にプロテクトが設定されていませんか？ (□151)

● 画像が編集できない

このカメラでは編集できない画像です (□217)。

● プリント指定ができない

- SDカードがロックされていませんか？ (□17)
- SDカードの空き容量が不足していませんか？ (□14)

● RAW画像をプリントできない

- 画像編集メニューの「RAW現像」などでRAW画像からJPEG画像を作成してからプリントしてください (□225)。
- RAW 画像はパソコンに転送してから、付属ソフトウェアや別売のCapture NX 2などのソフトウェアを使ってプリントしてください (□161)。

● 画像がテレビに映らない

セットアップメニュー「ビデオ出力」が正しく設定されていますか？ (□213)

● 画像がHDMI機器で再生できない

市販のHDMIケーブルが正しく接続されているか確認してください (□172)。

● HDMI-CEC対応機器のリモコンから制御できない

- セットアップメニューの「HDMI」の「機器制御」が「する」になっているか確認してください (□173)。
- テレビ側のHDMI-CECの設定については、テレビの使用説明書などをご覧ください。

● 画像をパソコンに転送できない

お使いのパソコンのOSによっては、カメラをパソコンに接続して画像を転送できないことがあります (□160)。カードリーダーなどの機器を使って、SDカードの画像をパソコンに保存してください。

● Capture NX 2で画像が表示されない

ソフトウェアのバージョンが最新になっていますか？ (□252)

● Capture NX 2でイメージダストオフ機能が動作しない

次の場合は、イメージセンサークリーニングにより、撮像素子前面のゴミの位置が変わってしまうため、イメージダストオフ機能を使用できません（□210）。

- イメージセンサークリーニングを実行する前に撮影した画像に対して、クリーニング後に取得したイメージダストオフデータを使ってゴミの写り込みを取り除こうとしたとき
 - イメージセンサークリーニングを実行する前に取得したイメージダストオフデータを使って、クリーニング後に撮影した画像に対してゴミの写り込みを取り除こうとしたとき
-

位置情報関連

● 測位できない、測位に時間がかかる

- 撮影する環境によって、測位できないことがあります。位置情報機能を使うときは、できるだけ空のひらけた場所でお使いください。
 - 初めて測位したときや、測位できない状態が長時間経過したとき、バッテリーの交換をしたときは、測位情報を取得するまで時間がかかります。
 - A-GPSデータを更新してください（□82）。
-

● 撮影した画像に位置情報が記録されない

撮影前に衛星受信状態マークを確認してください（□77）。位置情報が記録されるのは、インフォ画面にやが表示されているときだけです。

● 撮影した場所と記録した位置情報に誤差がある

撮影する環境によって、測位に誤差が生じることがあります。航法衛星からの電波の誤差が大きいと、最大で数百メートルの誤差を生じる場合があります。

● A-GPSデータが更新できない

- 次のことを確認してください。
 - SDカードが入っているか
 - SDカード内の正しいフォルダーにA-GPSファイルが入っているか（□82）
 - A-GPSファイルが壊れている可能性があります。ホームページからダウンロードし直してください。
 - カメラの時計が設定されていません。日付と時刻を設定してください（□82、211）。
-

● ログを取得できない

- カメラの時計が設定されていません。日付と時刻を設定してください（□82、211）。
 - ログ取得中です。新しくログを取得するときは、[位置情報] → [ログ取得] → [終了] を選び、取得中のログを終了してください。
 - 残量のあるSDカードが入っていますか？（□11、14）
 - SDカードがロックされていませんか？（□17）
 - 新しいSDカードに交換するか、不要なログファイルを削除してください。1枚のSDカードにはログファイルを最大100個保存できます。ただし、一日に保存できるログファイルは最大36個です。
-

Wi-Fi（無線LAN）関連

● スマートデバイスにカメラのSSID（ネットワーク名）が表示されない

- セットアップメニュー [Wi-Fi] の [通信機能] が [有効] になっていることを確認してください（□178）。
 - スマートデバイスのWi-Fi機能をOFFにしてからONにし直してみてください。
-

その他

● 撮影日時が正しく表示されない

カメラの内蔵時計は合っていますか？カメラの内蔵時計は腕時計などの一般的な時計ほど精度は高くないため、定期的に日時設定を行うことをおすすめします（□13、211）。

● 表示されているメニュー項目が選択できない

- SDカードをカメラに挿入していないときは、選択できない項目があります（□11、216）。
 - 一部のメニュー項目は、カメラの設定状況によって選択できない場合があります（□10、264）。
-

警告メッセージ

液晶モニターとファインダーに表示される警告メッセージの意味は次の通りです。

 **警告表示について**

液晶モニターに①、またはファインダー内に②が点滅している場合に Q (?) ボタンを押すと、警告の内容を確認することができます。

こんなとき		対処方法	
液晶モニター	ファインダー内表示		
レンズの絞りリングを最小絞り（一番大きい数字）にしてください。	FE E (点滅)	レンズの絞りリングを最小絞り（最も大きい値）にしてください。	242
レンズ未装着	$\text{F- -}/?$ (点滅)	• レンズを装着してください。 • 非CPUレンズを装着しているときは、撮影モード M で撮影してください。	12 246
撮影できません。 バッテリーを交換してください。	 /? (点滅)	残量のあるバッテリーに交換してください。	11
このバッテリーは使用できません。 専用バッテリーに交換してください。	 (点滅)	専用バッテリーに交換してください。	251
起動エラーが発生しました。復旧には電源スイッチをOFFにして再度ONにしてください。	 /Err (点滅)	電源を一度OFFにしてから、バッテリーを入れ直し、もう一度電源をONにしてください。	2、11
バッテリーが残り少なくなりました。 ただちに作業を終了し、電源スイッチをOFFにしてください。	—	クリーニングを中止し、電源をOFFにしてください。	260
日時未設定	—	日時を設定してください。	13、211
メモリーカード未挿入	$(-E-)/?$ (点滅)	SDカードを正しく入れてください。	11
メモリーカードが書き込み禁止になっています。	$[d]$ (点滅)	SDカードのロックを解除してください。	17
Eye-Fiカードは書き込み禁止の状態では使用できません。	$[d]/Err$ (点滅)	Eye-Fiカードのロックを解除してください。	17

こんなとき		対処方法	📖
液晶モニター	ファインダー内表示		
このメモリーカードは壊れている可能性があるため、使用できません。カードを交換してください。	[d/Err] (点滅)	- このカメラで使用できる SD カードであるかどうかを確認してください。 - SDカードを初期化し直してください。状況が改善しない場合は、SDカードが壊れている可能性があります。ニコンサービス機関にご相談ください。 - 新規フォルダー作成時にこのメッセージが表示された場合は、不要な画像を削除してください。 - 新しいSDカードに交換してください。 - セットアップメニューの [Eye-Fi送信機能] を [無効] にしても、電波が出力される場合があります。カメラの電源をOFFにしてからEye-Fiカードを取り出し、SDカードに交換してください。	11、254 206、306 154 11、254 214
このメモリーカードは初期化（フォーマット）されていません。フォーマットしてください。	[Fcr] (点滅)	- SDカードをカメラで初期化してください。 - 電源を OFF にしてから、正しく初期化された SD カードに交換してください。	206 11
メモリーカード 空き容量不足	Ful/0/0 (点滅)	- SD カードに記録されている画像を削除して、SD カードに画像ファイルが保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップしてください。 - 新しいSDカードに交換してください。	154、161 11
—	● (点滅)	構図を変えるか、マニュアル（手動）でピントを合わせてください。	21、54、59
被写体が明るすぎます	? (点滅)	- ISO感度を低くしてください。 - シャッタースピードをより高速側にセットしてください。 - 絞りを絞込んで（より大きい数値にして）ください。 - 市販のND（光量調節用）フィルターをお使いください。 ?の場合は、撮影モードを切り換えてください。	69 88、90 89、90 251 3
被写体が暗すぎます	? (点滅)	- ISO感度を高くしてください。 - フラッシュをお使いください。 - シャッタースピードをより低速側にセットしてください。 - 絞りを開いて（より小さい数値にして）ください。	69 64 88、90 89、90

こんなとき		対処方法	📖
液晶モニター	ファインダー内表示		
Sモード時Bulb制御不可	 (点滅)	- シャッタースピードを変えてください。 - 撮影モードMで撮影してください。	88 90
Sモード時Time制御不可	- - (点滅)		
HDRモード時 Bulb制御不可	 (点滅)	- シャッタースピードを変えてください。 - HDR (ハイダイナミックレンジ) を [OFF しない] にしてください。	90、91 100
HDRモード時 Time制御不可	- - (点滅)		
インターバル撮影中	—	インターバルタイマー撮影中は、メニュー操作や画像の再生を行うことはできません。インターバルタイマー撮影を中止するには、電源をOFFにしてください。	—
—	 (点滅)	フラッシュがフル発光しました。撮影に必要な光量が不足している可能性があります。撮影距離、絞り、フラッシュ調光範囲、ISO感度などをご確認ください。	—
—	 (点滅)	- フラッシュをお使いください。 - 撮影距離、絞り値、調光範囲、ISO感度などを確認してください。	64 68、69、89
		別売スピードライトSB-400またはSB-300をお使いの場合に、装着したSB-400、SB-300の位置がバウンス位置になっていると、この警告表示になります。バウンスで撮影するときは、そのまま撮影を続けてください。	—
		レンズの焦点距離が 18mm より広角になっています。焦点距離を18mm以上にしてください。	—
		別売スピードライトSB-400またはSB-300をお使いの場合に、レンズの焦点距離が短すぎると、この警告表示になり、画像の周辺が暗くなることを警告します。この場合、レンズの焦点距離を長くしてください。	—
スピードライトエラー	 (点滅)	接続中のスピードライトはバージョンアップに失敗しているため使用できません。ニコンサービス機関にご相談ください。	306
何らかの異常を検出しました。 復旧にはシャッターボタンをもう一度押してください。	 (点滅)	もう一度シャッターボタンを押してください。警告表示が解除されない場合や、頻繁に警告が表示される場合は、ニコンサービス機関にご相談ください。	306

こんなとき		対処方法	📖
液晶モニター	ファインダー内表示		
起動エラーが発生しました。 サービス機関にお問い合わせください。	Err (点滅)	ニコンサービス機関にご相談ください。	306
測光機能エラー	Err (点滅)	ニコンサービス機関にご相談ください。	306
ライブビューを開始できません。 カメラ内部の温度が下がるまでしばらくお待ちください。	—	カメラ内部の温度が下がるまで、ライブビュー撮影または動画撮影を一時休止してください。	129、 134
撮影画像がありません。	—	- 画像が記録されているSDカードを入れてください。 - 再生メニューの[再生フォルダー設定]を[記録中のフォルダー]にした後、SDカードを交換してから、撮影を行わずに画像を再生しました。[再生フォルダー設定]を[全てのフォルダー]にすると、SDカード内の画像を再生できます。	11 183
このファイルは表示できません。	—	- パソコンで編集した画像など、DCF規格の画像ファイルではないため、再生できません。 - 画像ファイルに異常があるため再生できません。	—
このファイルは選択できません。	—	このカメラで撮影または編集した画像しか画像編集できません。	217
処理できる画像がありません。	—	[RAW現像]で画像編集できるのはRAW画像だけです。	225
複数の接続先を検出したため接続を中止しました。 しばらくしてから、接続をやり直してください。	—	スマートデバイスからの通信信号を受信中、複数の接続先を検出したため接続を中止しました。 しばらくしてから、接続をやり直してください。	—
エラーが発生しました。	—	セットアップメニュー [Wi-Fi] の[通信機能]を[無効]にしてから、もう一度[有効]にしてください。	176
カメラの温度が下がるまで通信機能は使えません。	—	カメラの電源をOFFにして、カメラ内部の温度が下がるまでしばらく待ってから接続をやり直してください。	—
プリンターの状態を確認してください。※	—	インク交換してください。インクに残量がある場合は、プリンターの状態を確認してください。	—

こんなとき		対処方法	
液晶モニター	ファインダー内表示		
用紙を確認してください。※	—	指定したサイズ of 用紙がセットされていません。指定したサイズ of 用紙をセットした後、 〔継続〕 を選んで OK ボタンを押して、プリントを再開してください。	—
紙詰まりです。※	—	用紙が詰まりました。詰まった用紙を取り除いた後、 〔継続〕 を選んで OK ボタンを押して、プリントを再開してください。	—
用紙がありません。※	—	用紙がセットされていません。指定したサイズ of 用紙をセットした後、 〔継続〕 を選んで OK ボタンを押して、プリントを再開してください。	—
インクを確認してください。※	—	インクに異常があります。インクを確認した後、 〔継続〕 を選んで OK ボタンを押して、プリントを再開してください。	—
インクがありません。※	—	インクがなくなりました。インクを交換した後、 〔継続〕 を選んで OK ボタンを押して、プリントを再開してください。	—

※ プリンターの使用説明書も併せてご覧ください。

主な仕様

■ニコンデジタルカメラD5300

型式	
型式	レンズ交換式一眼レフレックスタイプデジタルカメラ
レンズマウント	ニコンFマウント（AF接点付）
実撮影画角	ニコンDXフォーマット、焦点距離が約1.5倍のレンズのFXフォーマットでの画角に相当
有効画素数	
有効画素数	2416万画素
撮像素子	
方式	23.5×15.6 mmサイズCMOSセンサー
総画素数	2478万画素
ダスト低減機能	イメージセンサークリーニング、 イメージダストオフデータ取得（別売Capture NX 2必要）
記録形式	
記録画素数	• 6000×4000ピクセル（サイズL） • 4496×3000ピクセル（サイズM） • 2992×2000ピクセル（サイズS）
画質モード	• RAW 12ビット/14ビット（圧縮） • JPEG-Baseline準拠、圧縮率（約）：FINE（1/4）、NORMAL（1/8）、BASIC（1/16） • RAWとJPEGの同時記録可能
ピクチャー コントロールシステム	スタンダード、ニュートラル、ビビッド、モノクローム、ポートレート、風景、 いずれも調整可能、カスタムピクチャーコントロール登録可能
記録媒体	SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカード（SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカードはUHS-I規格に対応）
対応規格	DCF 2.0（Design rule for Camera File system）、 DPOF（Digital Print Order Format）、 Exif 2.3（Exchangeable image file format for digital still cameras）、 PictBridge
ファインダー	
ファインダー	アイレベル式ペンタミラー使用一眼レフレックス式ファインダー
視野率	上下左右とも約95%（対実画面）
倍率	約0.82倍（50mm f/1.4レンズ使用、 ∞ 、 -1.0 m^{-1} のとき）
アイポイント	接眼レンズ面中央から18mm（ -1.0 m^{-1} のとき）
視度調節範囲	$-1.7\sim+1.0\text{ m}^{-1}$
ファインダー スクリーン	B型クリアマットスクリーン VII
ミラー	クイックリターン式
レンズ絞り	瞬間復元式、電子制御式

レンズ	
交換レンズ	・オートフォーカス可能レンズ：AF-SおよびAF-Iレンズ ・オートフォーカス不可レンズ：AF-SおよびAF-I以外のGまたはDタイプレンズ、GまたはDタイプ以外のAFレンズ（IX用レンズ、F3AF用レンズは使用不可）、Pタイプレンズ、非CPUレンズ（撮影モードM（マニュアル）で使用可能、ただしカメラで測光は不可） ※ 開放F値がF5.6以上明るいレンズでフォーカスエイド可能
シャッター	
型式	電子制御上下走行式フォーカルプレーンシャッター
シャッタースピード	1/4000～30秒（1/3ステップ、1/2ステップに変更可能）、Bulb、Time
フラッシュ同調シャッタースピード	X=1/200秒以下の低速シャッタースピードで同調
レリーズ機能	
レリーズモード	・[S]：1コマ撮影、[L]：低速連続撮影、[H]：高速連続撮影、[Q]：静音撮影、[T]：セルフタイマー、[2s]：2秒リモコン（ML-L3）、[i]：瞬時リモコン（ML-L3） ・インターバルタイマー撮影可能
連続撮影速度	・[L]：最高約3コマ/秒※ ・[H]：最高約5コマ/秒（JPEG画像撮影時または、12ビットのRAW画像撮影時）または最高約4コマ/秒（14ビットのRAW画像撮影時）※ ※ フォーカスモードがAF-Cで、カスタムメニュー a1 [AF-Cモード時の優先] が [レリーズ] 、撮影モードが S （シャッター優先オート）または M （マニュアル）、1/250秒以上の高速シャッタースピード、その他が初期設定時
セルフタイマー	作動時間：2、5、10、20秒、撮影コマ数：1～9コマ
露出制御	
測光方式	2016分割RGBセンサーによるTTL開放測光方式
測光モード	・マルチパターン測光：3D-RGBマルチパターン測光Ⅱ（G、E、またはDタイプレンズ使用時）、RGBマルチパターン測光Ⅱ（その他のCPUレンズ使用時） ・中央部重点測光：φ8 mm相当を測光（中央部重点度約75%） ・スポット測光：φ3.5 mm相当（全画面の約2.5%）を測光、フォーカスポイントに連動して測光位置可動
測光範囲	・マルチパターン測光、中央部重点測光：0～20 EV ・スポット測光：2～20 EV（ISO 100、f/1.4レンズ使用時、常温20℃）
露出計連動	CPU連動方式
撮影モード	Auto ：オート、 [L] ：発光禁止オート、 P ：マルチプログラムオート（プログラムシフト可能）、 S ：シャッター優先オート、 A ：絞り優先オート、 M ：マニュアル ・シーンモード：[S]：ポートレート、[L]：風景、[C]：こどもスナップ、[M]：スポーツ、[N]：クローズアップ、[B]：夜景ポートレート、[A]：夜景、[P]：パーティー、[W]：海・雪、[F]：夕焼け、[T]：トワイライト、[P]：ペット、[L]：キャンドルライト、[S]：桜、[R]：紅葉、[F]：料理 ・スペシャルエフェクトモード：[N]：ナイトビジョン、[S]：カラースケッチ、[M]：トイカメラ風、[M]：ミニチュア効果、[S]：セレクトカラー、[A]：シルエット、[M]：ハイキー、[L]：ローキー、[P]：HDRペインティング

露出制御	
露出補正	P、S、A、Mモード時に設定可能、範囲：±5段、補正ステップ：1/3、1/2ステップに変更可能
オートブラケティング	- AEブラケティング時、撮影コマ数：3コマ、補正ステップ：1/3、1/2ステップ - ホワイトバランスブラケティング時、撮影コマ数：3コマ、補正ステップ：1ステップ - アクティブD-ライティングブラケティング時、撮影コマ数：2コマ
AEロック	AE (ON) ボタンによる輝度値ロック方式
ISO感度 (推奨露光指数)	ISO 100～12800 (1/3ステップ)、ISO 12800に対し約0.3、0.7、1段 (ISO 25600相当) の増感、感度自動制御が可能
アクティブ D-ライティング	暗Aオート、暗Hより強め、暗H強め、暗N標準、暗L弱め、OFFしない
オートフォーカス	
方式	TTL位相差検出方式：フォーカスポイント39点（うち、クロスタイプセンサー9点）、マルチCAM 4800DXオートフォーカスセンサーモジュールで検出、AF補助光（約0.5～3 m）付
検出範囲	-1～+19 EV（ISO 100、常温（20℃））
レンズサーボ	- オートフォーカス（AF）：シングルAFサーボ（AF-S）、コンティニユアスAFサーボ（AF-C）、AFサーボモード自動切り換え（AF-A）を選択可能、被写体条件により自動的に予測駆動フォーカスに移行 - マニュアルフォーカス（MF）：フォーカスイド可能
フォーカスポイント	- AF39点設定時：39点のフォーカスポイントから1点を選択 - AF11点設定時：11点のフォーカスポイントから1点を選択
AFエリアモード	シングルポイントAF、ダイナミックAF（9点、21点、39点）、オートエリアAF、3D-トラッキング
フォーカスロック	AE (ON) ボタン、またはシングルAFサーボ（AF-S）時にシャッターボタン半押し
フラッシュ	
内蔵フラッシュ	 、  、  、  、  、  、  、  、  時：オートポップアップ方式による自動発光 P、S、A、M、  時：押しボタン操作による手動ポップアップ方式 ガイドナンバー：約12（マニュアルフル発光時約13）（ISO 100・m、20℃）
調光方式	2016分割RGBセンサーによるTTL調光制御：内蔵フラッシュ、SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、SB-400またはSB-300でi-TTL-BL調光（マルチパターン測光または中央部重点測光）、スタンダードi-TTL調光（スポット測光）可能
フラッシュモード	通常発光オート、赤目軽減オート、通常発光オート+スローシャッター、赤目軽減オート+スローシャッター、通常発光、赤目軽減発光、通常発光+スローシャッター、赤目軽減発光+スローシャッター、後幕発光+スローシャッター、後幕発光、発光禁止
調光補正	範囲：-3～+1段、補正ステップ：1/3、1/2ステップ
レディーライト	内蔵フラッシュ、別売スピードライト使用時に充電完了で点灯、フル発光による露出警告時は点滅
アクセサリシュー	ホットシュー（ISO 518）装備：シンクロ接点、通信接点、セーフティーロック機構（ロック穴）付

フラッシュ	
ニコンクリエイティブライティングシステム	- SB-910、SB-900、SB-800またはSB-700を主灯、SU-800をコマンダーとしたアドバンストワイヤレスライティングに対応 - ニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライトとの組み合わせで発光色温度情報伝達に対応
シンクロターミナル	ホットシューアダプター AS-15（別売）
ホワイトバランス	
ホワイトバランス	オート、電球、蛍光灯（7種）、晴天、フラッシュ、曇天、晴天日陰、プリセットマニュアル。プリセットマニュアル以外はいずれも微調整可能
ライブビュー撮影機能	
レンズサーボ	- オートフォーカス（AF）：シングルAFサーボ（AF-S）、常時AFサーボ（AF-F） - マニュアルフォーカス（MF）
AFエリアモード	顔認識AF、ワイドエリアAF、ノーマルエリアAF、ターゲット追尾AF
フォーカス	コントラストAF方式、全画面の任意の位置でAF可能（顔認識AFまたはターゲット追尾AFのときは、カメラが決めた位置でAF可能）
おまかせシーン（シーン自動判別）	撮影モード  、  で使用可能
動画機能	
測光方式	撮像素子によるTTL測光方式
測光モード	マルチパターン測光
記録画素数/フレームレート	1920×1080：60p/50p/30p/25p/24p 1280×720：60p/50p 640×424：30p/25p ※ 60p：59.94fps、50p：50fps、30p：29.97fps、25p：25fps、24p：23.976fps ※ 30p/60pは【ビデオ出力】が【NTSC】の場合に選択可能 ※ 25p/50pは【ビデオ出力】が【PAL】の場合に選択可能 ※ 標準/高画質選択可能
ファイル形式	MOV
映像圧縮方式	H.264/MPEG-4 AVC
音声記録方式	リニアPCM
録音装置	内蔵ステレオマイク、外部マイク使用可能（ステレオ録音）、マイク感度設定可能
感度	ISO 100～12800、ISO 12800に対し約0.3、0.7、1段（ISO 25600相当）の増感
液晶モニター	
液晶モニター	3.2型（3:2）TFT液晶モニター、約104万ドット（720×480×3＝1,036,800）、バリアングル方式、視野角170°、視野率約100%、明るさ調整可能
再生機能	
再生機能	1コマ再生、サムネイル再生（4、12、80分割またはカレンダーモード）、拡大再生、動画再生、スライドショー（静止画/動画選択再生可能）、ヒストグラム表示、ハイライト表示、撮影画像の縦位置自動回転、レーティング、画像コメント入力可能（英数字36文字まで）
インターフェース	
USB	Hi-Speed USB
ビデオ出力	NTSC、PAL

インターフェース	
HDMI出力	HDMIミニ端子 (Type C) 装備
アクセサリ ターミナル	- ワイヤレスリモートコントローラー WR-1、WR-R10 (別売) - リモートコード: MC-DC2 (別売) - GPSユニット: GP-1/GP-1A (別売)
外部マイク入力	ステレオミニジャック (φ3.5mm) 装備、ステレオマイクロホンME-1 (別売) 使用可能
Wi-Fi (無線LAN)	
準拠規格	IEEE802.11b、IEEE802.11g
伝送方式	- IEEE802.11b: DSSS/CCK - IEEE802.11g: OFDM
周波数範囲 (中心周波数)	2412～2462 MHz (1～11ch)
通信距離 (見通し)	約30 m※ ※ 電波干渉が無い場合。通信距離は遮蔽物や電波状態などにより影響されます。
データ転送速度 (規格値)	54 Mbps※ ※ 表示の数値は、規格の理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。
セキュリティ	認証方式: オープンシステム、WPA2-PSK 暗号方式: AES
無線設定	WPS対応
アクセス方式	インフラストラクチャーモード
位置情報機能	
位置情報機能	受信周波数 1575.42 MHz (C/Aコード)、測地系 WGS 84
表示言語	
表示言語	日本語、英語
電源	
使用電池	Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14a (1個使用)
ACアダプター	ACアダプター EH-5b (パワーコネクター EP-5Aと組み合わせて使用) (別売)
三脚ネジ穴	
三脚ネジ穴	1/4 (ISO 1222)
寸法・質量	
寸法 (W×H×D)	約125×98×76 mm
質量	約530 g (バッテリーおよびSDメモリーカードを含む、ボディーキャップを除く) 約480 g (本体のみ)
動作環境	
温度	0℃～40℃
湿度	85%以下 (結露しないこと)

- 仕様中のデータは特に記載のある場合を除き、CIPA (カメラ映像機器工業会) 規格による温度条件23℃ (±3℃) で、フル充電バッテリー使用時のものです。
- 仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- 本書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

■■ バッテリーチャージャー MH-24

電源	AC 100 ～ 240 V、50/60 Hz、MAX 0.2 A
定格入力容量	18 ～ 24 VA
充電出力	DC 8.4 V、0.9 A
適応電池	Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14a
充電時間	EN-EL14a充電時：約1時間50分 ※残量のない状態からの充電時間（周囲温度25℃）
使用温度	0℃～40℃
寸法（W×H×D）	約70×26×97 mm
質量	約96 g

■■ Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14a

形式	リチウムイオン充電電池
定格容量	7.2 V、1230 mAh
使用温度	0℃～40℃
寸法（W×H×D）	約38×53×14 mm
質量	約49 g（端子カバーを除く）

■ レンズAF-S DX NIKKOR 18–140mm f/3.5–5.6G ED VR

型式	ニコンF マウントCPU 内蔵G タイプ、AF-S DXレンズ
焦点距離	18 mm–140 mm
最大口径比	1 : 3.5–5.6
レンズ構成	12 群17 枚（ED レンズ1 枚、非球面レンズ1 枚）
画角	76°– 11° 30′
焦点距離目盛	18、24、35、50、70、140 mm
撮影距離情報	カメラへの撮影距離情報を出力可能
ズーミング	ズームリングによる回転式
ピント合わせ	IF（ニコン内焦）方式、超音波モーターによるオートフォーカス、マニュアルフォーカス可能
手ブレ補正	ボイスコイルモーター（VCM）によるレンズシフト方式
最短撮影距離※1	撮像面から0.45 m（ズーム全域）
絞り羽根枚数	7枚（円形絞り）
絞り方式	自動絞り
絞りの範囲※2	- 焦点距離 18 mm時：f/3.5–22 - 焦点距離 140 mm時：f/5.6–38
測光方式	開放測光
アタッチメントサイズ	67 mm（P=0.75 mm）
寸法	約78 mm（最大径）× 97 mm（レンズマウント基準面からレンズ先端まで）
質量	約490 g

※1 距離基準マーク（□60）は撮像面の位置を示します。

※2 カメラの露出値設定のステップ幅により、最小絞り値の表示が異なる場合があります。

■■ レンズAF-S DX NIKKOR 18–55mm f/3.5–5.6G VR

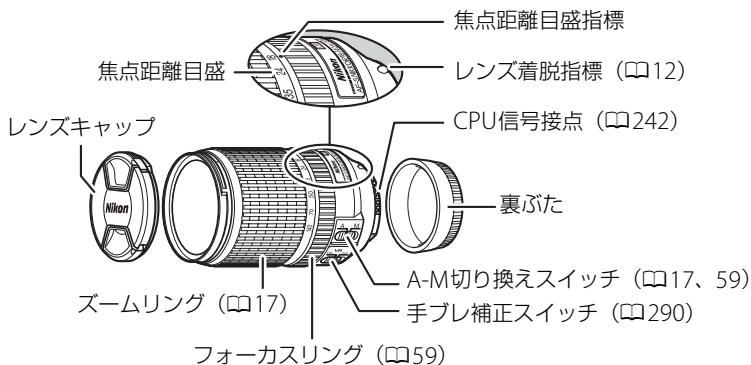
型式	ニコンFマウントCPU内蔵Gタイプ、AF-Sレンズ
焦点距離	18 mm–55 mm
最大口径比	1 : 3.5–5.6
レンズ構成	8群11枚（非球面レンズ1枚）
画角	76°– 28° 50′
焦点距離目盛	18、24、35、45、55 mm
撮影距離情報	カメラへの撮影距離情報を出力可能
ズーミング	ズームリングによる回転式
ピント合わせ	超音波モーターによるオートフォーカス、マニュアルフォーカス可能
手ブレ補正	ボイスコイルモーター（VCM）によるレンズシフト方式
最短撮影距離※	撮像面から0.28 m（ズーム全域）
絞り羽根枚数	7枚（円形絞り）
絞り方式	自動絞り
絞りの範囲	- 焦点距離18 mm時：f/3.5–22 - 焦点距離55 mm時：f/5.6–36
測光方式	開放測光
アタッチメントサイズ	52 mm（P=0.75 mm）
寸法	約73 mm（最大径）×79.5 mm（レンズマウント基準面からレンズ先端まで）
質量	約265 g

※ 距離基準マーク（□□60）は撮像面の位置を示します。

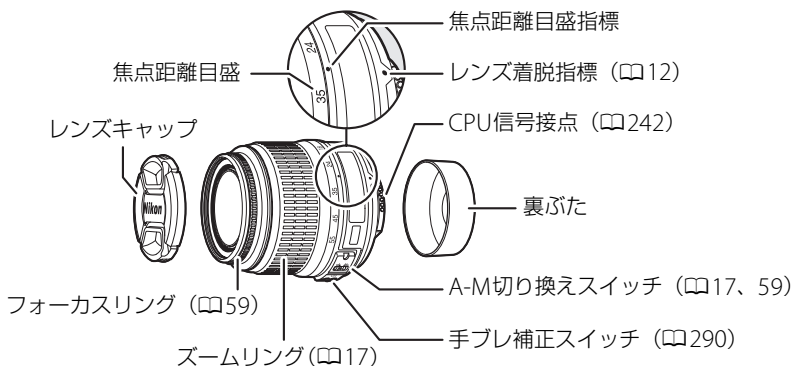
- 仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- 本書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

AF-S DX NIKKOR 18-140mm f/3.5-5.6G ED VRと **AF-S DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VR**

- 本書では、主にAF-S DX NIKKOR 18-140mm f/3.5-5.6G ED VRのレンズを使用して説明しています。AF-S DX NIKKOR 18-140mm f/3.5-5.6G ED VRの各部名称は次の通りです。



- AF-S DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VRの各部名称は次の通りです。



- AF-S DX NIKKOR 18-140mm f/3.5-5.6G ED VRとAF-S DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VRIは、DXフォーマットのニコンデジタル一眼レフカメラ専用です。

レンズのお手入れと取り扱い上のご注意

- CPU信号接点は汚さないようにご注意ください。
- レンズ面の清掃は、ほこりを拭う程度にしてください。指紋がついたときは、柔らかい清潔な木綿の布に無水アルコール（エタノール）または市販のレンズクリーナーを少量湿らせ、レンズの中心から外周へ渦巻き状に、拭きむら、拭き残りのないように注意して拭いてください。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤は絶対に使用しないでください。
- レンズ表面の汚れや傷を防ぐためには、NCフィルターをお使いいただけます。また、レンズのフードも役立ちます。
- レンズをケースに入れるときは、必ずレンズキャップと裏ぶたを取り付けてください。
- フードをレンズに装着した状態で、フードだけを持たないでください。
- レンズを長期間使用しないときは、カビやサビを防ぐために、高温多湿の場所を避けて風通しのよい場所に保管してください。また、直射日光の当たるところ、防虫剤のあるところも避けてください。
- レンズを水にぬらすと、部品がサビつくなどして故障の原因となりますのでご注意ください。
- ストープの前など、高温になるところに置かないでください。極端に温度が高くなると、外観の一部に使用している強化プラスチックが変形することがあります。

AF-S DX NIKKOR 18-140mm f/3.5-5.6G ED VR使用時のピント合わせについて

カメラのフォーカスモードが【AF-S】の場合は、レンズのA-M切り換えスイッチがAになっていても、オートフォーカスでピントが合った状態でシャッターボタンを半押ししたままフォーカスリングを手で回転させると、マニュアルフォーカスでピントを調整できます。

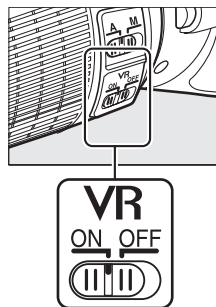
- いったんシャッターボタンから指を放し、再度半押しすると、オートフォーカスでピントを合わせます。
- オートフォーカス作動中は、フォーカスリングを回転させないでください。

■手ブレ補正機能（VR）を使う

AF-S DX NIKKOR 18–140mm f/3.5–5.6G ED VRで手ブレ補正機能を使うと、使わないときと比べてシャッタースピードで約4段分※（焦点距離140mm、DXフォーマット機種使用時）の手ブレを補正します。AF-S DX NIKKOR 18–55mm f/3.5–5.6G VRの場合は、シャッタースピードで約3段分※（焦点距離55mm、DXフォーマット機種使用時）の手ブレを補正します。どちらのレンズもパンニング（流し撮り）に対応しています。

※CIPAガイドライン準拠。また、手ブレ補正効果は、撮影者や撮影条件によって異なります。

- 手ブレ補正機能を使うときは、手ブレ補正スイッチをONにしてください。
- シャッターボタンを半押しすると、手ブレを補正します。このときファインダー内の画像のブレも補正するため、ピント合わせが容易で、構図が決めやすくなります。



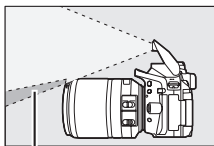
✓手ブレ補正使用時のご注意

- 三脚を使用するときは、手ブレ補正スイッチをOFFにしてください。ただし、三脚を使っても雲台を固定しないときや、一脚を使用するときには、手ブレ補正スイッチをONにすることをおすすめします。
- シャッターボタンを半押し後、ファインダー像が安定してから撮影することをおすすめします。
- パンニング（流し撮り）でカメラの向きを大きく変えた場合、流した方向の手ブレ補正は機能しません。たとえば、流し撮りで横方向にパンニングすると、縦方向の手ブレだけが補正され、流し撮りができます。
- 手ブレ補正の原理上、シャッターをきるとファインダー像がわずかに動くことがあります。異常ではありません。
- 手ブレ補正中にカメラの電源をOFFにしたり、レンズを取り外したりしないでください（その状態でレンズを振るとカタカタと音がすることがありますが、故障ではありません。カメラの電源をもう一度ONにすれば、音は消えます）。
- 内蔵フラッシュ充電中には、手ブレを補正しません。

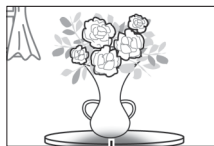
カメラの内蔵フラッシュ使用時のご注意

- 撮影距離0.6 m以上で使用してください。
- ケラレを防止するために、レンズのフードは取り外して使用してください。

※ カメラの内蔵フラッシュのケラレとは、フラッシュの光がレンズの先端でさえぎられて影になり、写真に映り込む現象です。



ケラレ



ケラレ

- AF-S DX NIKKOR 18-140mm f/3.5-5.6G ED VRの場合：

デジタル一眼レフカメラ	ケラレなく撮影できる焦点距離と撮影距離
D7100/D7000/D300シリーズ/D200/D100	• 焦点距離18 mmでは撮影距離1 m以上 • 焦点距離24 mm以上は制約なし
D90/D80/D50	• 焦点距離18 mmでは撮影距離2.5 m以上 • 焦点距離24 mmでは撮影距離1 m以上 • 焦点距離35 mm以上は制約なし
D5300/D5200/D5100/D5000/D3200/ D3100/D3000/D70シリーズ/D60/ D40シリーズ	• 焦点距離24 mm以上では撮影距離1 m以上 • 焦点距離35mm以上は制約なし

- AF-S DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VRの場合：

デジタル一眼レフカメラ	ケラレなく撮影できる焦点距離と撮影距離
D7100/D7000/D5300/D5200/D5100/ D5000/D3200/D3100/D3000/ D300シリーズ/D200/D100/D90/D80/ D70シリーズ/D60/D50/D40シリーズ	全ての焦点距離で、ケラレは発生しません。

- D100/D70の内蔵フラッシュは、20mmレンズの画角をカバーする照射角なので、焦点距離18mmでは周辺が暗くなります。

AF-S DX NIKKOR 18-140mm f/3.5-5.6G ED VRの付属アクセサリ

- 67 mmスプリング式レンズキャップ LC-67
- 裏ぶた

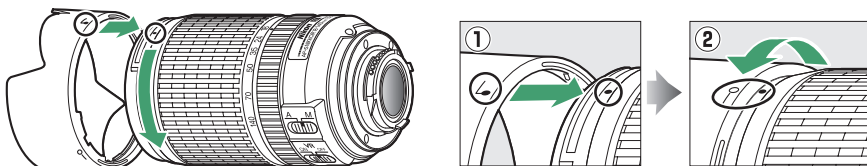
AF-S DX NIKKOR 18-140mm f/3.5-5.6G ED VRで使えるアクセサリ

- 67 mmネジ込み式フィルター
- 裏ぶた LF-1、LF-4
- ソフトケース CL-1018
- バヨネットフード HB-32

レンズフードの取り付け方

フード着脱指標（●）とフード取り付け指標（♂）を合わせて、フード着脱指標とフードセット指標（—○）が合うように回転させてください。

- フード先端を強くつかむと着脱が困難になります。着脱の際は、フード取り付け指標（♂）付近を持って回転させてください。
- フードが正しく取り付けられないと画像にケラレを生じますのでご注意ください。
- 収納時はフードを逆向きにしてレンズに取り付けられます。



AF-S DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VRの付属アクセサリ

- 52mmスプリング式レンズキャップ LC-52
- 裏ぶた

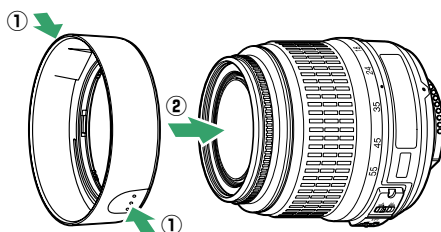
AF-S DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VRで使えるアクセサリ

- 52mmネジ込み式フィルター
- 裏ぶた LF-1、LF-4
- ソフトケース CL-0815
- フード HB-45

レンズフードの取り付け方

フード着脱ボタンを押した状態（①）で、フードを取り付けまたは取り外します（②）。

- フードが正しく取り付けられないと撮影画面にケラレを生じますのでご注意ください。
- 収納時はフードを逆向きにしてレンズに取り付けられます。





広角・超広角レンズのオートフォーカス撮影について

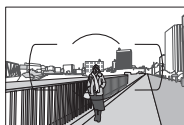
広角・超広角レンズでは、標準クラスのレンズと比べ、下記のような撮影条件になりやすく、オートフォーカス撮影時には注意が必要です。

以下をお読みになって、オートフォーカス撮影にお役立てください。

1 フォーカスポイントに対して主要な被写体が小さい場合

図のように、フォーカスポイント内に遠くの建物と近くの人物が混在するような被写体になると、背景にピントが合い、人物のピント精度が低下する場合があります。

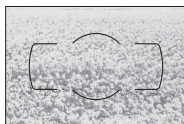
〈人物〉



2 絵柄が細かい場合

図のように、被写体が小さいか、明暗差が少ない被写体になると、オートフォーカスにとっては苦手の被写体になります。

〈花畑〉



このようなときには・・・

1、2のような被写体条件でオートフォーカスがうまく働かない場合、主要被写体とほぼ同じ距離にある被写体でフォーカスロックし、構図を元に戻して撮影する方法が有効です。

また、マニュアルフォーカスに切り換えて、マニュアルでピントを合わせて撮影する方法もあります。

その他

「オートフォーカスが苦手の被写体」の説明も参照してください（□54）。

このカメラの準拠規格

- **Design rule for Camera File system (DCF) Version 2.0**: 各社のデジタルカメラで記録された画像ファイルを相互に利用し合うための記録形式です。
- **DPOF (Digital Print Order Format)**: デジタルカメラで撮影した画像をプリントショップや家庭用プリンターで自動プリントするための記録フォーマットです。
- **Exif Version 2.3**: (Exif = Exchangeable image file format for digital still cameras): デジタルカメラとプリンターの連携を強化し、高品質なプリント出力を簡単に得ることを目指した規格です。この規格に対応したプリンターをお使いになると、撮影時のカメラ情報を活かして最適なプリント出力を得ることができます。詳しくはプリンターの使用説明書をご覧ください。
- **PictBridge**: デジタルカメラとプリンターメーカーの各社が相互接続を保証するもので、デジタルカメラの画像を、パソコンを介さずプリンターで直接印刷するための標準規格です。
- **HDMI (High-Definition Multimedia Interface)**: 家庭用電化製品およびAV機器用のマルチメディアインターフェース規格です。1本のケーブルをつなぐだけで、画像、音声、制御信号をHDMI対応機器に送信できます。

商標説明

- PictBridgeロゴは商標です。
- SDロゴ、SDHCロゴ、およびSDXCロゴは、SD-3C, LLC.の商標です。
- Microsoft、WindowsおよびWindows Vistaは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- Mac OSおよびOS Xは米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- iOSの商標は、米国およびその他の国におけるCiscoのライセンスに基づき使用しています。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。

HDMI

- Wi-FiおよびWi-Fiロゴは、Wi-Fi Allianceの商標または登録商標です。
- その他の会社名、製品名は各社の商標、登録商標です。

認証マークの表示

セットアップメニューの「**認証マークの表示**」では、このカメラが取得している認証マークの一部を確認できます (□215)。

FreeType License (FreeType2)

本製品のソフトウェアの著作権の一部は、© 2013 The FreeType Project (<http://www.freetype.org>) のものです。すべての権利はその所有者に帰属します。

MIT License (HarfBuzz)

本製品のソフトウェアの著作権の一部は、© 2013 The HarfBuzz Project (<http://www.freedesktop.org/wiki/Software/HarfBuzz>) のものです。すべての権利はその所有者に帰属します。

記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数

画質モード（□□61）と画像サイズ（□□63）の組み合わせによって、16 GBのSDカードに記録できるコマ数、および連続撮影できるコマ数は、次のようになります※1。ただし、カードの種類や撮影条件によって、コマ数は増減することがあります。

画質モード	画像サイズ	1コマあたりの ファイルサイズ	記録可能コマ数	連続撮影可能 コマ数※2
RAW（14ビット記録）	—	約23.8 MB	437コマ	6コマ
RAW（12ビット記録）	—	約19.0 MB	524コマ	13コマ
FINE	L	約12.0 MB	1000コマ	100コマ
	M	約7.4 MB	1700コマ	100コマ
	S	約3.8 MB	3300コマ	100コマ
NORM	L	約6.3 MB	2000コマ	100コマ
	M	約3.8 MB	3300コマ	100コマ
	S	約2.0 MB	6300コマ	100コマ
BASIC	L	約2.7 MB	3900コマ	100コマ
	M	約1.9 MB	6500コマ	100コマ
	S	約1.0 MB	12100コマ	100コマ

※1 SanDisk社製16 GBのExtreme Pro SDHC UHS-1メモリーカードを使用した場合。

※2 ISO感度がISO 100の場合の、連続撮影速度を維持して撮影できるコマ数です。次のような場合、連続撮影可能コマ数は減少します。

- [長秒時ノイズ低減]（□□187）を[する]に設定した場合
- [自動ゆがみ補正]（□□186）を[する]に設定した場合
- カスタムメニュー d6 [データ写し込み設定]（□□199）を[しない]以外に設定した場合

電池寿命について

充電したLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14a（1230mAh）による電池寿命は、次の通りです。

- 撮影可能コマ数（1コマ撮影モード）：約600コマ（CIPA基準準拠※1）
- 撮影可能コマ数（連続撮影モード）：約2000コマ（当社試験条件※2）
- 動画撮影可能時間：約50分※3

※1 初期設定条件で30秒間隔ごとに撮影レンズを無限遠から至近に1往復フォーカシング動作をさせて1コマ撮影する。ライブビュー撮影なし。1回リリース（2回に1回は内蔵フラッシュをフル発光）した後、液晶モニターを4秒間点灯。消灯後半押しタイマーがオフになるまで放置。以後同じ動作を繰り返す。装着レンズAF-S DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VR、温度23（±3）℃。

※2 リリースモード $\frac{1}{2}$ H、フォーカスモードAF-C、画質モードBASIC、画像サイズM、ホワイトバランスAUTO、ISO 100、シャッタースピード1/250秒、シャッターボタンの半押しを3秒間持続後、撮影レンズを無限遠から至近間を3往復フォーカシング動作させ6回連続リリースした後、液晶モニターを4秒間点灯させ、消灯後半押しタイマーがオフになるまで放置。以後同じ動作を繰り返す。装着レンズAF-S DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VR（VR機能OFF）、温度20℃。

※3 電池寿命測定方法を定めたCIPA（カメラ映像機器工業会）規格による実撮影電池寿命です。装着レンズAF-S DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VR、温度23（±3）℃。カメラは初期設定状態。

- 1回の動画撮影で記録可能な最長時間は20分（1080/60pまたは1080/50p）です。
- 1つの動画ファイルで記録可能な最大ファイルサイズは4GBです。
- カメラが熱くなった場合、連続撮影時間内でも動画撮影が終了することがあります。

※ バッテリーの充電状態、撮影間隔やメニュー画面からの設定条件などの使用環境によって電池寿命が異なります。

次の場合はバッテリーの消耗が早くなります。

- ライブビュー撮影などで液晶モニターを使用した場合
- シャッターボタンの半押しを続けた場合
- オートフォーカスのレンズ駆動を繰り返し行った場合
- 画質モードをRAWに設定して撮影した場合
- 低速シャッタースピードで撮影した場合
- Wi-Fi（無線LAN）機能を使用した場合
- 位置情報機能を使用した場合
- GPSユニットを使用した場合
- Eye-Fiカードを使用した場合
- VRレンズ使用時にVR（手ブレ補正）機能をONにした場合

Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14aの性能を最大限に発揮させるため、次のことに注意してください。

- バッテリーの端子を汚さないでください。端子が汚れていると、十分な性能が発揮できません。
- 充電が完了したバッテリーは、なるべく早いうちにお使いください。使用しないまま放置していると、自己放電によって、バッテリー残量が減ってしまいます。

索引

マーク・英数字

(オート).....	3, 19
(発光禁止オート).....	3, 19
(ポートレート).....	3, 31
(風景).....	3, 31
(こどもスナップ).....	3, 31
(スポーツ).....	3, 32
(クローズアップ).....	3, 32
SCENE (シーン).....	3, 33
(夜景ポートレート).....	33
(夜景).....	33
(パーティー).....	34
(海・雪).....	34
(夕焼け).....	34
(トワイライト).....	35
(ペット).....	35
(キャンドルライト).....	35
(桜).....	36
(紅葉).....	36
(料理).....	36
EFFECTS (スペシャルエフェクト).....	3, 37
(ナイトビジョン).....	3, 37
(カラースケッチ).....	3, 38, 41
(トイカメラ風).....	3, 38, 42
(ミニチュア効果).....	3, 38, 43
(セレクトカラー).....	3, 39, 45
(シルエット).....	3, 39
(ハイキー).....	3, 39
(ローキー).....	3, 40
(HDRペインティング).....	3, 40
P (プログラムオート).....	3, 87
S (シャッター優先オート).....	3, 88
A (絞り優先オート).....	3, 89
M (マニュアル).....	3, 90
(プログラムシフト).....	87
WB (ホワイトバランス).....	105
(1コマ撮影).....	47
(低速連続撮影).....	47, 48
(高速連続撮影).....	47, 48
(セルフタイマー).....	47, 51
(2秒リモコン (ML-L3)).....	47, 72
(瞬時リモコン (ML-L3)).....	47, 72
(静音撮影).....	47, 50
(ライブビュー).....	24, 123, 132

(シングルポイントAF).....	55
(ダイナミックAF).....	55
(3D-トラッキング).....	55
(オートエリアAF).....	55
(顔認識AF).....	125
(ワイドエリアAF).....	125
(ノーマルエリアAF).....	125
(ターゲット追尾AF).....	125
(マルチパターン測光).....	93
(中央部重点測光).....	93
(スポット測光).....	93
(フラッシュ調光補正).....	97
(露出補正).....	95
AE-BKT (AEブラケットिंग).....	112
WB-BKT (WBブラケットिंग).....	112
ADL (ADLブラケットिंग).....	112
AUTO (フラッシュモード).....	65
REAR (フラッシュモード).....	67
SLOW (フラッシュモード).....	65, 67
i (アイ) ボタン.....	7, 141
Fn (ファンクション) ボタン.....	202
? (ヘルプ).....	8, 275
(レディーライト).....	4, 23, 249
(電子音).....	196
(連続撮影可能コマ数).....	49, 295
1コマ撮影.....	47
1コマ表示.....	141
3D-RGBマルチパターン測光.....	242
3D-トラッキング.....	55
ACアダプター.....	251, 255
ADL ブラケットिंग (オートブラケットिंगのセット).....	112
Adobe RGB (色空間).....	187
AE/AFロックボタンの機能.....	203
AEブラケットिंग (オートブラケットिंगのセット).....	112
AEロック.....	94
AF-A (AFサーボモード自動切り換え).....	53
AF-C (コンティニュアスAFサーボ).....	53, 192
AF-F (常時AFサーボ).....	124
AF-S (シングルAFサーボ).....	53, 124
AFエリアモード.....	55, 125
AFサーボモード自動切り換え.....	53
AF点数切り換え.....	192
AF補助光.....	54, 192

AFロック	57
A-GPSデータ更新	82
A-M切り換えスイッチ	17, 59, 288
AVケーブル	171
BASIC	61
Bulb (バルブ撮影)	91
Camera Control Pro 2	252
Capture NX 2	62, 209, 252
CEC	173
CPU信号接点	242
CPUレンズ	241, 242
D-ライティング	218
DCF Version 2.0	294
DPOFプリント	167
DPOF (Digital Print Order Format)	169, 294
Dタイプレンズ	242
Exif Version 2.3	294
Eye-Fi送信機能	214
Eタイプレンズ	242
FINE	61
Fnボタンの機能	202
Gタイプレンズ	242
HDMI	172
HDMI-CEC	173
HDR (ハイダイナミックレンジ)	100
HDRペインティング (スペシャルエフェクト)	40
Hi (感度)	69
H.264	283
INDEXプリント	167
ISO感度	69, 188
ISO感度表示	196
i-TTL-BL調光	201
i-TTL調光	248
JPEG	61, 198
L (画像サイズ)	63
M (画像サイズ)	63
MF (マニュアルフォーカス)	53, 59, 124, 131
MOV	198, 283
NEF	61
NORMAL	61
NTSC	171, 213
PAL	213
PictBridge (ピクトブリッジ)	164, 294
PINコード	177
PRE (プリセットマニュアル)	105, 108
RAW	61, 225
RAW記録	186
RAW現像	225

RGBヒストグラム表示	143, 183
S (画像サイズ)	63
SDカード	206, 254
sRGB (色空間)	187
SSID	178
USBケーブル	161, 164
ViewNX 2	159, 161, 212, 213
WB ブラケティング (オートブラケティングのセッ ト)	112
Wi-Fi (無線LAN) 機能	xviii, 174
Wireless Mobile Utility	174, 175
WPS	175, 176, 177
WPSプッシュボタン接続	176

ア

アイピース	51
青強調 (フィルター効果)	221
アオリ効果	231
赤強調 (フィルター効果)	221
赤目軽減発光 (フラッシュモード)	65, 67
赤目補正	219
明るさ (ピクチャーコントロール)	118
アクセサリターミナル	214, 252
アクセサリ (使用できるアクセサリ)	251
アクティブD-ライティング	98
アクティブD-ライティングブラケティング	112
後幕発光 (フラッシュモード)	67
位置情報	xvii, 76, 147
位置情報記録	76
位置情報表示	147
イメージセンサークリーニング	257
イメージダストオフ	209
色合い (色相) (ピクチャーコントロール)	118
色温度	106
色空間	187
色の濃さ (彩度) (ピクチャーコントロール)	118
印刷 (プリント)	164
インジケータ表示の+/-方向	204
インターバルタイマー撮影	70
インデックスプリント	167
インフォ画面	6, 206, 209
ウォームトーン (フィルター効果)	221
衛星による日時合わせ	82
液晶モニター	5, 6, 123, 206
液晶モニターを回転する	5
オート (撮影モード)	19
オートエリアAF	55

オートフォーカス	53
オートブラケットング	112, 202
オートブラケットングのセット	112, 202
オートモード	3, 19
オート（ホワイトバランス）	105
おまかせシーン	25
音量	137

カ

カードなし時リリース	204
カードの初期化（フォーマット）	206
外部マイク	132, 253
画角	242
拡大表示	150
画質モード	61
カスタムピクチャーコントロール	120
カスタムメニュー	190
カスタムメニューのリセット	191
風切り音低減	135
画像合成	223
画像コメント	213
画像サイズ	63
画像情報	142, 183
画像ファイル	198
画像編集メニュー	216
傾き補正	228
カメラ内部を自動で掃除する	257
カラーカスタマイズ	222
カラースケッチ	230
カラースケッチ（スペシャルエフェクト）	38, 41
カレンダー表示	149
簡単レタッチ	228
感度自動制御	188
魚眼効果	229
距離基準マーク	60
記録可能コマ数	295
記録フォルダー設定	185
クイック調整（ピクチャーコントロール）	118
クール（モノトーン）	220
クラシックデザイン	206, 208
グラフィックデザイン	6, 206
クリーニングミラーアップ	259
クリエイティブライティングシステム	247
クロススクリーン（フィルター効果）	221
蛍光灯（ホワイトバランス）	105
言語（Language）	211
現在地の設定（地域と日時）	211

高感度ノイズ低減	188
格子線表示	128, 196
コマ送り	137
コマンドダイヤル回転方向の変更	204
コンティニュアスAFサーボ	53, 192
コントラスト（ピクチャーコントロール）	118

サ

最近設定した項目	237
サイズ	63, 219
再生	141
再生画面設定	183
再生フォルダー設定	183
再生メニュー	182
先幕発光（フラッシュモード）	67
削除	154
撮影画面サイズ	242
撮影情報	145
撮影直後の画像確認	183
撮影メニュー	184
撮影メニューのリセット	185
撮影モードダイヤル	3
撮像素子前面をプロアーで掃除する	259
サマータイム（夏時間）	211
サムネイル	148
シーンモード	3, 30
自動発光（フラッシュモード）	65
自動ゆがみ補正	186
視度調節	14, 252
絞り値	89, 90
絞り優先オート	89
シャッタースピード	88, 90
シャッターボタン	21, 23
シャッター優先オート	88
常時AFサーボ	124
焦点距離	242
焦点距離目盛	288
初期化（フォーマット）	16, 206
初期設定一覧	74, 182, 184, 191, 205
シルエット（スペシャルエフェクト）	39
白黒（モノトーン）	220
シングルAFサーボ	53, 124
シングルポイントAF	55
シンクロターミナル	249
推奨SDカード	254
スカイライト（フィルター効果）	221
スタンダード（ピクチャーコントロール）	116

スタンダードi-TTL調光	201, 248
ステレオマイクロホン	132, 135, 253
スピーカー	2
スピードライト	247
スペシャルエフェクトモード	37
スポット測光（測光モード）	93
スマートデバイス	175
スライドショー	157
スローシャッター（フラッシュモード）	65, 67
静音撮影	47, 50
制御上限感度（感度自動制御）	188
晴天（ホワイトバランス）	105
晴天日陰（ホワイトバランス）	105
接眼補助レンズ	252
接眼目当て	51
接続設定のリセット	179
セットアップメニュー	205
セピア（モノトーン）	220
セルフタイマー	47, 51, 195
セルフポートレート撮影	5
セレクトカラー	233
セレクトカラー（スペシャルエフェクト）	39, 45
全押し（シャッターボタン）	23
全画像削除	155
選択画像削除	155
測光モード	93
外付けフラッシュ発光	201
ソフト（フィルター効果）	221

タ

ダイナミックAF	55
タイマー	51, 70, 194
タイム撮影（長時間露出）	91, 92
ダイレクトプリント	164
多重露出	102
縦位置自動回転	183
縦横位置情報の記録	212
誕生日カウンター	199, 200
地域と日時	211
チャージャー	11, 251
着脱指標	12, 288
中央部重点測光（測光モード）	93
調光範囲	68
調光補正	97
調色（ピクチャーコントロール）	118, 119
長秒時ノイズ低減	187
通常発光オート（フラッシュモード）	65

ツェボタンリセット	74
低速限界設定（感度自動制御）	188
デート写し込み設定	199
手ブレ補正スイッチ	288, 290
デモモード	204
テレビ	171
電球（ホワイトバランス）	105
電子音設定	196
トイカメラ風（スペシャルエフェクト）	38, 42
動画	27, 132, 135, 137, 138
動画撮影ボタン	27, 132
動画の設定	135
動画の編集	138
動画のマニュアル設定	136
統合表示	146
登録項目の削除（マイメニュー）	239
登録項目の順序変更（マイメニュー）	240
時計用電池	18
トリミング	219
曇天（ホワイトバランス）	105

ナ

内蔵AF補助光の照射設定	192
内蔵フラッシュ	64
内蔵フラッシュ発光	201
ナイトビジョン（スペシャルエフェクト）	37
夏時間の設定（地域と日時）	211
ニコンクリエイティブライティングシステム	247
日時の設定（地域と日時）	211
ニュートラル（ピクチャーコントロール）	116
認証マークの表示	215
塗り絵	230
ノイズ低減	187, 188

ハ

ハイアングル撮影	5
ハイキー（スペシャルエフェクト）	39
ハイダイナミックレンジ	100
ハイビジョンテレビと接続する	172
ハイライト表示	143, 183
発光禁止（フラッシュモード）	65
発光禁止オート（撮影モード）	3, 19
バッテリー	11, 251
バルブ（長時間露出）撮影	91
パワーオフ時間	194
パワーコネクター	251, 255
範囲指定（PictBridge）	166

半押し (シャッターボタン)	21, 23
半押しAEロック	194
半押しタイマー	23, 82, 194
非CPUレンズ	246
ピクチャーコントロール	116
ヒストグラム表示	143, 144, 183
日付選択 (PictBridge)	167
日付と時刻を設定する	13, 211
日付の表示順 (地域と日時)	211
日付プリント (PictBridge)	166
ビデオ出力	213
ビビッド (ピクチャーコントロール)	116
標準表示	142
ピント表示	21, 59
ファームウェアバージョン	215
ファインダー (視度調節)	14, 252
ファインダー内格子線表示	196
ファンクションボタン	202
フィルター効果	118, 221
風景 (ピクチャーコントロール)	116
フォーカスイード	59
フォーカスイードインジケータ	193
フォーカスポイント	21, 24, 57, 126
フォーカスポイントを選ぶ	57
フォーカスモード	53, 59, 124
フォーカスモード切り換えスイッチ	59
フォーカスリング	59, 288
フォーカスロック	57
フォーマット (カードの初期化)	16, 206
フチ設定 (PictBridge)	166
ブラケティング	112, 202
プラスRAW記録	202
フラッシュ	64, 97, 247
フラッシュ調光補正	97
フラッシュ発光量制御	97, 201
フラッシュモード	65, 67
フラッシュ (ホワイトバランス)	105
プリセットマニュアル (ホワイトバランス)	105, 108
フリッカー低減	210
プリント	164
プリント画像選択 (PictBridge)	167
プリント実行 (PictBridge)	166, 168
プリント指定 (DPOF)	169
プリント設定 (PictBridge)	166, 168
プログラムオート	87
プログラムシフト	87
プロテクト (保護)	151
ヘルプ	8

編集前後の画像表示	235
ポートレート (ピクチャーコントロール)	116
ボディーキャップ	1, 251
ホワイトバランス	105
ホワイトバランスの微調整	107
ホワイトバランスブラケティング (WBブラケティング)	112

マ

マイク	132, 135, 253
枚数指定 (PictBridge)	166
マイメニュー	238
マイメニュー登録 (マイメニュー)	238
マニュアル (露出)	90
マニュアル発光モード (内蔵フラッシュ発光)	201
マニュアルフォーカス	53, 59, 124, 131
マルチセクター	2, 9
マルチパターン測光 (測光モード)	93
マルチプログラムオート	87
緑強調 (フィルター効果)	221
ミニチュア効果	232
ミニチュア効果 (スペシャルエフェクト)	38, 43
ミラー	1, 259
メモリーカード	254
モノクローム (ピクチャーコントロール)	116
モノトーン	220

ヤ

ゆがみ補正	229
用紙設定 (PictBridge)	166
予測駆動フォーカス	54

ラ

ライブビュー	24, 123, 132
ライブビュースイッチ	24, 27, 123, 132
リセット	74, 185, 191
リモート	214
リモートコード	92, 214, 252
リモート操作	214
リモコン	72, 195, 253
リモコン受光部	72
リモコン待機時間	195
輪郭強調 (ピクチャーコントロール)	118
レーティング	152
レディーライト	4, 23, 249
レリーズモード	47

レンズ	241
レンズマウント	1, 60
連続撮影	47, 48
連続撮影可能コマ数	295
連番モード	197
ローアングル撮影	5
ローキー（スペシャルエフェクト）	40
録音設定	135
ログ取得	78
ログリスト	81
露出インジケータ	90, 204
露出設定ステップ幅	193
露出ディレイモード	198
露出補正	95

ワ

ワイヤレスリモートコントローラー	73, 214, 253
------------------------	--------------





A series of horizontal lines for writing, consisting of 20 evenly spaced lines that span the width of the page.



アフターサービスについて

■この製品の使い方や修理に関するお問い合わせは

- 使い方に関するご質問は、裏面に記載の「ニコン カスタマーサポートセンター」にお問い合わせください。
- 修理に関するご質問は、裏面に記載の「修理センター」にお問い合わせください。

【お願い】

- お問い合わせいただく場合には、おわかりになる範囲で結構ですので、次の内容をご確認の上、お問い合わせください。
「製品名」、「製品番号」、「ご購入日」、「問題が発生したときの症状」、「表示されたメッセージ」、「症状の発生頻度」など。
- ソフトウェアのトラブルの場合には、おわかりになる範囲で結構ですので、次の内容をご確認の上、お問い合わせください。
「ソフトウェア名およびバージョン」、「パソコンの機種名」、「OSのバージョン」、「メモリー容量」、「ハードディスクの空き容量」、「問題が発生したときの症状」、「症状の発生頻度」、エラーメッセージが表示されている場合はエラーメッセージの内容など。
- ファクシミリや郵送でお問い合わせの場合は「ご住所」、「お名前」、「フリガナ」、「電話番号」、「FAX番号」を（会社の場合は会社名と部署名も）明確にお書きください。

■修理を依頼される場合は

- ニコンサービス機関（裏面に記載の「修理センター」など）、ご購入店、または最寄りの販売店にご依頼ください。
- ニコンサービス機関につきましては、詳しくは「ニコン サービス機関のご案内」をご覧ください。

【お願い】

- 修理に出されるときは、メモリーカードがカメラ内に挿入されていないかご確認ください。
※ 内蔵メモリーがあるカメラでは、内蔵メモリー内に画像データがあるときは、消去される場合があります。

■補修用性能部品について

このカメラの補修用性能部品（その製品の機能を維持するために必要な部品）の保有年数は、製造打ち切り後7年を目安としています。

- 修理可能期間は、部品保有期間内とさせていただきます。なお、部品保有期間経過後も、修理可能な場合もありますので、ニコンサービス機関またはご購入店へお問い合わせください。水没、火災、落下等による故障または破損で全損と認められる場合は、修理が不可能となります。なお、この故障または破損の程度の判定は、ニコンサービス機関にお任せください。

製品の使い方に関するお問い合わせ

<ニコン カスタマーサポートセンター>

全国共通のナビダイヤルにお電話ください。



0570-02-8000

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます

営業時間：9:30～18:00(年末年始、夏期休業日等を除く毎日)
ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、(03)6702-0577 におかけください。ファクシミリでのご相談は、(03) 5977-7499 にお送りください。

修理サービスのご案内

修理品のお引き取りを依頼される場合は

<ニコン ピックアップサービス>

下記のフリーダイヤルでお申し込みいただくと、ニコン指定の配送業者(ヤマト運輸)が、梱包資材のお届け・修理品のお引き取り、修理後のお届け・集金までを一括して提供するサービスです。全国一律の料金にて承ります。
※宅配便で扱える大きさや重さには制限があるため、取り扱いできない製品もございます。



0120-02-8155

営業時間：9:00～18:00 (年末年始12/29～1/4を除く毎日)

※上記のフリーダイヤルはピックアップサービス専用です。ニコン指定の配送業者(ヤマト運輸)にて承ります。
製品や修理に関するお問い合わせは、カスタマーサポートセンター、または修理センターへお願いいたします。

修理品を宅配便などでお送りいただく場合の送り先と修理に関するお問い合わせは

<(株)ニコンイメージングジャパン 修理センター>

230-0052 横浜市鶴見区生麦2-2-26



0570-02-8200

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます

営業時間：9:30～18:00(土曜日、日曜日、祝日、年末年始、夏期休業日など弊社定休日を除く毎日)
ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、(03) 6702-0577 におかけください。

●修理センターには、ご来所の方の窓口がございません。宅配便のみお受けします。ご了承ください。

インターネットご利用の方へ

<ニコンイメージング/サポートページ>

●<http://www.nikon-image.com/support/>

最新の製品テクニカル情報や、ソフトウェアのアップデートに関する情報がご覧いただけます。

※製品をより有効にご利用いただくために、定期的にアクセスされるようおすすめします。

●<http://www.nikon-image.com/support/repair/>

「ニコン ピックアップサービス」のお申し込みや修理見積もり金額の確認、インターネットを利用して修理を申し込まれた場合の修理状況や納期の確認などがご覧いただけます。

※お問い合わせや修理を依頼をされるときには、裏面の「アフターサービスについて」も参照ください。